

雑誌『放送教育』52年からみる メディアでの学び

メディア研究部 宇治橋 祐之

要 約

雑誌『放送教育』は1949年4月に創刊、2000年10月に休刊するまでの52年間に、増刊号を含め630冊が発行された。1953年に放送が始まったテレビを中心に、ラジオの全盛期からインターネット時代の始まりまで、メディアの教育的機能を明らかにしていく役割を果たしてきた。

発行元は財団法人日本放送教育協会（1948～2015）である。「放送教育の父」と呼ばれ、奈良女子高等師範学校教授をへて日本放送協会で学校放送番組の開設にあたった西本三十二が中心となり設立された。「放送教育研究会全国大会」の主催、「放送教育懸賞論文」の募集、放送教育関連書籍の発行などの事業を行ってきたが、その中心となる活動が毎月の雑誌の発行であった。

52年の歴史は、学校で利用されるメディアが、ラジオからテレビ、白黒テレビからカラーテレビ、録画機器やコンピューター、インターネットと広がりを見せていく時代とちょうど重なり、学習指導要領の改訂も5回あり、時代ごとの教育課題や新しいメディアをどう教育に取り入れていくかなどの論争の中で、放送を中心にメディアが教育に果たす役割をジャーナルにとらえてきた。

本稿では、52年分の雑誌を10年ごとに5つの時期に分け、それぞれの時代のメディア状況や社会状況をみながら、どのような特集記事や連載記事を掲載してきたのかを概観する。最後の2年間については、その後のNHK for School（学校放送番組とインターネット配信などのデジタル展開）への繋がりをみた上で、考察を行う。

各時期の記述にあたっては、記事の書き手による分類を試みる。『放送教育』の書き手は、大きく分けると番組制作者、研究者、教師、となる。制作者の意図、研究者の理論、教師の授業実践のサイクルが回ることで、授業での番組利用が広がっていった。

新型コロナウイルス感染症への対応のためのオンライン学習や、GIGAスクール構想による小・中学生への1人1台端末配付により、学校や家庭でのメディアの教育利用のあり方が改めて問われている2022年の現状も踏まえながら、メディアでの学びについての授業実践と理論構築の歴史を整理する。

目 次

| | | | |
|-----------------------------|-----|------------------------------|-----|
| はじめに | 264 | IV 録画機器の普及と転換期 | 276 |
| I 『放送教育』創刊とラジオの時代 | 267 | (1) 【概況】生涯学習体系への移行 | |
| (1) 【概況】ラジオの普及とテレビへの期待 | | (2) <制作>録画利用に対応した放送番組 | |
| (2) <制作>ラジオの特性と校内放送 | | (3) <研究>発展学習とメディア・ミックス | |
| (3) <研究>聴取指導とテレビへの期待 | | (4) <実践>総合学習番組の利用と行動化・共感意識 | |
| (4) <実践>聴取指導と日課表 | | V パソコンの普及と高画質テレビ | 280 |
| II 教育テレビ開局、テレビの時代 | 270 | (1) 【概況】「新学力観」の時代 | |
| (1) 【概況】テレビの普及 | | (2) <制作>デジタル教材の開発 | |
| (2) <制作>テレビ番組の効果と国際展開 | | (3) <研究>メディア・リテラシーとインタラクティブ | |
| (3) <研究>テレビチューター論と「西本・山下論争」 | | (4) <実践>主体的、自律的な学習 | |
| (4) <実践>テレビと子どもの生活 | | VI インターネットとの連携の模索 | 283 |
| III カラーテレビの普及と映像特性研究 | 273 | VII 考察 メディアを利用した学びと支える枠組み .. | 285 |
| (1) 【概況】カラーテレビと研究の広がり | | おわりに | 286 |
| (2) <制作>映像の特性を語る制作者 | | 『放送教育』52年 主な掲載記事一覧(表3) | 288 |
| (3) <研究>『放送教育大事典』の発刊 | | 付表 1～2 | 412 |
| (4) <実践>各教科での実践と効果研究 | | | |

はじめに

技術の進展と、制作・研究・実践から みる放送教育の半世紀

雑誌『放送教育』は1949年4月に創刊され、2000年10月に休刊するまでの52年間に増刊号・臨時号を含め630冊が発行された。1953年に放送が始まったテレビを中心に、ラジオの全盛期からインターネット時代の始まりまで、メディアの教育的機能を明らかにしていく役割を果たしてきた。

発行元の財団法人日本放送教育協会（1948～2015。以後、教育協会と表記）は、「放送教育の父」と呼ばれ、奈良女子高等師範学校教授をへて日本放送協会で学校放送の開設にあたった西本三十二が中心となり設立された。西本は1920年代にコロンビア大学大学院へ留学中、アメリカで始まったばかりのラジオ教育放送に接する。帰国後、大阪で学校放送番組を始めようとしていた日本放送協会に招かれ、大阪中央放送局社会教育課長、東京の編成部長、教養部長、そして理事・札幌放送局長を歴任後、1946年に理事総退任に伴って日本放送協会を辞職する。その後、日本放送教

育協会を設立し、雑誌『放送教育』を発刊したのである。西本は成蹊大学教授、国際基督教大学教授、帝塚山学院大学学長として教育現場に関わりながら、1979年6月まで教育協会の理事長を務めるとともに、1981年6月まで雑誌『放送教育』の編集・発行人であった（表1）。52年間の雑誌の歴史の33年にわたって関わってきたことになる。

教育協会は放送教育関連書籍（付表1）の発行、「放送教育研究会全国大会」（付表2）の主催、「放送教育懸賞論文」の募集などの事業を行い、放送教育の普及・啓発を行ってきた。その中心となる活動が毎月の雑誌の発行であった。

1949年4月の創刊号の「創刊のこぼれ」で西本は、「人間は、社会の中で、社会力によって、形成されるものである」と書き起こし、「元来ラジオは、人間形成を直接の目的として生れたものではない。しかしながら、すでに二十五年の歴史をもつ今日のラジオは、人間形成上、有力な文化機関となり、教育機関となるに至った」として、社会におけるラジオの影響の大きさについて述べている。

そして、「ラジオの教育的機能を十分に発揮するために、今日最も必要とするものは、これをうける効果的な体制をつくり、これと放送局とを結びつけて、相互の間に有機的な連絡をはかることである」として、学校や教育機関と放送局を繋ぐ役割の重要性を訴えた。

その上で、「われわれがここに雑誌「放送教育」を創刊するゆえんのは、ラジオという近代における最も大衆的な文化機関を国民の文化水準を高めるために高度に活用する運動を推進し、教育民主化の実現に貢献せんがためである」と宣言している。

雑誌『放送教育』52年の歴史は、学校で利

表1 雑誌『放送教育』編集・発行

| 期間 | 編集・発行 |
|----------------|-------------------|
| 1949.4～1957.9 | 編集・発行者 西本三十二 |
| 1957.10～1978.7 | 編集・発行者 西本三十二、高橋増雄 |
| 1978.8～1981.6 | 編集・発行人 西本三十二、古田晋行 |
| 1981.7～1990.3 | 編集人 古田晋行 |
| 1990.4～7 | 発行人 豊田昭 編集人 秋元達男 |
| 1990.8～1992.4 | 発行人 豊田昭 編集人 古田晋行 |
| 1992.5 | 発行人 古田晋行 編集人 古田晋行 |
| 1992.6～1997.7 | 発行人 植田豊 編集人 古田晋行 |
| 1997.8～2000.6 | 発行人 植田豊 編集人 長岡熙 |
| 2000.7～10 | 発行人 市村佑一 編集人 長岡熙 |

用されるメディアが、ラジオからテレビ、白黒テレビからカラーテレビ、録画機器やコンピューターの導入、そしてインターネットへと広がりをみせていく時代とちょうど重なる。

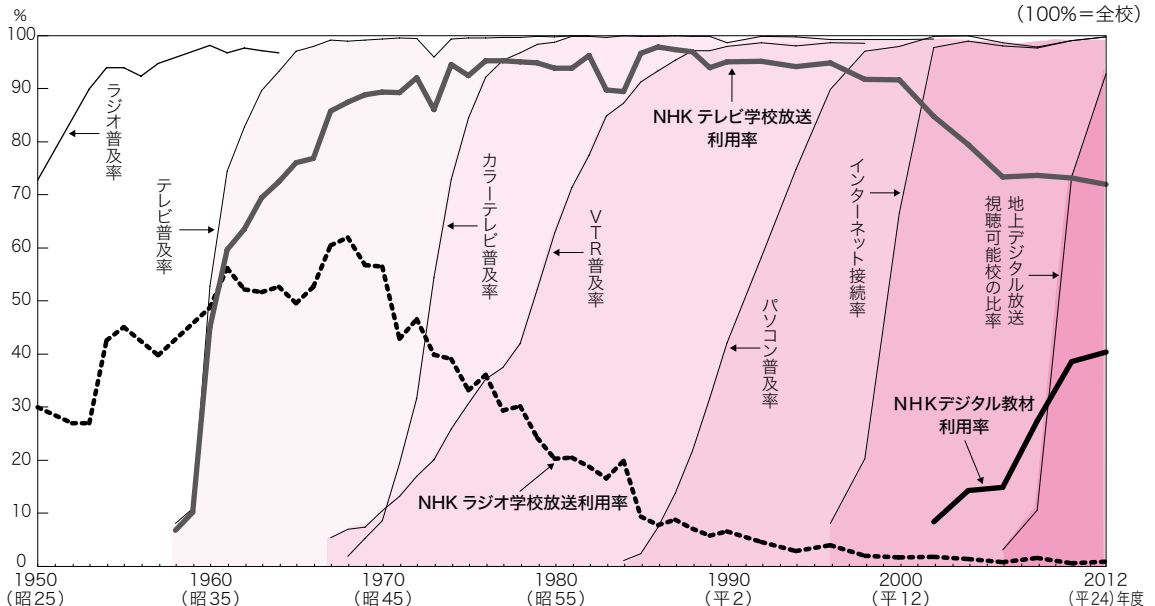
この間に学習指導要領の改訂もほぼ10年ごとにあり、時代ごとの教育課題や新しいメディアをどう教育に取り入れていくかなどの論争の中で、放送を中心にメディアが教育に果たす役割をジャーナルにとらえてきた(表2)。

本稿では、52年分の雑誌をまず10年ごとに5つの時期に分け、それぞれの時代のメディア状況や社会状況をみながら、どのような特集記事や連載記事を掲載してきたのかをみていく。残る2年間については、その後のNHK for School(学校放送番組とインターネット配信などのデジタル展開)に繋がる研究や実践を

みた上で、最後に考察を行う。それぞれの時代の小学校へのメディア普及と、学校放送利用率は図1に示すとおりである。

各時期の記述にあたっては、まず【概況】でその時代のメディア環境、教育を取り巻く状況を振り返った後、記事の書き手による分類をもとにみていく。『放送教育』の書き手は、大きく分けると番組制作者、研究者、教師、となる。制作者の意図、研究者の理論、教師の授業実践のサイクルが回ることで、授業での番組利用が広がっていった。〈制作〉では新番組の内容や、番組の利用状況調査、〈研究〉には、メディアや教育に関する研究者だけでなく、教育学、心理学や社会学の研究者、あるいは機器の開発を行った企業関係者の記事も含む。そして〈実践〉では、幼稚園・保育所、

図1 メディア普及と学校放送利用率の推移(小学校)



『NHK放送文化研究所年報2014』p101

注1：調査初期の10年間は、校種ごとに調査が実施されており、1961年度にはじめて幼稚園から高等学校まですべての校種について、ラジオとテレビの利用に関する調査が同時期に実施された。

注2：1967年度以降の調査はすべて9～11月に実施。1962～66年度は、6月に全校対象のサンプリング調査で放送利用校を抽出した上で、9～11月に利用校対象に番組利用状況や意向を調査した。

注3：1973年度以降の調査では、放送中のNHK学校放送全番組のリストを提示して、それぞれの利用の有無を質問し、1番組でも利用しているクラスがある学校を「NHK学校放送利用校」と定義し、全学校に対する比率を「NHK学校放送利用率」として算出している。

注4：「NHKデジタル教材利用率」は、授業でNHKデジタル教材を利用している学校の全学校に対する比率である。

小学校、中学校、高等学校、特殊教育¹⁾諸学校における、授業で番組を活用した実践の様子だけでなく、管理職や教育委員会による学校経営の観点からの記事もみていく。

このように異なる立場の執筆者による記事が毎月掲載されるとともに、時には対談や座談会

でそれぞれの立場から意見を闘わせてきたことが、雑誌の大きな特徴である。読者も教師と研究者が中心で、学校や大学で購入して読むことが多かったようである²⁾。

なお、放送教育という言葉の定義については、1971年発刊の『放送教育大事典』(日本

表2 雑誌『放送教育』関連年表

| | 第1号(1949.4)～ 第120号(1959.3) | 第121号(1959.4)～ 第240号(1969.3) | 第241号(1969.4)～ 第360号(1979.3) | 第361号(1979.4)～ 第485号(1989.3) | 第486号(1989.4)～ 第611号(1999.3) | 第612号(1999.4)～ 第630号(2000.10) |
|------------------------------------|---|---|--|--|---|---|
| (1) 教育に関わる メディア環境 | ・NHKテレビ放送 開始(1953) | ・NHK教育テレビ 放送開始 (1959) ・幼稚園・保育所 向け番組カラー 化完了(1965) ・小学校向け番組 カラー化開始 (1968) | ・中学校向け番組 カラー化開始 (1969) ・高等学校向け番 組カラー化開始 (1972) ・NHK教育テレビ、 全放送カラー化 (1977) | ・放送大学開学 (1985) ・衛星放送本放送 開始(1989) | ・ハイビジョン放送 開始(1991) ・学校でのインター ネット利用「100 校プロジェクト」 (1994) ・「NHKオンライ ン」公開 (1995) | |
| (2) 学習指導要領 ^注 | 【1951,1956】 1947年の「学習指 導要領一般編(試 案)」の改訂 | 【1958～1960】 教育課程の基準と しての性格の明確化 (道徳の時間の新 設、基礎学力の充 実、科学技術教育 の向上等) | 【1968～1970】 教育内容の一層の 向上(「教育内容の 現代化」)(時代の 進展に対応した教 育内容の導入) | 【1977～1978】 ゆとりある充実した 学校生活の実現＝ 学習負担の適正化 (各教科等の目標・ 内容を中核的事項 にしぼる) | 【1989】 社会の変化に自ら 対応できる心豊か な人間の育成(生 活科の新設、道徳 教育の充実) | 【1998～1999】 基礎・基本を確実 に身に付けさせ、自 ら学び自ら考える力 などの「生きる力」 の育成(教育内容 の厳選、「総合的な 学習の時間」の新 設) |
| (3) 番組編成、 主な教育番組など | ・テレビ学校放送 開始(1953) | ・「山の分校の記 録」イタリア賞受 賞(1960) ・第2回世界学校 放送会議、東京 で開催(1964) ・教育番組の国際 コンクール「日本 賞」(NHK主催) 開始(1965) | ・小学校高学年・ 中学生対象の環 境教育番組『み どりの地球』放 送開始(1975) | ・中学校向け「特 別シリーズ」開始 (1980) ・高等学校向け 「特別シリーズ」 開始(1981) ・小学校中学年・ 総合学習番組 『にげん家族』 放送開始 (1985) | ・「学校放送オン ライン」公開 (1996) ・環境教育番組 『たったひとつの 地球』が学校放 送初のウェブサ イト開設(1996) ・『たったひとつ の地球』が交流学 習をベースにし た『インターネット スクールたったひ つと地球』にリ ニューアル (1998) | ・NHKフルデジ タル教材「里山」 (1999) |
| (4) 主な放送教育の 研究テーマなど | ・エドガー・テール 来日(1956) 「経験の円錐」 | ・「テレビチュ ーター論(1959) ・第11回放送教育 研究会全国大会 (京都大会)で 「西本・山下論 争」(1960) | ・『放送教育大事 典』刊行 (1971) ・「放送学習」と 「放送利用学習」 について誌上シ ンポジウム (1978) | ・「特集 メディア・ ミックスとは＝新 しい放送教育の 試み」 (1986) | ・「ハイパーメ ディア」「メ ディア・リ テラシ」 「インタラク ティブ」な どの研究が進む | ・「情報教育」「情 報発信能力」な どの研究が進む |
| (5) 放送教育研究会 全国大会、主な放 送教育実践など | ・学校放送研究会 全国大会、高野 山で開催 (1949) ・第1回放送教育 研究会全国大会 (1950) ・「放送教育懸賞論 文」開始 (1950) | ・第14回放送教育 研究会全国大会 (静岡大会)で参 加者が初めて 10,000人を超え 17,000人が参加 (1963) ・放送教育研究論 文「学校放送 教育賞」を設置 (1964) | ・第27回放送教育 研究会全国大会 奈良大会で「生 涯学習」が研究 主題となる (1976) | ・第34回放送教育 研究会全国大会 熊本大会で「求 める学習」「発 展学習」について議 論(1983) | ・第41回放送教育 研究会全国大会 (東京)で「人 と森林」を利用 した公開授業 (1989) ・第44回放送教育 研究会全国大会 (仙台)で、ハイ ビジョンと情報 データベースを 使った公開授業 (1993) | ・第50回放送教育 研究会全国大会 東京大会で「動 画データベース」 についての実践 発表(1999) |

注 学習指導要領については、下記の記述を参照した。【 】内は改訂年度。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/_icsFiles/afidfile/2011/04/14/1303377_1_1.pdf

放送教育協会)で下記のように記されている。

「字義どおりに解すると広く放送を利用して展開される教育活動が放送教育であるといえるが、もともと放送教育は学校から起こったために、今日でも学校教育の枠の中でこれがとらえられやすい。ところが、近年、放送媒体の種類が多岐にわたるとともに、その利用分野も多方面に及ぶようになってきたため、放送教育の概念は飛躍的に拡大されなければならない情勢になった。そこで、日本放送教育学会では検討の結果、次のような定義を試みている。すなわち、“放送教育とは、テレビ、ラジオをはじめ、これに類似する通信媒体およびそれらによる情報の制作と利用により、学校教育、社会教育などにおける教育内容を拡充し、教育方法を改善する営みをいう”というのである」

学校教育だけでなく生涯学習も視野に入れており、放送だけではなく、その後のインターネットに繋がるものも含むと考えられ、本稿でもこの定義に基づいてそれぞれの時代をみたく、放送と通信の融合時代である現在に繋げたい。

なお、雑誌『放送教育』の各号の主な掲載記事は、表3として288ページ以後に掲載した。

(本文中の該当記事については、1953年4月号は(53.4)のように西暦下2桁と月を表記。肩書は雑誌掲載時のもの。原則として旧字体は新字体に改めた)



『放送教育』創刊と ラジオの時代

—第1号(1949.4)～第120号(1959.3)—

(1) 【概況】ラジオの普及と テレビへの期待

雑誌創刊までの日本のラジオの歴史を振り返ると、1925年3月22日に社団法人東京放送局(JOAK)がラジオ放送開始、1931年4月6日からは第2放送(当初は二重放送と呼ばれた)が開始されていた。しかし、放送の主管庁である通信省と教育の主管庁である文部省の監督権限の対立などがあり、学校放送番組が始まるまでには時間を要した。1933年9月に大阪中央放送局のラジオ第2放送で近畿地区でのローカル放送がまず始まり、1935年4月15日に全国向け学校放送が始まった。その中心となったのが西本三十二である。

戦争により1945年3月に学校放送は休止されるが8月に終戦を迎えた後、12月から放送を再開、連合軍最高司令官総司令部民間情報教育局(CIE)により学校への受信設備の整備が進められる。そして1947年の教育基本法・学校教育法の制定に関連して、新しい学校制度、新しい教育課程に対応する番組の制作が進められた。こうした時代状況の中、雑誌『放送教育』は創刊された。

この時期に主に取り上げられたテーマは、ラジオをいかに聞くかという「聴取指導」や、ラジオの放送時間と授業時間をどのように組み合わせるかという「日課表」についてなどである。またラジオを受信するだけでなく、

『放送教育』創刊号（1949.4）



自分たちで放送を行う「校内放送」についての記事もある。そのほかにラジオ時代ならではの記事として「標準語教育」や「へき地教育」の可能性についての記事も多い。1950年代になると「テレビジョン（テレビ）」への期待や、先導的な公開授業の様子が紹介されるようになっていく。

(2) <制作>ラジオの特性と校内放送

創刊初期は番組制作者だけでなく、アナウンスや技術に関わる多くのNHKの関係者が、ラジオの特性について述べている。

例えば古垣鐵郎（日本放送協会専務理事）は創刊号の「放送の教育性について」（49.4）で、「教育が学校や教室内のものであったり、

またその内容も単なる知識の切り売りやお説教に止った時代はすでに過ぎ去った。放送教育こそ生活しつつ学ぶと云う理想を如実に提供し得るユニークな機関であろう」とした。

NHK企画部教育課の鈴木博は、「新学期の学校放送」（49.4）で「ラジオの最もすぐれた性能は、その迅速性にあるといえよう」「常に世の中の動きに即応し、新鮮にして最も尖端的なものである」として、学校放送についても生放送で新しい情報を伝えるとともに、聴取者の声や利用状況調査をもとに速やかに改善を進めていく重要性を指摘している。

音声メディアとしてのラジオの特性についても述べられている。「ラジオドラマの作り方面白い方」（49.7-8）では、聞く人に届けるための演出の工夫が、「ことばの教室 アナウンスについて」（50.1-2）ではアナウンサーがマイクに対する発声方法などについて、解説している。

こうしたラジオの特性に関する記事は、聴取者としてラジオを聞くだけでなく、教師が自作の教材を作成したり、子どもたちが学校で校内放送を行ったりする際にも役立つものであった。校内放送については、「特集 校内放送は如何にあるべきか」（50.8）や「特集 校内放送」（51.8）、「特集 校内放送の研究」（52.8）、「特集 校内放送」（53.8）、「特集 校内放送の諸問題」（58.8）などで、その目的や運営方法、教育的効果についての議論が、制作者・研究者・実践者の間で活発に行われた。

(3) <研究>聴取指導とテレビへの期待

雑誌創刊時にはすでに授業でのラジオの利用は進んでいたが、改めて放送教育の役割について研究者が議論を行ってきた。

創刊号で、教育学が専門の海後宗臣（東京大学教授）は「自律教育に於ける放送の性格」（49.4）として、学校放送番組を聴取するだけでなく、生徒が自律的に校内放送で番組制作する必要性を、「放送と聴取とは一つに結び合ったものであって、校内放送ができるようになることは、聴取への理解を深くし、そのための学習訓練の一部ともなる」「放送という新しい教具をもって自律教育の実践が成立し、それを通しての生活を自律的に進展できる人間が育成されるようになるべきである」と訴えている。

この時期の研究に大きな影響を与えたのがアメリカの教育学者エドガー・デールである。デールは、1946年『学習指導における視聴覚的方法』を出版、この中で説かれた「経験の円錐」は、その後長く視聴覚教育の理論的指標となった。「経験の円錐」は、具体から抽象に至る経験を円錐の形で総括したもので、その中で教育テレビの役割を示した。

デールは西本三十二たちの招へいで1956年7月から9月まで来日、国際基督教大学を中心に日本各地で講演を行った。その様子は「エドガー・デール博士を迎える」（56.7）、「座談会 E・デール博士に何を学んだか」（56.10）で紹介されたほか、デール自身による「視聴覚教材教具の効果的利用」（56.11）を掲載している。

1950年代はテレビと教育についての研究も始まる。1953年2月にNHKテレビの本放送が始まるが、先んじて雑誌でも記事を掲載してきた。例えば「日本のテレビジョンに望む」（51.11）では、アメリカでテレビが教育の場どのように利用されているかを視察してきた青木章心（文部省事務官）、石山脩平（東京教育大学教育学部長）、波多野完治（お茶の水女子大学教授）らがその可能性と課題を語っ

ている。また「もし学校向けテレビ放送が実施されたら」（52.4）では、18名の教師が具体的な利用イメージを述べている。さらに「テレビ教育実験放送『水のふしぎ』をめぐって」（52.9）では、理科番組の実験放送を利用した学芸大学附属竹早小学校の授業の様子について詳しく取り上げた。

雑誌『放送教育』は、継続して新しいメディアが教育現場に入る前に、その論点を整理してきた。これは雑誌の大きな特徴といえる。

（4）＜実践＞聴取指導と日課表

教育現場からは、どのようにラジオを授業で利用するかという聴取指導について、授業実践をもとにした多くの声が寄せられた。創刊2号目の「聴取指導の在り方について」（49.5）では、東京都錦華小学校の柿澤寿男教諭が、「サンマ列車」という放送の後に、鮮魚の輸送問題と結びつけて学習を広げた様子や、「雨の日の事故」という放送から生活指導にまで広げた事例を示している。放送を聞いて終わる、放送を聞けばわかる、ということだけでなく、その後の学習にいかに関係するか、自分たちの生活にいかに関係するかという視点は、その後の授業実践にも引き継がれていく。

このほかにも「シンポジウム 聴取指導のあり方」（51.5）では具体的な実践をもとに、制作者、研究者も加わり議論が行われたほか、多くの聴取指導の記録が寄せられた。

放送計画をもとに、どの番組を選択し授業時間と合わせるかを工夫する日課表についての記事も多い。「拡充番組と日課表」（53.4）などで具体的な日課表が示されたり、「特集 日課表をどう立てたか」（57.6）でそれぞれの教師による工夫が示されたりした。

II

教育テレビ開局、 テレビの時代

—第121号(1959.4)～第240号(1969.3)—

(1) 【概況】テレビの普及

1959年1月10日、日本で最初の教育専門局として、NHK東京教育テレビジョン局が開局、2月に民間放送の教育専門局、日本教育テレビ(NET³⁾)も開局する。同年は皇太子のご成婚パレードが行われたこともあり、白黒テレビの普及が200万台を超えた。テレビが家庭や学校に普及し、本格的なテレビ教育番組の時代を迎えたといえる。

NHK放送文化研究所(以後、文研)の学校放送利用状況調査でも1961年度時点で、小学校ではテレビの利用率がラジオを上回った。そして東京オリンピックが開催された1964年には小学校のテレビ学校放送利用率は、72.5%となっている。

学校にテレビが普及した背景のひとつに、「全放連型教育テレビ受像機」(全放連型テレビ)がある。放送教育に関わる、幼稚園、保育所、小・中・高等学校、特殊教育諸学校の教員からなる全国放送教育研究会連盟(以後、全放連)が、無線通信機械工業会⁴⁾と共同して普及を進めたもので、当時主流であった家庭用の14インチのブラウン管テレビではなく、教室で見ることを前提にした17インチのものである。価格は松下電器(現パナソニック)、ビクター、日立をはじめとする各メーカーすべてが、教育特別免税価格として6万円とした。当時10万円以上であった家庭用テレビよりも安い価格

に設定されたことと、国からの補助金もあり、学校現場に広く普及していった。この時期の雑誌『放送教育』にはこれらのメーカーの広告が数多く掲載されている。

さらにテレビの普及は学習指導要領とも関わる。1958年告示、1961年実施の学習指導要領では、「教育内容の拡充」が進められ、授業数が拡充された。戦後の教育は、アメリカの進歩主義のもと、学習者の興味・関心から出発する「経験主義」が重視され、新教科として社会科が設立された。しかし1961年実施の学習指導要領では、教師主体で体系的に知識を学ぶ「系統主義」への転換が進められたのである。小・中学校の教育課程の一領域として「道徳の時間」が特設されたのもこの時期である。この学習指導要領では視聴覚教材の積極的な活用も謳われた。学校教育へのテレビの

『放送教育』1959年4月号表紙



導入が積極的に進められたのである。

この時期の主要な特集はやはり「テレビ」に関するものである。テレビと教師のあり方についての「テレビチューター論」や、家庭も含めた「テレビと子どもの生活」などについて、意見が交わされた。また付表2に示すように、放送教育研究会全国大会の参加者も1万人を超えるようになり、大会に向けてどのように研究を進めているかの進捗状況も誌面で報告されるようになる。

(2) <制作>テレビ番組の効果と国際展開

学校でのテレビ番組の活用がどのように行われていたかを具体的に示す番組がある。ドキュメンタリー番組『山の分校の記録』⁵⁾である。この番組は1960年9月に、放送界で最も権威のあるコンクールといわれるイタリア賞で第2位に入賞。その後も教育テレビの周年記念などで何度も再放送され、学校放送番組の利用のあり方のモデルのひとつとなっている。

番組を制作した小山賢市は、「山の分校の記録—テレビ学習の効果について—」(60.2)、「へき地教育のテレビ利用とその効果について—『山の分校の記録』」(60.8)などで、へき地の小学校の子どもたちと学校放送番組の関わりについて語った上で、「イタリア賞と『山の分校の記録』」(61.2)で、「私たちの課題は、巷間に「一億総白痴化」と言わせたところのものへの反論であり、今後のテレビの方向を探し出すことであり、教育の場におけるテレビ教材の位置づけとその価値を知ることであった」としている。

テレビの教育的価値については、日本だけでなく、世界各国の放送事業者の関心事でも

あった。「第1回世界学校放送会議」が1961年にローマで開催され、続く第2回は1964年4月に東京で開催された。「特集 第2回世界学校放送会議のために」(64.4)、「特集 第2回世界学校放送会議の記録 各国のテレビ学校放送事情」(64.7-8)などでその報告が行われている。そしてこの会議でNHK会長の阿部真之助が提案した、教育番組国際コンクール「日本賞」が、翌1965年からNHK主催で開催されることとなる。「反響を呼んだ「日本賞」」(65.8)で、吉田正(NHK教育局長)は、欧米だけでなく、新興国などで教育放送を始めたところが増える中、ドラマやドキュメンタリーと異なりシリーズ番組が多く、その国の教育事情と関わるため、これまで評価が難しかった教育番組の国際コンクールを開催する意義をまとめている。

テレビ放送が国内はもちろん世界で広がる中、その教育的価値を制作者が考え、交流を深めようとしていた時代といえる。

(3) <研究>テレビチューター論と「西本・山下論争」

テレビ学校放送の利用が進む中、教室のテレビと教師の役割をどう考えるか、という論争がこの時期に繰り広げられる。

そのきっかけとなるのが、西本三十二の「論説 テレビチューター論(うつりゆく教師像)」(59.5)である。西本は教師像の歴史的変遷を「6つの教師像」として整理した上で、教師の役割は、テレビ番組を使って「教える指導者(ティーチャー)」から「助言する指導者(チューター)」へ、としている。さらに、「論説 続 テレビ・チューター論—新しい教材・教授法・教師像—」(59.11)では、「教育にラジオをつか

い、テレビをつかう場合の教師は、先き走って教え、あるいは自分の考えを強いたり、知識を注入したりするような態度をとるのではなく、児童生徒の内心からほぼしる生命力を尊重し、それがラジオやテレビの番組に彼等自身がいかに取り組んでいくかという場面を重要視すべきである」としている。

こうした西本の主張に対して、「教師の主体性」あるいは「教師の自主性」という論点などで、さまざまな批判の声が寄せられた。そして1960年の第11回放送教育研究会全国大会（京都市）のパネル討論で、西本三十二と山下静雄（鹿児島大学教授）による「西本・山下論争」が起こる。山下が番組を視聴させる前に焦点化を指導し、進行中にも意味のつかみ方の指導（同時化）をし、視聴後も体系化と拡大化をはかることを主張したのに対して、西本は、放送教材は進行形の中に教育があり、進行中の教材をつかむ能力をつければ、視聴直前の指導、視聴直後の指導はいらないと主張した。教師と教材、児童・生徒の3者の関わり方をめぐる論争は、その後も1970年代後半の「放送学習」と「放送利用学習」についての議論などに、形を変えながら続いていく。

西本はこの時代、「論説 ティーチング・マシンと教育革命」（61.2）で、その後のコンピューターを利用した個別学習に繋がるティーチング・マシンについての可能性や課題も示している。また「論説 DIRECT ENRICHING BASIC PROGRAM—教育テレビのあり方—」（63.11）では、テレビの学習者への直接教授性（DIRECT）、テレビが教師の教授の充実を助けること（ENRICHING）、そして教科等の基礎的内容を放送番組が独自の系統性を持って提供すること（BASIC PROGRAM）について整理している。

メディアと教育に関わるさまざまな論点が提示されるとともに、誌面で多くの議論が繰り広げられていった。

（4）＜実践＞テレビと子どもの生活

この時期はテレビ番組を授業でどのように利用したかという実践報告が多いが、家庭で子どもたちがどのようにテレビと接しているか（接するべきか）という特集もみられる。

例えば「特集 テレビと子どもの生活」（59.9）では、幼稚園、小学校、中学校の教員が、テレビによって生活の広がりがみられ、語彙が増えるなどのよい影響と、体験を伴わなくなったり、類型的な考え方になったりする危険性を指摘している。また「テレビの見方について」（60.9）では、各界の識者が「ニュースは事件の全体ではない」「自分の目にも疑いをもって」「批判的精神をもって」などのタイトルで意見を寄せている。メディアとのつきあい方として現在にも繋がる論点であろう。

「アンケート 家庭視聴指導はどのように行われているか」（67.12）では、教師、父母、中学・高校生にアンケートを行った結果から、家庭視聴について指導を行ったり、番組を指定して視聴させたりしたことがある教師が多いことや、番組の選択について子どもに注意する父母は半分程度であること、中学・高校生は「ためになる」というよりも、「おもしろい」ものを求めてテレビを見ている様子を報告している。



カラーテレビの普及と 映像特性研究

—第241号(1969.4)～第360号(1979.3)—

(1) 【概況】カラーテレビと研究の 広がり

1961年時点でNHK総合テレビのカラー番組は1日1時間であったが、カラー化は順次進んでいく。NHK総合テレビは1971年10月、NHK教育テレビは1977年10月に全放送がカラー化する。

教育テレビのカラー化は、幼稚園・保育所向け番組が最優先で進められ、1965年度にはすべてカラー化された。その後、小学校向け番組は『理科教室1年生』（1968）から、中学校向け番組は『安全教室』（1969）から、高等学校向け番組は『美術の世界』（1972）から順次カラー化が進められる。理科や美術など、対象物をカラーで見られることのメリットが大きい教科での利用が進み、雑誌の記事も、ラジオ時代から続く国語や音楽などの音声に関わる教科での番組利用だけでなく、理科番組など具体物を見せる番組の活用についての記事が増えていく。

小学校のテレビの台数が全国平均で1教室1台になるのは1975年。このころから、各教室に常設のテレビで継続的に学校放送番組を利用することが可能になった。

1971年から実施の学習指導要領でも系統性重視の傾向は変わらず、時代の進展に対応した教育内容を導入する「現代化カリキュラム」が進められた。右肩上がり経済が成長し、

産業が発展していくという未来予想のもと、それに見合った高度で体系化された知識が必要とされていたのである。

この時期の主要な特集は、小学校を中心に学校放送番組の利用が定着したことに伴い、各教科での具体的な利用に関するものが多い。また、幼稚園から高等学校までの学校教育現場だけでなく、後の生涯学習の考え方にも繋がる放送大学への期待の記事もみられる。「シンポジウム 放送教育における視聴能力」（72.11）を始めとして「視聴能力」についての記事も現れる。

雑誌の体裁も、1975年度以後は基本的に毎号の特集テーマに沿って、制作者、研究者、教師が原稿を寄せる形式をとるようになる。前述のように西本が、1979年に教育協会の理事長、1981年に雑誌『放送教育』の編集・発行

『放送教育』1969年4月号表紙



人を退任して一線から退く時期でもあり、放送教育の歴史を改めて振り返り、今後に繋げようという記事もみられる。

例えば、文研の秋山隆志郎による「放送教育史ノート」(76.12, 77.6, 78.12)などである。西本三十二も1976年に教育協会から『放送50年外史』を刊行した。日本放送協会による「正史」である『放送五十年史』(1977, 日本放送出版協会)に対して、「私が、五十年にわたって放送と共に歩み、特に教育放送と放送教育に献身してきた歴史と、それにまつわる秘話を書きおろしたものなので外史と称する」としている。

(2) <制作>映像の特性を語る 制作者

1970年代になると、番組制作者の手による記事が増えていく。それまでは、番組を統括する局長や部長などの立場からが中心であったが、各教科の担当者が具体的な番組について語る様子が数多くみられるようになる。この背景のひとつとして、1959年の教育テレビ開局前後に、従前より多く採用された番組制作者が10年以上の経験を積み、誌面での発信も行うようになったことがあると考えられる。

1972～73年の連載「スタジオから教室から」は、制作者と教師が、教科・学年ごとにそれぞれの立場から議論を行う座談会形式の記事である。テーマとして「画面とことば 小学校低学年社会科」(72.6)、「テレビと自然観察 小学校低学年理科」(72.7)、「「集合」の考え方をつくる『いちにのさんすう』」(72.9)、「表現学習とテレビの役割 一笛をふこう」(72.10)などが続き、理科・社会科・算数・音楽の番組制作者と、授業を行った教師が各教科に特

徴的な題材をもとに議論を行った。こうした座談会の様子はラジオ第2放送の教師向け番組『教師の時間』でも放送されている。

研究者ではなく番組制作者自身が教育における映像の意味を問う論考を発表する様子もみられるようになる。「特集 映像を考える」(75.5)では、制作者の堀江固功が「曖昧さの中で人の心と心とを結ぶ」で、映像による情報伝達は、単に動画像を教室に送ることだけでなく、送り手と受け手でイメージを共鳴させることにあるとしている。同じ特集で制作者の西川進一は「組み合わせの中で意味をつくる」として、画面に対するコメントからだけの情報を受け取るのではなく、画面と画面の間に生ずる連想や飛躍に意味があることを訴えている。

学校放送番組がほかの番組と異なる特徴のひとつに、番組制作者が自分の制作した番組を子どもが見ている場面、教師が使っている場面を直接見ることができ、具体的なシーンについて議論をできるということがあるが、誌面でもこうした制作者と教師との対話が重ねられていった。

(3) <研究>『放送教育大事典』の 発刊

教育協会は雑誌『放送教育』の発行と合わせて、教育やメディアに関する書籍も発行してきた(附表1)。その集大成といえるのが、1971年10月発刊の『放送教育大事典』である。

全680ページの事典は、全国放送教育研究会連盟と日本放送教育学会による編集で、総勢400人近い研究者、実践者、番組制作者が関わった大著である。編集委員長の馬場四郎(東京教育大学教授)は「巻頭言「放送教育大事典」刊行の意義」(70.6)で、ラジオ学校放

送が開始されて35年、全国放送教育研究会連盟が結成されて20年以上という節目に刊行する事典について、「これまでの研究成果を漫然と整理するだけでなく、最近の教育工学あるいは視聴覚教育さらに教授学習過程の現代化の動きというものを十分ふまえ」「とくに現場の実践に関連する分野については、教育経営あるいは学校運営、学級経営そして放送教材の利用、実際の活動の展開の仕方なども解説して、現場の先生方の手引き書としての役割」を果たしたいとしている。事典の各項目の背景には20年に及ぶ雑誌『放送教育』の蓄積がみられ、「読む事典」となっている。

この時期に特徴的な特集として、映像と思考に関するものがある。例えば「特集 映像と思考」(70.9)で松本正達(鳥取大学教授)は「放送と思考」として、「1 視聴しながら考える。2 視聴しながら考え方を学ぶ。3 視聴することにより、自分の考え方をたしかめる。4 視聴した後で考える」の4つの思考形式に整理している。また、教育社会学が専門の麻生誠(東京学芸大学助教授)は、「フィーリング 映像 思考」(73.6)で波多野完治(お茶の水女子大学教授)による「知覚表象に対応する客観的映像と記憶表象や想像表象に対応する主観的映像⁶⁾」という2つの映像概念を踏まえた上で、子どもの頃から映像に慣れ親しんだ世代を「映像人間」として、「客観的映像や主観的映像を器用に用いて環境への適応を図っていく人」としている。そして「客観的映像は、主観的映像(=心像)によって、より世界を知り操作する映像的表象作用に結合していく」とした。

情報化社会が進む中、情報処理能力という言葉もこの時代に登場する。1971年度の放送教育研究会全国大会札幌大会では「情報処理

能力の育成をめざして」をねらいに掲げて研究を進めた。その後も大内茂男(東京教育大学助教授)による「主体的活動としての情報処理」(73.6)や、蛭谷米司(広島大学教授)による「教育における情報処理」(73.10)などの論考で、情報処理を適切に行えるようになるための放送番組の活用のあり方が指摘されている。

1970年代後半になると、「放送学習」と「放送利用学習」についての議論が誌上で起きる。「「放送学習」の目ざすもの」(78.1)で西本三十二は、「教師の放送利用による授業」ではなく、「児童生徒が、自力で放送に取り組み、その学習過程の中から自主的に成長し、発展する」放送学習が、本来目指すものであるとした。この西本の論考に対する意見が数多く寄せられ、「誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習—西本三十二氏「放送学習の目ざすもの」を受けて—」が1978年2月号から12月号まで11か月間続く。執筆者は西本・山下論争の山下静雄(鹿児島大学教授)を始め、総勢28人にのぼった。「特集「放送学習」と「放送利用学習」の理念と方法」(79.2)で、それぞれの立場を確認する形で一応の決着をみるが、その後もメディアと学習をめぐる同様の議論は繰り返されることになる。

(4) <実践>各教科での実践と効果研究

この時期の実践報告は、制作者とともに各教科の特集で発表されることが増える。この教科でこの番組を利用することで子どもたちにどのような変容がみられたか、という具体的な状況を示した上で、その効果を示すものである。

すでに1950年度から教育協会による懸賞

論文や受賞論文⁷⁾の掲載が続けられてきたが、教師による効果研究がどのように行われているかを辻功（東京教育大学講師）が「放送教育の実践的研究の展開—懸賞論文の内容分析から—」（71.7）で4つに分類している。「テストを中心に放送聴視のみの効果を測定」「テストを中心として、聴視のみでなく積極的に教室指導の効果もミックスして測定」「視聴ノートや生徒の発言の内容分析を中心として、放送聴視のみの効果を測定」「視聴ノートや生徒の発言の内容分析を中心として、放送聴視のみでなく、積極的に教室指導の効果もミックスして測定」というもので、「データのとり方」（テストと内容分析）と「テレビと授業の関係」（聴視のみか教室指導を含むか）の二軸でみたものである。

このほか「特集 放送教育機器の効果的活用」（78.7）を始めとする機器活用についての報告や、親子同時視聴についての報告もみられる。

IV

録画機器の普及と 転換期

—第361号(1979.4)～第485号(1989.3)—

(1)【概況】生涯学習体系への移行

団塊ジュニア（1971～74年生まれ）が学齢期を迎えた1980年代は子どもの数が増えるとともに、教育現場も大きな転換期を迎える。1984年には「戦後教育の総決算」というスローガンのもとに「臨時教育審議会」（臨教審）が設置され、第四次（最終）答申で「生涯学習体系への移行」が示される。『放送教育』でも一番ヶ瀬康子（日本女子大学教授）による「人生八〇年時代の生涯学習と放送」（87.11）などが掲載された。

学習指導要領もこの時期に大きく転換する。1980年施行の学習指導要領では、初めて教科の学習内容が削減された。各教科などの目標・内容を絞り、「ゆとりのある充実した学校生活」を目指すようになったのである。

1980年代はまた、録画機器が普及する時代でもある。1970年代には3/4インチ幅のカセットテープを使用するUマチック方式であったが、その後ソニーのベータマックスと松下電器のVHSの時代になる。そしてこうした録画機器は、家庭よりも高校を中心とした学校に広がった。

文研の調査によると、高校では1970年代後半、中学校や小学校でも1980年代にはVTRの普及率が80%を超える（265ページ図1）。特に高校では、カラーテレビの普及よりもVTRの普及が先行したのが特徴的である。

中学校や高校は教科担任制で、授業時間が異なる複数の担当クラスを持つため、生放送の学校放送番組をすべてのクラスの授業で利用することは難しい。録画機器を利用することで利用が容易になったことが普及の背景にある。

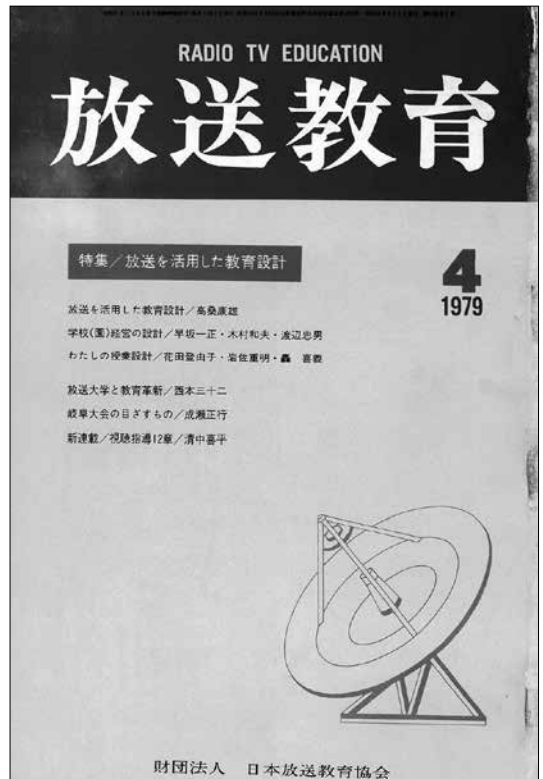
一方でVTRの普及が進むと、番組をアーカイブとして保存して⁸⁾、必要な部分だけを見ることができるようになる。また放送の録画ではなく、市販のVTRを授業で利用することもできるようになる。

これまで放送番組の利用にあたっては「ナマ・継続・まるごと」として、放送時間に合わせて(ナマ)、シリーズ番組として年間を通じて(継続)、番組の最初から最後まで(まるごと)見ることが基本とされていたが、大きな転機を迎えることとなった。こうした状況の中、1987年度は「討論のひろば 放送教育はどう変わったか、どう変わるべきか」という記事が毎号掲載され、「ナマ・継続・まるごと」について、研究者、実践者、制作者それぞれの立場から、賛否両論が提出された。

さらに80年代は従来のテレビ・ラジオ、新聞・雑誌以外の新しい情報の伝達手段としてニューメディアという言葉が生まれ、学校現場にもコンピューターの導入が少しずつ進み始めていた。

この時期の特集は、こうした転換期を迎えた時代状況の中、これまでのような放送と教育をめぐる論争ではなく、新しいメディアの活用の仕方や、複数のメディアを組み合わせて利用するメディア・ミックスの考え方に対する論説もみられるようになる。

『放送教育』1979年4月号表紙



(2) <制作>録画利用に対応した放送番組

1980年2月号の巻頭言「番組の改定にあたって」で、学校放送番組班部長の西山昭雄は次のように述べている。「そこで、われわれは数年にわたる調査研究を踏まえて、新しい問題提起をしたいと考えました。あえて問題提起と言いたいんですが、つまり、今までは小学校から高校まで、1つの理念で貫いていたのですが、校種によってこれは多様であっていいのではないか、つまり教育機器の普及や教材の多様化、あるいは利用実態ということ考えた時、『ナマ・継続・マルゴト』という理念というか哲学に併行して、中高においては、録音・録画による選択利用という実態から新しい考え方を見出し、これを理論的に裏づけていくことがむ

しろ実態に合うんじゃないかということです」。

こうした時代認識のもと、中学・高校向け番組は1980年度から、番組制作の方針を大きく変える。教科の内容を網羅的に扱う従来の「年間シリーズ」と並行して、古典芸能、書写、技術、体育、美術といった、これまで扱ってこなかった分野の番組「特別シリーズ」を開始する。しかしこうした分野の番組も1986年度をもってすべて廃止。中学・高校とも特別活動向け番組を除くと、教科番組は授業での利用の多い理科と社会科に集約されていった。

この背景には、前述のように中学・高校での録画利用の増加がある。VTRの普及により、中学・高校での番組利用は増加したが、その結果、毎週継続してシリーズ番組を視聴するのではなく、必要なときに必要な部分だけを見せる教師が増えることになった。そのため録画しやすいように再放送の回数を増やすとともに、各教科の単元内容をすべて盛り込んだ番組ではなく、映像の効果が高いと考えられる部分をコンパクトにまとめた番組が求められるようになっていったのである。

ただし、こうした状況について、多くの理科番組の企画にあたり、出演者でもあった太田次郎（お茶の水女子大学教授）は、「討論のひろば 学校放送番組を考える—資料性を中心にして—[提案]」（87.12）で、5つの論点を示している。「人間の顔はいらないか」では、生身の人間の顔や発言が視聴者に与える感動や親しみという要素について、「学校放送は一つの作品である」では、テレビ番組の情報を伝えるデザインについて、「印刷教材との整合性と補完性」では、教科書と放送番組の補完性を意識することが大事であるとしている。その上で、「体系化や効率化を考え過ぎると、一見すばらしいように見えても、生徒に残るものが少ない

場合がある」として、冗長性⁹⁾のある放送番組の「無駄の効用」についてと、「興味づけの重視」として番組の持つ面白さが知的な興味づけになる側面も述べている。

(3) <研究>発展学習と メディア・ミックス

1980年代になると、雑誌『放送教育』に掲載された記事などをもとに、書籍として『放送教育叢書』が日本放送教育協会から発行されることが増える（付表1）。雑誌発刊から30年が経ち、重要な記事を書籍の形で残しておくということである。

この時期の特集の代表的なものに「発展学習」と「メディア・ミックス」がある。

発展学習は1970年代から記事が掲載されてきたが、80年代に増えていく。例えば「特集 発展学習の目ざすもの～全国大会テーマに関連して」（83.11）では、1983年度の放送教育研究会全国大会熊本大会の研究主題「求める学習」の具体的な展開としての発展学習が取り上げられている。松本勝信（大阪教育大学助教授）は「発展学習は何を目ざしているか」（83.11）で「発展学習とは、放送視聴に基づく視聴後の、視聴経験を更に広げ深める学習」と定義した上で、番組視聴で形成される「イメージ」の「ときはなちによる能力・態度形成」が大事であるとしている。

「特集 視聴前・視聴後の指導と発展学習」（84.10）では、「発展学習」をめざした指導のあり方で水越敏行（大阪大学教授）が、「学校放送からの発展の類型」を、実物や模型などの「A.具体物」、調査や見学などの「B.動作・行動」、スライドやOHP、自作番組などの「C.映像」、教科書や新聞、参考書などの

「D.活字」の4方向に放射状に広がると整理した。その上で、「深める力」が重要であると指摘している。

メディア・ミックスというタイトルが『放送教育』に初めて登場したのは「特集 メディア・ミックスとは—新しい放送教育の試み—」（86.9）である。水越敏行（大阪大学教授）は、「メディア・ミックスによる放送教育」で、「個々の刺激体、要素としてのメディアムをある意図のもとに組み合わせ、重ねることによって、単品の刺激体、単一メディアムでは期待しえなかった新しい質の刺激を創り出そうとするところ」がその特質であるとした。そして、「基幹メディア」と「副次メディア（複数で異質なものであることが多い）」を、4つのタイプに整理した。基本的に同質の情報が相互に補い合う「1.相補型」、視点を離れた別の角度からの情報を提供する「2.視点変更型」、主幹メディアで提示した情報の逆ないしは結論の違う情報を副次メディアで示す「3.ゆさぶり型」、主幹メディアの中から一部分に注目し、それを拡大し深化し、発展させていく「4.部分発展型」である。そしてこうした設計を行う教師像を「アクターとしての教師からデザイナーとしての教師へ」としている。

（4）＜実践＞総合学習番組の利用と 行動化・共感意識

中学・高校向けの番組は録画前提で進められ整理されたが、小学校向け番組は変わらず各教科の放送が続いていた。こうした実践についても報告が行われたが、この時期は、のちの「総合的な学習の時間」につながる、教科の枠組みを越えた総合学習番組を利用した報告が現れる。

例えば1975年に放送開始の環境教育番組『みどりの地球』については、岡崎市立美川中学校「みどりの地球」研究部による、「実践『みどりの地球』から地域の環境調査へ」（83.11）がある。番組を継続視聴し、発展学習を進めることで、子どもたちの「行動化」が進み、「さし木三万本運動」「ひとりひと鉢運動」などの緑化活動が行われた。こうした活動が、昭和五六年度全日本学校環境緑化コンクール特選などに繋がったというものである。

1985年に放送開始の、「人間とは何か?」を考える総合学習番組『にんげん家族』の利用報告もみられるようになる。「特集 子どもを生かす放送学習」（85.10）の記事のひとつ「座談会 新しい教育を拓く—総合学習番組『にんげん家族』をめぐる—」（85.10）では、番組制作者と教師が意見を交わしている。番組のねらいについて「共感」をキーワードに、「他者への思いやりとか他者の痛みが分かる」子どもになってほしいという制作者の発言に対して、利用している教師からは、番組により「子どもが無意識に受け取っているものを意識化させる」「感動を土台にして自分たちの身の周りを考えてみる」ことに繋がっていると答えている。

これらの番組は教科番組に比べると利用率は高くないが、番組をもとに子どもたちが自ら活動を始める「放送学習」を志向する教師からは熱心な実践報告が行われた。



パソコンの普及と 高画質テレビ

—第486号(1989.4)～第611号(1999.3)—

(1) 【概況】「新学力観」の時代

1992年施行の学習指導要領では、教科の学習内容がさらに削減されるとともに、臨教審の答申も踏まえ、「個性をいかす教育」を目指す「新学力観」が登場する。知識や技能中心の学力観ではなく、学習過程や変化への対応力の育成などを重視するものである。小学校低学年の理科・社会を廃止して、具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養うことを目指す新教科「生活科」も設置された。

1991年には、NHKが開発を進めてきた、従来のテレビよりワイド・大画面・高精細の「高品位テレビ」ハイビジョンの放送が始まる。NHKと在京民放局などによる「ハイビジョン推進協会」による放送はスポーツ中継や自然・美術のドキュメンタリーが多かったが、小学校向け国語番組『おはなしのくに』などの学校放送番組もハイビジョンで制作・放送された。

学校でのパソコン、インターネットの利用も広がる。文研の調査では、VTRの場合と同様、高等学校、中学校、小学校の順で機器の普及と利用が進んでいった。中学校と高等学校では、1994年度段階で学校へのパソコン普及率はほぼ100%、小学校も1998年度にはほぼすべての小学校にパソコンが普及した。これらのパソコンは徐々にテキスト入力だけではなく、CD-ROMやDVDに対応して音声、画像、文字情報を扱えるマルチメディアパソコンとな

『放送教育』1989年4月号表紙



り、教育機器としての用途が広がった。

さらに学校でのインターネット利用は、通商産業省と文部省による「100校プロジェクト」が1994年から、NTTを中心とした全国1,000か所の小・中・高校のインターネットによる教育を支援するプロジェクト「こねっと・プラン」が1996年から始まり、全国に広がっていった。

こうした時代状況の中、改めてメディアと教育、メディアと子どもの関わりを「ハイパーメディア」「メディア・リテラシー」「インタラクティブ」などのキーワードから考える特集がみられるようになる。

(2) <制作>デジタル教材の開発

メディアと教育を取り巻く環境が大きく変わ

り、新しい学習環境デザインが求められる中、NHKではハイパーメディア『人と森林』の開発を進めた。その成果は第41回放送教育研究会全国大会東京大会で公開授業として披露され、特集番組『大地に緑を心に輝きを』¹⁰⁾として放送される。子どもたちの情操面に影響を与えるハイビジョンと、子どもたちの「道具」として活用されるコンピューターが有機的に連携した試みであった。

「『大地に緑を心に輝きを』の制作にあたって」(91.1)では、制作チームによる、ハイビジョン番組『人と森林』を核として、電子印刷によるハイビジョン教科書「人と森林」、ハイパーメディア「人と森林」というトータルな学習システムをどのように制作していったかの過程が示されている。また授業を行った鈴木勢津子(東京都大田区立山王小学校教諭)は、「コンピュータからの呼びかけに子どもが答える」のではなく、「ハイビジョンの内容とそれにもなう豊富な映像資料を、子どもの興味に応じて自由に呼びだせる」ことができたことを、荻宿俊文(東京都東村山市立回田小学校教諭)は「教科の学習を越えた人間としての根源的な力」に繋がったことを述べている。

さらに第44回放送教育研究会全国大会宮城大会でもハイビジョンとマルチメディアに関わる番組・コンテンツの制作と実践の様子が発表される。その詳細は「ハイビジョンでひらく「いのち」と「歴史」」(93.11)や「マルチメディアの新展開―「七北田川データベース」をつくる―」(93.11)でNHKの担当者から報告されている。

こうしたハイパーメディア、マルチメディアの制作は、2000年代のNHKデジタル教材の開発へと繋がっていくことになる。

(3) <研究>メディア・リテラシーとインタラクティブ

映像の視聴能力については70年代から、映像リテラシーについては80年代から記事がみられるが、映像視聴を含む「メディア・リテラシーの育成」についての論考が90年代からみられるようになる。

社会心理学が専門の稲増達夫(法政大学助教)は、「現代の子どもにみるメディアリテラシーの拡大」(90.11)で、テレビゲームが子どもたちに広がる中、「機械=コンピューターとの双方向コミュニケーション」におけるメディア・リテラシーの必要性や、「疑似社会を生み出すネットワーク・ゲーム」が広がることを考えた「メディア・リテラシーの拡大」について述べている。

1994年5月からは、元番組制作者で江戸川大学教授の堀江固功と、メディア論が専門で、東京大学社会情報研究所助教授の水越伸による「メディアリテラシー講座」(94.5-95.4)が始まる。最終回の「メディアリテラシー講座 対談 新しいメディアの波と教育の変革」(95.4)では、堀江がこれまでの視聴覚教育の中で考えられてきたメディアリテラシーについて、「機器のテクノロジーについてのリテラシー、操作のリテラシー」「情報の理解力」「表現の能力」の3点について整理した。水越は「新しいメディアが子どもたちに与えているインパクトが強いは確か」とした上で、「学校教育のようところから外側に向けて出していくようなベクトル」「メディアを使った作品、表現活動や新しい作品を理解させたりする教育実践などを、学校という枠の中にとどめるのではなくて、いろいろな手立てでもって、外とつなげるべき」としている。校内への発信である校内放送や、中学校

や高校対象のNHK杯放送コンテストが行われているが、さらに広げるという視点である¹¹⁾。

こうした双方向に関する議論は「インタラクティブ」というキーワードでも語られる。黒上晴夫(金沢大学助教授)は「インタラクティブな学習展開 共同学習と放送・メディア」(98.4)で、インターネットの掲示板を用いて、学校放送番組をきっかけにした視聴者どうしの交流学习について報告している。1996年度から放送の環境教育番組『たったひとつの地球』と、シンクロナイズド・マルチメディア(インターネットでラジオ番組を流し、その進行に合わせてウェブページ上にあるテキストや映像情報が切り替わっていく)を利用して、東京都江東区と石川県七尾市の小学生が、掲示板で農業について「論争」を行いながら、深い学習を展開していったというものである。

環境教育番組『たったひとつの地球』は、1998年度から番組名も『インターネットスクール たったひとつの地球』となり、「たったひとつの地球クラブ」という交流学习のためのホームページとの連携を進めるようになる。この試みについては、「放送を核にして意見交換 インターネットと放送の連動を目指して」(98.11)で制作者の宇治橋祐之が、「放送を核にして意見交換 学校間交流学习を支えるメディアの役割と連携」(98.11)で、研究者の堀田龍也(富山大学助教授)が報告を行っている。

(4) <実践>主体的、自律的な学習

主体的な学習と放送番組との関わりは、すでに1960年代から実践報告がみられたが、1990年代は、総合学習や新教科の生活科での実践の様子が報告される。

山口令司(筑波大学附属小学校教諭)は、

「生活科と放送 生活科の番組づくりのために」(90.4)で、生活科のねらいが「自立への基礎づくり」にあることを踏まえた上で、「見ている子どもたちの心を共感させる」番組と、「子どものやる気を起こさせるひみつを解き明かしていく」教師向け番組も必要ではないか、そうした番組は「子育てに役立つ番組」にもなるのではないかとしている。

浅井和行(京都市立檜原小学校教諭)は、「『もうすぐ2年生』『こんなことができるようになったよ』発表会」(92.5)で、「生活科としてのねらいを達成」しつつ、「体験重視の生活科の学習における、学校放送番組の利用の意義」と「一年生なりの、マルチメディアリテラシー(多メディアの読み書き能力)」を明らかにする実践研究を報告している。

家庭視聴についての記事は1960年代からみられたが、生涯学習時代を迎え、「特集 生涯学習時代の家庭視聴を考える」(96.7)などの記事が掲載される。特に「特集 夏休みから始める家庭での放送学習」(98.7)では、教師により、「『週刊こどもニュース』を見続けて社会科に強くなろうよ』『やってみようなんでも実験』を見て実験にトライ!」「『NHKジュニアスペシャル』で学校と家庭の連携を」など、具体的な番組活用のプランが掲載されている。そして「「学ぶ意欲」を活発にする家庭での放送学習」では、元小学校教員の村岡耕治(東京学芸大学講師)が、時間的・空間的に自由になる夏休みは「子どもたちの放送を利用して学ぶ力」を伸ばせる時期としている。

主体的に番組を選択して自律的に学ぶことの重要性についての記事はこれまでもみられたが、生涯学習時代を迎え、改めて指摘されることとなった。



インターネットとの 連携の模索

—第612号(1999.4)～第630号(2000.10)—

1999年に、NTTドコモが携帯電話を用いてウェブサイトの閲覧や電子メールの送受信ができるiモードのサービスを開始したことで、携帯電話でのインターネット利用が日本国内に大きく広がっていく。

学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指すこととなり、教科の枠にとらわれない「総合的な学習の時間」が小学校から高校まで新設される。教育とメディアをめぐる状況は大きな変化の時代を迎えた。

「展望 21世紀に向けての教育課題 教育の急流とメディア教育の新しい船出」(99.4)で、水越敏行(関西大学教授)は、「教育施策の急流と教育現場の実態」「花形メディアの交代」「相補性の道は可能か」という章題で論を展開し、学校放送番組の今後について「双方向性のメディアとの共生共存こそが、来世紀の教育を支えていくのだと断言したい」と結んでいる。

こうした時代状況の中、雑誌『放送教育』は2000年10月号を最終号として休刊となる。

市村佑一(日本放送教育協会理事長)は、「謹告 月刊「放送教育」休刊にあたって」(00.10)で、「(発刊から)半世紀、録画技術は向上し、今や時代はアナログからデジタルへ、さらにまたインターネットの急速な展開によるメディアの多様化が進展して、テレビ、ラジオを中心とする「放送教育」そのものが大きく変わらざるを

えず、時代の転換期に遭遇していることを実感せざるをえない状況にあります」と現状認識を述べている。

そして「こうした中で弊誌は「放送教育」の基地として、NHKの学校放送を中心とする番組制作者と利用者である先生方あるいは研究者の方々との間にあつて、中核的な役割を果たしてきました。また、全国放送教育研究会連盟をはじめとする各種研究会活動とともに、日本の教育発展に大きく貢献してきたと確信いたしております」「そして、時あたかも二一世紀、滔々たる時代の流れと、今まさに情報技術(IT革命)が急速に進展するなかで、弊誌は所期の目的を果たしたものと考え、今月号をもって休刊することといたしました」としている。

最終号には2人の特別寄稿が掲載されている。長く放送・視聴覚研究を行ってきた高桑康雄(名古屋大学名誉教授)は、「特別寄稿「放送教育」の足跡」で、雑誌の果たしてきた役割を3点述べている。1点目は「放送教育懸賞論文の入選作品」の掲載により、「その時期の放送教育の実践の姿、理論研究の様相を反映し、本誌とともに全国の放送教育関係者に大きな影響を与えたばかりでなく、今日でもなお参考とすべき内容を含んでいる」というものである。2点目は「放送教育の優れた実践を記録として残しただけでなく、放送教育や視聴覚教育の理論的な問題についての記録を誌上に再録していること」として「西本・山下論争」などを挙げている。3点目は「放送教育叢書」についてで、雑誌で記事を連載することで「放送教育ないしは教育メディアをめぐる新しい動向を考察した優れた学術刊行物を生み出す温床の役割を果たした」としている。

もう1人はNHK学校放送番組部長の吉田圭一郎による「10年後の教室は?」である。その

姿について、「教室には大きなスクリーンがあります。そこに写る映像は、先生のパソコンで自由にコントロールできます」「子どもたちは全員、ポータブルのパソコン（あるいは、もっと進化した超軽量の携帯端末）を持っているでしょう。教科書やノートは、小さくて軽いディスクかチップにすべて取められているので、もう重い鞆を持ち運ぶ必要はありません」「学校と家庭とは、すべて高速のインターネットで繋がっています。基本的な事柄では、先生と子どもと両親の間に情報格差はありません」とイメージしている。

その上で大きなスクリーンを持つ教師と1人1台のパソコンをもつ子どもに向けて、「NHKフルデジタルカリキュラム」の試みを述べている。このカリキュラムは、導入に使う「①リニアなストーリー」、関連した動画クリップを検索し全体を俯瞰する「②学習動画データベース」、より深い関連情報を収集する「③ウェブページ」、生徒間の交流学习を促す「④生徒が学習成果を記録するノート」、学校間の交流学习を促す「⑤みんなの掲示板」という5つの要素をもつものである。

この試みは、2001年から「NHKデジタル教材」としてウェブサイトで順次公開、2011年には「NHK for School」としてリニューアルされ2022年現在に至っている。文研の2021年度の小学校教師を対象とした調査では、NHKの学校放送番組あるいはNHKデジタル教材のいずれかを利用して「NHK for School教師利用率」は88%に達している¹²⁾。

なお、日本放送教育協会は2015年に一般財団法人NHKサービスセンターと合併し、その業務は存続法人となった後者に引き継がれた¹³⁾。

『放送教育』2000年10月号表紙



VI

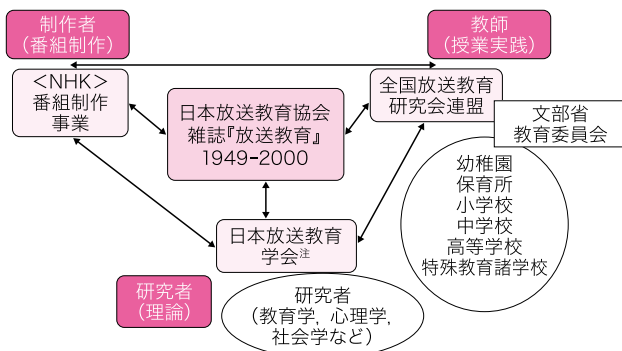
考察 メディアを利用した 学びと支える枠組み

雑誌『放送教育』の52年間の歴史を概観してきた。

制作者であるNHKの学校放送番組担当者や、放送教育研究会全国大会等に関わるNHKの事業担当者、日本放送教育学会を中心に教育学だけでなく心理学や社会学の立場から理論構築を進めた研究者。そして幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校で放送番組を使った授業実践を日々行う教師たち。こうした構造の中心となって三者を繋いできたのが雑誌『放送教育』であったといえるであろう(図2)。雑誌という形はなくなったが、「創刊のことば」で書かれたような、メディアと教育現場を繋ぎ「効果的な体制」として、「有機的な連絡をはかる」役割は今後も変わらず必要であると考えられる。

本稿ではそれぞれの時代状況と雑誌の記事

図2 雑誌『放送教育』と制作者, 教師, 研究者



注：日本放送教育学会は1994年に日本視聴覚教育学会と統合して、日本視聴覚・放送教育学会。1998年に日本教育メディア学会に名称変更

のポイントを示すことにとどまったが、GIGAスクール構想により小・中学生に1人1台の端末が配付され、オンライン学習が進み始めている現状も踏まえて、今後のメディアと教育との関係を考えるのに重要と思われる観点を3点示して、今後の研究課題とした。

1点目は＜教師と子どもと放送番組の関係＞である。

「西本・山下論争」や、続く「放送学習」と「放送利用学習」で示された論点は、誌上でも議論が決着したとはいえませんが、対面の授業だけではなく、オンラインあるいはオンデマンドの授業が行われるようになった現在にも通じると考える。

また、「番組の冗長性と資料性」という論点も、現在NHK for Schoolで提供している放送番組と動画クリップの利用のあり方とも関わる。限られた授業時間での短期的な効率性と、子どもに対する長期的な効果という両面からの研究は今後も必要であろう。

2点目は＜教師と子どもと、(放送番組を含む)メディアの関係＞である。

もともと学校放送番組の特徴は、放送を見たあとに活動を行うことを考えて制作されている

ことである。番組視聴後の具体物や放送以外のメディアを活用した「発展学習」については、雑誌『放送教育』でも継続的に示されている。

さらにメディアの複合的な利用という点で「メディア・ミックス」についても議論されてきた。学校放送番組はラジオの時代から、活字メディアであるテキストや紙の教科書との組み合わせが考えられてきたが、さまざまなメディアが登場して

きた中で、改めて放送番組というメディアの位置づけを考えることは重要であろう。

3点目は〈子どもの成長とメディアの関係〉である。

学校教育を終えても、放送番組を使って学ぶことはできる。「家庭視聴」という、家庭で主体的に番組を選択して学ぶことや、「視聴能力」という、普遍的に番組から学ぶ力については長く研究されてきた。さらには映像を制作する力や校内放送についての議論も続いてきた。こうした論点は「メディア・リテラシー」とも関わってくるであろう。

人生100年、生涯学習の時代、インターネット上に無数のオンライン教材がある時代、どのメディアを選択して、どう学ぶのか、そうした学び方をいつどのように学ぶのか、といった点の研究も必要であろう。

いずれの観点も雑誌52年の歴史の中で繰り返し議論されてきたもので目新しくはないが、新しいメディアがどのように受容され、そして広がっていったのか、そのときに旧来のメディアはどう位置づけられるかという視点でみると、スマートフォンとSNSの時代の現在、そしてこれからにも十分通じるものと考えられる。

おわりに

最後に、筆者と雑誌『放送教育』との関わりについて述べておきたい。

筆者がNHKに入局したのは1989年。東京の番組制作局教育番組センター(学校教育)への配属であった。西本三十二氏は前年に亡くなっていたが、関わりがあった世代の人は周囲に多く、教育テレビ開局時の頃の話などを直接聞くことができた。その際に話と合わせて、書棚にあった雑誌『放送教育』のバックナンバーを読むことで、教育とメディアの関わり方の歴史を知ることができた。

第V章、第VI章で述べたように、時代はテレビからパソコン、インターネットに向かい、NHKのテレビ学校放送番組の利用率が下がる中、ニューメディアあるいはハイパーメディアと呼ばれる新しいメディアを教育でどのように活かせるかを考えなければならない時期であった。その中で、折々に読んだ雑誌『放送教育』での議論は常に気になるものであった。現在、NHK for Schoolのウェブサイトで開催しているコンテンツのあり方や、研究者や実践者との関わり方で参考にしてきた点も多い。

2023年にテレビ放送70年、2025年にはラジオから100年と、放送は大きな節目の時期を迎える。教育現場も1人1台の端末を活用した個別最適な学びが重視されるようになってきた。こうした時代の変化はあるが、教育とメディアの関わりにおける不易の部分は変わらないことを、今回の論考執筆の中で改めて感じている。本稿は52年間の雑誌の概要紹介にとどまったが、考察に示したような論点についてさらに研究を深め、不易と流行を繋ぐ研究を続けていきたい。

(うじはし ゆうじ)

注：

- 1) 2006年の学校教育法改正に伴い、2007年度以後は特別支援教育として制度改正が行われたが、本稿では雑誌『放送教育』の発行時期に合わせて特殊教育としている。
- 2) 雑誌『放送教育』は、国会図書館や全国各地の大学図書館などに所蔵されている。下記サイトを参照のこと。
CiNii (国立情報学研究所 学術情報ナビゲータ)
<https://ci.nii.ac.jp/ncid/AN00226361#anc-library>
- 3) 1973年に教育専門局から総合番組局に移行。1977年に社名を全国朝日放送 (略称テレビ朝日)、2003年に社名をテレビ朝日に変更して2022年現在に至る。
- 4) 1958年からは日本電子機械工業会、2022年現在は一般社団法人電子情報技術産業協会
- 5) 番組は総合テレビで第1部 (1959.11.3, 50分)、第2部 (1960.3.22, 65分)、総集編 (1960.5.5, 60分) として放送された。総集編はNHK for Schoolのウェブサイトで公開されている。https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005450006_00000 (2023年1月1日現在)
- 6) 波多野完治 (1964) 「視聴覚コミュニケーションと現代の教育」明治図書
- 7) 1950～1963年度は「放送教育懸賞論文」、1964～1984年度は「学校放送教育賞」、1985～1990年度は「放送教育賞」として、日本放送教育協会が実施した。
- 8) 著作権法35条では「学校その他の教育機関 (営利を目的として設置されているものを除く。) において教育を担当する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信 (自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。以下この条において同じ。) を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる」としている。
- 9) 冗長性は、情報工学では、情報を伝達する際に情報が必要最小限よりも数多く表現されることで、安定的に情報伝達を行うこととされている。
- 10) 1990.11.11NHK総合テレビで放送 (54分)

- 11) 「NHK杯全国高校放送コンテスト」は、「校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づけ、情報発信としての放送活動の発展をはかるために開催」している。
https://www.nhk-sc.or.jp/kyoiku/ncon/ncon_h/
- 12) 宇治橋祐之／渡辺誓司 (2022) 「GIGAスクール構想の進展による学校と家庭の学習におけるメディア利用の変化～2021年度「NHK小学校教師のメディア利用と意識に関する調査」から～」『放送研究と調査』2022年6月号, pp52-86
https://www.nhk.or.jp/bunken/research/domestic/20220601_5.html
- 13) 下記の放送教育ネットワークの記事参照
<https://www.nhk-sc.or.jp/kyoiku/korekara/index.html>

引用・参考文献：

- 宇治橋祐之 (2019) 「教育テレビ60年 学校放送番組の変遷」『NHK放送文化研究所年報2019』第63集, pp.131-193
- 小平さち子 (2014) 「調査60年にみるNHK学校教育向けサービス利用の変容と今後の展望～『学校放送利用状況調査』を中心に～」『NHK放送文化研究所年報2014』第58集, pp.91-169
- 佐藤卓己 (2008) 『テレビ的教養 一億総博知への系譜』NTT出版
- 全国放送教育研究会連盟編 (2002) 『放送教育の歩み：全放連結成50周年記念』全国放送教育研究会連盟
- 全国放送教育研究会連盟, 日本放送教育学会編 (1971) 『放送教育大事典』日本放送教育協会
- 全国放送教育研究会連盟, 日本放送教育学会編 (1986) 『放送教育50年～その歩みと展望』日本放送教育協会
- 西本三十二 (1976) 『放送50年外史 (上・下)』日本放送教育協会
- 日本放送教育協会 (2013) 『日本放送教育協会60年の歩み』

『放送教育』52年 主な掲載記事一覧(表3)

注 各号の共通テーマの記事は、網掛けでテーマを示し、「・」で各記事を示した。同様に特集記事は網掛けで特集テーマを示し、【特集】で各記事を示した。漢数字と英数字の表記の統一、人名や学校名の表記の統一、番組名を『』で示すなど、検索しやすさを優先して表記を補った。

1949(昭和24)年度(通巻1~12号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------|------------------------|-----------------------------------|
| 4月号 | 創刊のことば | 西本三十二 |
| | 自律教育に於ける放送の性格 | 海後宗臣 |
| | 「放送教育」の発刊を祝う | 高橋荘太郎 |
| | 放送の教育性について—放送教育の創刊によせて | 古垣鐵郎 |
| | 新学期の学校放送 | 鈴木博 |
| | 聴取指導の記録 | 植田正次、大塚義秋 |
| | 教室のラジオ(一)—統計の観察— | 布留武郎 |
| 学校と放送 | 坂元彦太郎 | |
| 5月号 | ラジオと標準語教育 | 神保格 |
| | ラジオと国語の純化 | 東條操 |
| | ラジオの言葉 | 内藤濯 |
| | 音楽鑑賞について | 中川元次 |
| | 聴取指導の在り方について | 柿澤寿男 |
| 教室のラジオ(二)—統計の観察— | 布留武郎 | |
| 6月号 | 新しい放送教育の出發 | 西本三十二 |
| | 放送教育の前進のために | 小川一郎 |
| | 教室のラジオ(三)—統計の観察— | 布留武郎 |
| | 低学年の指導と放送教育 | 山下正雄 |
| | 『みんな仲よく』聴取指導記録から | 工藤義海 |
| | スピーカーの位置 | 内海正 |
| 7月号 | 新カリキュラムと放送教育 | 石川脩平 |
| | 教育の再建と平和への責任 | 古垣鐵郎 |
| | 夏休み子供とラジオ | 片桐顕智 |
| | 「新しい」学校放送を聴取して | 神藤鉄男 |
| | ラジオドラマの作り方味わい方(一) | 堀江志朗 |
| | 或る子供の音楽基礎教育を聞いて | 三枝健剛 |
| | 放送劇台本 コルニーユ親方の秘密 | 寺田太郎 |
| 8月号 | アメリカの商業放送と教育放送 | 中村重尚 |
| | ラジオドラマの作り方味わい方(二) | 堀江志朗 |
| | 学校放送座談会 | 川上行蔵、小川一郎、布留武郎、鈴木博、中川元次、吉田行範、山崎省吾 |
| | 放送劇台本 カナリヤ物語 | 冠九三 |
| 9月号 | ラジオをきくときの心のはたらき | 布留武郎 |
| | 放送教育の位置 | 青木章心 |
| | アメリカの放送教育 | 宇田道矢 |
| | 話術 | 三神茂 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------|--------------------------|--------------|
| 10月号 | 学校放送研究会全国大会記録 | |
| | ・民主教育の推進 | 山崎匡輔 |
| | ・学校放送を利用する上に於て 高野山八月十三日— | ルエラ・ホスキンス |
| | ・ラジオ・生活・教育 | 西本三十二 |
| | ・カリキュラム構成と学校放送 | 宮原誠一 |
| | ・放送教育について | 青木章心 |
| | ・生活教育の根本問題 | 下程勇吉 |
| ・学校放送の諸問題 ディスカッションの記録 | 小川一郎、川上行蔵ほか | |
| 11月号 | 問題の提供—アメリカの教育放送から— | 南江治郎 |
| | 時事問題と学校放送 | アイヴァー・ジョーンズ |
| | アメリカだより | 島浦精二、武田一郎 |
| | のど自慢功罪論 | 丸山鐵雄 |
| | 私の放送教育 | 中村忠藏、小沢素良、辻亨 |
| 校内放送というもの | 鈴木博 | |
| 12月号 | カリキュラム運営と学校放送 | 馬場四郎 |
| | 聴視覚教具と学校放送 | 小川一郎 |
| | 音響の効果について | 佃芳郎 |
| | 埼玉県放送教育 | 栗原勇蔵 |
| 1月号 | ラジオ学習と聴取指導 | 西本三十二 |
| | アメリカの図書館と放送 | 寺脇信夫 |
| | 学校放送効果調査報告抜粋 学校新聞について | 放送文化研究所 |
| | ことばの教室 アナウンスについて(上) | 秋山雪雄 |
| | 私の放送教育 | 矢島シン |
| 茨城県の放送教育 | 小田正義 | |
| 2月号 | 聴取前の指導 | 山崎省吾 |
| | 片耳の世界 | 布留武郎 |
| | 単元学習というものの性格について | 馬場四郎 |
| | ことばの教室 アナウンスについて(下) | 秋山雪雄 |
| 私の放送教育 | 加藤鉦一、鈴木良和、松村謙 | |
| 3月号 | 学校放送の一年 | 川上行蔵 |
| | ラジオと国語教育(一) | 片桐顕智 |
| | 学校放送と主婦 | くぎもと・ふみよ |
| | 私の学校の放送教育 | 野中毅 |
| | 愛知県の放送教育 | 坪井敏雄 |

1950 (昭和25) 年度 (通巻13~24号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------|----------------------|------------------------------------|
| 4月号 | 放送教育の新展開 | 西本三十二 |
| | 中等学校生徒にラジオはいかに役立つか | ルエラ・ホスキンス |
| | 学校放送の史的展望 | 大古利三 |
| | 座談会 新学年の学校放送番組について | 山崎省吾, 中川元次, 鈴木博, 吉田行範, 梅沢壽男, 日比野輝雄 |
| | 昭和二十五年度の学校放送番組 | |
| 5月号 | ラジオ国語教育(二) | 片桐顯智 |
| | 国語教育の第一課 | 釘本久春 |
| | クリーヴランドの学校放送 | 伊庭てる子 |
| | アメリカ便り | 波多野完治 |
| | 放送用語の研究 | ダテノリオ |
| | 国語学習と放送 | 恵繩一彦 |
| 6月号 | 有機的な聴取指導 | 有光成徳 |
| | 聴取中, 後の学習について | 山崎省吾 |
| | 私はこうして指導している | 日比野輝雄 |
| | 聴取指導の記録 | 養輪清利 |
| 7月号 | 我が校の放送教育 | 鈴木良和 |
| | 放送台本番組の選択 | 秋月佳太 |
| | 放送教育振興の一考察 | 山本幸雄 |
| | 聴視覚教育の実践報告 | (5校) |
| 8月号 | 夏休みの学校放送番組と解説 | (編集部) |
| | 特集 校内放送は如何にあるべきか | |
| | 【特集】校内放送の諸問題 | 西本三十二 |
| | 【特集】校内放送と全校ホームルーム | 梅根悟 |
| | 【特集】校内放送実践報告 | (5校) |
| 9月号 | 【特集】校内放送の演出 | 伊達兼三郎 |
| | 対談 アメリカの教育放送(上) | 西本三十二, 青木章心 |
| | 特集 二学期の学校放送番組と解説 | |
| | 【特集】番組と解説 | 中川元次, 鈴木博, 吉田行範, 大古利三 |
| | 【特集】二学期の学校放送と教育計画 | 大塚義明, 岸本唯博, 岩本時雄 |
| 10月号 | 耳と口—アメリカの聴覚教育— | 落合橋一 |
| | 特集 社会科指導とラジオの利用 | |
| | 【特集】社会科とラジオ | 長坂端午 |
| | 【特集】社会科の学習と学校放送番組 | 鈴木博 |
| | 【特集】社会科学習それ以前の形成について | 守谷民男 |
| | 【特集】社会科指導とラジオの利用 | 関根博範 |
| | 村人の話題はラジオから | 工藤義海 |
| 対談 アメリカの教育放送(下) | 西本三十二, 青木章心 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---------------------------------|-------------------------|
| 11月号 | 特集 音楽学習とラジオの利用 | |
| | 【特集】音楽学習とラジオの利用 | 小出浩平 |
| | 【特集】学校放送音楽番組について | 中川元次 |
| | 【特集】レポート 聴取指導の一時間—『歌のかばん』 | 朴沢あき |
| | 【特集】レポート 教室のラジオと音楽 | 埼玉県羽生小学校 |
| | 特集 録音機の話 | |
| | 【特集】録音機の教育的利用 | 日高第四郎 |
| | 【特集】録音機の話 | 大城倉夫 |
| | 【特集】自製の録音機 | 吉井清司 |
| | イギリスの学校放送番組 | 布留武郎 |
| 12月号 | 特集 聴取後の学習 | |
| | 【特集】聴取後指導の基本問題 | 西本三十二 |
| | 【特集】或る教師への手紙—聴取前後の指導について— | 小川一郎 |
| | 【特集】聴取指導実践報告 | (5校) |
| | 十五万人の生徒 | ロス・ブラウンダー |
| 1月号 | 先駆的なラジオ幼稚園に通う子供たち | J・B・グリーン |
| | 特集 放送教育研究会全国大会 | |
| | 【特集】研究討議 学校放送の効果的利用 | 坂元彦太郎, 宮原誠一, 西本三十二 |
| 2月号 | 【特集】研究部会報告 | (7部会) |
| | ヨーロッパの放送局を見て | 金川義之 |
| | 特集 中学校の放送教育 | |
| | 【特集】私の記録 | (8名) |
| | 【特集】ラジオの教育的利用への反省 | 青木章心 |
| 3月号 | 【特集】中学・高校における学校放送 | 吉田行範 |
| | 感想文の分析 学校放送聴取指導第三年目の三年生二九六名について | 東京都板橋第三中学校 |
| | 聴視覚教育のねらいは何か | 西本三十二 |
| | 学校放送の一年 | 川上行蔵 |
| | 小学校向け新番組の解説 | (編集部) |
| 4月号 | 座談会 新学年の学校放送 | 吉田行範, 日比野輝雄, 伊藤政貞, 高橋増雄 |
| | 報告と反省 | (5名) |

1951 (昭和26) 年度 (通巻25~36号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 4月号 | 特集 放送教育と学校経営 | |
| | 【特集】座談会 放送教育と学校経営 | 大島文義, 青木章心, 落合矯一, 栗原勇蔵, 田島寛一, 西本三十二 |
| | 【特集】放送教育前進への提案 | 守谷民男 |
| | 【特集】放送教育の経営—中学校の立場から— | 朝日三郎 |
| | 【特集】へき地の小さな学校とラジオ | 山川武正 |
| | 新学期の学校放送番組を見る | (編集部) |
| | 新番組の利用 (低学年, 高学年) | 松村謙, 大塚義明 |
| 5月号 | シンポジウム 聴取指導のあり方 | |
| | ・(提案) 聴取指導のありかた | 西本三十二 |
| | ・(批判) 聴くことの中に教育がある | 海後宗臣 |
| | ・(批判) ラジオ学習の自律化とは何か | 梅根悟 |
| | ・(批判) 聴取指導の指針 | 山下正雄 |
| | ・(批判) ホームルームに於ける聴取指導 | 吉良敏雄 |
| | ・批判を読んで | 西本三十二 |
| 座談会 放送教育と学校経営 (二) | 大島文義, 青木章心, 落合矯一, 栗原勇蔵, 田島寛一, 西本三十二 | |
| 聴取指導の一時間 | (2名) | |
| 6月号 | 特集 学校放送と道德教育 | |
| | 【特集】道德教育と学校放送 | 有光成徳 |
| | 【特集】学校放送と生活指導 | 近藤修博 |
| | 【特集】道德教育への一つの歩み | 田島寛一 |
| | 【特集】修身の復活 | 川上行蔵 |
| | しつけと学校放送 | (3名) |
| | 話しことばの新しい問題 | 片桐顕智 |
| | アナウンスのことば | 山村恒雄 |
| 新しいラジオ体操の図解 | (編集部) | |
| 7月号 | 放送教育の本質 | 坂元彦太郎 |
| | 校内放送のありかた | 城戸幡太郎 |
| | 聴取指導の一時間 | (2名) |
| | 放送劇脚本の作り方 | 堀江史郎 |
| 8月号 | 特集 校内放送 | |
| | 【特集】シンポジウム 校内放送のありかた | |
| | 【特集】(提案) 校内放送のあり方 | 西本三十二 |
| | 【特集】(批判) 三つの所感 | 波多野完治 |
| | 【特集】(批判) コミュニティと校内放送 | 桑山三郎 |
| | 【特集】(批判) 二, 三の問題について | 野口彦治 |
| 【特集】(批判) どんな目的で誰が行うか | 青木章心 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------|---------------------------|-------------------------------|
| 8月号 | 【特集】(批判) 補充と警戒と念願 | 石山脩平 |
| | 【特集】批判を読んで | 西本三十二 |
| | 【特集】校内放送とその効果 | 木下正 |
| | 【特集】校内放送の運営 | 帯広市明星小学校 |
| | 演出手帖「スタジオから教室へ 教室からスタジオへ」 | 伊達兼三郎 |
| 擬音効果の研究 | 岩淵東洋男, 吉武富士夫 | |
| 9月号 | 放送特質論1 ラジオの魅力とは何か | 布留武郎 |
| | テレビジョンの教育的参加 | 山崎省吾 |
| | 放送学習の四つの型 | 今泉運平 |
| | どんな時間割で放送を聴いているか | 赤城佐市 |
| | 研究発表 家庭用受信機一台で | 森耕一 |
| 学校放送受信施設の状態 | 藤達雄 | |
| レポート 本校の受信施設とその利用 | (2校) | |
| 10月号 | ラジオと平和教育 | 西本三十二 |
| | シンポジウム 放送教育の評価について | |
| | ・提案 | 西本三十二 |
| | ・批判 | 小宮山栄一, 田中正吾, 布留武郎, 堀田鶴好, 小野正明 |
| | ・批判を読んで | 西本三十二 |
| | 放送特質論2 直接性とは何か | 布留武郎 |
| テーブ録音機と著作権 | 長野傳藏 | |
| 学校放送を取り入れた日課表 | (5校) | |
| 11月号 | 日本のテレビジョンに望む | 木下一雄, 石山脩平, 波多野完治, 田中正吾, 青木章心 |
| | 国語学習への協力 | 鈴木博 |
| | 理科学習への協力 | 吉田行範 |
| | 国語学習からみた学校放送 | 佐藤公鷹 |
| | 理科学習からみた学校放送 | 西野成俊 |
| | 視聴覚教育における一つの問題点 | 滑川道夫 |
| | 聴取指導の一時間 | (2校) |
| 12月号 | 特集 社会科と学校放送 | |
| | 【特集】シンポジウム 社会科教育とラジオ | |
| | 【特集】(提案) 社会科教育とラジオ | 西本三十二 |
| | 【特集】(批判) 「社会科教育とラジオ」に対して | 小川一郎 |
| | 【特集】(批判) 社会科教育とラジオへの期待 | 武田一郎 |
| | 【特集】(批判) 実際家の立場から | 室井光義 |
| 【特集】(批判) 中学社会科教育への利用 | 朝日三郎 | |
| 【特集】(批判) 放送教育の発展をねがう立場から | 宮原誠一 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------|-----------------------------------|---------------------|
| 12月号 | 【特集】批判を読んで | 西本三十二 |
| | 【特集】社会科学習に学校放送の利用 | 角田光男 |
| | 【特集】わたくしの社会科指導—ラジオをつかって— | 今岡起 |
| | 【特集】聴取指導の一時間—日本の工業と『マイクの旅』— | 倉田昭正 |
| | 放送特質論3 ラジオを生き生きとさせるもの | 布留武郎 |
| | 一般放送と科学教育 | 古川晴男 |
| | 終戦当時の教育改革を想う | 山崎匡輔 |
| 1月号 | 特集 全国大会記録 | |
| | 【特集】マスコミュニケーションによる人間形成とラジオ | 西本三十二 |
| | 【特集】生活カリキュラムと学校放送 | 海後宗臣 |
| | 【特集】パネルディスカッション どうすれば放送教育を振興させようか | 海後宗臣、青木章心、鈴木博、西本三十二 |
| | 【特集】研究発表 | (6名) |
| | 【特集】部会記録 | (7部会) |
| | 放送特質論4 三つの要素 | 布留武郎 |
| 2月号 | 特集 音楽教育とラジオ | |
| | 【特集】シンポジウム 音楽教育とラジオ | |
| | 【特集】(提案)音楽教育とラジオ | 西本三十二 |
| | 【特集】(批判)ラジオ放送と音楽理論の指導 | 下総皖一 |
| | 【特集】(批判)歌唱教育とラジオ放送 | 井上武士 |
| | 【特集】(批判)音楽教育とラジオ | 百瀬三郎 |
| | 【特集】(批判)音楽教育とラジオ | 中野義見 |
| | 【特集】(批判)『うたのおばさん』から | 安齋愛子 |
| | 【特集】批判を読んで | 西本三十二 |
| | 【特集】音楽番組の反省 | 中川元次 |
| | 【特集】私は三学期の学校放送音楽番組をこのように利用したい | 朴沢あき |
| | 放送特質論5 劇的効果 | 布留武郎 |
| | 昭和27年度学校放送番組について | NHK 教育課 |
| 学校放送の意向調査は信頼できるか | 放送文化研究所 | |
| 3月号 | テレビジョンと教養 | 庄司寿完 |
| | いわば放送科の実際 | 鈴木正道 |
| | スライドとワークブックを利用した『マイクの旅』の聴取指導 | 内館祐二 |
| | 機械を通して“きくこと”の理解力調査 | 函館市 青柳小学校 |
| | 教育時評 技術型と組合理型—教師の二類型について— | 木島真之助 |



1951年5月号



1951年11月号

1952 (昭和27) 年度 (通巻37~48号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------|--------------------------------|--------------|
| 4月号 | とびら 新生日本と放送教育 | 西本三十二 |
| | 戦後日本の青年層 | 古垣鐵郎 |
| | 私の希い | 山崎匡輔 |
| | 放送教育今年度の研究課題 | 波多野完治 |
| | シンポジウム 国語教育とラジオ | |
| | ・(提案) 国語教育とラジオ | 西本三十二 |
| | ・(批判) 西本氏の提案を読んで | 石黒修 |
| | ・(批判) 国語教育とラジオ | 滑川道夫 |
| | ・(批判) 無理な注文 | 倉沢栄吉 |
| | ・(批判) 実践の立場から | 泉節三 |
| | ・批判を読んで | 西本三十二 |
| | もし学校向けテレビ放送が実施されたら | (18名) |
| | ラジオによる方言指導 | 片桐顕智 |
| 5月号 | とびら 理解を生む具体性 | 川上行蔵 |
| | 視聴覚教育の展望 | 青木章心 |
| | 高等学校と放送教育 | 岡本為善 |
| | 新しい音響効果の研究 | 岩淵東洋男 |
| | 放送聴取前にどんな点に注意しているか | 宮田信也 |
| | 放送聴取後の指導について | 稲村利良 |
| 6月号 | とびら 激動する日本の課題 | 西本三十二 |
| | 特集 幼児とラジオ | |
| | 【特集】 幼児と放送教育 | 三木安正 |
| | 【特集】 シンポジウム ラジオと幼児教育 | |
| | 【特集】 (提案) ラジオと幼児教育 | 西本三十二 |
| | 【特集】 (批判) 幼児の世界とラジオー幼稚園の立場からー | 小川正通 |
| | 【特集】 (批判) 幼児教育の立場から | 荘司雅子 |
| | 【特集】 (批判) ラジオと幼児教育ー幼稚園教師の立場からー | 小山田幾子 |
| | 【特集】 (批判) 第三の点についてー小学校の立場からー | 伴憲三郎 |
| | 【特集】 (批判) 幼児向放送の進歩のために | 山下俊郎 |
| | 【特集】 批判を読んで | 西本三十二 |
| | 放送アナウンスの基本 | 山村恒雄 |
| | 演出手帖 マイクさんの空中旅行 | 伊達兼三郎 |
| | 教育者の主張 | 中谷宇吉郎, 波多野完治 |
| | 7月号 | とびら 虚偽と真実 |
| 視聴覚教育におけるラジオ | | 坂元彦太郎 |
| フロイド・ブルカーの来朝 (一) | | 波多野完治 |
| ラジオといえば幼児の時間を | | 江上フジ |
| 一年生の教室から | | 柳原美代子 |
| テレビ放送はどのように準備されつつあるか | | 岩本時雄 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------|----------------------------|-------------------------|
| 8月号 | とびら 継続的な努力 | F・Jモフィット |
| | とびら 一隅を占める | エドガー・テール |
| | 特集 校内放送の研究 | |
| | 【特集】 校内放送論 | 有光成徳 |
| | 【特集】 校内放送をどう運営しているか | 石黒四郎 |
| | 【特集】 校内放送はことばの醇化のために | 桑山三郎 |
| | 【特集】 アナウンサーの養成について | 沢田源太郎 |
| | 【特集】 思い出の校内放送 | 富永重作 |
| | 【特集】 アンケート 校内放送について (8校) | |
| | シンポジウム 視聴覚教育と放送教育 | |
| | ・(提案) 視聴覚教育と放送教育 | 西本三十二 |
| | ・(批判) 直観教育と放送教育 | 城戸幡太郎 |
| | ・(批判) むしろ放送教育の特性に徹することによって | 海後勝雄 |
| ・(批判) 視聴覚教育は特定の意義をもつ | 関野嘉雄 | |
| ・(批判) 現職教師の立場から | 大塚義秋 | |
| ・(批判) マス・コミュニケーションの教育的利用 | 飛田多喜雄 | |
| ・批判を読んで | 西本三十二 | |
| フロイド・ブルカーの来朝 (二) | 波多野完治 | |
| 学校放送の聴取状況と学校の意向 | 放送文化研究所 | |
| 9月号 | とびら 放送教育の前進 | 西本三十二 |
| | アメリカのラジオとテレビジョン | 荘司雅子 |
| | テレビ教育実験放送『水のふしぎ』をめぐって | 山下正雄 |
| | 放送聴取の与える影響とその評価について | 小泉新治 |
| | 二つの座談会よりー二学期の番組についてー | 岸本唯博, 大岩功典, 柳原美代子, 倉田昭正 |
| | 二学期の新しい番組 (編集部) | |
| 10月号 | とびら | 彦坂春吉 |
| | 特集 歴史教育とラジオ | |
| | 【特集】 シンポジウム 歴史教育とラジオ | |
| | 【特集】 (提案) 歴史教育とラジオ | 西本三十二 |
| | 【特集】 (批判) ラジオと歴史教育よせて | 本代修一 |
| | 【特集】 (批判) 一般論よりも基礎的な研究が必要 | 小林信郎 |
| | 【特集】 (批判) 歴史的な物の見方考え方の育成 | 大野連太郎 |
| | 【特集】 (批判) 歴史教育者として | 高橋碩一 |
| | 【特集】 (批判) 小学校の現場から | 古川清行 |
| | 【特集】 批判を読んで | 西本三十二 |
| | 【特集】 歴史番組をどう思うか | 織井真人 |
| 【特集】 歴史的な学習と放送番組 | 西村文男 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|-------------------|
| 10月号 | 【特集】歴史番組私見 | 金澤嘉一 |
| | 【特集】「日本の歴史にあらわれた人々」の指導について | 田中陽路 |
| | 【特集】学校放送歴史的番組編成のねらいはどこにあるか | (編集部) |
| | 教育テレビジョンの題材 | 高萩龍太郎 |
| 11月号 | とびら 放送教育全国大会への期待 | 西本三十二 |
| | 対談 視聴覚教育とマス・コミュニケーション | 波多野完治, 宮原誠一 |
| | 学校放送を教育計画にどうとりいれるか | 有光成徳 |
| | アンケート 日課票をどう作ったか | (6校) |
| | テレビ教育公開指導 | |
| | ・テレビジョン学習指導を参観して | 高野柔蔵 |
| | ・教育テレビ『楽器の音』効果指導 | 高萩龍太郎 |
| | ・テレビ番組『台風』の指導 | 岩本時雄 |
| | ・初の公開テレビ学習参観記 | 田中光一 |
| | 児童用テキストを手にして | (4校) |
| 12月号 | とびら 紙上計画ではない | 小川一郎 |
| | 特集 青年の心理 | |
| | 【特集】教室見学『青年期の心理』の聴取指導を見て一企画者の立場から | 佐藤秀雄 |
| | 【特集】ラジオをどのように教育にとり入れたか | 土井純三 |
| | 【特集】『青年期の心理』を聴取する | 古川義照 |
| | シンポジウム 学校放送と教育計画 | |
| | ・(提案) 学校放送と教育計画 | 西本三十二 |
| | ・(批判) 聴視覚的手段の二つの面から | 坂元彦太郎 |
| | ・(批判) 教育課程に位置づけるためには | 矢口新 |
| | ・(批判) 学校放送と教育計画 | 有光成徳 |
| | ・(批判) 高等学校の立場から | 岩本一美 |
| | ・(批判) 中学校の立場から | 田島寛一 |
| | ・(批判) 習慣をつくるためにも | 梅井薫 |
| | ・批判を読んで | 西本三十二 |
| | 学校放送を教育計画に組み入れるためにどこに苦心したか | 石橋恭雄, 辻幸男, 内山博之 |
| | 第三回放送教育懸賞入選論文 放送教育の向上をはかるために行ったわが校の方法について | 村上光男 |
| | 懸賞論文選後評 | 大島文義, 海後宗臣, 波多野完治 |
| 1月号 | とびら 独立の春 | 西本三十二 |
| | 特集 第三回放送教育研究会全国大会 | |
| | 【特集】放送教育二十年 | 西本三十二 |
| | 【特集】放送教育の批判にこたえて | 石山脩平 |
| | 【特集】学校放送番組の拡充について | 春日由三 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------|--|---------------------------|
| 1月号 | 【特集】パネルディスカッション 放送教育の進展と徹底を期するにはどうしたらよいか | 西本三十二ほか11名 |
| | 【特集】部会レポート | (10部会) |
| 2月号 | 学校放送講座 教育計画に組入れるには | 大塚義明, 日比野輝雄 |
| | とびら 新しい岸から | 原敏夫 |
| | 特集 テレビ | |
| | 【特集】シンポジウム テレビジョンの教育的利用 | |
| | 【特集】(提案) テレビジョンの教育的利用 | 西本三十二 |
| | 【特集】(批判) テレビジョンと教育放送 | 網島毅 |
| | 【特集】(批判) テレビジョンと教育 | 日高第四郎 |
| | 【特集】(批判) 提案を読んで | 寺中作雄 |
| | 【特集】(批判) 「テレビ登場」 | 波多野完治 |
| | 【特集】(批判) 「テレビジョンの教育的利用」を読んで | 山下正雄 |
| | 【特集】(批判) 教師の立場から | 沢田源太郎 |
| | 【特集】(批判) 「テレビジョンの教育的利用」に対するお答え | 宮川三雄 |
| | 【特集】批判を読んで | 西本三十二 |
| | 【特集】テレビジョン学校放送 僻地の学校とラジオ | 豊田昭 齋藤伊都夫 |
| | 学校放送ローカルはどう行われているか | 鈴木博, 札幌中央, 松江, 高知, 青森各放送局 |
| | 放送教育の向上をはかるために行ったわが校の方法について | 榎本久, 若林恂 |
| | 3月号 | とびら 螢の光 |
| 学校放送ローカルの問題 | | 馬場四郎 |
| 学校放送ローカルはどう行われているか | | 熊本, 松山, 仙台各中央放送局 |
| 学校放送ローカルに何を望むか | | 多々静次, 有岡正明, 長谷川清 |
| 長岡教育放送局の構想 | | 内藤寛 |
| 再び音質の改善について | | 樋口千代造 |
| 昭和二十八年度学校放送番組の解説 | | (編集部) |

主な連載：教育時評、私の手帖から、聴取指導の一時間、学校放送講座、幼児の時間

1953 (昭和28) 年度 (通巻49~60号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------|---------------------------|---------------------------------------|
| 4月号 | とびら 教育放送の拡充 | 春日由三 |
| | 学校放送の拡充について | 大島文義 |
| | 中学・高等学校向放送番組拡充に寄せて | 大田周夫 |
| | 教育放送の拡充について—企画者のことば— | 川上行蔵 |
| | 拡充番組と日課表 | 日比野輝雄, 岩本時雄, 北野正光 |
| | シンポジウム 通信教育とラジオ | |
| | ・(提案) 通信教育とラジオ | 西本三十二 |
| | ・(批判) 新しい教育技術としてのラジオと通信教育 | 二宮徳馬 |
| | ・(批判) 夢をいうならTVの利用も | 山本敏夫 |
| | ・(批判) 教職員の現職教育の立場から | 玖村敏雄 |
| | ・(批判) 幾つかのみちがある | 川上行蔵 |
| | ・(批判) 通信教育全国放送の開設にあたって | 山本進 |
| | ・(批判) 通信教育とラジオ—現場から— | 朝日稔 |
| | ・批判を読んで | 西本三十二 |
| | 学校放送はどう聞かれているか | 手塚正男, 岡野芳夫 |
| | 5月号 | とびら「放送教育」五十号 |
| 放送教育の問題点—ことしの研究大会によせる— | | 石山脩平 |
| 学校放送と日課表(二) | | (9校) |
| 座談会「日課表をどうたてたか」 | | (10名) |
| 高等学校は悩む | | 青田章 |
| 学習指導案の研究 | | 影山晃彦, 宮寺富喜子, 松井三良 |
| 学校放送一問一答 学校放送の評価 | | 布留武郎 |
| 6月号 | とびら 放送教育研究会への期待 | 河澄清 |
| | シンポジウム 教師の現職教育とラジオの利用 | |
| | ・(提案) 教師の現職教育とラジオの利用 | 西本三十二 |
| | ・(批判) 聴取を妨げる最大の条件 | 大浦猛 |
| | ・(批判) 教師の聴取態度に期待する | 大石讓 |
| | ・(批判) 『教師の時間』の内容とその客観情勢 | 野口彰 |
| | ・(批判) 『教師の時間』について | 石田壮吉 |
| | ・(批判) 番組企画の立場から | 吉田行範 |
| | ・批判を読んで | 西本三十二 |
| | 座談会 視聴覚教育とテレビジョン | 坂元彦太郎, 青木章心, 日比野輝雄, 岩本時雄, 山下正雄, 高秋竜太郎 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 6月号 | 学校放送と日課表(三) | (5校) |
| | 学校放送一問一答 放送の教育的特性 | 鈴木博 |
| 7月号 | とびら 教育放送の新しい展開 | 西本三十二 |
| | 学校放送と校内放送—放送学習の基本問題として— | 波多野完治 |
| | 文部省教育放送の実施計画について | 原敏夫 |
| | 聴取中のメモについて | 宮地忠雄, 力石定, 中井義一, 宮地重雄 |
| | 小学校における歴史教育と学校放送 | 古川清行 |
| | シンポジウム ラジオ学習へのモチベーション(読者提案) | |
| | ・(提案) ラジオ学習へのモチベーション | 角田光雄 |
| | ・(批判) さらに一歩進めて | 伊藤正 |
| | ・(批判) 精神的環境をさらに重視したい | 榎本久 |
| | 提案と批判を読んで「動機づけ」の動機づけ | 青木章心 |
| 学校放送一問一答 学習指導案について | 富永重作 | |
| 8月号 | とびら 僻地の教育放送 | 山崎匡輔 |
| | 特集 校内放送 | |
| | 【特集】校内放送と自発学習 | 西本三十二 |
| | 【特集】校内放送の性格とその在り方 | 有光成徳 |
| | 【特集】校内放送の実態 | 岡野博 |
| | 【特集】自主的学習の展開—本校の校内放送— | 伊藤治右衛門 |
| | 【特集】ARPの運営—六郷小学校小供放送局— | 高井省司 |
| | 【特集】レポート 校内放送はどう行われているか | (8名) |
| | 学校放送一問一答 校内放送と学校放送の関係 | 桑山三郎 |
| | 9月号 | とびら 心の窓 |
| 視聴覚教育と学校経営 | | 武田一郎 |
| 学校放送聴取の評価 | | 有岡正明 |
| 提案にこたえる—校内放送とその在り方(8月号)— | | 落合矯一, 村上光男, 恩田茂 |
| 研究「季節だより」学習の反省 | | 石橋恭雄 |
| レポート 地区大会はどう行われたか | | 四国大会, 関西大会, 東北大会 |
| 一年生の聴取後指導 | | 大岩功典 |
| 対談 九州の放送教育 | | 小崎東紅, 板橋篤 |
| 学校放送一問一答 教科外活動と学校放送の利用 | | 富永重作 |
| 10月号 | | とびら 騒音 |
| | ことばの学習と学校放送の利用について | 石黒修 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------|--|----------------------|
| 10月号 | 学習効果のあった番組 | 木下正, 小針義貞, 品田文松, 根本栄 |
| | 地区大会研修感想 | (7名) |
| | 学校放送の利用状況と学校の意向 | 放送文化研究所 |
| | 座談会 学校放送番組の批判 どの番組がよく利用されているか(小学校) | (11名) |
| | アメリカの旅 第一信 TV教育とAV教育 | 西本三十二 |
| | 学校放送一問一答 音楽番組による学習指導はどうしたらよいか | 真篠将 |
| | アンケート 学校放送は学習上どのような効果があるか(一) | (12名) |
| 11月号 | とびら 口ことばの文化的進出 | 西尾実 |
| | 三人の先駆者へ三つの公開状—放送教育振興のポイントはどこにあるか— | 倉沢栄吉 |
| | 1.「陶醉者」「日和見」「喰わず嫌い」を排す | 富永重作 |
| | 2.私の学校では国語教師は最も熱心な利用者 | 日比野輝雄 |
| | 3.いわゆる専門家に比肩する人も多くいる | 近藤修博 |
| | 研究手帖 学校放送と国語学習 | 森本安市, 芳賀栄一, 沼畑敏夫 |
| | 教員養成大学では視聴覚教育の講義, 実習をどう行っているか(一) | (9大学) |
| | アメリカの旅 第二信 ニューヨークにて | 西本三十二 |
| | 学校放送一問一答 社会科学習と学校放送の利用 | 松村謙 |
| | アンケート 学校放送は学習上どのような効果があるか(二) | (13名) |
| 12月号 | とびら この方向に進めたい | 坂元彦太郎 |
| | 第四回放送教育懸賞論文入選作品 準備時代から自発聴取へ | 有岡正明 |
| | 第四回放送教育懸賞論文入選作品 学校放送は虹の橋 | 高橋甫 |
| | 座談会 どの番組がよく利用されているか(中学校) | (6名) |
| | 教員養成大学では視聴覚教育の講義, 実習をどう行っているか(二) | (7大学) |
| | アメリカの旅 第三信 続ニューヨークにて | 西本三十二 |
| 地区大会はどう行われたか | 中国, 九州, 北海道 | |
| 1月号 | とびら ものごとを正しくみる | 古垣鉄郎 |
| | 特集 第4回放送教育研究会全国大会 | |
| | 【特集】放送教育の新生面 | 坂元彦太郎 |
| | 【特集】僻地教育に重大な意義 | 山崎匡輔 |
| | 【特集】パネルディスカッション 放送教育の普及をはかり, さらに教育効果をあげるにはどうすればよいか | 小川一郎ほか 8名 |
| 【特集】昭和二十九年度の学校放送番組について | 春日由三 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------|--------------------------------|-------------|
| 1月号 | 【特集】部会報告 | (12部会) |
| | 【特集】大会感想 安易に妥協せずに | 富永重作 |
| | アメリカのラジオとテレビジョン | 西本三十二 |
| | 六年生の社会科と学校放送 | 宮地忠雄 |
| | 社会科番組によせる | |
| | ・『げんきなこども』 | 柳原美代子 |
| ・『マイクの旅』 | 福井淳夫 | |
| ・『心の生活』 | 日比野輝雄 | |
| 2月号 | とびら 聞くことの人間形成 | 海後宗臣 |
| | アメリカの教育放送を見る(一) | 西本三十二 |
| | 素朴な質問 山崎匡輔先生へ 僻地教育とラジオの利用 | 相馬勇, 山崎匡輔 |
| | 研究レポート 児童の自主性を重んじた児童放送局の運営について | 富田博 |
| | 学校放送一問一答 学校放送利用の評価の問題 | 北海道函館市青柳小学校 |
| | 演出手帖 音の真実と表現 | 岩淵東洋男 |
| 学校放送装置の設備と保守 | 田沢新 | |
| 3月号 | とびら 日常化への念願 | 石山脩平 |
| | 二十九年度の学校放送番組 | 鈴木博 |
| | 新番組と学習計画 小学校 前年度の反省を加えながら | 富永重作 |
| | 新番組と学習計画 中学校 各シリーズを検討してみる | 岩本時雄 |
| | アメリカの教育放送を見る(二) | 西本三十二 |
| | 素朴な質問 国語教育とラジオの利用 | 大橋富貴子, 石黒修 |

主な連載：教育時評、教室見学、放送教育人物月旦、学校放送番組と学習資料、幼児の時間 番組と解説

1954 (昭和29) 年度 (通巻61~72号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------|------------------------|------------------------------------|
| 4月号 | とびら 創刊五周年 | 西本三十二 |
| | 座談会 放送教育を展望する | 宮原誠一、川上行蔵、西本三十二 |
| | 創刊五周年に寄せる | 山崎匡輔、石山脩平、坂元彦太郎、栗原勇蔵、春日由三、有馬明、倉橋正雄 |
| | テレビジョンを教室で使うようになるまで | 板橋第三中学校 |
| | 研究レポ 学校放送のとりあげ方と評価 | 谷正久 |
| | 素朴な質問 視聴覚教育とラジオの利用 | 高萩竜太郎、波多野完治 |
| | アンケート 日課をどう立てたか | (7校) |
| 5月号 | とびら へき地と放送教育 | 大島文義 |
| | 学校放送番組編成の基礎 | 川上行蔵 |
| | 学校放送と教育計画 | 上野辰美 |
| | 視聴覚教育設備基準編集雑記 | 鹿海信也 |
| | 視聴覚教材の設備の基準的考察 | (編集部) |
| | 二年目のTV学校放送 | 豊田昭 |
| | 素朴な質問 中学校の放送教育について | 日比野輝雄、坂元彦太郎 |
| 6月号 | とびら 放送教育研究への期待 | 西本三十二 |
| | 対談 社会科教育とラジオ・映画の利用 | 波多野完治、西本三十二 |
| | 社会科番組プランナーのこぼれ | 吉澤素夫、大勝信明、柴田博三、鈴木邦一、横井昭 |
| | 社会科学習指導案 | 服部泰、前田隆吉 |
| 7月号 | とびら へき地と音楽教育 | 西本三十二 |
| | 「視聴覚教育講座十八章」について | 坂元彦太郎 |
| | 素朴な質問 高等学校の放送教育について答える | 石山脩平 |
| | 『ラジオ音楽教室』の指導 | 浜野政雄 |
| 8月号 | とびら 世界各国へあまねく | 崎山正毅 |
| | 僻地の教育と放送教育 | 西本三十二 |
| | 学校放送番組企画の背景として | 鈴木博 |
| | 素朴な質問 高等学校の放送教育について | 岡本為義 |
| アンケート どのような効果がどのような方法で(一) | (18名) | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------------|--|-----------|
| 8月号 | 特集 研究をはじめの人への章 | |
| | 1. 放送を教育に利用することの意義 | 青木章心 |
| | 2. ラジオの機能 | 有光成徳 |
| | 3. 時間算入をどうするか | 青木章心 |
| | 4. 放送を利用した学習の評価 | 有光成徳 |
| | 5. 教育課程とラジオ | 小川一郎 |
| | 6. 教科担任制の中学校で利用するには | 日比野輝雄 |
| | 7. 番組をどう選ぶか | 北野正光 |
| | 8. 小学校の日課表 | 富永重作 |
| | 9. 中学校の日課表 | 柳原美代子 |
| | 10. 低学年の学習指導 | 大岩功典 |
| | 11. 小学校中学年学習指導の要領 | 前田隆吉 |
| | 12. 高学年の学習指導 | 田中達雄 |
| | 13. 学校放送番組はどのように編成されているか | 富永重作 |
| 9月号 | とびら 社会教育にラジオを | 木田宏 |
| | 校内放送と民主的訓練 | 西本三十二 |
| | アンケート 校内放送の学習効果と問題点 | (25名) |
| | 素朴な質問 指導主事は視聴覚教育についてどのような指導をすることが望ましいか | 富永重作、倉沢栄吉 |
| 10月号 | 学校放送番組利用調査(小学校の部) | 寺脇信夫 |
| | 北海道におけるへき地教育放送講座 | 札幌中央放送局 |
| | ラジオノート 放送学習帳を観る | 宮地重雄 |
| | ラジオノートの観察 | 塚本佐明 |
| | 研究レポ メモの観察と国語学習 | 横山静子 |
| | とびら 教具としてのラジオ | 西本三十二 |
| 11月号 | 学校放送がもっと気楽に利用できるために一二つの提案 | 有光成徳 |
| | 放送を利用した学習の考察 | 堀田鶴好 |
| | 学習について一、二の考察—農村の平凡な小学校から— | 星野理喜弥 |
| | 新しい高校教育と放送教育の位置 | 俵谷正樹 |
| | 四つの難点をどう打開しているか | 大津市志賀小学校 |
| | 素朴な質問 研究会の持ち方について | 岩本時雄、小川一郎 |
| | 子供放送局の運営 | 防府市華浦小学校 |
| アンケート どのような効果が、どのような方法で(四) | (14名) | |
| 12月号 | とびら 放送教育全国大会によせる | 西本三十二 |
| | 学校放送ローカルの役割 | 齋藤伊都夫 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--------------------------------|-------------------------------------|------------------------|-------------|
| 11月号 | 学校放送口ーカルはどのように実施されているか | | |
| | ・企画者 | 宮崎文郎, 佐藤秀雄, 藤本信英, 大蔵義春 | |
| | ・聴取者 | 工藤武雄, 高井省司, 石森元彦, 角田宏 | |
| | 素朴な質問 学校放送の演出について | 北野正光, 宮地重雄, 川上行蔵 | |
| | 学校放送「日本のむかし」は社会科の学習に効果があるか | 京都市放送教育研究会 | |
| | アンケート どのような効果が、どのような方法で(五) | (11名) | |
| 12月号 | とびら きがるに利用するために | 波多野完治 | |
| | 学校放送番組の研究 | | |
| | ・具体的な日々の生き方を考えるー『わたくしたちのくらし』のねらうものー | 小林信郎 | |
| | ・基礎的な習慣や態度を身につけるー『げんきな子供』のねらうところはー | 荷見秋次郎 | |
| | ・ニュース解説五年一覆面を脱いでー | 新井太郎 | |
| | ・生活の中から問題をみつけるー『仲よしグループ』のねらいー | 西村文男 | |
| | ・『仲よしグループ』の執筆について | 田中ナナ | |
| | 学校放送は生活指導に役立っているか | | |
| | ・ラジオと子ども測候所 | 品田文松 | |
| | ・国語番組を利用して | 下田久子 | |
| | ・生徒の欠点をみつめる | 早田潔 | |
| | 素朴な質問 教科にこだわらず学校放送を利用するには | 大岩功典, 西本三十二 | |
| | 学校放送を気楽に利用するためにどのような方法をとっているか | 村田四郎, 猪瀬孝三郎, 小沼勉, 一橋精 | |
| | 鼎談 番組評 中学校向番組はこれでいいか | 高知尾徳, 日比野輝雄, 宮地重雄 | |
| | アンケート どのような効果が、どのような方法で(六) | (9名) | |
| | 1月号 | とびら 明るい前進 | 西本三十二 |
| | | 対談 学校放送の創始期 | 西本三十二, 安部忠三 |
| 昭和29年度放送教育懸賞論文首席入選作 放送教育の実践 | | 黒崎昇勝 | |
| 研究レポ 能力別学級における放送聴取の効果判定の試み | | 若林祐美 | |
| 放送学習の立場ー気軽に利用するためにー | | 鈴木武記 | |
| テレビ学校放送番組は成長したか | | 岩本時雄, 高萩竜太郎 | |
| 学校放送を気楽に利用するためにどのような方法をとったらいいか | | 山田敬一, 近藤修博, 遠藤治一, 朝田秋次 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------|------------------------------|--|
| 1月号 | 鼎談 番組評 最近の小学校低学年番組について | 富永重作, 宮本卓, 野田一郎 |
| | アンケート どのような効果が、どのような方法で(七) | (8名) |
| 2月号 | とびら 足踏みの原因 | 川上行蔵 |
| | 対談「初期の学校放送」 | 西本三十二, 森本勉 |
| | 特集 第5回放送教育研究会全国大会 | |
| | 【特集】へき地における放送教育の諸問題 | 齋藤伊都夫 |
| | 【特集】学校放送昭和三十年度の番組について | 春日由三 |
| | 【特集】全体討議 放送教育進展のために現場は何を望むか | 西本三十二, 石黒修, 大島文義, 川上行蔵, 高村悟, 山崎匡輔, 坂元彦太郎, 齋藤伊都夫, 木田宏 |
| | 【特集】研究部会報告 | (12部会) |
| 3月号 | とびら 放送文化への期待 | 西本三十二 |
| | 対談 戦後の学校放送を語る | 西本三十二, 鈴木博 |
| | 児童の社会心理と放送教育 | 波多野完治 |
| | 研究発表 へき地における放送教育 | 石元安幸 |
| | 放送教育懸賞論文入選 北国の子どもたちと南国の子どもたち | 池知祥三郎 |
| | 四月からの学校放送 | 教育部学校課 |
| | 番組評 最近の小学校中学年番組について | 北野正光, 柳原美代子, 小島郁子 |
| アンケート どのような方法でどのような効果が(終) | (3名) | |
| アンケート 印象に残る番組とその感想(一) | (6名) | |

主な連載：教育時評、ラジオ教養特集、放送台本、学校放送番組と学習資料、幼児の時間 番組と解説

1955 (昭和30) 年度 (通巻73~84号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------|-------------------------------------|---|
| 4月号 | とびら 学校放送二十周年 | 西本三十二 |
| | 学校放送二十周年に寄せる | 古垣鉄郎, 森戸辰男, 木田宏, 野口彰, 宮原誠一, 工藤義海, 栗原勇蔵, 野間忠雄, 金久保道雄, 白井勇 |
| | 座談会 学校放送今昔譚 | 西本三十二, 小川一郎, 山下正雄, 坂元彦太郎, 崎山正毅, 宮原誠一, 鈴木博 |
| | 記録 朝礼訓話—学校放送の開始にあたりて—(昭和10年4月15日放送) | 松田源治 |
| | 記録 学校放送 座談会 (昭和10年2月14日 大阪中央放送局会議室) | (11名) |
| | 放送教育と学級経営 | 石山脩平 |
| | 学校放送をとりいれた学級経営 | 徳島県海後郡牟岐町牟岐小学校 |
| | 六人の教師の断想 | 力石定, 桑山三郎, 相馬勇, 高井省司, 吉永壽生, 宮田信也 |
| 5月号 | とびら 学校放送の国際的意義 | 西本三十二 |
| | 学校放送二十周年に寄せて | エドガー・テール, ウィリアム・H・キルパトリック, メアリー・ソマーヴィル, ジュディス・ウォーラー, プロウダーリック, W・フィッシャー, ロイ・E・ウエンガー, J・J・マクファーソン, ウィリアム・B・レベンソン |
| | 学校放送二十周年に寄せて | 城戸幡太郎, 坂元彦太郎, 川上行蔵, 恩田茂, 高知尾徳 |
| | 影をおとすもの—『次郎の日記』の後始末— | 野口巖雄 |
| | 生活指導の最新の教材 | 俵谷正樹 |
| | ラジオの文章—四つの性格と六つの書き方— | 片桐顕智 |
| | 学校放送番組利用調査 (小学校の部) | 寺脇信夫 |
| | 印象に残る番組とその感想 (三) | (9名) |
| | とびら 放送教育らしくないということ | 宮原誠一 |
| | テール「学習指導における視聴覚的方法」新版を読む | 波多野完治 |
| | 学校放送開始20周年 これからの放送教育 協議会記録 | (20名) |
| 学校放送番組利用調査 (中学校の部) | 横井昭 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------|------------------------------------|------------------|
| 6月号 | 高学年の生活指導と放送利用 | 清水君栄 |
| | 研究レポ『国語教室1年生の時間』と入学期の学習 | 田中昭子 |
| 7月号 | とびら 共通の理解のために | 西本三十二 |
| | 放送教育の評価について | 上野辰美 |
| | テレビ学習を軌道にのせる | 高萩龍太郎 |
| | 研究発表 休暇中の聴取指導のあり方 | 長谷川寿男 |
| | 昭和三十年の地区連盟 (上) | 中国, 四国, 関西, 東京 |
| | 「学校放送装置の設備と保守」補遺 | 田沢新 |
| | 学校放送番組利用調査 (高等学校の部) | 奥田敏章 |
| 印象に残る番組とその感想 (四) | (6名) | |
| 8月号 | とびら 陽のあたらぬ青年のために | 石坂圭三 |
| | 日本放送教育学会の第一回発表会と協議会 | 西本三十二 |
| | 第四回学校放送調査の概要 | 放送文化研究所 |
| | 研究指定から発表会まで | 榎本酉之助 |
| | 学習指導研究 ラジオ国語教室を利用する | 赤松恒夫 |
| | 研究レポ 校外集団聴取の指導 | 大槻延子 |
| | 放送学習帳の使用に関する一研究 | 伊藤章 |
| | 受信施設の設計とその概要 | 倉田胤義 |
| | 昭和三十年の地区連盟 (下) | 九州, 東北, 関東甲信越 |
| | アンケート 校内放送 | (7名) |
| 9月号 | とびら 放送教育学会の成果 | 西本三十二 |
| | 学校放送と学習指導 | 武田一郎 |
| | 特集 学習指導研究 | |
| | 【特集】聴く態度を育てた収穫—『こねこミー』と学習指導— | 金子明美 |
| | 【特集】『日本の昔』をこのように指導した | 仙葉宗雄 |
| | 【特集】望ましい学習を求めて—マイクさん「釧路」へ— | 根本栄 |
| | 【特集】『次郎の日記』の能率的な利用 | 松尾善章 |
| | 【特集】『みんなの図書室』『国語教室』を国語学習にこのように利用した | 藤沢千尋 |
| | 【特集】高校教師の悩み—学校放送をこのように利用したが— | 吉野伸一 |
| | 鼎談 学習指導と学校放送の利用 | 藤井茂, 野口巖雄, 日比野輝雄 |
| | 研究発表 テレビジョンによる教育 | 東京都港区立青山中学校 |
| 第一回放送教育学会協議会終る | (編集部) | |
| 10月号 | とびら ラジオとドリル | 波多野完治 |
| | 放送教育に対する私の提案 | 西本三十二 |
| | 教師養成大学における放送教育コース | 村井道明 |
| | 聴かせかたの工夫 | 黒崎章勝, 斎藤富子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------|------------------------------|--|
| 10月号 | 録音機材の自作とその利用 | 池知祥三郎 |
| | 指導主事と学校放送 | 内海正 |
| | アンケート 学校放送の利用 | (8名) |
| | 放送による通信教育はどのように行われているか(上) | (13放送局) |
| | 視聴覚教育実態調査報告 | 東京都立教育研究所 |
| 11月号 | とびら 放送教育躍進のために | 西本三十二 |
| | 社会科学習とラジオ・テレビ | 馬場四郎 |
| | 学校放送を八教科と同様に考える | 藤川清 |
| | 研修会をこのように | 岸本唯博 |
| | 録音教材の研究—国語教育の場合— | 馬場正男 |
| | 『こねこミー』とその学習の反省 | 岡部いさみ |
| | 聞く話と読む話 | 大橋富貴子 |
| | 学校放送の利用は学習能率を上げるか | 富永重作 |
| | 放送による通信教育はどのように行われているか(下) | (10放送局) |
| 12月号 | とびら 二つの方向 | 山崎匡輔 |
| | 高等学校における放送の利用—『日本の古典』と国語教育 | 池田亀鑑 |
| | 学校放送の聴取は学習能率を上げるか—高等学校と学校放送— | 小泉新治 |
| | 第六回放送教育懸賞論文選後評 | 西本三十二 |
| | 座談会 台本審査をめぐって 望ましい校内放送の在り方 | 川上行蔵, 青木章心, 西沢実, 西本三十二 |
| | 学校放送の出演者はこのように期待する | 金沢嘉一, 百瀬三郎, 藤本一郎 |
| | 座談会 学校放送と学習 利用の要点を語る | 日比野輝雄, 下沢毅, 大岩功典, 小栗善一, 関口晏弘, 小館東 |
| | アンケート 学校放送の利用 | (8名) |
| 1月号 | とびら 新しい冒険 | 西本三十二 |
| | 現代文化の危機と放送教育 | 石山脩平 |
| | 特集 第6回放送教育研究会全国大会報告 | |
| | 【特集】全体討議 | 石山脩平, 岩間栄太郎, 岡本正一, 小川一郎, 川上行蔵, 高村悟, 上野芳太郎, 西本三十二 |
| 【特集】研究部会報告 | (15部会) | |
| 放送教育懸賞論文入選作品 学習効果をあげるために | 小川弘 | |
| 2月号 | とびら 教科と視聴覚教育 | 川上行蔵 |
| | 学習効果をどのように考えたらよいか | 青木章心 |
| | テレビジョンの集団聴視 | 有光成徳 |
| | 素朴な質問 放送教育の高い壁について | 桑山三郎, 西本三十二 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------|---------------------------|----------------------|
| 2月号 | テレビジョンの集団聴視 | 有光成徳 |
| | 学校放送の聴取は学習効果をあげたか | (5名) |
| | アンケート 学校放送の利用 | (6名) |
| | アメリカだより クリーブランドのラジオ・テレビ教育 | 野津良夫 |
| | へき地を克服する学校放送 | 水口忠 |
| 幼児の指導とラジオ | 横田ふみ | |
| 3月号 | とびら 教育の近代化のために | 西本三十二 |
| | 学校放送とカリキュラム | 坂元彦太郎 |
| | 農村におけるテレビジョンとテレクラブ | ロジャー・ルイス, ジョゼフ・ローヴァン |
| | 昭和31年度の学校放送番組について | 川上行蔵 |
| | 放送教育新潮 未来の市民のための社会科学 | 波多野完治 |
| | 特集 中学校における二・三の問題 | (10名) |
| | アンケート 学校放送の利用 | (9名) |
| | 第5回学校放送調査の概要(1) | 放送文化研究所 |

主な連載：教育時評、学習指導案研究、学校放送番組指導の要点、音の演出手帖、放送台本、幼児の時間 番組と解説



1955年5月号



1955年5月号

1956 (昭和31) 年度 (通巻85~96号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|----------------------------|--------------------------|
| 4月号 | とびら 第三十三条第二項について | 山崎藤玄 |
| | 新学年のカリキュラムと学校放送 | 西本三十二 |
| | 教育時評 五つの提案 | 倉沢栄吉 |
| | 放送教育新潮 聴取の心理<上> | 波多野完治 |
| | 特集 私の聴取プラン<1> | (15校) |
| | 第5回学校放送調査の概要(2) | NHK放送文化研究所 |
| | 聴取計画 山の小さな中学校で | 織田重信 |
| 5月号 | とびら 教材選択の自由 | 西本三十二 |
| | 教育計画室にて | 小川一郎 |
| | 教育時評 いのちを抜き去る規定 | 馬場四郎 |
| | 放送教育新潮 聴取の心理<中> | 波多野完治 |
| | 特集 私の聴取プラン<2> | (10校) |
| | 学校放送番組利用調査(小学校の部) | 寺脇信夫 |
| | 学校放送ローカル番組の利用 | 大原亨 |
| | ことばの指導とラジオの利用 | 横山静子 |
| | ラジオ・テレビ ヨーロッパ通信 | 有光成徳 |
| 6月号 | とびら 周辺再編成に望む一教育文化優先に | 山崎幽玄 |
| | 受験と放送教育 | 石山脩平 |
| | 固定教材と流動教材 | 鈴木博 |
| | 教育時評 新教育を支えるもの | 倉沢剛 |
| | 放送教育新潮 聴取の心理<下> | 波多野完治 |
| | 特集 進学と放送教育 | (12校) |
| | 学校放送番組利用調査(中学校の部) | 乾孝 |
| | ラジオと国語のドリル | 大橋富貴子 |
| | ラジオ・テレビ ヨーロッパ通信 | 有光成徳 |
| 7月号 | とびら 新教育委員会法と放送教育 | 岩間栄太郎 |
| | エドガー・テール博士を迎える | 西本三十二 |
| | エドガー・テール博士の印象 | 宇川勝美, 鈴木勉, 青木章心 |
| | 教育時評 若い力に期待する | 海後宗臣 |
| | 放送教育新潮 コミュニケーションの社会学① | 波多野完治 |
| | 特集 1ヶ月の放送聴取から われわれはかく歩んでいる | (12校) |
| | 学校放送番組利用調査(高等学校の部) | 大古利三 |
| | ある日のラジオ教育 | そうま・しろう |
| | ラジオ・テレビ ヨーロッパ通信 | 有光成徳 |
| 8月号 | とびら 教育放送の活用と運営 | 西本三十二 |
| | 親愛なる日本の教育者へ | エドガー・テール |
| | NHK 新会長永田清氏に期待する | 内藤善三郎, 宮原誠一, 山崎藤玄, 日比野輝雄 |
| | 校内放送の教材性一 国語教育の立場から | 倉沢栄吉 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|------------------------------------|--------------------------------|
| 8月号 | 教育時評 東北の放送教育 | 小川一郎 |
| | 放送教育新潮 コミュニケーションの社会学① | 波多野完治 |
| | 特集 校内放送は効果が上っているか | (20校) |
| | 校内放送の再構成 | 富永重作 |
| | ラジオ・テレビ ヨーロッパ通信 | 有光成徳 |
| 9月号 | とびら 放送教育の祭典 一第七回放送教育全国大会によせる一 | 西本三十二 |
| | カリキュラム構成における視聴覚教育の位置と構造 | 馬場四郎 |
| | 馬場理論を読んで 放送教育の効果と限界 | 細谷俊夫 |
| | 馬場理論を読んで 三つの原因について | 大岩功典 |
| | 馬場理論を読んで 新しい角度からのカリキュラム | 寺脇信夫 |
| | 教育時評 三角形の底辺を拡大せよ | 田中正吾 |
| | 地方大会 研究発表から | (5会場) |
| | 指導主事と放送教育 NHK録音教材フランダースの犬 | 橋本土郎 |
| | 指導主事と放送教育 近代的と基本的ということ | 桑門俊成 |
| | こども達の期待と考え方 一学期の学校放送から | 竹内克 |
| 10月号 | とびら 番組と現場の実践 | 春日由三 |
| | 視聴覚教育は補助手段でよいか | 馬場四郎 |
| | 座談会 E・テール博士に何を学んだか | 波多野完治, 齋藤伊都夫, 宇川勝美, 大内茂男, 寺脇信夫 |
| | 教育時評 カリキュラムと時間の問題一 放送教育特別研修会に参加して一 | 鈴木博 |
| | 学生論文 NHK学校放送『マイクの旅』の番組分析 | 葛原匡 |
| 11月号 | とびら ラジオの賢明な利用 | エドガー・テール |
| | 視聴覚教材教具の効果的利用 | エドガー・テール |
| | 教育時評 農村におけるテレビの集団視聴 | 有光成徳 |
| | 放送教育新潮 認識発展におけるラジオテレビの役割 | 波多野完治 |
| | 特集 幼児と放送教育 | (12園) |
| | 第七回放送教育懸賞論文選後評 | 西本三十二 |
| | へき地教育見てあるき | 上野芳太郎 |
| 12月号 | とびら 幼児教育とラジオ | 石山脩平 |
| | 教育とマス・メディア | エドガー・テール |
| | 教育時評 たてよこに広がる教育放送 | 青木章心 |
| | 放送教育新潮 テレビによる心理治療 | 波多野完治 |
| | テール滞日旅日記抄<上> | 西本三十二 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------|---|---|
| 12月号 | 実践報告 生活指導番組利用の一考察『仲よしグループ』『よそから来た子』の指導例 | 坂本経雄 |
| | 実践報告 父兄をいれてのグループ聴取冬のラジオクラブ利用の手がかりとして | 亀田勝 |
| | 実践報告 生きてきた放送 | 川上剛 |
| | 実践報告 豊かな経験から行動的学習へ | 富田博 |
| 1月号 | とびら 社会的な使命として | 永田清 |
| | 特集 第7回放送教育全国大会報告 | |
| | 【特集】現代教育の方向と放送教育の意義 | 海後宗臣 |
| | 【特集】昭和32年度学校放送番組について | 春日由三 |
| | 【特集】全体討議 教育放送の内容とその指導方法の研究 | 西本三十二, 海後宗臣, 石黒修, 坂本彦太郎, 岩間栄太郎, 鎌田繁春, 川上行蔵, 岡本正一, 高村悟 |
| | 【特集】研究部会報告 | (31部会) |
| | 教育時評 夢を失った子どもたちのために | 齋藤伊都夫 |
| | 放送教育新潮 視聴覚教育の研究と現実① | 波多野完治 |
| | テール滞日日記抄<中> | 西本三十二 |
| 放送教育懸賞応募論文を読んで | 鈴木博 | |
| 2月号 | とびら 教育テレビへの期待 | 西本三十二 |
| | 座談会 視聴覚教育と放送教育Ⅰ | 西本三十二, 波多野完治, 関野嘉雄 |
| | 教育時評 教員養成機関の問題をめぐって | 田中正吾 |
| | 放送教育新潮 視聴覚教育の研究と現実② | 波多野完治 |
| | テール滞日日記抄<下> | 西本三十二 |
| | 特集・テレビと学習 | (14校) |
| | 第二回校内放送劇台本選後評 | 高橋増雄 |
| | 昭和31年度放送教育特別研修会報告 | 坂本彦太郎ほか |
| 3月号 | とびら 実践と反省の上に | 坂本彦太郎 |
| | 座談会 視聴覚教育と放送教育Ⅱ | 西本三十二, 波多野完治, 関野嘉雄 |
| | 教育時評 学校放送には最高の芸術品を | 布留武郎 |
| | 校内放送 継続は力なり | 山口安文 |
| | 奄美大島の教師たち へき地放送教育研究会に参加して | 鈴木博 |

主な連載：放送台本、番組利用指導、レポート



1956年7月号



1956年10月号

1957 (昭和32) 年度 (通巻97~108号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--------------------------------|---|
| 4月号 | とびら 電波政策に教育者の意見を | 前田義徳 |
| | 学校放送の問題点 33年度の番組はどう改善されたか | 豊田昭 |
| | 新年度 学校放送テレビ番組とその特性 | 小山賢市 |
| | 放送対談 視聴覚教育の意義 コミュニケーション革命と教育革命 | 西本三十二, 富田竹三郎 |
| | 座談会 音と教育 | 小川一郎, 畑山健八, 鈴木博, 大内茂男, 田口昶三郎, 菊地富士雄, 高橋増雄 |
| | 教育時評 教材教具整備の研究を | 近藤修博 |
| | 私の聴取プラン | (4校) |
| 5月号 | とびら AV教師の校長時代が来た | 宮原誠一 |
| | 放送教育と学習効果 | 林強 |
| | 教育時評 二つの中学校を通して | 藤井茂 |
| | 学校放送番組利用調査 小学校の部 | 寺脇信夫 |
| | 放送文化賞をうけて | 西本三十二 |
| | 特集 幼児とラジオ 幼稚園における放送利用の現状 | (編集部) |
| | 私の聴取プラン | (2校) |
| 6月号 | とびら 直接経験と間接経験 | 波多野完治 |
| | 視聴覚教育の基礎理論—視聴覚手段の意味論的解明の試み— | 坂元彦太郎 |
| | 教育時評 現場の研究に望む | 齋藤伊都夫 |
| | 学校放送番組利用調査 中学校の部 | 乾巽 |
| | 特集 日課表をどう立てたか | (7校) |
| | 放送教育の思い出—学校放送の創始時代— | 西本三十二 |
| 7月号 | とびら 教育放送の前進 | 西本三十二 |
| | 『健三の日記』聴取反響の分析 | 藤本芳俊 |
| | 高校の放送教育を阻むもの | 上野辰美 |
| | 幼児放送教育の問題点 | 太田静樹 |
| | 幼児向テレビについて | 秋山幾代 |
| | 教育時評 水準を高める段階 | 田中正吾 |
| | 放送教育新潮 教育テレビ・ラジオ・センター | 波多野完治 |
| | 学校放送番組利用調査 高等学校の部 | 大古利三 |
| | 日本の放送教育はどう成長してきたか | 全放送事務局 |
| 8月号 | とびら 聞きやすさということ | 倉沢栄吉 |
| | 新しい教育計画と放送教育 | 西本三十二 |
| | 教育時評 効果を子どもの上に実証せよ | 山下静雄 |
| | 放送教育新潮 テレビジョンと教育① | 波多野完治, 芳賀純 |
| | 特集 受信施設の問題点 | |
| | 【特集】座談会 学校放送受信施設の傾向を語る | 日比野輝雄, 浅見不二雄, 畑山健八, 大野茂 |
| | 【特集】アンケート 校内放送施設をどう利用しているか | (13校) |

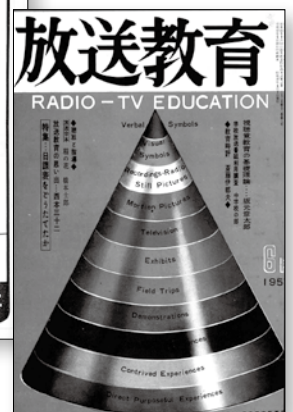
| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------|--------------------------------|----------------|
| 9月号 | とびら 教育テレビの波紋 | 川上行蔵 |
| | 二つの示唆—「デールの視聴覚教育」を読んで— | 有光成徳 |
| | 教育時評 学力をつつむもの | 近藤正樹 |
| | 放送教育新潮 テレビジョンと教育② | 波多野完治, 芳賀純 |
| | 研究発表 視聴覚教材利用の十年 | 東京都板橋区立板橋第三中学校 |
| 10月号 | とびら 河馬問答—教科と学校放送に関連して— | 西本三十二 |
| | 特集 テレビジョンと教育 | |
| | 【特集】対談 教育テレビを語るく上> | 永田清, 西本三十二 |
| | 【特集】テレビ集会の収穫 | 有光成徳 |
| | 【特集】テレビと子どもの生活 | 布留武郎 |
| | 【特集】テレビ教育の実際 | 久留米市篠山小学校 |
| | 【特集】社会教養番組の方向—億総白痴化の媒体ならざるために— | 小田俊策 |
| | 【特集】教師と演出者『滝廉太郎』をめぐる | 小山賢市 |
| | 【特集】テレビ受信機をどう利用しているか | (7校) |
| | 教育時評 学校管理規則と放送教育 | 馬場四郎 |
| 放送教育新潮 テレビジョンと教育③ | 波多野完治, 芳賀純 | |
| 11月号 | とびら 放送教育推進の一機会 | 岩間栄太郎 |
| | 対談 教育テレビを語るく下> | 永田清, 西本三十二 |
| | 視聴覚教育資料の図式 | 野津良夫 |
| | 教育時評 道徳教育と放送教材 生活指導番組のシリーズ聴取を | 村井道明 |
| | 高校における放送利用の実態 | 大古利三 |
| | 第八回放送教育研究会全国大会 研究発表者のことば | (11名) |
| | 教科書と放送教材への一考察 | 佐藤文義 |
| 12月号 | とびら テレビと教具の変革 | 海後宗臣 |
| | 特集 国語学習とラジオ・テレビ | |
| | 【特集】国語学習指導とラジオ・テレビ | 大橋富貴子 |
| | 【特集】スタジオレポ 花子さんボールをとって | 清水敏子 |
| | 【特集】スタジオレポ 敬語について | 倉沢栄吉 |
| | 【特集】出演者の弁 ことばあそび雑感 | 満田正子 |
| | 【特集】出演者の弁 国語教室五年半 | 青木幹二男 |
| | 【特集】国語番組を利用して 聴取態度が落ちついてきた | 田中昭子 |
| | 【特集】国語番組を利用して 国語番組「敬語」の利用 | 関根岩雄 |
| 【特集】国語番組を利用して 学習指導の記録「敬語」 | 佐々木孝 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------|----------------------------|--|
| 12月号 | 【特集】国語番組を利用して「日本の古典」に寄せる | 森本元子 |
| | 【特集】国語番組を利用して 国語学習の確立に役立つ | 佐藤文義 |
| | 永田NHK会長を悼む | 西本三十二 |
| | 教育時評 幼児教育とラジオ・テレビ | 松村康平 |
| | 昭和三十三年度の学校放送番組の編成にあたって | 岡本正一 |
| | 昭和三十三年度の学校放送番組表 | |
| 1月号 | とびら 放送教育躍進の年 | 西本三十二 |
| | 『かんちゃんのえにつき』と子供の反響 | 山下正雄 |
| | 教育時評 系統学習と放送教育 | 石黒修 |
| | ラジオ学習レポート | (4名) |
| | テレビ学習レポート | (2名) |
| 2月号 | とびら テレビへの積極的関心を | 波多野完治 |
| | 教育時評 研究会を新しい次元に | 齋藤伊都夫 |
| | 昭和三十二年放送教育特別研修会はどのように行われたか | |
| | ・東北地区一講演・部会一 | 馬場四郎, 岸本唯博, 青木章心, 波多野完治 |
| | ・東海北陸・関東甲信越地区一講演・部会一 | 齋藤伊都夫, 石黒修, 鈴木博 |
| | ・関西四国地区一講演・部会一 | 坂本彦太郎, 大島文義, 村井道明, 浅見不二雄 |
| ・中国・九州地区一部会一 | (部会のみ) | |
| 3月号 | とびら「教える」こと概念 | エドガー・テール |
| | 教育時評 放送の鮮度と教室の社会的構造 | 野津良夫 |
| | 第8回放送教育研究会全国大会記録抜粋 | |
| | ・特別講演 放送教育の心理学的基礎 | 波多野完治 |
| | ・全体討議放送教育の問題点と今後の進展策について | 坂本彦太郎, 岩間栄太郎, 鎌田繁春, 高村悟, 岡本正一, 西本三十二, 山極武利 |
| ・部会報告 | (29部会) | |
| | 高校通信教育とNHK高等学校講座 | 田中達雄 |

主な連載：放送台本、番組利用指導、本県の放送教育



1957年5月号



1957年6月号

1958 (昭和33) 年度 (通巻109~120号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------|-----------------------------|----------------|
| 4月号 | とびら 創刊十周年に思う | 西本三十二 |
| | 科学教育と放送教材—学校放送の科学番組について— | 相島敏夫 |
| | 教育時評 水が大地にしみいるように | 坂元彦太郎 |
| | 放送教育入門講座 ①ラジオテレビと教育計画 | 有光成徳 |
| | 昭和33年度学校放送番組について | 岡本正一 |
| | 社会教育とラジオ『朝の教養』と『日本の子供』について | 青木章心 |
| 私はこのように放送教材を使う | (9名) | |
| 5月号 | とびら テレビは社会と教室をつなぐ窓 | 野村秀雄 |
| | 新しい教材観に立つ放送教育 | 西本三十二 |
| | 教育時評 教育の生産性と放送教材 | 山下静雄 |
| | 放送教育入門講座 ②ラジオテレビと教材研究 | 有光成徳 |
| | 学習効果をめざす 現場の放送教育 | 鹿児島市八幡小学校 |
| | 全教室にテレビが入るまで | 関根岩雄 |
| | 生活指導、道徳教育と放送教材 | 宇都宮恭三 |
| 『テレビの旅』からの展開 | 田口順次 | |
| 6月号 | とびら 道徳教育と放送 | 内藤善三郎 |
| | 特集・道徳教育・生活指導と放送教材 | |
| | 【特集】新しい道徳教育と学校放送 | 馬場四郎 |
| | 【特集】生活指導番組と人間形成 | 豊田昭 |
| | 【特集】教育時評「道徳」と視聴覚的方法の役割 | 鈴木勉 |
| | 【特集】道徳指導手引書「緑の週間」を読んで | 大野連太郎 |
| | 学校放送『健三の日記』の分析 | 岩浅農也 |
| | 道徳実施要綱と『健三の日記』 | 今泉ふさ江 |
| | 実践記録 心情の旅—道徳的指導への放送の新使命— | 谷村龍男 |
| | 実践記録『明るい学校』が最大の贈り物に | 相馬四郎 |
| | 実践記録 実践への原動力に | 斎藤巖 |
| | 実践記録『仲よしグループ』中心の指導案 | 深山かつ子 |
| | 番組担当者の弁 | 中村良雄、大竹信弥、奥田敏幸 |
| | 世界の放送教育をみる<1> | 西本三十二 |
| | 放送教育入門講座 ③ラジオ学校放送と指導法 | 有光成徳 |
| 7月号 | とびら 聴くことの訓練 | エドガー・テール |
| | ラジオ・テレビ教材の性格 視聴覚教材全系列における位置 | 坂元彦太郎 |
| | 教育時評「道徳教育」は放送教育に見ならぬ | 倉沢栄吉 |
| | 放送教育入門講座 ④テレビ学校放送の利用計画 | 有光成徳 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------|-------------------------|------------------|
| 7月号 | フランスにおける学校放送の研究 | 稲生和子 |
| | 学校放送番組利用調査 小学校の部 | 寺脇信夫 |
| | 世界の放送教育をみる<2> | 西本三十二 |
| | テレビ受信機購入の四十八手 | (15校) |
| 私はこのように放送教材を使う | (8名) | |
| 8月号 | とびら テレビ教育の前進 | 井内慶次郎 |
| | 教育時評 放送教育と教師の意識 | 宇川勝美 |
| | 放送教育入門講座 ⑤ラジオ・テレビと学習評価 | 有光成徳 |
| | 世界の放送教育をみる<3> | 西本三十二 |
| | 特集 校内放送の諸問題 | |
| | 【特集】対談 校内放送の諸問題 | 波多野完治、大内茂男 |
| | 【特集】校内放送と生活指導 | 上野辰美 |
| 【特集】校内放送の価値と効果的な運営 | 福岡県柳河小学校 | |
| 【特集】私の校内放送局 運営の実際 | (9名) | |
| 学校放送番組利用調査 中学校の部 | 乾巽 | |
| 9月号 | とびら 聴取の場の条件 | 根岸巖 |
| | 座談会 世界の放送教育を語る | 井内慶次郎、西本三十二、岡本正一 |
| | 教育時評 道徳教育とラジオテレビの時事性 | 齋藤伊都夫 |
| | 放送教育入門講座 ⑥放送と学級経営—小学校— | 有光成徳 |
| | 現場の放送教育実践記「よい音質」がすべてに優先 | 佐藤健喜 |
| | 現場の放送教育実践記“生かして使う”立場 | 大原亨 |
| | 現場の放送教育実践記「白痴」から「博知」へ | 高橋勇 |
| | 現場の放送教育実践記 鑑賞から総合理解へ | 鈴木正 |
| | 学校放送番組利用調査 高等学校の部 | 奥田敏章 |
| | 10月号 | とびら 教育課程の改訂と放送教育 |
| 未来は誰のものか テレビ教師論 | | 西本三十二 |
| 教育時評 放送利用のアルファとオメガ | | 堀田鶴好 |
| 特集 学習指導要領改訂と放送教育 | | |
| 【特集】学習指導要領改革案と放送教育 その1 | | 内藤善三郎 |
| 放送教育施設改善の記録 入選発表 | (4人) | |
| 放送教育かたすみの実践<教師の時間シリーズ> | 野津良夫 | |
| 11月号 | とびら 教育の転機を迎えて | 川上行蔵 |
| | 教育におけるテレビの位置 | 波多野完治 |
| | 未来は誰のものか テレビ教師論批判 | |
| | ・賛成と抵抗 | 齋藤伊都夫 |
| ・テレビ・チューターについて | 田中正吾 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------|--|--------------------|
| 11月号 | ・テレビ教育の進展のために | 河合良三 |
| | 教育時評 道徳の指導と放送教材 | 大内茂男 |
| | 放送教育入門講座 ⑦放送と学級経営—中学校— | 有光成徳 |
| | 学習指導要領改革案と放送教育 その2 | 上野芳太郎, 安達健二, 西本三十二 |
| | 離れ島の学校経営<教師の時間シリーズ> | 村上安吉 |
| 12月号 | とびら テレビ教育推進の基本構想 | 井内慶次郎 |
| | 未来は誰のものか テレビ教師論批判 | |
| | ・新しい教師像の成立を阻むもの | 波多野完治 |
| | ・ティーチャーとしての正しい道 | 坂本彦太郎 |
| | ・主体は教師かテレビか児童か | 上野辰美 |
| | ・民主社会における教育の根本理念 | 日比野輝雄 |
| | 特集 学校放送道徳番組の企画とねらい | |
| | 【特集】生活指導番組の問題点 | 豊田昭 |
| | 【特集】「こねこミー」の企画について | 西山昭雄 |
| | 【特集】「仲よしグループ」の求める人間像 | 大久保京子 |
| | 【特集】「明るい学校」の企画と基本構成 | 佐藤秀雄 |
| | 【特集】『達夫の日記』と道徳教育 | 大竹信弥 |
| | 【特集】「青年期の探究」と高等学校の生活指導 | 奥田敏章 |
| | 教育時評 指導要領改訂と放送教育 | 大島文義 |
| | 放送教育入門講座 ⑧校内放送の機能と運営 | 有光成徳 |
| | 「道徳指導立案」と実践の記録 | 富永重作 |
| | テレビ学校放送はどのくらい利用されているか—第1回テレビ学校放送調査の結果から— | 石渡高子 |
| | 昭和34年度番組について | 川上行蔵 |
| | 昭和34年度学校放送番組一覧表 | |
| | 1月号 | とびら 東京大会の大きな収穫 |
| 対談 テレビは教育の革命児 | | 西本三十二, 川上行蔵 |
| 教育時評 この教師たちを失望させてはならぬ | | 馬場四郎 |
| NHKの教育テレビジョン番組 | | 岡本正一 |
| 放送教育入門講座 ⑨テレビ学校放送とその利用 | | 有光成徳 |
| 第9回放送教育全国大会レポート | | (10名) |
| 第9回放送教育賞懸賞論文団体賞 新しい学校経営を支えるラジオ | | 萩原賤民 |
| 第9回放送教育賞懸賞論文団体賞 促進学級と音 | | 天草俊 |
| 2月号 | とびら 教育テレビ番組に特色を | 千葉雄次郎 |
| | 放送教育の問題と構造 | 大坪国益 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|------------------------------------|--|
| 2月号 | 世界放送教育紀行 アメリカの放送教育 | 西本三十二 |
| | 教育時評 新しい教員養成制度と視聴覚教育 | 波多野完治 |
| | 放送教育入門講座 ⑩学習指導要領と視聴覚教材 | 有光成徳 |
| | 特集 道徳教育と放送教材 実践記録 | (10名) |
| | 放送を開始したNHK教育テレビ | (編集部) |
| | 文部省教育放送分科審議会の中間試案 教育テレビのマグナ・カルタ | (編集部) |
| 3月号 | とびら 教育番組を五か年で世界に | 三熊文雄 |
| | 世界放送教育紀行 アメリカの放送教育続 | 西本三十二 |
| | 教育時評 視聴覚教育と教員養成大学 | 近藤修博 |
| | 放送教育入門講座 ⑪ラジオ・テレビの年間利用計画 | 有光成徳 |
| | 放送利用者と放送局の提言 お茶の水女子大付属小学校の放送教育を訪ねる | 坂本彦太郎, 宮地忠雄, 大橋富貴子, 深山かつ子, 植田幸子, 林健造, 古江綾子 |
| | 昭和33年度放送教育特別研修会記録 | |
| | ・関東甲信越・東海北陸地区一講演・部会一 | 西本三十二 |
| | ・東北地区一講演・部会一 | 日比野輝雄 |

主な連載：教材研究、劇台本、ラジオ・テレビ・学習レポート、本県の放送教育、校内放送史料、録音教材月報、放送室

1959 (昭和34) 年度 (通巻121~132号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 4月号 | とびら テレビ時代の教育 | 西本三十二 |
| | 論説 放送教育と視聴覚教育 | 大坪国益 |
| | 教育時評 現場の道徳教育と放送教材 | 山下静雄 |
| | 放送教育入門講座 子どもの生活とテレビ | 有光成徳 |
| | 特集・教員養成大学と視聴覚教育 | (30大学) |
| | 放送教育レポート へき地校のテレビ教育ほか | (編集部) |
| | 幼児と放送教育 視聴方法の工夫と変化を | 秋田美子 |
| | 幼児と放送教育 最少施設で最大効果を | 岩崎隆 |
| | 5月号 | とびら 皇太子殿下のご婚儀とテレビ時代 |
| 論説 テレビチューター論(うつりゆく教師像) | 西本三十二 | |
| 教育時評 ラジオ・テレビによる学習の社会性 | 野津良夫 | |
| 第1回放送教育賞発表 | (編集部) | |
| 放送教育入門講座 道徳指導と放送教材 | 有光成徳 | |
| 学校放送番組利用調査 小学校の部 | 寺脇信夫 | |
| テレビの子どもに及ぼす影響 | (編集部) | |
| 教員養成大学と視聴覚教育② | (8大学) | |
| インドAVの旅 | 前川春雄 | |
| 放送教育レポート 捨てられる番組がない | 横山みなみ | |
| 放送教育レポート 校時表とシリーズ聴取 | 清村昭郎 | |
| 放送教育レポート 中学校国語教育と放送教材 | 左近元二 | |
| 放送教育レポート 青年期の探究とその影響 | 高丘善雄 | |
| 6月号 | とびら 学校放送の全校利用を目標に | 首藤憲太郎 |
| | 論説 イギリスの教育テレビ | 波多野完治 |
| | 論説 ラジオ・テレビと映画・スライド | 田中正吾 |
| | 教育時評 時間のとり方 | 倉沢栄吉 |
| | 対談 第1回放送教育賞を受けて ラジオと映画を人生の友として | 工藤義海、西本三十二 |
| | 放送教育入門講座 学校行事などとラジオ・テレビ | 有光成徳 |
| | 学校放送番組利用調査 中学校の部 | 乾巽 |
| | 特集 テレビ教育の現状 | (20名) |
| | セントルイスの放送教育 | 金田正也 |
| 7月号 | とびら テレビと児童心理、教育者心理 | 波多野完治 |
| | 論説 テレビ教育を本格化する道 | 宇川勝美 |
| | 教育時評 テレビの現実直視を | 青木章心 |
| | 放送教育入門講座 放送教育と参考文献 | 有光成徳 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--------------------------|---------------------------|-----------------------------|-------|
| 7月号 | 教師の時間 いかにしてラジオ・テレビに親しませるか | 上野辰美 | |
| | ルドルフ・アルンハイム博士来日の意味 | 波多野完治 | |
| | 学校放送番組利用調査 高等学校の部 | 奥田敏章 | |
| | 研究と実践「達夫の日記」と生徒たち | 長須房次郎 | |
| | 研究と実践 鑑賞学習と理論学習 | 岡部昌 | |
| | 研究と実践 放送利用と教師の役割 | 大室了皓 | |
| | 研究と実践 盲教育にラジオは必須 | 大原千鶴子 | |
| | 技術シリーズ どのようなテレビを選んだらよいか | 山本幹夫 | |
| | 8月号 | とびら より親しみやすい教育番組を | 浅沼博 |
| | | 論説 学生のテレビ視聴態度—皇太子ご成婚に現れた傾向— | 西本三十二 |
| 教育時評「道徳」の時間とラジオ・テレビ | | 宮原誠一 | |
| 放送教育入門講座 ラジオとテレビの併用 | | 有光成徳 | |
| 教師の時間 放送利用と学習効果 | | 山下静雄 | |
| 音声英語矯練と録音機 | | 春木猛 | |
| 学校放送の利用と番組考査 | | 編集部 | |
| 特集 指導主義と放送教育 | | 高萩竜太郎、田井仲次 | |
| 特集 テレビ学校放送をどう利用しているか | | (13名) | |
| 研究と実践 幼児の生活とテレビの影響 | | 太田静樹 | |
| 研究と実践『だってだって』はよい番組 | | 吉浦弘文 | |
| 研究と実践『達夫の日記』による自己探究 | | 松田真 | |
| 研究と実践 国語とテレビ教材—『名作をたずねて』 | | 河合良三 | |
| 技術シリーズ 技術的活動の推進のために | 沼沢豊名 | | |
| 9月号 | とびら 教育効果と放送教材 | 内藤誉三郎 | |
| | 論説 テレビジョンの教育的利用 | 上野辰美 | |
| | 教育時評 ラジオ・ローカル番組の育成 | 馬場四郎 | |
| | 放送教育入門講座 継続視聴の諸問題 | 有光成徳 | |
| | 実践報告 教育のなかのラジオテレビ | 東京・青山小学校 | |
| | 研究と実践『三びきの子ぶた』視聴日記から | 勝田節 | |
| | 研究と実践 スムースで効果的な放送教材 | 松本利夫 | |
| | 研究と実践『このごろのできごと』と子供の興味 | 大井弘美峰 | |
| | 研究と実践 精薄児の友「放送教材」 | 野杉春男 | |
| | 研究と実践 感銘を与えた「夜明け前」 | 斎藤正美 | |
| | 研究と実践 放送番組と校時表の関係 | 谷村能男 | |
| | 特集 テレビと子どもの生活 | (11名) | |
| 特集 テレビ受信機の管理 | (4名) | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 10月号 | とびら 共通の広場を | 坂元彦太郎 |
| | 論説 九州地区放送教育研修会の反省 | 波多野完治 |
| | 教育時評 聞いて・見て 読む雑誌 | 石黒修 |
| | 対談 新しい学習指導要領と放送教育 | 西本三十二, 上野芳太郎 |
| | 放送教育入門講座 進学と放送教育 | 有光成徳 |
| | 特集 社会教育と放送教材 | (4名) |
| | 特集 道德教育とラジオ・テレビ | (4名) |
| | 特集 見よい画・聞きよい音のために 私 の工夫 | (3名) |
| | 研究と実践 テレビ学習で実験観察が 充実 | 長須房次郎 |
| | 研究と実践 聴取メモを活用して | 伊藤辰夫 |
| 研究と実践 放送教材で血の通った指導 | 中田孝久 | |
| 11月号 | とびら 営々十年の歩みから | 海後宗臣 |
| | 論説 続テレビ・チューター論—新しい 教材・教授法・教師像— | 西本三十二 |
| | 教育時評 是々非々の立場を | 大内茂男 |
| | 放送教育入門講座 視聴経験の累積 | 有光成徳 |
| | 特集 第10回全国大会研究発表の概要 | (12名) |
| | 道德教育とラジオ・テレビ 真実発見の 素材として | 大島勝己 |
| | 道德教育とラジオ・テレビ 生命の尊さ を再認識して | 須賀外男 |
| | 道德教育とラジオ・テレビ 欠かせぬ具 体性、現実性 | 鈴木泰三 |
| 12月号 | とびら「教育白書」と放送教育 | 伊藤昇 |
| | 論説 東北性と放送教育 | 手代木保 |
| | 教育時評 第10回全国大会の印象から | 首藤貞美 |
| | 放送教育入門講座 幼児とラジオ・レ ビ | 有光成徳 |
| | 第10回放送教育懸賞論文選後評 | 西本三十二 |
| | 論文募集10年の決算 | 鈴木博 |
| | 昭和35年度学校放送番組について | 浅沼博 |
| 1月号 | とびら 一九六〇年の放送教育 | 西本三十二 |
| | 論説 テレビ理科番組の動向 | 大橋秀雄 |
| | 教育時評 待期学習と想起学習 | 小倉喜久 |
| | 放送教育入門講座 欧米の放送教育1 | 有光成徳 |
| | 視聴覚教材利用「指導書」に希望する | 岸本唯博 |
| | 第10回放送教育懸賞論文 放送教育実 践の十カ年 | 土井純三 |
| | “佐井果て”のテレビ村をたずねて | 大橋富貴子 |
| | 特集 ラジオ・テレビ番組の効果的な利 用のために | (9名) |
| | 研究と実践 幼児とテレビ—地方の実態 調査から— | 佐藤悦子 |
| | 研究と実践 ラジオ・テレビを友として | 宮城県玉造郡岩 出山町真山小学 校 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------|--|--------------------------|
| 1月号 | 研究と実践 自然のままの放送利用 | 石川県羽咋郡志 雄中学校 |
| | 研究と実践 “放送スイッチお願い!” | 島根県美濃郡美 都町立東仙道中 学校 |
| 2月号 | とびら 効果的なテレビ学習の研究を | 村岡花子 |
| | 論説 テレビ時代と教師の役割 | 西本三十二 |
| | 論説 放送教育の論理 | 首藤貞美 |
| | 教育時評 放送教育の効果を確かめよ う | 馬場四郎 |
| | 学年別番組の是非をめぐって 放送は一 つの生命体 | 姫島忠生 |
| | 学年別番組の是非をめぐって より積極 的な教育参加 | 鈴木博 |
| | 学年別番組の是非をめぐって 学年別か らの出発 | 波多野完治 |
| | 放送教育入門講座 欧米の放送教育2 | 有光成徳 |
| | 山の分校の記録—テレビ学習の効果に ついて— | 小山賢市 |
| | 特集 テレビ番組の効果的な利用のため に | (9名) |
| 研究と実践 アンテナの光る道 | 天草俊 | |
| 研究と実践 英語学習とテレビ | 関口晃弘 | |
| 3月号 | とびら 放送の特性を生かした教育を | 阿部真之介 |
| | 教育時評 教科書からラジオへ ラジオ からテレビへ | 倉沢栄吉 |
| | 対談 教育放送の将来をえがく | 西本三十二, 前田義徳 |
| | 放送教育入門講座 教育課程と放送教 材1 | 有光成徳 |
| | テレビは教育に奉仕する TV-EDUCATION IN AMERICA | 反町正喜 |
| | 特集 ラジオ・テレビ学校放送利用1年 間の決算 | (18名) |
| | 特集 学年別放送の利用プラン | (10名) |

主な連載：道徳・生活指導の教材研究、台本、録音教材月報、随筆

1960 (昭和35) 年度 (通巻133~144号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|-----------------|
| 4月号 | とびら 学校放送二十五周年を祝う | 松田竹千代 |
| | 教育時評 テレビ教育第2期の問題点 | 田中正吾 |
| | 対談 学校放送25年 愛宕山時代から「原子力時代の物理学」まで | 西本三十二、浅沼博 |
| | 放送教育入門講座 教育課程と放送教材2 | 有光成徳 |
| | NET (日本教育テレビ) 画期的な新番組の編成 | (編集部) |
| | アンケート 学校放送利用の反省 | (17名) |
| | アンケート 学年別放送利用プラン | (4名) |
| | 研究と実践 素材のままの提供を | 土井純三 |
| | 研究と実践 温かな父兄の協力で | 川崎昂 |
| | 研究と実践 視聴には責任を持って | 大井正男 |
| 5月号 | とびら 未来をつくるために | 野村秀雄 |
| | 教育時評 放送教育と展示教育 | 野津良夫 |
| | 座談会 生活指導番組の教育心理学 | 波多野完治、大内茂男、斎藤道子 |
| | 学校放送番組利用調査 小学校の部 | 寺脇信夫 |
| | テレビ教育参観記—新しい教育技術のために— | 諸沢正道 |
| | 東京都のテレビ教育 | 高萩竜太郎 |
| | 研究と実践『達夫の日記』の残した跡 | 野口巖雄 |
| | 研究と実践 定時制高校と放送教育 | 沢田悦爾 |
| | 研究と実践 つねに弾力的な視聴を | 清中喜平 |
| 6月号 | とびら『マイクの旅』放送教育賞受賞の意義 | 坂元彦太郎 |
| | 教育時評 テレビジョンと社会教育 | 平沢薫 |
| | 座談会 これからの教育とラジオ・テレビ | 西本三十二、浅沼博、岡井昭子 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 指導書作成の経緯・学習指導における視聴覚教材の意義 | 有光成徳 |
| | 学校放送番組利用調査 中学校の部 | 大竹信弥 |
| | 自主性と連帯感をもつための研究 関西放送教育研究協議会の発足 | 鯉坂二夫 |
| | 研究と実践 昼食時の校内放送 | 迫田精一郎 |
| | 研究と実践 ラジオは育児の目 | 谷合侑 |
| 7月号 | とびら カラーテレビの教育放送に期待する | 甘利省吾 |
| | 論説 芸術と神話と視聴覚財と | 坂元彦太郎 |
| | 教育時評 大会と研修会への提案 | 堀田鶴好 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 学習指導における視聴覚教材の意義・学習指導要領と視聴覚教材 | 有光成徳 |
| | 学校放送番組利用調査 高等学校の部 | 横井昭 |
| | 特集 大学における視聴覚教育講座 | (4大学) |
| | 研究と実践 区内全校にテレビ受像機を設置するまで | 小日向幹夫 |
| | 研究と実践 放送の特性を活用する | 坂尾英之 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------|---|---------------|
| 8月号 | とびら 視聴覚教育の東西交流を | 武藤義雄 |
| | 論説 放送メディアと教師メディア | 中野照海 |
| | 論説 テレビ学校放送の学習利用—佐賀県下の小学校の利用実態を通して— | 上野辰美 |
| | 教育時評 放送教育の研究に子どもの声を | 馬場四郎 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 学習指導要領と視聴覚教材 | 有光成徳 |
| | へき地教育のテレビ利用とその効果について—『山の分校の記録』 | 小山賢市 |
| | 社会教育におけるテレビの利用—ユネスコ青少年テレビ実験調査 | 広瀬一郎、笹島保、高久勝義 |
| | 特集 大学における視聴覚教育講座 | (8大学) |
| | とびら 全小・中学校にテレビ受像機を | 秋田大介 |
| | 論説 ティーチング・マシンとテレビ教育 | 西本三十二 |
| 9月号 | 論説 ティーチング・マシンと視聴覚教育 | ベン・C・デューク |
| | テレビの見方について | |
| | ・ニュースは事件の全体ではない | 木下一雄 |
| | ・自分の目にも疑いをもって | 坂西志保 |
| | ・批判的精神をもって | 唐沢富太郎 |
| | ・テレビに泣く | 金久保道雄 |
| | 教育時評 ラジオ・テレビと近代学力 | 近藤正樹 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の機能 | 有光成徳 |
| | 日本の放送教育の優秀さを立証 ユネスコ会議ラジオテレビについての討論を傍聴して | 中野照海 |
| | 研究と実践 効果的なテレビ利用のために | 佐賀県三養基郡三根西小学校 |
| 研究と実践 区内全校でテレビ学習 | 田口春雄 | |
| 研究と実践 道徳に学校放送を | 石崎庸 | |
| 研究と実践 放送教育の実践と反省 | 小木新造 | |
| 10月号 | とびら 教師と父兄に責任と権利がある | 関口隆克 |
| | 論説 大衆教育とテレビジョン | 金沢覚太郎 |
| | 教育時評「目的としての」テレビ教育 | 宇川勝美 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の機能 | 有光成徳 |
| | 放送教育研究大会の今昔 | 西本三十二 |
| | 特集 放送教育研究 委嘱校の構想 | (28校) |
| | 報告 指導主事の声 長所が短所 | 栗本幸一 |
| | 報告 指導主事の声 全体的なレベルを高める | 吉永寿生 |
| 報告 指導主事の声 教科書教材と放送教材と | 高田三千男 | |
| 11月号 | とびら 全国大会の成果に期待 | 内藤誉三郎 |
| | 論説 教育のオートメーション化と放送教育 | 稲垣一穂 |
| | 教育時評 子供の本心 | 倉沢栄吉 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 11月号 | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の精選と活用 | 有光成徳 |
| | ラザースフェルド「最近におけるコミュニケーション社会学の傾向」 | 波多野完治 |
| | 特集 第11回放送教育全国大会研究発表の概要 | (20名) |
| | 特集 放送教育研究 委嘱校の構想 | (14校) |
| | 報告 指導主事の声 すぐれた成果を共有財産に | 伊藤竜夫 |
| | 報告 指導主事の声 百万人の放送教育の課題 | 林協 |
| 12月号 | とびら テレビ番組の充実、強化を | 吉田行範 |
| | 論説 昭和三十六年度学校放送番組について | 浅沼博 |
| | 教育時評 学校放送番組の教養性と教材性 | 齋藤伊都夫 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の精選と活用 | 有光成徳 |
| | 第11回放送教育懸賞論文選後評 | 西本三十二 |
| 1月号 | とびら 一九六一年の課題 | 西本三十二 |
| | 教育時評 全国大会の印象 新しい発展の局面に立って | 馬場四郎 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の精選と活用 | 有光成徳 |
| | 特集 第11回放送教育研究会全国大会 | |
| | 【特集】パネル討論 これからの放送教育 26年目の提言 | 西本三十二、豊田昭、山下静雄、有光成徳、鰐坂二夫、田中正吾 |
| | 【特集】補説 教材観・児童観・教育観のちがいは? | 西本三十二 |
| | 【特集】補説 三つの補説 | 山下静雄 |
| | 【特集】放送教育の歩みと課題 | 坂元彦太郎ほか14名 |
| | 【特集】全国大会の印象 放送による複数指導体制 | 大内茂男 |
| | 【特集】全国大会の印象 教師中心主義と児童中心主義 | 鈴木博 |
| | 【特集】全国大会の印象 わたし自身の方法として生かしたい | 星野理喜弥 |
| | 【特集】全国大会の印象 あしたからまたはじまる | 有岡正明 |
| | 【特集】全国大会の印象 放送施設展示見てある記 | 畑山健八 |
| | 【特集】分科会・部会報告 | (編集部) |
| | 2月号 | とびら 欧米の教育テレビ視察から |
| 論説 ティーチング・マシンと教育革命 | | 西本三十二 |
| 論説 テレビ暴力番組の児童に与える影響 | | 田中正吾 |
| 教育時評 学生の研究指導について | | 村井道明 |
| 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の精選と活用 | | 有光成徳 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 2月号 | イタリア賞と『山の分校の記録』 | 小山賢市 |
| | 特集「これからの放送教育 26年目の提言」を読んで | (9名) |
| | 特集 放送教育研究 委嘱校研究の動向 | (24校) |
| | 特集 こんな番組を | (23名) |
| 3月号 | とびら テレビで科学技術の教育を | 井深大 |
| | 論説 テレビを利用した理科教育の効果に関する実験的研究 | 宇川勝美、江口友之、森田幸吉、藤沢守之、北岡武雄 |
| | 対談 欧米の放送教育を語る | 波多野完治、吉田行範 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の管理 | 有光成徳 |
| | 特集「これからの放送教育 26年目の提言」を読んで | (7名) |
| | 特集 放送教育研究 委嘱校研究の動向 | (10校) |
| | 特集 こんな番組を | (23名) |
| | 実践記録 同志意識に支えられた自主的な集団 | 植田心壮 |
| | 実践記録 現場放送教育の問題点 | 嶋村順蔵 |
| 実践記録 精薄児教育の新しい道標 | 内海正 | |

主な連載：道徳・生活指導の教材研究、理科のテレビ教材研究、台本、録音教材月報、随筆

1961 (昭和36) 年度 (通巻145~156号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|----------------------------------|--------------|
| 4月号 | 巻頭言 カラーテレビの将来 | 高柳健次郎 |
| | 教育時評 高等学校指導要領の改訂と視聴覚教育 | 齋藤伊都夫 |
| | 対談 これからの教育放送 | 阿部真之助, 西本三十二 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の管理 | 有光成徳 |
| | 「これからの放送教育 26年目の提言」を読んで | (5名) |
| | NET(日本教育テレビ)新しい教育計画にマッチした番組 | (編集部) |
| | 特集 私の視聴プラン | (8校) |
| 5月号 | 巻頭言 教育テレビを全国津々浦々に | 西崎太郎 |
| | 教育時評 「学校放送視聴プラン」を読んで | 齋藤伊都夫 |
| | 対談 これからの教育放送(続) | 阿部真之助, 西本三十二 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 視聴覚教材の管理 | 有光成徳 |
| | 学校放送番組利用調査 小学校の部 | 寺脇信夫 |
| | 「これからの放送教育 26年目の提言」を読んで | (4名) |
| | 特集 私の視聴プラン | (9校) |
| | 研究と実践 生きた評価ー『みんなの図書室』聴取指導の一時間からー | 谷村能男 |
| | 研究と実践 作文教室の歩みー新しい作文学習のためにー | 比江島重孝 |
| 6月号 | 巻頭言 ラジオ・テレビと話しことば | 西尾実 |
| | 論説 テレビによる放送教育講座について | 波多野完治 |
| | 教育時評 話しことばの教育 | 倉沢栄吉 |
| | 対談 視聴覚教材の教育構造/ラジオの文法 | 坂元彦太郎, 水木洋子 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 学校運営と視聴覚教材の利用 | 有光成徳 |
| | 学校放送番組利用調査 中学校の部 | 大竹信弥 |
| | パネル討議 「26年目の提言」を読んで 西本説は曲解されている | 櫛部直人 |
| | 特集 放送教育と学校経営 | (11校) |
| | 学校放送ローカル番組利用のために | (6名) |
| 7月号 | 巻頭言 全放連の理事長に就任して | 森戸辰男 |
| | 論説 学習指導案と放送教材の問題点 | 齋藤伊都夫 |
| | 教育時評 放送教育の研究態勢 | 馬場四郎 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 学校運営と視聴覚教材の利用 | 有光成徳 |
| | 学校放送番組利用調査 高等学校の部 | 横井昭 |
| | パネル討議 「26年目の提言」を読んで | |
| | ・京都論争について感じたこと | 坂元彦太郎 |
| | ・現場ではどう受けとめるか | 松村謙 |
| | ・もう少し | 富永重作 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------|-------------------------------------|-------------------------|
| 7月号 | 特集 放送教育と学校経営 | (17校) |
| 8月号 | 巻頭言 視聴覚教材の正しい理解を | 小川修三 |
| | 論説 テレビ教育と学校教育の在り方ー放送文化と印刷文化の融合に向けてー | 西本三十二 |
| | 教育時評 社会教育とラジオ・テレビー「社会教育」の再吟味のための試論 | 野津良夫 |
| | 対談 視聴覚教材の教育構造/テレビの文脈 | 坂元彦太郎, 内村直也 |
| | 視聴覚教材の利用(指導書)の解説 学校運営と視聴覚教材の利用 | 有光成徳 |
| | 特集 ラジオとテレビで町づくり 公民館活動・婦人学級 | (18名) |
| アンケート 大学の視聴覚教育講座一覧 | (52大学) | |
| 9月号 | 巻頭言 二つの研究協議会の成果 | 西本三十二 |
| | 論説 放送教育組織論ー地方大会の組織運営についてー | 波多野完治 |
| | 教育時評 映画教育と放送教育と | 大内茂男 |
| | 放送教材を使った学習指導案とその批判 | 齋藤伊都夫, 出崎忠華, 野口達之, 吉田政次 |
| | 特集 第12回放送教育全国大会 研究発表の概要 | (13名) |
| | 教育テレビのメッカ「ヘガスタウン」HAGERSTOWN USA | 泉晃之 |
| | 学校放送ローカル番組利用のために | (3名) |
| 10月号 | 巻頭言 第12回全国大会に期待する | 荒木万寿夫 |
| | 教育時評 教育のオートメ化とラジオ・テレビ | 大内茂男 |
| | これからの放送教育 第二次/パネル討論(1) | 西本三十二, 山下静雄, 波多野完治 |
| | 放送教材を使った学習指導案とその批判 | 齋藤伊都夫, 小林正太郎, 佐藤真 |
| | 特集 第12回放送教育全国大会 研究発表の概要 | (28名) |
| | 学校放送ローカル番組利用のために | (3名) |
| 11月号 | 巻頭言 新しい人間像の教育のために | 石三次郎 |
| | 教育時評 教科に根をひろげること | 石黒修 |
| | これからの放送教育 第二次/パネル討論(2) | 西本三十二, 山下静雄, 波多野完治 |
| | 放送教材を使った学習指導案とその批判 | 齋藤伊都夫, 橋本巨, 和田泰輔, 奥山正一 |
| | 特集 テレビと教育 日本教育学会第20回大会発表要旨 | |
| | 【特集】教材論からみた「テレビの将来」への問題 | 青木章心 |
| 【特集】テレビ教材と教育課程 | 村井明 | |
| 【特集】テレビ学校放送の利用形態 | 宇川勝美 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------|---|---|
| 11月号 | 【特集】テレビ番組の嗜好傾向と準拠集団 | 森しげる |
| | 【特集】教育の全体構造におけるテレビの位置 | 清水正男 |
| 12月号 | 巻頭言 大会の成果と残された問題点 | 大塚義秋 |
| | これからの放送教育 第二次/パネル討論(3) | 西本三十二, 山下静雄, 波多野完治 |
| | 特集 テレビと教育 日本教育学会第20回大会発表要旨 | |
| | 【特集】へき地校におけるテレビ教育 | 村田良一 |
| | 【特集】社会教育におけるテレビの役割 | 室俊司 |
| | 【特集】社会教育における視聴覚的シンボル—テレビ社会教育番組の一考察— | 大内茂男, 古野有隣, 岡本包治 |
| | 第12回放送教育全国大会レポート | 岸本唯博, 田村二郎, 得能芳雄 |
| 1月号 | 欧州観察旅行記 西欧から得たもの1 | 高橋増雄 |
| | 巻頭言 一九六二年の放送教育—ラジオ・テレビ・印刷物の統合による教育— | 西本三十二 |
| | 教育時評 1962年を迎えるにあたって | 石黒修 |
| | テレビ教育 アメリカ紀行(1) | 西本三十二 |
| | 放送教育全国大会・青い目の印象記 | ゴードン・ワナー |
| | 特集 第12回放送教育全国大会の記録分科会報告 | (16分科会) |
| | 特集 放送教育の効果 | (11校) |
| 2月号 | 欧州観察旅行記 西欧から得たもの2 | 高橋増雄 |
| | 巻頭言 語学放送17年 | 小川芳男 |
| | 論説 サカモト理論をめぐって—『視聴覚材の教育構造』について | 波多野完治 |
| | 教育時評 放送教育の効果を考えなおすべきではないか | 大野連太郎 |
| | 続・放送教育入門講座1 放送教育の裏づけ | 有光成徳 |
| | テレビ教育 アメリカ紀行(2) | 西本三十二 |
| | 特集 第12回放送教育全国大会の記録シンポジウム 学校放送を教材としてどう生かすか | 波多野完治, 坂元彦太郎, 齋藤伊都夫, 浅沼博, 佐竹聡権, 本郷実, 中沢淳式, 村田良一 |
| 3月号 | 特集 第12回放送教育全国大会の記録分科会報告 | (9分科会) |
| | 特集 放送教育の効果 | (8名) |
| | 巻頭言 日米テレビ教育番組の交流を | 中山伊知郎 |
| | 教育時評 消えゆくものへの責任 | 倉沢栄吉 |
| | 続・放送教育入門講座2 ラジオ・テレビと日課表(小学校) | 有光成徳 |
| テレビ教育 アメリカ紀行(3) | 西本三十二 | |
| 放送教材を使った学習指導案とその批判 | 齋藤伊都夫, 五十嵐恵美子 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|-------------------------|---------|
| 3月号 | 特集 第12回放送教育全国大会の記録分科会報告 | (18分科会) |
| | 特集 放送教育の効果 | (7名) |

主な連載：放送教材研究、理科のテレビ教材研究、台本、録音教材月報、随筆



1961年5月号



1961年5月号

1962 (昭和37) 年度 (通巻157~168号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|-----------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 これからの教育放送の方向 | 千葉雄次郎 |
| | 教育時評 第13回放送教育全国大会への提言 | 宇川勝美 |
| | 座談会 新学年を迎えて「放送教育の課題と展望」 | 浅沼博, 前田義徳, 西本三十二 |
| | 続・放送教育入門講座3 中学校における放送教材の利用 | 有光成徳 |
| | テレビ教育 アメリカ紀行(4) | 西本三十二 |
| | 特集 第12回放送教育全国大会の記録分科会報告 | (15分科会) |
| | 放送教育の効果 | (3名) |
| 5月号 | 巻頭言 新しい教育メディア開発の胎動 | 西本三十二 |
| | 論説 視聴覚材の理論について 波多野教授の批判に答える | 坂元彦太郎 |
| | 論説 アメリカにおけるティーチング・マシン運動と日本の教育に対するその適用(1) | ベン・C・デューク |
| | 教育時評 放送教育の新しい動向—第二次六か年計画のことども— | 大内茂男 |
| | 続・放送教育入門講座4 テレビを利用する教師のために(1) | 有光成徳 |
| | テレビ教育 アメリカ紀行(5) | 西本三十二 |
| | 昭和36年度学校放送番組利用調査(小学校の部) | 北川和一郎 |
| | 放送教育の効果 | (8名) |
| 6月号 | 巻頭言 世界的規模で放送学を確立 | 片桐頭智 |
| | 論説 研修会のつみあげ—特別研修会 四国地区香川会場の研究集録について— | 波多野完治 |
| | 論説 教育の技術化と教師の役割—TT・TV・TMの三者をめぐって— | 上野辰美 |
| | 論説 アメリカにおけるティーチング・マシン運動と日本の教育に対するその適用(2) | ベン・C・デューク |
| | 教育時評 学校放送番組の改編策 | 馬場四郎 |
| | 続・放送教育入門講座5 テレビを利用する教師のために(2) | 有光成徳 |
| | 昭和36年度学校放送番組利用調査(中学校の部) | 大竹信弥 |
| | 放送教育の効果 | (3名) |
| | 学習指導案について 和知氏の批判に答える | 齋藤伊都夫 |
| 7月号 | 巻頭言 放送と教育は不可分 | 西崎太郎 |
| | 教育時評 教師の番組研究—リアクションの仕方について— | 金築修 |
| | 座談会 放送教育の効果について | 大内茂男, 大野連太郎, 岸本唯博, 鈴木博, 寺脇信夫, 横井昭 |
| | 続・放送教育入門講座6 放送教材の精選と活用 | 有光成徳 |
| | 新しい教育メディア/欧米紀行1 ユネスコ国際会議に出席して | 西本三十二 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------|-------------------------------------|-------------------------------|
| 7月号 | 放送教育新潮 ヒューブナー/外国語教授とテレビ | 波多野完治 |
| | 昭和36年度学校放送番組利用調査(中学校テレビ, 高等学校) | 望月達也, 前弘 |
| | 学校放送テキストの話 | 高橋増雄 |
| | 第13回放送教育全国大会 会場校の研究と実践 | (3校) |
| 8月号 | 巻頭言 視聴覚教育指導行政に一時期を画す | 小川修三 |
| | 論説 へき地ではテレビはどのように利用されているか その実態と意見 | 安藤忠吉 |
| | 教育時評 テレビ道徳番組について | 大内茂男 |
| | 座談会 夏のラジオ・テレビクラブ その教材性と演出をめぐって | 寺脇信夫, 大竹信弥, 柴田博三, 望月達也, 三笠比呂史 |
| | 続・放送教育入門講座7 放送教材の位置づけ1 | 有光成徳 |
| | 新しい教育メディア/欧米紀行2 全米視聴覚教育会議に出席して | 西本三十二 |
| | 特集 ラジオ・テレビ視聴プラン | (12本) |
| 9月号 | 巻頭言 充実してきた研修会 | 波多野完治 |
| | 論説 世界におけるテレビ教育の現状 | 西本三十二 |
| | 教育時評 研修シーズン | 倉沢栄吉 |
| | 続・放送教育入門講座 課外講座 視聴覚の紙くず箱 | 有光成徳 |
| | 特集 第13回放送教育全国大会のために 四国の大学における研究 | 村井道明 |
| | 特集 第13回放送教育全国大会のために 研究発表の概要 | (9名) |
| | 『教師の時間』はどのくらい利用されているか—教師の時間利用率調査から— | 石田岩夫 |
| レポート『山の分校の記録』その後 | 金子鉄雄 | |
| | 館山放研大会と妙高AV担協議会 | (編集部) |
| 10月号 | 巻頭言 しつけ教育への反省 | 長濱道夫 |
| | 論説 テレビ時代における教師の役割 | 西本三十二 |
| | 教育時評 テレビ教育雑感 | 木原健太郎 |
| | 欧米のテレビ学習 学校放送の授業を参観して | 布留武郎 |
| | 校内テレビをめぐって | 田中正吾 |
| | 続・放送教育入門講座8 放送教材の位置づけ2 | 有光成徳 |
| | 特集 第13回放送教育全国大会のために 四国におけるへき地テレビ教育1 | 調査委員会 |
| | 特集 第13回放送教育全国大会のために 研究発表の概要 | (5名) |
| 実践記録 効果の一点 | 辻岡健夫, 井村光宏 | |
| | 実践記録 さらに豊かな人間形成へ | 佐藤喜久雄 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------|-------------------------------------|---------------------------|
| 11月号 | 巻頭言 教育近代化の標識 | 海後宗臣 |
| | 教育時評 全国大会に期待する一前大会の反省と今大会への要望ー | 村田良一 |
| | 座談会 継続視聴の意味とその周辺 | 有光成徳、大内茂男、鈴木博 |
| | アメリカ紀行 合点のいくこといかぬこと | 齋藤伊都夫 |
| | 特集 第13回放送教育全国大会のために 四国におけるへき地テレビ教育1 | 調査委員会 |
| | 特集 第13回放送教育全国大会のために 研究発表の概要 | (7名) |
| 12月号 | 巻頭言 教育革新への大きな基盤 | 森戸辰男 |
| | 昭和38年度NHK学校放送番組について | 長浜道夫 |
| | 続・放送教育入門講座9 放送教育実践の黙示録 | 有光成徳 |
| | アメリカ紀行 私の見たアメリカの教育テレビ1 | 齋藤伊都夫 |
| | 昭和38年度NHK学校放送番組 | |
| 1月号 | 巻頭言 放送教育躍進の年ー放送通信高等学校の意義ー | 西本三十二 |
| | 誌上討論 道德教育と放送教材 シリーズ番組の継続視聴と継続指導 | 西本三十二 |
| | 誌上討論 道德教育と放送教材 道德教育と学校放送の利用 | 青木孝頼 |
| | 教育時評 研究成果のフィードバックをー全国大会の成果をどう生かすかー | 齋藤伊都夫 |
| | 続・放送教育入門講座10 年間番組表とその利用 | 有光成徳 |
| | 特集 第13回放送教育全国大会 | |
| | 【特集】座談会 放送と教育 | 荒木万寿夫、阿部真之助、森戸辰男 |
| | 【特集】世界の放送教育と日本 | 前田義徳 |
| | 【特集】座談会 AUDIO-VISUALの世界 | 本川弘一、野村達治、波多野完治 |
| | 【特集】座談会 私たちの実践記録から | 坂元彦太郎、齋藤道子、高田石生、後藤道夫、奥本静一 |
| 【特集】大会印象記 | 鈴木博、岩橋美江、編集部 | |
| 2月号 | 巻頭言 「いっしょに歌おう」を聞いて | 宮原誠一 |
| | 論説 テレビと教育革新1 | 西本三十二 |
| | 論説 理科教育とテレビの理科 | 蛸谷米司 |
| | 教育時評 放送についての教育を含めて | |
| | 続・放送教育入門講座11 放送教材の性格 | 有光成徳 |
| | 誌上討論 道德教育と放送教材をめぐる | (5人) |
| | アメリカ紀行 私の見たアメリカの教育テレビ2 | 齋藤伊都夫 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------|------------------------------|-------|
| 2月号 | 私の助言 放送教育担当指導主事として | 高萩竜太郎 |
| | アンケート 少数のテレビ受信機をどう活用しているか | (6校) |
| 3月号 | 巻頭言 視聴覚教材それ自身が教育者 | 坂元彦太郎 |
| | 論説 テレビと教育革新2 | 西本三十二 |
| | 教育時評 子どもの声は神の声 | 馬場四郎 |
| | 続・放送教育入門講座12 中学校におけるテレビの利用態勢 | 有光成徳 |
| | レポート アメリカ教育放送局見てある記 | 上野辰美 |
| | レポート 放送教育の旅から | 大内茂男 |
| | 誌上討論 道德教育と放送教材をめぐる | (8人) |
| | 私の助言 放送教育担当指導主事として | 高萩竜太郎 |
| アンケート テレビ学校放送利用の実態 | (20校) | |

主な連載：放送教材研究、台本、録音教材月報、随筆、スタジオから教室へ



1962年5月号



1962年10月号

1963 (昭和38) 年度 (通巻169~180号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---------------------------------|-------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 教育放送で世界をリードする | 阿部真之助 |
| | 教育放送について | 春日由三 |
| | 論説 日本教育史における放送教育の系譜1 | 海後宗臣 |
| | 対談 人づくり国づくりと放送教育 | 西本三十二、長浜道夫 |
| | 座談会 全放連の底辺と現状分析1 | 大内茂男、岸本唯博、三井篤三、鈴木博、高橋増雄 |
| | 教育時評 マスコミの現状と教育の方向 | 伊藤昇 |
| | レポート アメリカの教育テレビ | 上野辰美 |
| | 「放送教育」創刊十五周年を祝う | (7名) |
| 5月号 | 巻頭言 放送利用による学習の改善を | 内藤蒼三郎 |
| | 論説 日本教育史における放送教育の系譜2 | 海後宗臣 |
| | 論説 学校放送と指導行政 | 小川修三 |
| | 論説 マスコミ時代の教育 | 西本三十二 |
| | 対談 放送教育にはこんな問題もある | 齋藤伊都夫、有光成徳 |
| | 座談会 全放連の底辺と現状分析2 | 大内茂男、岸本唯博、三井篤三、鈴木博、高橋増雄 |
| | 教育時評 二つの研究報告—放送教育のつみ上げのために— | 波多野完治 |
| | 昭和37年度学校放送番組利用調査(小学校の部) | 西山昭雄、望月達也 |
| 6月号 | 巻頭言 公費によるテレビ施設の充実 | 小尾席雄 |
| | 論説 日本教育史における放送教育の系譜3 | 海後宗臣 |
| | 教育時評 放送教育とプログラミング | 野津良夫 |
| | 昭和37年度学校放送番組利用調査(中学校の部) | 貴志昌夫、大下史朗 |
| | 指導主事のアンケートから 放送教育についての現場の質問1 | (18自治体) |
| | 研究と実践 ゆたかな教材たしかな理解 学力向上をめざす放送教育 | 宇都宮市立平石南小学校 |
| | 研究と実践 テレビは信頼されている 理科教育とテレビ | 安斉洋信 |
| | 二つの実践記録を読んで | 齋藤伊都夫 |
| 7月号 | 巻頭言 まず放送教育施設の整備を | 村山伊之助 |
| | 論説 放送教育の史的系譜からみた課題 | 海後宗臣 |
| | 教育時評 研修会はじまる—参加者の心構え— | 村田良一 |
| | アメリカ放送教育の最高峰 キース・タイラー博士を迎える | 西本三十二 |
| | 昭和37年度学校放送番組利用調査(高等学校の部) | 前弘、高塚暁、鈴木邦一 |
| | 指導主事のアンケートから 放送教育についての現場の質問2 | (12自治体) |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------|--------------------------------------|-----------------------|
| 7月号 | 研究と実践 へき地性の解消をめざした放送教育 | 三重県飯南町立柿野中学校 |
| | 研究と実践 視聴覚教材利用の研究 | 東京都墨田区立木下川小学校 |
| | 二つの実践記録を読んで | 齋藤伊都夫 |
| 8月号 | 巻頭言 ブロック大会の意義 | 君塚啓太郎 |
| | 論説 新しい放送教育研究への期待 | 西本三十二 |
| | 論説 放送の教育心理学 | 林重政 |
| | 論説 視聴指導の認識論的基礎—放送教育認識論への一つの試み— | 杉浦美朗 |
| | 教育時評 道徳番組のもつ指導性について | 大内茂男 |
| | へき地児童に与えるテレビ学校放送の効果 | 辻功 |
| | 指導主事のアンケートへの回答 放送教育の指導はこんなふう1 | 齋藤伊都夫、高萩竜太郎、鈴木博 |
| | アンケート 婦人学級番組はどう利用されているか1 | (12名) |
| 9月号 | 巻頭言 ベイシック・プレゼンテーションとカリキュラム・エンリッチメント | キース・タイラー |
| | 論説 ラジオ・テレビによる道徳教育の充実—教育課程審議会の答申によせて— | 西本三十二 |
| | 高等学校と放送教育 | 大橋秀雄 |
| | 放送児童番組組について作家の報告 | 日本放送作家協会児童文化部会 |
| | わたしとテレビ教育「テレビ教育の心理学」発行についての前説 | 波多野完治 |
| | ラオスのラジオ教育放送 | 有光成徳 |
| | 第14回放送教育研究会全国大会のために 研究発表の概要 | (5名) |
| | 指導主事のアンケートへの回答 放送教育の指導はこんなふう2 | 齋藤伊都夫、鈴木博、高萩竜太郎、谷口弘太郎 |
| 指導主事への現場の質問を読んで | 坂尾英之 | |
| アンケート 婦人学級番組はどう利用されているか2 | (12名) | |
| 10月号 | 巻頭言 教育番組は視聴率にこだわるな | 宮川岸雄 |
| | 論説 世界におけるテレビ教育の諸問題 | キース・タイラー |
| | 社会教育における放送教材の利用—NHK 婦人学級番組利用を中心として— | 西本洋一 |
| | 放送児童番組組について作家の報告(承前) | 日本放送作家協会児童文化部会 |
| | 第14回放送教育研究会全国大会のために 研究発表の概要 | (8名) |
| | 指導主事のアンケートへの回答 放送教育の指導はこんなふう3 | 齋藤伊都夫、鈴木博、高萩竜太郎、谷口弘太郎 |
| | コンサルタント日記 | 村田良一 |
| | アンケート テレビ受信施設/現状と計画1 | (11校) |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------|--|--------------------------|
| 11月号 | 巻頭言 マスコミと青少年教育 | 野田武夫 |
| | 論説 DIRECT ENRICHING BASIC PROGRAM—教育テレビのあり方— | 西本三十二 |
| | 論説 コミュニケーションと教育 | 波多野完治 |
| | 第14回放送教育研究会全国大会のために 全国大会への招待 | (5名) |
| | 指導主事のアンケートへの回答 放送教育の指導はこんなふうな4 | 斎藤伊都夫, 蛭谷米司, 鈴木博, 高萩竜太郎 |
| | アンケート テレビ受信施設/現状と計画2 | (11校) |
| | 「テレビ受信施設の現状と計画」の分析 | 有光成徳 |
| 12月号 | 巻頭言 日米文化教育テレビ番組交流のセンターを | 森戸辰男 |
| | 昭和39年度NHK学校放送について | 長浜道夫 |
| | コンサルタント日記 | 鈴木博 |
| | アンケート テレビ受信施設/現状と計画3 | (10校) |
| | 昭和39年度NHK学校放送番組 | |
| 1月号 | 巻頭言 放送教育の新段階へ | 西本三十二 |
| | 音響条件三つの柱 教育の場の盲点 | 富田義男 |
| | 特集 第14回放送教育全国大会の記録 | |
| | 【特集】座談会 学校放送の課題と未来像 | 森戸辰男, 内藤蒼三郎, 春日由三, 西本三十二 |
| | 【特集】てい談 子供とラジオ・テレビジョン | 波多野完治, 辰見敏夫, 布留武郎 |
| | 【特集】昭和三九年度学校放送番組について | 長浜道夫 |
| | 【特集】レポート 日本の放送教育の現状 | 村田良一, 木原健太郎, 松田正直 |
| アンケート 指導主事への質問 教科指導における放送教育について | (13自治体) | |
| 2月号 | 巻頭言 第二回世界学校放送会議の意義 | 長浜道夫 |
| | 論説 アメリカ国民と教育テレビ—シラム, ライル, プールの近著をよむ | 波多野完治 |
| | 調査 盲学校と放送教育 | 大庭景利 |
| | 第十四回放送教育懸賞論文佳作入選 放送主任の請求書 | 光永久夫 |
| | 第二回高視研東北連絡協議会論文優秀第一席 本校の視聴覚教育 | 晴山格 |
| | コンサルタント日記 | 小倉喜久 |
| | 続・指導主事アンケートへの回答 教科における放送教育の指導 | |
| | ・国語科の学習と放送利用 | 鈴木博 |
| ・理科学習と放送教材 | 蛭谷米司 | |
| 3月号 | 巻頭言 道徳指導資料と放送教材 | 波多野完治 |
| | 論説 放送教育と学習指導要領 | 西本三十二 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|-------------------------------|---------|
| 3月号 | 特集 第14回放送教育研究会全国大会 部会報告 | (5校種部会) |
| | 特集 私の視聴したい番組 | (30人) |
| | 続・指導主事アンケートへの回答 教科における放送教育の指導 | |
| | ・社会科の指導と放送教育 | 馬場四郎 |
| | ・道徳番組利用の問題点 | 大内茂男 |

主な連載：放送教材研究、番組モニター、私のチャンネル、世界の学校放送、随筆、スタジオから教室へ、校内放送台本、施設研究コーナー



1963年12月号



1963年12月号

1964 (昭和39) 年度 (通巻181~192号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------|---|---------------------|
| 4月号 | 特集 第2回世界学校放送会議のために | |
| | 【特集】第2回世界学校放送会議に期待する | 西本三十二, 阿部真之助ほか |
| | 【特集】世界学校放送会議とは | (編集部) |
| | 【特集】学校放送の新しい動向 - EBU (ヨーロッパ放送機関連盟) 機関誌に見る - | |
| | 【特集】・欧州における最近のラジオ学校放送 | (EBUレビュー誌) |
| | 【特集】・中学校向けテレビ番組の進展 | (EBUレビュー誌) |
| | 【特集】・文盲教育とテレビ | (EBUレビュー誌) |
| | 【特集】・テレビ学校放送の管理と財政 | (EBUレビュー誌) |
| | 【特集】・ローマ会議以後の欧州のテレビ学校放送 | (EBUレビュー誌) |
| | 【特集】・アメリカの教育テレビの現状 | (ザエジュケーションダイジェストほか) |
| | 【特集】・カナダのテレビ学校放送番組 | 青柳政吉 |
| | 論説 学校放送と現代の教育 | 小川芳夫 |
| | 新・放送教育入門講座1 序論にかえて | 有光成徳 |
| | 続・指導主事アンケートへの回答 教科における放送教育の指導 | |
| | ・英語学習と放送利用 | 小川芳男 |
| | ・音楽と放送利用 | 真篠将 |
| アンケート 私の視聴したい番組 | (20名) | |
| 道徳教育と放送教材の利用 | 中田孝久 | |
| 5月号 | 巻頭言 学校放送の最善の体系と利用を追求 | 第2回世界学校放送会議役員記者会見 |
| | 論説 放送教育の実践と研究 | 野津良夫 |
| | 新・放送教育入門講座2 放送教育の教師像1 | 有光成徳 |
| | 第15回放送研究会全国大会のために札幌大会のめざすもの | 安藤忠吉 |
| | 第7回録音機材コンクール選後評 | 西本三十二, 小川修三, 西沢実 |
| | NETテレビ テレビは思考力を奪うか | 白根孝之 |
| | アンケート 私の視聴したい番組 | (16名) |
| | 研究と実践 道徳の指導事例 | 伊藤和幸 |
| | 研究と実践『明るいなかま』カバチェッポ (ひめます) を視聴して | 佐藤力哉 |
| | 巻頭言 第二回世界学校放送会議の意義 | 前田義徳 |
| | 特集 第2回世界学校放送会議の記録 | |
| | 【特集】総括報告 | ジョン・スカファム |
| 【特集】分科会報告 | (8分科会) | |
| 【特集】会議に出席して | ヘンリー・R・カシラー, キース・タイラー, アンボン・ミースック, イタロ・ネリ, ジョン・カルキン, ケネス・フォードリ, 伊藤昇 | |
| 【特集】対談 第2回世界学校放送会議の成果 | 西本三十二, 長浜道夫 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|------------------------|--------------------------------|--------------------------------|------|
| 6月号 | 【特集】第2回世界学校放送会議見たまま | 西本洋一 | |
| | 新・放送教育入門講座3 放送教育の教師像2 | 有光成徳 | |
| | 第15回放送研究会全国大会のために 部会研究の構想 | (5部会) | |
| | 教育活動としてのテレビ理科教室をめぐって | NHK学校放送部理科班 (小学校) | |
| 7月号 | 巻頭言 放送教育の底辺を広げよう | 田中喜一郎 | |
| | 特集 第2回世界学校放送会議の記録 各国のテレビ学校放送事情 | | |
| | 【特集】日本 | 春日由三 | |
| | 【特集】フランス | アンリ・ジュゼド | |
| | 【特集】イタリア | マリヤ・クラツィア・ピュリー | |
| | 【特集】イギリス (BBC) | ケネス・フォードリ | |
| | 【特集】イギリス (独立テレビ) | ジョゼフ・ウェルトマン | |
| | 【特集】アメリカ (教育放送団体連盟) | ウィリアム・G・ハーレイ | |
| | 【特集】アメリカ (アメリカ教育テレビ) | ジョン・F・ホワイト | |
| | 【特集】スウェーデン | ステン・スチュアー・アレベック | |
| | 【特集】オーストラリア | チャールス・モーゼス | |
| | 論説 放送教育の領域拡大のために ラジオ・テレビの鑑賞指導 | 大内茂男 | |
| | 新・放送教育入門講座4 放送の教材研究1 | 有光成徳 | |
| | 第15回放送研究会全国大会のために 会場校の研究と実践1 | (6校園) | |
| | 8月号 | 巻頭言 放送教育の飛躍の発展を期待 | 吉田行範 |
| | | 特集 第2回世界学校放送会議の記録 各国のテレビ学校放送事情 | |
| 【特集】インド | | B・P・バット | |
| 【特集】フィリピン | | ピタリアーノ・ベルナルディノ | |
| 【特集】ケニア (成人教育放送) | | J・レーマー | |
| 【特集】ドイツ | | フランツ・ラインホルツ | |
| 【特集】デンマーク (ラジオ学校放送) | | ヨルゲン・ユールスゴルト | |
| 【特集】ユーゴスラビア | | アルサ・ステファンヴィッチ | |
| 【特集】カナダ (ラジオ学校放送) | | レイモンド・タビド | |
| 【特集】ニュージーランド (ラジオ学校放送) | | ドナルド・アラン | |
| 【特集】タイ (ラジオ教育放送) | | アンボン・ミースック | |
| 【特集】ポーランド | | ウロツィミエーシュ・ソコルスキ | |
| 【特集】アフリカ諸国 | | (4か国) | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------------------|--------------------------------------|-------------------|
| 8月号 | 【特集】第二回世界学校放送会議に出席して | 波多野完治 |
| | 新・放送教育入門講座5 放送の教材研究2 | 有光成徳 |
| | 教育活動としてのテレビ理科教室を目ざして 続 | NHK学校放送部理科班(小学校) |
| | 第15回放送研究会全国大会のために会場校の研究と実践2 | (6校園) |
| 9月号 | 巻頭言 仲間作りが当面の課題 | (M) |
| | 研究 教育テレビへのデザイン | 西本洋一 |
| | 論説 よい番組にのぞむもの—テレビ理科番組の事例を通して— | 上野辰美 |
| | 新・放送教育入門講座6 指導計画と放送教材1 | 有光成徳 |
| | 調査 教師の放送教育観 学校放送の利用に影響する要因の研究 | NHK文研調査 |
| | 第15回放送研究会全国大会のために研究発表の概要 | (9名) |
| | 特集 テレビ家庭視聴アンケート 子どもに見せたい番組 見せたくない番組1 | (46名) |
| 10月号 | 巻頭言 放送教育全国大会に期待する | 福田繁 |
| | 論説 情的なコミュニケーションと知的なコミュニケーション | 時実利彦 |
| | 論説 よい教育番組とキューの整理 | 中野照海 |
| | 東日本放送教育特別研修会報告 | |
| | ・文部行政と放送教育 | 倉沢栄吉 |
| | ・番組制作とNHK | 春日由三 |
| | 特集 テレビ家庭視聴アンケート 子どもに見せたい番組 見せたくない番組2 | (15名) |
| | 研究と実践 第14回放送教育懸賞論文佳作入選作品から | |
| | ・放送主任の座標—利用の底辺を広げる— | 並河尚美 |
| ・「良太の村」を利用して—三年生の社会科におけるテレビ教材の利用— | 小川弘 | |
| 11月号 | 巻頭言 三つの基本条件が必要 | 愛知揆一 |
| | 論説 放送教育の効果—放送教育心理学— | 林重政 |
| | 論説 時間帯視聴と話し合い視聴 | 小倉喜久 |
| | 論説 青年たちと放送 | 坂田修一 |
| | 新・放送教育入門講座7 指導計画と放送教材2 | 有光成徳 |
| | 視聴覚教育欧米紀行1 | 西本三十二 |
| | 学校放送教育賞応募論文を審査して | 波多野完治 |
| | 第六回放送教育賞受賞記念 放送教育の十八年 放送教育主任の手記 | 坂尾英之 |
| | 西日本特別研修会報告 施設研究委員の弁 | 淵上孝 |
| | 特集 日課表と学校放送 | (14校) |
| | 12月号 | 巻頭言 幼児の成長にテレビを有効に |
| 論説 放送法と教育者 臨時放送関係法制調査会の答申をめぐって | | 波多野完治 |
| ブルーナーの「直観的思考」と放送教育 | | 村田良一 |
| 新・放送教育入門講座8 放送教材の指導法1 | | 有光成徳 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------|--|-----------------------------|
| 12月号 | 視聴覚教育欧米紀行2 | 西本三十二 |
| | 特集 第15回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】世界にひろがる放送教育 | 前田義徳 |
| | 【特集】昭和40年度NHK学校放送番組 | 長浜道夫 |
| | 【特集】研究部会報告 | (52分科会) |
| | 【特集】種別全体研究会報告 | (6校種) |
| | 【特集】総括報告 | 田中喜一郎 |
| | 【特集】全国大会を終えて | 安藤鉄夫 |
| | アンケート 日課表と学校放送 | (15校) |
| | 昭和40年度NHK学校放送番組 小学校・幼稚園の部 | |
| 1月号 | 巻頭言 技術革新と教育革新 | 西本三十二 |
| | 論説 学校放送の利用状況 | 片桐顕智 |
| | 新・放送教育入門講座9 放送教材の指導法2 | 有光成徳 |
| | 視聴覚教育欧米紀行3 | 西本三十二 |
| | ミュンヘン国際青少年賞コンクール受賞テレビ放送番組 ドキュメンタリー『仲間がほしい』放送台本 | 構成 吉川徳 |
| | アンケート 日課表と学校放送 | (27校) |
| | 昭和40年度NHK学校放送番組 中学校・高等学校の部 | |
| 2月号 | 巻頭言 テレビ時代の教育者 | 松方三郎 |
| | 座談会 テレビ教育の前進 小型ビデオテープレコーダーの開発をめぐる | 小川修一, 中野照海, 浜崎俊夫, 高橋増雄 |
| | 新・放送教育入門講座10 放送教材と学習の評価 | 有光成徳 |
| | 視聴覚教育欧米紀行4 | 西本三十二 |
| | アンケート 私の視聴したい番組 | (49名) |
| | 教員養成大学・学部 視聴覚教育関係講義一覽 | (48大学) |
| 3月号 | 巻頭言 青年と放送 | 高坂正顕 |
| | 座談会 昭和40年度NHK学校放送の構想「きびしさ」と「おもしろさ」をめぐって | 豊田昭, 小山賢市, 柴田博三, 二神重成 |
| | 学力調査とラジオ | 奥田真丈 |
| | 新・放送教育入門講座11 テレビと家庭視聴 | 有光成徳 |
| | 視聴覚教育欧米紀行5 | 西本三十二 |
| | 学校放送教育賞佳作入選作品 | |
| | ・テレビの読解 | 安東政勝 |
| | ・視聴環境の整備と施設 | 但馬寛右 |
| | ・英語の指導と学校放送 | 中村幸輔 |
| | 新放送教育コンサルタントの抱負 | 倉澤栄吉, 村井道明, 田中正吾, 安藤忠吉, 林重政 |
| アンケート 私の視聴したい番組 | (16名) | |

主な連載：放送教材研究、番組モニター、私のチャンネル、スタジオから教室へ、校内放送台本、施設研究コーナー

1965 (昭和40) 年度 (通巻193~204号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------|---------------------------------------|-----------------------|
| 4月号 | 巻頭言 だれにもどこにも放送研究を放送教育を | 田中喜一郎 |
| | 対談 世界教育放送へのビジョン | 前田義徳, 西本三十二 |
| | 解説 昭和40年度学校視聴覚教育の国の事業について | 小川修三 |
| | 座談会 NHK 学校放送の新しい方向 | 藤本信英, 三浦宙一, 伊達健三郎 |
| | 研究 テレビ学習の長期累積効果 ヘーガースタウン5ヶ年計画の報告1 | 白根孝之 |
| | 調査 テレビ理科番組一万六千校が利用昭和39年度文研利用調査 | (編集部) |
| | 新・放送教育入門講座12 放送教育一年の計 | 有光成徳 |
| | 特集 アンケート 国語科と放送教材・問題点 | (21名) |
| 5月号 | 巻頭言 学校放送三〇周年を迎えて | 春日由三 |
| | 論説 一読主義と放送教育 | 波多野完治 |
| | セミナー 教育とコミュニケーション | |
| | ・教育とコミュニケーション過程 | 大内茂男 |
| | ・放送教育を通して養われる思考力 | 杉浦美朗 |
| | ・放送とわかりやすさの研究 | 阿久津善弘 |
| | ・ことばと映像のはたらき | 小倉喜久 |
| | ・教授論から見た現代放送教育 | 細谷俊夫 |
| | 研究 テレビ学習の長期累積効果 ヘーガースタウン5ヶ年計画の報告2 | 白根孝之 |
| | 新・放送教育入門講座13 理科とテレビ教材 | 有光成徳 |
| | 特集 教科学習と放送教材 | |
| | 【特集】国語科の問題点に答える | 石黒修, 倉沢栄吉 |
| | 【特集】国語番組制作の立場から 小学校/二領域の要求はすべて包含 | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】国語番組制作の立場から 中学校/放送こそ第一次教材 | NHK 学校放送部 |
| 【特集】国語番組制作の立場から 高等学校/放送の特性をふまえて | NHK 学校放送部 | |
| 【特集】アンケート 社会科と放送教材/問題点 | (19名) | |
| 6月号 | 巻頭言 国際通信教育会議と放送教育 | 西本三十二 |
| | 学校放送30周年シンポジウム 教育の近代化と放送 | 海後宗臣, 森戸辰男, 井深大, 坂西志保 |
| | 研究 人々はどんなタイプのテレビ番組を好むか | 松岡武 |
| | 新・放送教育入門講座14 社会科と放送教材1 | 有光成徳 |
| | ヨーロッパ放送連盟主催 青少年番組研究グループ会議 | 寺脇信夫 |
| | 特集 教科学習と放送教材 | |
| | 【特集】対談 社会科の問題点に答える | 馬場四郎, 山口康介 |
| | 【特集】社会科番組制作の立場から 小学校/「社会科とは何か」を解明しながら | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】社会科番組制作の立場から 中学校/生きた社会を追究するために | NHK 学校放送部 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| 6月号 | 【特集】アンケート 理科と放送教材/問題点 | (25名) |
| | 研究と実践 第1回学校放送教育賞 社会科地理番組を利用して | 秋山満 |
| 7月号 | 巻頭言 地区大会・研修会に期待する | 藤根井和夫 |
| | 座談会 学校放送タレント30年 | 片桐顕智, 大塚義秋, 小川一郎, 鈴木博 |
| | 新・放送教育入門講座15 社会科と放送教材2 | 有光成徳 |
| | 特集 教科学習と放送教材 | |
| | 【特集】対談 理科の問題点に答える | 蛭谷米司, 北沢弥吉郎 |
| | 【特集】理科番組制作の立場から 小学校/気づかせ考えさせる理科教育 | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】理科番組制作の立場から 中学校/時代に即した理科番組として | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】理科番組制作の立場から 高等学校/理科学習の本質をめざして | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】アンケート 道徳指導と放送教材/問題点 | (24名) |
| | 研究と実践 第1回学校放送教育賞 放送を利用した理科学習の評価 | 谷文夫 |
| 8月号 | 巻頭言 社会教育と放送 | 蒲生芳郎 |
| | 座談会 高野山大会をめぐる | 西本三十二, 宮原誠一, 川上行蔵, 栗原勇蔵, 金田録郎 |
| | 反響を呼んだ「日本賞」 | 吉田正 |
| | 放送利用における学年差 | 太田静樹 |
| | 新・放送教育入門講座16 英語科と放送教材 | 有光成徳 |
| | 特集 放送と社会教育 | |
| | 【特集】青年と放送 | 齋藤伊都夫 |
| | 【特集】婦人と放送 | 小川一郎 |
| | 【特集】社会教育と放送利用 | 小田俊策 |
| | 【特集】放送と社会教育 その歩みと現状 | 編集部 |
| 【特集】社会教育に役立つNHK番組二〇〇選 | 編集部 | |
| 9月号 | 巻頭言 農村青少年の放送利用グループづくり | 和田正明 |
| | 新・放送教育入門講座17 指導計画と放送教材 | 有光成徳 |
| | 特集 放送と社会教育 | |
| | 【特集】対談 道徳教育と放送教材 問題点に答える | 鈴木清, 大内茂男 |
| | 【特集】道徳番組制作の立場から 小学校/放送は従来の教材観では測れない | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】道徳番組制作の立場から 中学校/誰が子どもから感動を奪ったか | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】道徳番組制作の立場から 高等学校/放送はあくまで録音教材ではない | NHK 学校放送部 |
| | 【特集】実践 放送教材を利用した道徳指導過程 | 森川哲次郎 |
| 【特集】アンケート 音楽科・英語科と放送教材/問題点 | (14名) | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|-----------------------------------|---|-------------------|-------|
| 9月号 | 研究と実践 五カ年計画による充実をめざして | 岡山県倉敷市立倉敷東小学校 | |
| | 研究と実践 放送学習と思考—放送のみごとさに教育をあずけすぎていないか— | 小林実 | |
| 10月号 | 巻頭言 さらに放送の教育的開発を | 千葉雄次郎 | |
| | 放送教育推進のための提言 | 波多野完治 | |
| | ソ連・西欧・中近東諸国の放送教育 | 西本三十二 | |
| | 新・放送教育入門講座18 国語科と放送教材1 | 有光成徳 | |
| | 特集 教科学習と放送教材 | | |
| | 【特集】問題点に答える 音楽科 | 浜野政雄 | |
| | 【特集】問題点に答える 英語科 | 後藤哲也 | |
| | 【特集】音楽番組制作の立場から 美と真実の認識から創造へ | NHK 学校放送部 | |
| | 【特集】音楽番組制作の立場から 小学校/学習経験を豊かにするために | NHK 学校放送部 | |
| | 【特集】音楽番組制作の立場から 中学・高校/基礎指導を通して音楽的感覚と能力を | NHK 学校放送部 | |
| | 【特集】英語番組制作の立場から 中学校/聞く能力を養うために | NHK 学校放送部 | |
| | 【特集】英語番組制作の立場から 高等学校/「聞くこと・話すこと」を重点に | NHK 学校放送部 | |
| | 特集 昭和40年度放送教育特別研修会報告 | | |
| | 【特集】東日本 新しい実践研究の芽生え | 中野照海 | |
| | 【特集】西日本 成功した広域・小部会制 | 山口康助 | |
| | 【特集】東日本 選択講座の概要 | (4講座) | |
| | 【特集】西日本 選択講座の概要 | (4講座) | |
| | 実践報告 合併授業によるテレビの合同視聴 | 岡山県就実高等学校 | |
| | 11月号 | 巻頭言 放送教育全国大会に期待する | 齋藤正 |
| | | ソ連に見る教育と社会事情 | 西本三十二 |
| 新・放送教育入門講座19 国語科と放送教材2 | | 有光成徳 | |
| 特集 教科学習と放送教材 | | | |
| 【特集】学校放送—その特質・類型・利用 | | 坂元彦太郎 | |
| 【特集】教科の構造と放送教育—構造化の意義と放送教材 | | 大内茂男 | |
| 【特集】教科の構造と放送教育—教育改革と放送教育 | | 木原健太郎 | |
| 【特集】映像コミュニケーションの構造 | | 稲垣一穂 | |
| 【特集】実践報告 小学校理科の年間指導計画 | | 柿沼正悦 | |
| 【特集】実践報告 小学校道徳の指導 | | 蓮池守一 | |
| 【特集】実践報告 中学校の英語学習とラジオ・テレビ | | 大室了皓 | |
| よりよい教育番組をつくるために—パベルにおける研修セミナーの成果— | | 藤本信英, 箕浦弘二 | |
| 第16回放送教育研究会全国大会案内 | | 川上亀義 | |
| 岡山大会のために 放送の学習心理学 | | 林重政 | |
| インタビュー 教育放送とともに三十年 | 片桐顕智 | | |
| インタビュー 学校放送受信施設改善に半生を捧げて | 柿崎守彦 | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------------------|---|-------------------------|
| 12月号 | 巻頭言 日本賞コンクールの成果 | 吉田正 |
| | 昭和41年度学校放送番組について | 吉田正 |
| | 新・放送教育入門講座20 道徳の指導と放送教材 | 有光成徳 |
| | 向上著しい応募作品—第二回「学校放送教育賞」応募論文を審査して— | 波多野完治 |
| | 第一回『日本賞』教育番組国際コンクール | |
| | ・コンクール概要 (編集部) | |
| ・第1回「日本賞」審査報告 | 西本三十二 | |
| ・入選作品の概要 (編集部) | | |
| 昭和41年度NHK学校放送番組(幼稚園、小学校、中学校、高等学校) | | |
| 1月号 | 巻頭言 教育の近代化と放送教育 | 西本三十二 |
| | 新・放送教育入門講座21「家庭視聴」の三態 | 有光成徳 |
| | 特集 第16回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】日本賞と世界の教育放送 | 前田義徳 |
| | 【特集】パネル討議 ひろがる学校放送 | 福田繁, 平塚益徳, 森戸辰男, 吉田正 |
| | 【特集】種別研究会報告 | 安藤忠吉, 高萩竜太郎, 水谷靖, 村井道明 |
| | 【特集】部会研究報告 | (47部会) |
| | 【特集】大会の印象 | 野津良夫, 清中喜平, 清川順季 |
| 2月号 | 巻頭言 教育放送の充実・発展を期待 | 柴沼直 |
| | 対談 日本賞コンクールの成果と展望 | 吉田正, 西本三十二 |
| | 新・放送教育入門講座22 中学・高校での放送利用 | 有光成徳 |
| | 精薄児教育における放送教材の位置づけと活用 | 東京学芸大学付属養護学校 |
| | 第2回学校放送教育賞入選作品 五カ年計画に基づく放送教育の充実をめざして | 倉敷市立倉敷東小学校 |
| | 第2回学校放送教育賞入選作品 教師の意識に浸透した学校放送 | 新潟市立藤見中学校 |
| 実践と研究へき地における放送教育の研究 | 羽島喜義 | |
| 3月号 | 巻頭言 後期中等教育に放送の積極的な活用を | 平塚益徳 |
| | 利用研修についての九つの話題 全放連の組織強化を考える | 波多野完治 |
| | 座談会 放送利用の系統的な研究を求めて—全放連研究3カ年計画の初年度の成果と第2年度への期待— | 齋藤伊都夫, 北野正光, 富永重作, 田中達夫 |
| | 新・放送教育入門講座23 これからの放送教育に望む | 有光成徳 |
| | 高校通信教育放送から市民の大学へ—新番組案内『大学講座』— | 大古利三 |
| | 第2回学校放送教育賞入選作品 放送教育研究の歩み | 札幌市立幌西小学校 |
| | 第2回学校放送教育賞入選作品 放送教育の“あゆみ”十六年 | 松山市立八坂小学校 |

主な連載：放送教材研究、番組モニター、私のチャンネル、スタジオから教室へ、校内放送研究、施設研究コーナー

1966 (昭和41) 年度 (通巻205~216号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------------|---|---|
| 4月号 | 巻頭言 教育放送のいっそうの充実に期待 | 福田繁 |
| | 特集 教育の現代化 これからの放送教育 | |
| | 【特集】縦への深まりと教材化の追究 | 倉沢栄吉 |
| | 【特集】教育現代化の先頭に立て | 田中正吾 |
| | 【特集】放送教材と教師の役割 | 村井道明 |
| | 【特集】放送教育の無限の可能性をめざす | 安藤忠吉 |
| | 【特集】教師の視点変更による指導法の改善 | 林重政 |
| | 放送教育行政の今日と明日 | 石川宗雄 |
| | 番組制作のビジョン | 藤本信英, 寺脇信夫 |
| | 座談会 第9回録音教材コンクール審査評 身近なテーマに即して | 西本三十二, 石川宗雄, 藤本信英, 金子鉄雄, 鈴木博 |
| 第17回放送教育研究会全国大会の開催にあたって | 小尾馬雄 | |
| アンケート 学習効果をあげた番組 | (28人) | |
| 5月号 | 巻頭言 発足した総理府青少年局 | 安嶋弥 |
| | 論説 教育における放送の役割 放送法の改正に関連して | 馬場四郎 |
| | 座談会 中村文部大臣を囲んで“教育とエレクトロニクス”を語る | 中村梅吉, 野田卯一, 森戸辰男, 田中賢, 金子鉄雄, 高橋増雄, 鈴木博, 高柳健次郎, 山口勝寿, 川崎謹次郎, 松本享 |
| | 調査「方向づけるコメント」が「記述コメント」より効果的—「考えさせる」教育番組の条件はなにか— | 放送文化研究所 |
| | 調査『理科教室小学校二年生』を一万七千校が利用—昭和40年度学校放送利用校調査— | 放送文化研究所 |
| | 放送教育カルテ 徳島県名西郡神領小学校 | 村井道明 |
| | 6月号 | 巻頭言 学校放送の効果的な利用をめざす |
| 座談会 教科学習と放送番組の構造 | 齋藤伊都夫, 蛸谷米司, 山口康介 | |
| 放送教育カルテ 北海道幌別郡登別町札内小中学校 | 安藤忠吉 | |
| 学校放送利用プラン 考察 直前・直後の助言が重要な役割 | 松村謙 | |
| 学校放送利用プラン 考察 自己矯正への刺激として | 中野照海 | |
| アンケート 教育課程の改定に望む | (30人) | |
| 7月号 | 巻頭言 送り手と受け手の協力体制に感銘 | ヘンリー・カッシーラー |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|----------------------------|
| 7月号 | 論説 教授過程と教材の構造 | 野津良夫 |
| | 放送利用の事後指導にプログラム学習—NHK学園高校で事後指導の研究— | NHK学園 |
| | 放送教育カルテ 広島市立大洲中学校 | 林重政 |
| | 学校放送利用プラン 考察 清新な放送利用を一標準方式とバリエーション方式— | 大内茂男 |
| | アンケート 中学校・高校における放送教育/その問題点 | (32人) |
| 8月号 | 巻頭言 教室教師とテレビ教師 | 西本三十二 |
| | 放送教育への提言 放送教育特別研修会選択講座 | |
| | ・教授論からみた現代放送教育 | 細谷俊夫 |
| | ・学校放送の効果研究 | 馬場四郎 |
| | ・放送教材の特性とその指導法 | 田中正吾 |
| | ・放送利用の技術と効果—授業展開の技術— | 木原健太郎 |
| | ・学習心理学からみた放送教育 | 東洋 |
| | ・発達段階と教室心理—放送におけるイメージの役割— | 波多野完治 |
| | ・放送利用における学習指導法の研究 | 林重政 |
| | ・学力観と放送教育 | 村井道明 |
| | ・道徳・倫理の構造と放送教育—その基本的な立場— | 大内茂男 |
| | ・放送教育の研究法 | 中野照海 |
| | 座談会「アジア地域における教育と開発のための放送の使命に関する専門家会議」に出席して | 波多野完治, 斎藤伊都夫, 豊田昭 |
| | 調査 聞く・話す力を伸ばす英語番組の研究—文字による提示と会話のくりかえしの比較— | 放送文化研究所 |
| 放送教育カルテ 大阪府富田林市立第一中学校 | 田中正吾 | |
| 学校放送利用プラン 考察 新しい教育活動としての位置づけを—論理展開と具体物による学習との関連— | 蛸谷米司 | |
| 9月号 | 巻頭言 中・高校の放送利用の推進を期待 | 斎藤正 |
| | 特集 中学校・高等学校における放送教育をどう進めるか | |
| | 【特集】論説 中学校・高等学校における放送利用 | 坂元彦太郎 |
| | 【特集】中学校・高等学校における放送教育の実践 | (9名) |
| | 【特集】座談会 中・高校番組/制作の方向と利用の推進 | 箕浦弘二, 貴志昌夫, 福田滋, 田尻和彦, 沢村拓 |
| 【特集】中学校教師の放送教育観調査について | 辻功 | |
| 放送教育カルテ 山梨県甲府市立北中学校 | 小倉喜久 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|------------------------------------|---|------------------------|------|
| 9月号 | 学校放送利用プラン 考察 具体的な実践活動に結びつく放送利用一番組のねらいを生かした指導一 | 小塚芳夫 | |
| | 巻頭言 教育課程の制定と放送教材 | 木下一雄 | |
| 10月号 | 特集 授業の改造と放送教材 | | |
| | 【特集】教授メディアの発達と放送教育 | 細谷俊夫 | |
| | 【特集】主体的な学習に果たす放送教材の役割 | 三枝孝弘 | |
| | 【特集】アンケート 学習指導の改善に放送教材はどのように役だったか | (26人) | |
| | WCOTP 視聴覚教育ワークショップ | 西本三十二 | |
| | 放送教育カルテ 青森県八戸市立湊小学校 | 村田良一 | |
| 11月号 | 巻頭言 放送の積極的利用で教育効果の向上を期待 | 有田喜一 | |
| | 論説 教育内容の精選と学校放送 | 齋藤伊都夫 | |
| | 論説 放送教材活用の条件 | 主原正夫 | |
| | 第17回放送教育研究会全国大会の開催にあたって | 小尾尾雄 | |
| | 座談会 東京大会の特色と基本構想 | 松村謙、富永重作、高知尾徳 | |
| | 放送教育の研究—NHK総合放送文化研究所の調査研究について— | 田中達雄 | |
| | 放送研究カルテ 鹿児島市立城西中学校 | 山下静雄 | |
| | 学校放送利用プラン 考察 直前・直後の指導の一考察—概念化していく学習過程を大切に— | 新国重人 | |
| | 12月号 | 巻頭言 放送利用がさらに定着し発展することを | 森戸辰男 |
| | 各部門にめだつ優秀作—第三回「学校放送教育賞」応募論文を審査して | 西本三十二 | |
| 特集 昭和42年度NHK学校放送番組 | | | |
| 【特集】昭和42年度学校放送番組について | 吉田正 | | |
| 【特集】ラジオの部 幼児の時間・小学校・中学校・高等学校 | | | |
| 【特集】テレビの部 幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校 | | | |
| 学校放送利用プラン 考察 事前・事後の指導にきまった型はない(国語) | 榎本隆治 | | |
| 学校放送利用プラン 考察 視聴中も個別的に指導、事後に徹底をはかる | 新藤福一 | | |
| 1月号 | 巻頭言 新しい年の放送教育 | 西本三十二 | |
| | 特集 第17回放送教育研究会全国大会の記録 | | |
| | 【特集】記念番組『のびゆく学校放送』 | | |
| | 【特集】校種別全体会報告 | (5分科会) | |
| | 【特集】問題別分科会報告 | (26分科会) | |
| | 【特集】教科・領域別分科会報告 | (68分科会) | |
| | 【特集】全放連への提言 | 波多野完治 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|--|---------------|
| 1月号 | 【特集】放送教育推進の新たな出発点 | 中野照海 |
| | 【特集】東京大会の印象 | 坂尾英之、椋代惟親 |
| | 調査 効果測定のと物さし | 堀秀一 |
| | 学校放送利用プラン 考察 生徒の思考とテレビ番組—授業レボの書き方について— | 大橋秀雄 |
| 2月号 | 巻頭言 放送の教育性を生かす視聴態度の確立 | 木田宏 |
| | 創造性と教育 | 井深大 |
| | 対談 教育放送の将来を開く—発展する日本賞コンクールをめぐる— | 西本三十二、吉田正 |
| | 学校行事と放送の役割 | 田甫勝次 |
| | 調査 学校放送用語の研究 | 家喜富士雄 |
| | 放送教育カルテ 埼玉県蕨市立蕨北小学校 | 鈴木博 |
| | 第3回学校放送教育賞入選作品 聞く・話す指導について『ラジオ国語教室を利用して』 | 西山保市 |
| | 第3回学校放送教育賞入選作品 VTRによるテレビ理科教室の活用 | 服部陽一、柴田恒郎 |
| | 第3回学校放送教育賞入選作品 耳の聞こえない子と放送教育—中学部社会科の三年半— | 日高篤盛 |
| | 学校放送利用プラン 考察 取り扱いの適切さと継続視聴の効果がわかる | 松村謙 |
| 学校放送利用プラン 考察 生徒の生活についても考えさせ話し合わせる指導を | 竹ノ内一郎 | |
| 3月号 | 巻頭言 期待される第三回世界教育放送会議の成果 | 吉田正 |
| | 論説 放送教育の発展と教育工学 | 西本洋一 |
| | 論説 放送教育工学の可能性—技術的立場から— | 宮本悦郎 |
| | 北欧の学校放送 | 石川宗雄 |
| | 調査『はたらくおじさん』『理科教室』など100%利用—沖縄におけるNHK学校放送の利用状況— | 放送文化研究所 |
| | 放送教育カルテ 島根県出雲市立第三中学校 | 野津良夫 |
| | 第3回学校放送教育賞入選作品 わが校における放送教育の実践 | 群馬県伊勢崎市立名和小学校 |
| | 第3回学校放送教育賞入選作品 テレビ視聴をとり入れた効果的な学習指導法を求めて | 広島市立大州中学校 |
| 第3回学校放送教育賞入選作品 高等学校に放送教育を導入するために | 岡山就実高等学校 | |

主な連載：放送教育24の質問、スタジオから教室へ、施設研究コーナー、NET(制作局教育部)、学校放送利用プラン・授業レボ、校内放送研究、放送教材研究、随想

1967 (昭和42) 年度 (通巻217~228号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|----------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 電波の教育的利用による国民文化の向上 | 濱田成徳 |
| | 論説 放送教育研究の新しい展開 | 波多野完治 |
| | 座談会 新年度番組制作の構想 | 寺脇信夫, 三浦宙一, 佐藤貞, 安田求, 二神重成, 箕浦弘二 |
| | 放送教育カルテ 愛知県設楽町立清嶺中学校 | 木原健太郎 |
| | 第3回学校放送教育賞入選作品 学習指導を高めるための放送教材の利用 | 宮崎島日向市立細島小学校 |
| | 第3回学校放送教育賞入選作品 教育の近代化をめざして | 鳥取市立北中学校 |
| | へき地における学校放送利用 入選実践記録・作文 | 大園貞義, 工藤和佳子, ちばよりこ, 平久美千代 |
| | 学校放送利用プラン 考察 道徳番組の特性を生かして | 青木孝頼 |
| 5月号 | 巻頭言 通信教育の前途に明るい希望 | 森戸辰男 |
| | 特集 学校経営と放送利用 | |
| | 【特集】論説 学校経営の刷新と放送教育 | 吉本二郎 |
| | 【特集】座談会 放送教育の問題点を考える | 松村謙, 遠藤五郎, 高橋早苗, 松本和三郎, 寺脇信夫 |
| | 【特集】アンケート 学校経営と放送利用 効果と問題点 | (17名) |
| | インタビュー 放送利用と教室教師の役割 | 西本三十二 |
| | 放送教育カルテ 熊本市立城北小学校 | 吉良瑛 |
| | 学校放送利用プラン 考察 いずれも学習効果をあげた番組利用 | 真篠将 |
| 6月号 | 巻頭言 教育・教養放送の再検討 | 朝勉 |
| | 特集 特殊教育と放送利用 | |
| | 【特集】精神発達段階と放送利用学習—特に精神薄弱児特殊学級における場合— | 林重政 |
| | 【特集】特殊教育と放送利用 | 藤原鴻一郎, 木塚泰弘, 菊地泰子, 小口勝美 |
| | 【特集】盲学校におけるテレビ教材の利用と実際—弱視児とテレビ放送— | 氏原千代 |
| | 第3回世界教育放送会議の成果—教育放送の新しい波— | 吉田正, 森本勉, 高坂旭, 二神重成 |
| | 放送教育カルテ 香川県高松市立紫雲中学校 | 宇川勝美 |
| | 実践記録 子どもを意欲的にするために『ラジオ国語教室』一年間の指導をふりかえって | 恩田陽子 |
| 7月号 | 巻頭言 技術の開発によって国民文化の向上に貢献 | 駒井又二 |
| | 特集 映像と教育 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|------------------------|
| 7月号 | 【特集】論説 学習イメージ論—社会科における映像と教材— | 山口康助 |
| | 【特集】論説 映像教育の課題—画像の教育効果の解明— | 中野照海 |
| | 【特集】座談会 映像の教育性を考える | 大内茂男, 富永重作, 児玉邦二, 赤堀正直 |
| | 【特集】映像にどう取り組むか—実験と調査から— | 多田俊文 |
| | 放送教育カルテ 山口市立嘉川小学校 | 中田清一 |
| 8月号 | 学校放送利用プラン 考察 くふうをこらし苦心して利用している—「工場で働くおねえさん」の利用について— | 松村謙 |
| | 巻頭言 世界を結ぶ教育放送の理念 | 前田義徳 |
| | 論説 西独のハノーバー実験“授業テレビ” | 野津良夫 |
| | 特集 授業と放送 | |
| | 【特集】実践記録 小学校社会 ラジオを利用した社会科の学習 | 相原要 |
| | 【特集】実践記録 小学校理科 理科教室「はね」と授業 | 和田静子 |
| | 【特集】実践記録 小学校道徳 道徳の指導とテレビの利用 | 菊地吉彦 |
| | 【特集】実践記録 中学校理科「力と運動」とテレビ教材 | 北村満子 |
| | 【特集】実践記録 高等学校英語 生きた英語教育を推進する | 八村伸一 |
| | 放送教育カルテ 兵庫県小野市立小野小学校 | 三輪和敏 |
| 9月号 | 学校放送利用プラン 考察 放送教材にも一貫した位置づけを | 古矢弘 |
| | 巻頭言 放送教材の統合的な働きに期待 | 木下一雄 |
| | 特集 放送を生かした社会科学習 | |
| | 【特集】論説 放送を利用した社会科の授業をどう組織するか | 平田嘉三 |
| | 【特集】実践「歴史」の流れを継続視聴する | 増田格 |
| | 【特集】実践 事象の認識を正しく能率的に学習する | 蓮池守一 |
| | 【特集】実践 社会科学習の指導法を改善する | 長崎市立片淵中学校 |
| | 【特集】アンケート 社会科学習にどのような効果をもたらしたか | (24人) |
| 10月号 | 【特集】番組制作者の立場から テキストからプロット作りまで | NHK 学校放送部 |
| | 放送教育カルテ 埼玉県深谷市立深谷幼稚園 | 野間郁夫 |
| | 学校放送利用プラン 考察 視聴の効果とその活用 | 井口尚之 |
| | 巻頭言 教育の核心にふれる番組づくりを | 山崎誠 |
| | 特集 理科学習の構造と放送教材 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|-------------------|
| 10月号 | 【特集】理科学習の場の構造と放送の機能 | 蛸谷米司 |
| | 【特集】実践 確かな見方・考え方を育てる 死んだ「きんぎょ」から生きている「きんぎょ」へ | 松尾勢津子 |
| | 【特集】実践 教室学習と同期させたテレビ利用「力のつりあい」における学習の主体化 | 大平司 |
| | 【特集】実践 学習構造の立体化と放送の利用 発展する創造性を核に | 島貴武彦 |
| | 座談会 マスメディアと子ども1 映像と言語 | 波多野完治、滝沢武久、羽仁進 |
| | 放送教育カルテ 石川県小松市立芦城小学校 | 中野光 |
| 11月号 | 巻頭言 放送の利用による豊かな教育の実現を期待 | 剣木亨弘 |
| | 特集 放送の特性を生かした授業の改善 | |
| | 【特集】論説 教科・学習の構造化と放送教材の特性 | 村田良一 |
| | 【特集】座談会 放送を授業で生かす | 齋藤伊都夫、松村謙、東洋 |
| | 【特集】調査研究 固定的な「おかあさん」のイメージが多様なものとなった | 学校放送部社会科班 |
| | 【特集】実践研究 いろいろなおかあさんがいることがテレビによってとらえられた | 村上ヒロ子 |
| | 座談会 マスメディアと子ども2 子どもの生活とマスコミ | 大内茂男、波多野諠余夫、井上ひさし |
| | 対談 放送教育のビジョン1 大学の放送教育 | 西本三十二、櫛部綾人 |
| | 放送教育カルテ 新潟県立新潟中央高等学校 | 玉井成光 |
| | 学校放送利用プラン 考察 特性を生かして効果的な活用 | 新国重人 |
| 12月号 | 巻頭言 放送番組の向上による新しい文化の形成 | 石川忠夫 |
| | 第四回「学校放送教育賞」審査評 多数の力作が応募 望みたい「機能化」への研究・実践 | 西本三十二 |
| | 座談会 マスメディアと子ども3 映像時代の学校教育 | 波多野完治、藤永保、中野照海 |
| | 対談 放送教育のビジョン2 放送大学のビジョン | 西本三十二、櫛部綾人 |
| | アンケート 家庭視聴指導はどのように行われているか | (編集部) |
| | 学校放送利用プラン 考察 指導のねらいに的確に位置づけて利用 | 西村文男 |
| | 学校放送利用プラン 考察 典型的な具体例からどう帰納するか | 加勢博勇 |
| | 昭和43年度NHK学校放送番組 幼稚園保育所・小学校の部 | |
| 1月号 | 巻頭言 新産業時代の放送教育 | 西本三十二 |
| | 特集 第18回放送教育研究会全国大会の記録 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|------|
| 1月号 | 【特集】パネルディスカッション 放送で豊かな教育を | 波多野完治、馬場四郎、林重政、中野照海、富永重作、笹田三思 | |
| | 【特集】授業研究会記録 | (12研究会) | |
| | 【特集】領域別研究会記録 | (6研究会) | |
| | 【特集】長崎大会の反省 | 高橋貞夫 | |
| | 【特集】スケッチ長崎大会 | 編集部 | |
| | 座談会 マスメディアと子ども4 学習における映像認識の可能性 | 大内茂男、宇川勝美、多田俊文 | |
| | 対談 放送教育のビジョン3 放送教育全国大会と日本賞 | 西本三十二、櫛部綾人 | |
| | 調査 LL教育の現状分析 ランゲージ・ラボラトリー全国調査の概要 | 大内茂男 | |
| | 学校放送利用プラン 考察 ラジオの特性を生かして | 藤本一郎 | |
| | 2月号 | 巻頭言 放送を教育の新しい発展に生かす | 小林正之 |
| 座談会 マスメディアと子ども5 教育工学と放送利用 | | 波多野完治、永野重史、坂元昂 | |
| 対談 放送教育のビジョン4 ラジオ・テレビ英語教室 | | 西本三十二、櫛部綾人 | |
| 第四回学校放送教育賞佳作入選論文 | | | |
| ・ヘチマの継続観察の指導『テレビ理科教室』を生かして | | 足立金子 | |
| ・放送は呼吸のごとく 精薄児の言語指導に利用した放送教材 | | 高田幹夫 | |
| 放送教育カルテ 岩手県岩手郡玉山村好摩小学校 | | 石川桂司 | |
| 昭和43年度NHK学校放送番組 中学校・高等学校の部 | | | |
| 3月号 | | 巻頭言 教育革新に果たす放送教育の役割 | 平塚益徳 |
| | | 沖縄の放送教育 | |
| | ・論説 第三の道への期待 | 山下静雄 | |
| | ・座談会 沖縄と本土を結ぶもの | 嘉数正一、大勝信明、岩元忠雄、高橋増雄 | |
| | 座談会 マスメディアと子ども6 教育工学と放送利用 | 波多野完治、馬場四郎、大内茂男 | |
| | 対談 放送教育のビジョン5 新学年の教育計画と放送教育 | 西本三十二、櫛部綾人 | |
| | 第四回学校放送教育賞入選論文 | | |
| | ・学習指導法改善のための学校放送の利用 | 北九州市立日明小学校 | |
| ・多級中学校における放送教育定着への方途を求めて | 札幌市立明園中学校 | | |
| 放送教育カルテ 札幌市立明園中学校 | 安藤忠吉 | | |
| 学校放送利用プラン 考察 自主的な学習意欲を育てるテレビ視聴を | 林精一 | | |

主な連載：放送教育24の質問、スタジオから教室へ、施設研究コーナー、NET(制作局教育部)、学校放送利用プラン・授業レポ、学校行事と校内放送、放送教材研究、随想

1968 (昭和43) 年度 (通巻229~240号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|-------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 教育とエレクトロニクス | 井深大 |
| | 特集 放送教育これからの課題 | |
| | 【特集】 明治百年と放送教育 | 森戸辰男 |
| | 【特集】 昭和43年度放送教育行政の展望 | 五十嵐淳 |
| | 【特集】 研究の課題 | 馬場四郎 |
| | 【特集】 実践の課題 | 松村謙 |
| | 【特集】 組織の課題 | 北野正光 |
| | 【特集】 番組制作の課題 | 寺脇信夫 |
| | 教育課程の改善と放送教育 | 黒田真丈 |
| | 対談 放送教育のビジョン6 学校放送カリキュラムと視聴指導 | 西本三十二、 榑部綾人 |
| 5月号 | 放送教育カルテ 栃木県宇都宮市細谷小学校 | 稲垣一穂 |
| | 学校放送利用プラン 考察 教材の価値の正当な利用 | 大和淳二 |
| | 学校放送利用プラン 考察 継続は力なり | 新藤福一 |
| | 巻頭言 “新時代”にはいった放送教育 | 大山恵佐 |
| | 特集 思考力の育成と放送教育 | |
| | 【特集】 論説 教授メディアと創造的思考の育成 | 細谷俊夫 |
| | 【特集】 論説 映像の機能と思考の機能 | 滝沢武久 |
| | 【特集】 放送利用による社会的思考の深まり『わたしたちのくらし』を通して | 富山保 |
| | 【特集】 理科的思考と放送教材の利用ー『中学校理科教室二年生 電流』を利用してー | 森川哲次郎 |
| | 対談 放送教育のビジョン7 道徳の時間と道徳番組 | 西本三十二、 榑部綾人 |
| 6月号 | 巻頭言 新しい人間形成に生かす放送教育 | 北沢弥吉郎 |
| | 論説 教材研究としての番組研究 | 波多野完治 |
| | 対談 放送教育のビジョン8 放送教育と人間形成 | 西本三十二、 榑部綾人 |
| | 座談会 学校放送はこのようなねらいで作られている | |
| | ・社会科(地理) 生活のおいがる番組に | 宜間弘二、浦達也、能勢脇 |
| | ・理科 考えさせる番組づくりを | 北川和一郎、 中山ひろし、 東和彦 |
| | ・道徳 道徳の内面化をめざした生活ドラマ | 佐藤貞、貴志昌夫、 菊地利孝 |
| | ・社会科(歴史・政経社) | 箕浦弘二、野原政雄、 市川昌 |
| | 放送教育カルテ 愛媛大学教育学部付属小学校 | 堀田鶴好 |
| | 実践 テレビ利用で学習の効率を高めるー『テレビ理科教室 雨水のゆくえ』の利用ー | 柳田ミチ子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|-------------------------------|-------------------------------|
| 7月号 | 巻頭言 カラーテレビ時代を迎えた学校放送 | 百瀬結 |
| | 論説 放送教育の今後の方向 | 齋藤伊都夫 |
| | 論説 テレビジョンの利用による教育の可能性 | 武井健三 |
| | 番組研究の構想ー第二次研究三か年計画からー | 馬場四郎 |
| | 対談 放送教育のビジョン9 音楽教育と学校放送 | 西本三十二、 三浦宙一 |
| | 座談会 社会科的思考を進めるための放送教材論 | 梶哲夫、岩浅農也、 勝純徳、市川昌、 箕浦弘二 |
| | 放送教育カルテ 岡山市立三門小学校 | 三枝孝弘 |
| | 巻頭言 社会と学校を結ぶかけ橋 | 川上行蔵 |
| | 論説 家庭教育と放送 | 依谷正樹 |
| | 対談 放送教育のビジョン10 音楽番組と音楽教育 | 西本三十二、 三浦宙一 |
| 8月号 | 海外教育放送紀行 アメリカにおける放送教育 | 五十嵐淳 |
| | 座談会 新しい校内放送 | 鈴木博、田甫勝次、 岸本唯博、 野田一郎 |
| | 第九回放送教育賞受賞 多級中学校に完全に定着した放送教育 | 札幌市立明園中学校 |
| | アンケート 夏休みの視聴指導をどう行なうか | (16名) |
| | 巻頭言 教育放送のための電波の確保 | 松方三郎 |
| | 特集 創造性の開発と放送教育 | |
| | 【特集】 創造性を育てる放送教育 | 大内茂男 |
| | 【特集】 座談会 創造性の開発と放送教育 | 松村謙、井口尚之、 西本洋一 |
| | 【特集】 実践・研究(理科) 探究心ーその芽ばえを育てる | 河野フサ |
| | 【特集】 実践・研究(音楽科) 音楽と子どもと表視力 | 稲垣佳代子 |
| 9月号 | 解説 新学習指導要領と放送の利用(国語科) | 藤原宏 |
| | 対談 放送教育のビジョン11 放送教育と教材研究 | 西本三十二、 榑部綾人 |
| | 放送教育カルテ 茨城県立土浦第二高等学校 | 橋戸誠 |
| | 巻頭言 「教育と放送」刊行の意義 | 木田宏 |
| | 特集 継続視聴の意義 | |
| | 【特集】 論説 継続視聴の意味とその効果 | 林重政 |
| | 【特集】 実践・研究 三年間の継続視聴のもたらすもの | 斎藤道子 |
| | 解説 新学習指導要領と放送の利用(社会科) | 山口康助 |
| | 対談 放送教育のビジョン12 学校放送利用の一般化と日常化 | 西本三十二、 榑部綾人 |
| | 放送教育カルテ 長崎市立上長崎小学校 | 吉村喜好 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|---------------------------------|
| 11月号 | 巻頭言 第一九回全国大会を迎えて | 森戸辰男 |
| | 論説 放送教材の特性とは何か | 村田良一 |
| | 座談会 教授学習理論と放送教育 | 永野重史, 坂元昂, 岸本唯博 |
| | 座談会 中学校における放送利用の定着のために—札幌市立明園中学校の実践をめぐって— | 西本三十二, 安藤鉄夫, 丹羽三郎, 横山照美, 駒ヶ峯大二郎 |
| | 解説 新学習指導要領と放送の利用(音楽科) | 真篠将 |
| | 対談 放送教育のビジョン13 シリーズ 番組の継続視聴と継続指導 | 西本三十二, 榎部綾人 |
| | 放送教育カルテ 奈良市立飛鳥幼稚園 | 太田静樹 |
| 12月号 | 巻頭言 すぐれた番組の利用をさらに広める方途を | 吉田正 |
| | 座談会 マスコミ理論と放送教育 | 波多野完治, 馬場四郎, 後藤和彦, 大内茂男 |
| | 解説 新学習指導要領と放送の利用(理科) | 蛸谷米司 |
| | 放送教育のビジョン14 座談会 幼児番組と幼児教育 | 西本三十二, 榎部直人, 江島多賀子, 太田喜美子 |
| | 昭和44年度NHK学校放送番組 幼稚園保育所・小学校の部 | |
| 1月号 | 巻頭言 学校教育の体質改善と放送教育 | 西本三十二 |
| | 特集 第19回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】シンポジウム 放送と未来の教育 | 湯川秀樹, 郷司浩平, 鯉坂二夫, 波多野完治 |
| | 【特集】パネル討議 現代における放送教育の課題とその解決 | 馬場四郎, 西本洋一, 滝沢武久, 富永重作, 寺脇信夫 |
| | 【特集】校種別全体会 | 高杉自子, 浜田陽太郎, 井上治郎, 村田良一 |
| | 【特集】部会研究(小学校) | (26部会) |
| | 【特集】全国大会を終えて | 清中喜平 |
| | 第五回学校放送教育賞審査評—さらに多くの応募を期待— | 西本三十二 |
| | 第四回日本賞コンクールとこれからの教育放送 | |
| | ・受賞作品の概要 | (16作品) |
| | ・座談会① ラジオは大衆との対話 | スワト・シナノグルー, アンリ・アピア, 坂元彦太郎 |
| | ・座談会② 放送の利用分野の拡大と多様化 | ヨハネス・カステラインス, 韓棟 |
| | 放送教育カルテ 佐賀市・藤影幼稚園 | 上野辰美 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------------|--|---|
| 2月号 | 巻頭言 言語環境としての放送 | 岩淵悦太郎 |
| | 座談会 放送教材の特性と利用のあり方 利用法の多様化をめぐって | 大内茂男, 滝沢武久, 寺脇信夫, 中野照海 |
| | 解説 新学習指導要領と放送の利用(道徳・特別活動) | 青木孝頼 |
| | 放送教育のビジョン15 座談会 小学校の放送教育 | 西本三十二, 榎部直人, 清中喜平, 篠谷千代太 |
| | 海外教育放送紀行 教育放送と第五の自由 NAEB(全米教育放送者連盟)大会印象記 | 青木章心 |
| 3月号 | 第19回放送教育研究会全国大会 部会研究(幼稚園, 小学校, 中学校) | (19部会) |
| | 放送教育カルテ 青森県西津軽郡川除小学校 | 福村保 |
| | 昭和44年度NHK学校放送番組 中学校・高等学校の部 | |
| 3月号 | 巻頭言 放送教育の効果をもさらに高めるための基礎研究 | 高嶋進之助 |
| | パネル討議 新しい放送教育の方途を求めて | 蛸谷米司, 野津良夫, 片岡徳雄, 松本鶴義, 北川和一郎, 永井俊伸, 新宅力蔵 |
| | 放送教育のビジョン16 座談会 中学校の放送教育 | 西本三十二, 榎部直人, 中沢良三, 勝見誠一 |
| | 海外教育放送事情 学校放送・教育放送で地域に奉仕 テキサス大学付属放送局 | 萬戸克憲 |
| | 第5回学校放送教育賞入選 学力不振生徒の学習への興味づけをいかに行なうか | 京都市立藤森中学校 |
| | 第5回学校放送教育賞入選『世界名曲めぐり』の利用と子どもの成長 | 寒川孝久 |
| 第19回放送教育研究会全国大会 部会研究(中学校, 高等学校, 特殊学校) | (18部会) | |

主な連載: 続・24の質問, スタジオとの対話, 学校放送利用プラン・授業レポ, 施設研究コーナー, 校内放送研究, NETテレビ, 随想

1969 (昭和44) 年度 (通巻241~252号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---------------------------------------|--------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 創刊二十周年におも | 西本三十二 |
| | 特集 放送教育の歩みと展望 | |
| | 【特集】放送教育二十年の歩み | (編集部) |
| | 【特集】情報時代における教育と放送 | 後藤和彦 |
| | 【特集】電子工学の発達と放送教育 | 西本洋一 |
| | 【特集】マスコミとしての教育的役割 | 辻功 |
| | 【特集】学習の個別化と放送教育 | 斎藤伊都夫 |
| | 【特集】授業の効率化・人間形成と放送利用の意義 | 村田良一 |
| | 【特集】テレビ映像と思考・認識・行動 | 芳賀純 |
| | 【特集】放送利用の多様化 | 片岡徳雄 |
| | アンケート放送教育の未来図 | 時実利彦、加藤秀俊、川上行蔵ほか |
| | 創世期への回想 | 金田録郎 |
| | 座談会 教育放送の多元化と多様化への展望—社会教育審議会の答申をめぐって— | 波多野完治、馬場四郎、浜田陽太郎、五十嵐淳 |
| | 昭和44年度放送教育行政の展望 | 文部省視聴覚教育課 |
| 5月号 | 海外教育放送事情 すばらしい可能性の国 | 野津良夫 |
| | 座談会 第12回録音教材コンクール審査評 | 西本三十二、五十嵐淳、大勝信明、北野正光、鈴木博 |
| | 放送教育のビジョン 中学校と放送教育<2> | 西本三十二、柳部直人、中沢良三、勝見誠一 |
| | 巻頭言 教育の近代化に放送教育の拡充を期待 | 高橋早苗 |
| | 論説 映像の特性と子どもの認知発達 | 多田俊文 |
| | 放送利用学習は子どもをどのように変えたか | 神戸市立蓮池小学校 |
| | 放送教育のビジョン 高等学校と放送教育 | 西本三十二、柳部直人 |
| 6月号 | 子どもの生活とテレビ 静岡調査 | NHK 総合放送文化研究所 |
| | 昭和44年度学校放送番組制作のポイント | NHK 学校放送部 |
| | 巻頭言 衣がえをしてさらに新しい発展へ | 森戸辰男 |
| 7月号 | 論説 情報的人間と教育 | 林雄二郎 |
| | 論説 教育専門放送局のあり方について | 五十嵐淳 |
| | 実践研究 新入児童の言語指導 | 光永久夫 |
| | 実践研究 消防団の学習とテレビ | 梅田美晴 |
| | 放送教育のビジョン 高等学校と放送教育 | 西本三十二、柳部直人 |
| | 海外取材番組“大学” | 渡部和、市川昌 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 7月号 | 巻頭言 親と子の対話の糸口に | 山崎誠 |
| | 論説 映像と認識 その生理的關係 | 蛭谷米司 |
| | 論説 教育の構造化原理 | 波多野完治 |
| | 実践研究「世界名曲めぐり」の継続利用 | 寒川孝久 |
| | 実践研究 テレビ映像と幼児の学習 | 桜本富雄 |
| | 放送利用の意識 | 有光成徳 |
| 8月号 | 巻頭言 開かれた書齋としての放送 | 伊藤佐十郎 |
| | 論説 放送教材の芸術性とその働き | 小倉喜久 |
| | 放送教育理論の深まりをめざして—放送教育特別研修会選択講座の概要— | (5講座) |
| | 良い質問とは何か | 有光成徳 |
| | ヨーロッパ 放送・通信教育の旅 | 西本三十二 |
| | 理科教育推進に果たす番組のあり方 | NHK 学校放送部理科教室制作担当者 |
| 9月号 | 巻頭言 社会教育の機会均等に放送の利用 | 福原匡彦 |
| | 論説 視聴覚コミュニケーションとしての放送 | 坂元彦太郎 |
| | 論説 情報化社会とテレビの教育コミュニケーション | 金沢覚太郎 |
| | 実践研究 バトンを受けたら前へ走れ | 清中喜平 |
| | 実践研究 意識して努力する子どもになった | 東京都豊島区立日出小学校道徳研究分科会 |
| | ヨーロッパ/放送・通信教育の旅 | 西本三十二 |
| 10月号 | 社会教育と放送の利用 | 本家正文 |
| | 巻頭言 テレビの偉力を教育に生かす | 高田元三郎 |
| | 論説 人間形成と放送 | 波多野完治 |
| | 実践研究 事柄の中に意味をとれ | 清中喜平 |
| | 自然の時 | 有光成徳 |
| | 放送教材による文学教育 | 佐藤宗男 |
| 11月号 | 放送・通信教育の旅 | 西本三十二 |
| | 巻頭言 放送利用の実践研究 | 細谷俊夫 |
| | 第14回放送教育学会シンポジウム 放送教育の研究とその振興 | 西本三十二、波多野完治、富永重作、馬場四郎 |
| | メモについてのメモ | 有光成徳 |
| | 放送とチームを組め—教室番組の指導 | 清中喜平 |
| | シンポジウム 教育の革新と未来像(くらしに生かす放送利用研究集会) | 伊藤昇、西田亀久夫、馬場四郎、松原治郎 |
| 家庭における放送学習のすすめ方 | 田原音和 | |
| マガサイサイ賞受賞の旅 | 西本三十二 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|----------------------------|-------------------------------|
| 12月号 | 巻頭言 仙台大会の成果と今後の課題 | 実方亀寿 |
| | 論説 言語・映像と教育過程 | 高橋勉 |
| | 実践研究 視聴のルールを身につけよ | 清中喜平 |
| | 第六回 学校放送教育賞選後評 | 西本三十二 |
| | 情報アラカルト | 有光成徳 |
| 1月号 | 巻頭言 放送大学への期待 | 西本三十二 |
| | 特集 第20回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】全体会 教育と放送 豊かな人間を育てるために | 坂田道太、前田義徳、森戸辰男、本川弘一、林雄二郎、馬場四郎 |
| | 【特集】校種別全体会 | (5校種) |
| | 【特集】部会研究(1) | (10部会) |
| | 放送とビデオ | 有光成徳 |
| 2月号 | 巻頭言 放送とテキストが相互に生かしかう | 浅沼博 |
| | 1970年代の科学技術と教育 | 井深大、西本三十二 |
| | 放送教育易行道を希求して | 秋田県仙北郡田沢湖町立生保内小学校 |
| | メディア教師論 | 有光成徳 |
| | 第20回放送教育研究会全国大会 部会研究(2) | (24部会) |
| | 巻頭言 放送大学の課題 | 天城勲 |
| 3月号 | 放送大学の構想 | 西本三十二、阿久津喜弘 |
| | 放送大学に対する諸批判に答えて | 五十嵐淳 |
| | NHK放送市民大学 | (編集部) |
| | メディア教師論 | 有光成徳 |
| | 海外における教育技術革新の動向 | 宇川勝美 |
| | 調和と統一のある教育をめざして | 東京都豊島区立高田中学校 |
| | 学校放送の特性を生かした道徳教育 | 加藤虔一 |

主な連載：放送教育カルテ、コンサルタント・ルーム、スタジオとの対話、学校放送利用プラン・授業レポ、VTR教育実践報告、校内放送研究・資料コーナー、施設研究コーナー



1969年6月号



1969年7月号

1970 (昭和45) 年度 (通巻253~264号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------|----------------------------|------------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 新時代をひらく情報の提供 | 川上行蔵 |
| | 放送の教育的機能と教育方法の改善 | 細谷俊夫 |
| | 特集 教育の動向と放送の利用 | |
| | 【特集】 幼児／発達の原因と創造性開発の保育 | 坂東義教 |
| | 【特集】 小学校／情報処理の基礎能力を養う | 松村謙 |
| | 【特集】 中学校／過渡期における教育課程の再編成 | 日比野輝雄 |
| | 【特集】 高等学校／時代に即した教育の現代化を | 実方亀寿 |
| | 【特集】 特殊／知的能力の発達を促す積極的利用への道 | 山口薫 |
| | 昭和四五年度放送教育行政の展望 | 五十嵐淳 |
| | 座談会 テレビと理科教育 | 西本三十二, 高須賀清, 家野修造, 谷文夫 |
| 海外における教育技術革新の動向<2> | 宇川勝美 | |
| 5月号 | 巻頭言 放送技術の革新と放送教育 | 野村達治 |
| | 放送教育の拡大 | 斎藤伊都夫 |
| | 映像の心的定着のために | 波多野完治 |
| | 座談会 放送学習と社会科教育<1> | 西本三十二, 清中喜平, 久故博睦, 貴志昌夫, 杉依孝, 小島通晴 |
| | 実践研究 創造的思考力を高めるための理科指導 | 三浦アキエ |
| | 実践研究 国語学習の効果を高める | 白川ユタカ, 大草満洲雄, 西田広 |
| | 海外における教育技術革新の動向<3> | 宇川勝美 |
| 6月号 | 巻頭言「放送教育大事典」刊行の意義 | 馬場四郎 |
| | 特集 経営組織の革新と放送利用 | |
| | 【特集】 放送利用の教育経営 | 金子孫市 |
| | 【特集】 協力授業組織と放送利用 | 田雨勝次 |
| | 【特集】 学級経営の革新 | 大岩功典 |
| | 【特集】 自主性の育成と個性の伸長をはかる | 津下正孝 |
| | 座談会 放送学習と社会科教育<2> | 西本三十二, 久故博睦, 佐藤二郎, 貴志昌夫, 杉依孝 |
| | 実践研究 人形劇の教材性を追究して | 東京都文京区汐見幼稚園 |
| | 実践研究 道徳的心情の豊穠化と具体化をはかる | 石川県金沢市浅野川中学校 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--------------------------------|------------------------------|
| 7月号 | 巻頭言 感動とともに自ら考える力を育てる | 山崎誠 |
| | 学校放送の過去・現在・未来 | 中野照海 |
| | 対談 放送大学への期待 | 茅誠司, 西本三十二 |
| 8月号 | アメリカ紀行 変革期の大学教育 | 西本三十二 |
| | 巻頭言 教育のシステム化と放送教育 | 波多野完治 |
| | 放送大学への期待 | 西本三十二 |
| 9月号 | 座談会 多教材時代における放送教育 | 馬場四郎, 日比野輝雄, 寺脇信夫 |
| | 巻頭言 日本賞を“世界市民”の教材の芽に | 吉田正 |
| | 特集 映像と思考 | |
| | 【特集】 映像と幼児の思考 | 安田正夫 |
| | 【特集】 放送教育と創造的思考 | 野津良夫 |
| | 【特集】 放送と思考 | 松本正達 |
| | 座談会 これからの国語教育と放送教育 | 西本三十二, 清中喜平, 長橋席司 |
| | 実践研究 直聞直解の習慣形成をめざして | 松田章 |
| | 放送大学の設立について | 西本三十二 |
| | 中学校における学習指導の多様化 | 栗原喜久雄 |
| 10月号 | 巻頭言 教材基準の正しい理解と改訂を期待 | 松村謙 |
| | エレクトロニクスの未来像と教育 | 高柳健次郎 |
| | 日本放送教育学会第15回大会シンポジウム 放送教育のビジョン | 大内茂男, 野津良夫, 中野照海, 田中正吾, 西川卓男 |
| | 実践研究 放送学習の広がりや深まりを求めて | 出雲市立第三中学校 |
| | 現場教師の見たアメリカの教育事情(1) | 服部陽一 |
| 11月号 | 巻頭言 エレクトロニクスの発展と教育 | 大久保謙 |
| | 放送教育の現状を考えるー放送教育の目標についてー | 西本三十二 |
| | 教育実践としての番組研究 | 多田俊文 |
| | 特集 誌上シンポジウム 全国大会の研究主題を巡って | |
| | 【特集】 放送教育の現代的役割 | 石川桂司 |
| | 【特集】 考える・行動化する 能力の追求 | 蛭谷米司 |
| | 【特集】 知性化・生活化の教育をめざして | 岡村二郎 |
| | 【特集】 情報処理能力の形成を核として | 水越敏行 |
| | 【特集】 放送の教材性と教養性を総合して | 村井道明 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--------------------------------|-------------------------------|
| 11月号 | わたしの提言 受動的利用を乗り越える方向へ | 高桑康雄 |
| | 現場教師の見たアメリカの教育事情(2) | 服部陽一 |
| 12月号 | 巻頭言 1970年をかえりみて | 森戸辰男 |
| | シンポジウム 生涯教育における放送利用(1) | 麻生誠, 波多野完治, 五十嵐淳, 松原治郎 |
| | 第7回学校放送教育賞入選の喜びを語る | (14名) |
| | 昭和46年度幼稚園・保育所番組について | |
| | 昭和46年度学校放送番組について(小学校) | |
| 1月号 | 巻頭言 1971年への期待 | 西本三十二 |
| | わたしの提言 授業構成のための積極的利用を | 三枝孝弘 |
| | シンポジウム 生涯教育における放送利用(2) | 麻生誠, 波多野完治, 五十嵐淳, 松原治郎 |
| | 特集 第21回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】てい談 国際化する教育と放送 | 西岡武夫, 森戸辰男, 川上行蔵 |
| | 【特集】こどもとテレビ | ヒルド・ヒンメルワイト, 辰見敏夫, 波多野完治 |
| | 【特集】教育革新の展望と課題 | 沼野一男, 森昭, 白根礼吉, 大野連太郎 |
| | 【特集】校種別全体会 | 萩野正順, 大岩真五, 日比野輝雄, 藤沼巨, 藤原鴻一郎 |
| | 沖縄見聞記 放送教育研究会全国大会沖縄大会に参加して | 田口順次 |
| 2月号 | 巻頭言 先生と生徒の触れ合いを豊かにする番組 | 堀四志男 |
| | 学校放送番組合評 新しいテレビ番組を求めて | 西本三十二, 清中喜平 |
| | 特集 第21回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】幼稚園・保育所/幼・保が共通の基盤に | 大会事務局 |
| | 【特集】小学校/番組特性を生かした学習指導 | 大会事務局 |
| | 【特集】中学校/調和と統一のある教育を | 大会事務局 |
| | 昭和46年度NHK学校放送番組について(中学校, 高等学校) | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------|--------------------------------------|---------------------|
| 3月号 | 巻頭言 世界でもユニークな大事典 | 波多野完治 |
| | わたしの提言 教材の量的選択から質的選択 | 高橋勉 |
| | 座談会 教育のシステム化と放送教育 | 西本三十二, 清中喜平 |
| | 第7回学校放送教育賞入選論文 探究能力の開発をめざして | 石川県金沢市立緑小学校 |
| | 第7回学校放送教育賞入選論文 学習の近代化をめざす放送教育 | 福岡市立博多第一中学校 |
| | 第7回学校放送教育賞入選論文 僻地小規模校における放送教育全面導入の成果 | 山梨県立谷村工業高等学校定時制道志分校 |
| | 実践研究 学習の構造化と効率化をねらって | 大木英男 |
| 第21回放送教育研究会全国大会の記録 高等学校, 特殊学校 | | |

主な連載: 放送教育カルテ, コンサルタントルーム, 学校放送利用プラン, VTR教育実践報告, 校内放送研究, 施設研究コーナー



1970年6月号



1970年6月号

1971 (昭和46) 年度 (通巻265~276号)

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---|--------------------------------------|----------------------------|------|
| 4月号 | 巻頭言 新しい社会における生涯教育 | 川上行蔵 | |
| | 放送大学と公開大学 | 西本三十二 | |
| | システム化と最適化と | 波多野完治 | |
| | わたしの提言 適切な授業分析と諸教材の系統化を | 福村保 | |
| | 特集 これからの教育の課題と放送の役割 | | |
| | 【特集】アンケート これからの教育の課題と放送の役割 | 安藤鉄夫, 石川桂司, 伊藤昇ほか | |
| | 【特集】座談会 教育の課題と放送教育の展望 | 松村謙, 大内茂男, 高桑康雄, 赤松幹 | |
| | 昭和46年度放送教育行政 | 五十嵐淳 | |
| | 番組研究 新しい数学教育の場が誕生 新番組『中学生の数学』をめぐって | 小林茂, 赤摂也, 仲田紀夫, 日比野輝雄, 有泉裕 | |
| | 5月号 | 巻頭言 放送のもつ教育力とその可能性 | 宮地茂 |
| 教授・学習過程のシステム化と放送教材の利用 | | 馬場四郎 | |
| 指導プラン作成にあたってどんな点に留意すべきか | | 有光成徳 | |
| 現代幼児教育と放送 | | 鈴木博 | |
| 座談会 放送教育研究大会のあり方を求めて | | 西本三十二, 清中喜平, 家野修造ほか | |
| 番組研究「生活体験」から「生活意識」へ場を拡大 ラジオ道徳番組『行こうみんなで』『あすに向かって』のめざすもの | | 西尾豪之, 西村文男, 蓮池守一, 浦達也 | |
| 実践研究 理科学習の構造と放送教材の位置づけ | | 村岡耕治 | |
| 放送の利用と著作権 | | 黒川徳太郎 | |
| 6月号 | | 巻頭言 受け手と送り手の交流で放送教育の深化拡大を | 高橋勲 |
| | | 教授心理学からみた「映像の構造」 | 多田俊文 |
| | わたしの提言 教育の自己解体と再組織のなかで | 木原健太郎 | |
| | 座談会 未来をひらくための放送学習 | 西本三十二, 佐藤二郎ほか | |
| | 実践研究 映像読み取り指導の一方法 | 吉田貞介 | |
| | 金沢市立緑小学校の「映像読み取り指導」を読んで | 高村久夫 | |
| 7月号 | 巻頭言 教育危機を乗り越える国際的協力体制 | 平塚益徳 | |
| | 放送教育の実践的研究の展開—懸賞論文の内容分析から— | 辻功 | |
| | 情報処理能力と放送学習 | 西本三十二, 久故博睦ほか | |
| | 番組研究 技術と生活との結びつきを—ラジオ番組『技術と生活』をめぐって— | 曾我部泰三郎, 菲塚節子 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------------|---|-------------------|
| 7月号 | 実践研究 ラジオ教材の継続利用による子どもの思考の変容 | 相原要 |
| 8月号 | 巻頭言 校内放送の経験を地域教育に生かす | 木原健太郎 |
| | 特集 校内放送研究 | |
| | 【特集】情報処理能力の育成と校内放送 | 野田一郎 |
| | 【特集】一学期のプラン<小学校> | 田中美枝子 |
| | 【特集】二学期のプラン<中学校> | 安部知之 |
| | 【特集】放送指導のプログラム | 川浪富士夫 |
| | 【特集】放送資料の整備 | 春日芳 |
| | 【特集】アナウンスメント指導 | 伊藤節次 |
| | わたしの提言 放送教材がもつ特性の再吟味を | 島田啓二 |
| | 番組研究 ひとに学んで自らを考える—高校生向け『わたしの人生』がめざすところ— | NHK 学校放送部 |
| 9月号 | 実践研究 豊かな学習を求めて—学級担任としての利用方法— | 秋田県本荘市立新山小学校 |
| | 第12回放送教育賞 荒れはてた教育環境をたて直して | 山本真一 |
| | 第12回放送教育賞 魅力あるメディアで考える学習を | 佐藤二郎 |
| | 第12回放送教育賞 機器に先行する教師の主体性確立 | 柳沢喜孝 |
| | 第12回放送教育賞 “与えられる”から“立ち向かう”学習へ | 中沢良三 |
| | 巻頭言 放送学研究的の意味と課題 | 一戸久 |
| 10月号 | 現代教育における学習指導法の追求—学習指導法の分析と問題点—(1) | 中野照海 |
| | 教育放送の覚え書(1) | 川上行蔵 |
| | わたしの提言 教育に楽しさと心を | 小倉喜久 |
| | 学校放送番組合評 新しいテレビ番組を求めて | 西本三十二, 家野修造ほか |
| | 実践研究 学校放送利用システムの変遷と展望 | 沢口衛 |
| | 実践研究 幼稚園・小学校の一貫性をねらった放送教育 | 福井県鯖江市立北中山小学校・幼稚園 |
| 「プリ・ジュネース」談話会 青少年向けテレビ番組“お祭り”のレポート | 布留武郎 | |
| 10月号 | 巻頭言 金沢大会を全国的な研究交流の場に | 織田富勝 |
| | 現代教育における学習指導法の追求—学習指導法の分析と問題点—(2) | 中野照海 |
| | 教育放送の覚え書(2) | 川上行蔵 |
| | 放送教育とダイレクト・ティーチング | 西本三十二 |
| | わたしの提言 視聴能力と評価法の再検討を | 野津良夫 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------|-------------------------------|--|
| 10月号 | 実践研究 放送教育の効果をこう考える | 吉田秀三 |
| | 実践研究 主題の内面化をねらって | 森隆一 |
| 11月号 | 巻頭言 時宜をえた適切な刊行 | 坂元彦太郎 |
| | 教育放送の覚え書(3) | 川上行蔵 |
| | わたしの提言 放送教材の特性を生かした指導法 | 村田昇 |
| | 座談会 学校放送の利用とそのプランニング | 大内茂男, 和田泰輔, 鈴木鋁二, 降旗経雄, 西山昭雄, 東和彦 |
| | テレビの直接教育作用をたしかめる | 西本三十二, 家野修造ほか |
| | 実践研究 放送教材利用の焦点—教師の視聴眼— | 橋本昭 |
| | 実践研究 不毛の原野の開拓から | 永田滋史 |
| | 実践研究 社会科学習と視聴ノート | 原玲子 |
| | 実践研究 中学年の読書開眼に役立つ『みんなの図書室』 | 池上真澄 |
| | 番組制作と考証資料 | 畦上知男 |
| 12月号 | 巻頭言 成長した日本賞教育番組国際コンクール | 吉田正 |
| | 特集 セサミ・ストリート | |
| | 【特集】セサミ・ストリートと幼児教育 | 西本三十二 |
| | 【特集】私の見たセサミ・ストリート | 鈴木博 |
| | 【特集】心の働きと番組の構造 | 宇佐美昇三 |
| | 【特集】幼児番組制作者から見たセサミ・ストリート | 佐藤浩一 |
| | 【特集】セサミ・ストリートのスタジオ訪問 | 後藤田純生 |
| | 第8回学校放送教育賞入選のよこび | |
| | 昭和47年度幼稚園・保育所番組について | |
| | 昭和47年度学校放送番組について(小学校) | |
| 1月号 | 巻頭言 放送教育進展の年 | 西本三十二 |
| | 特集 第22回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】これからの教育と放送 | 東洋, 蛭谷米司, 多田道太郎, 坂元昂, 中野照海, 大野連太郎, 品川孝子, 中川善之助, 水越敏行, 小嶋秀夫, 富安芳和 |
| 【特集】教育改革への提言 | 貝塚茂樹, 木原健太郎, 高木健太郎, 林雄二郎, 麻生誠 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|------------------------------|
| 1月号 | 【特集】校種別全体会レポート | 原田澤子, 大岩真五, 宮本豊治, 林三郎, 藤原鴻一郎 |
| | 【特集】全国大会印象記 | 村上師幸, 宮幸彦 |
| | こんな特色と利用法がある—「放送教育大事典」 | 馬場四郎, 斎藤伊都夫, 和田泰輔, 畠山芳太郎 |
| | レコード・ライブラリー—NHK資料センターより— | 萩原執孝 |
| 2月号 | 巻頭言 大学間の交流を促進する一助に | 堀四志男 |
| | 対談 人間教育と放送 | 湯川秀樹, 西本三十二 |
| | 第8回学校放送教育賞入選論文 桜塚小学校の放送利用・継続視聴10年の歩み | 大阪府豊中市立桜塚小学校 |
| | 第8回学校放送教育賞入選論文「城北教育」の現代化に果たした放送教育の役割とその展望 | 愛知県岡崎市立城北中学校 |
| | 沖縄は放送教育に期待する—第6回放送教育研究会沖縄大会を訪れて— | 林三郎 |
| | 訪問指導による特殊教育 | 山下清雄 |
| 3月号 | 巻頭言 新しい教育機器の活用とソフトウェア | 諸沢正道 |
| | わたしの提言 映像教育への志向を | 宇川勝美 |
| | 実践研究 放送番組を統合する理科授業の研究 | 奥田五郎, 藤村茂 |
| | 実践研究 映像を中心に探究的に考え調べる子をめざして | 神奈川県川崎市立向丘小学校 |
| | 実践研究 放送が流す論理を受容する能力を数値化する試み | 石戸勲 |
| | 全国を一学区とした通信制高校—創立10周年を迎えるNHK学園— | 河野次男 |
| | 主な連載: 実践講座, NHK録音・映画・録画教材, NETテレビ, プランニング, 校内放送研究, 施設研究コーナー | |

1972 (昭和47) 年度 (通巻277~288号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------|---|------------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 大学教育放送の新しい模索 | 前田義徳 |
| | 特集 放送利用の年間プラン | |
| | 【特集】学校放送を利用した年間指導計画 | 松村謙 |
| | 【特集】学校放送番組制作の姿勢 | 赤松幹 |
| | 【特集】わたしの放送利用 放送利用の年間計画 | 林理代, 馬場淳子, 鈴木勢津子, 村岡耕治ほか |
| | 対談 放送教育の進展をめぐって | 西本三十二, 蛭谷米司 |
| | 世界教育テレビセミナー 放送が教育にもたらすもの | 大内茂男, 吉田正 |
| | 昭和47年度視聴覚教育行政の重点施策 | 山中昌裕 |
| 5月号 | 巻頭言 幼児教育から成人教育まで一生涯教育における放送の役割 | 有光次郎 |
| | 放送学習の指導と評価 | 西本三十二, 久故博陸 |
| | 理科番組の教育特性とその利用 | 蛭谷米司 |
| | わたしの提言 放送教育におけるシステム化の問題点 | 阿久津喜弘 |
| | 実践研究 発展的な思考の体制を育てる 小学校中学年社会科テレビ番組の有効性と必要性 | 佐々木勲 |
| 6月号 | 巻頭言 子どもの主体的な活動を軸に | 重松鷹康 |
| | 放送大学と大学放送 | 西本三十二 |
| | 社会科番組の教育特性とその利用 | 小林信郎 |
| | わたしの提言 放送教育に教師の主導性を | 吉田章宏 |
| | スタジオから教室から 画面とことば 小学校低学年社会科 | 浜田陽太郎, 松村謙, 石川朋郎, 滝田澄子, 貴志昌夫・網島富美子 |
| 自作録音録画教材コンクール入選台本 | 弥永志津夫, 石水修二, 大瀬敏克, 齋純夫 | |
| 7月号 | 巻頭言 効率的な教育と人間形成との調和を | 森戸辰男 |
| | 国語科番組の教育特性とその利用 | 倉沢栄吉 |
| | 座談会 視聴ノートから子どもの変容をさぐる | 西本三十二, 清中喜平ほか |
| | スタジオから教室から テレビと自然観察 小学校低学年理科 | 杉村富美子, 関口敏雄, 堀江固功 |
| | スタジオから教室から 考える力を育てる 小学校中学年理科 | 五十嵐寿, 黒田弘行, 清水堯, 宮下久男 |
| | 自作録音録画教材コンクール入選台本 | 藤森章, 有川滋 |
| | 実践研究 化学反応の指導の研究 | 石戸励 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------|---|-------------------------------|
| 8月号 | 巻頭言 教師の創造性・自発性と教育機器の活用 | 奥田真文 |
| | 特集 教育システム化の周辺 | |
| | 【特集】教授・学習過程と放送教育 | 東洋 |
| | 【特集】教授・学習システムと放送利用 | 三枝孝弘 |
| | 【特集】授業過程としてのテレビ映像 | 滝沢武久 |
| | 【特集】教育工学の発展と放送教育 | 多田俊文 |
| | 【特集】発見学習と放送教材の接点 | 水越敏行 |
| | 共同研究 放送を核とする総合学習 | 西本三十二, 家野修造, 津岡敬一, 河田泉夫 |
| | 脳と教育 | 時実利彦 |
| | わたしの提言 テレビ教材独自の機能を生かす | 西本洋一 |
| 9月号 | 地域教材の開発とその利用—自作録音録画教材コンクール入選作品の制作と利用をめぐって— | 弥永志津夫, 林三郎, 高橋増雄ほか |
| | スタジオから教室から 問題構成の視点 小学校高学年理科 | 村岡耕治, 堀江固功, 新沼孝夫, 小国伝蔵 |
| | 高等学校における教育の改善と放送利用について | 全国高等学校放送教育研究会調査研究委員会 |
| | 巻頭言 教育の生産性を高める | 山口勝寿 |
| 10月号 | 数学科番組の教育特性とその利用 | 仲田紀夫 |
| | 放送大学番組の教室学習(中間報告) | 西本三十二, 瀬川武美 |
| | 座談会 幼児番組の利用をめぐって 子どもの反応を生かしながら『じんざえもん』と5人のともだち』 | 花田登由子, 西平勝美, 高倉真記子, 高木励治 |
| | 座談会 幼児番組の利用をめぐって 生活への積極的な意欲『みんなのせかい』 | 貫名清子, 沢井悦子, 柴市豊子, 岩間辰弥, 小林弘明 |
| | 座談会 幼児番組の利用をめぐって 遊びのなかから知的な芽を『びっくりばこドン』 | 山田涼子, 中美智子, 秋田久美枝, 武井照子, 佐々木敦 |
| | スタジオから教室から『集合』の考え方をつくる『いちにのさんずう』 | 滝沢武久, 西内久典, 嘉部好修, 安達勉, 坂本茂信 |
| | 視聴覚教育研修カリキュラム標準案 | 文部省社会教育審議会教育放送分科会 |
| | 実践記録 読書放送番組の利用 | |
| | 巻頭言 映像独自の働きを生かして授業改造 | 蛭谷米司 |
| | 音楽番組の教育特性とその利用 | 真篠将 |
| 放送学習と情報処理能力 | 西本三十二, 久故博陸 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------|---|------------------------------|
| 10月号 | わたしの提言 人間を基底にした機器の活用 | 山口勝寿 |
| | わたしの提言 普及方法の体系的研究 | 辻功 |
| | スタジオから教室から 表現学習とテレビの役割 一笛をふこうー | 高橋清, 浜口嘉久子, 末吉保雄, 杉村靖弘, 岩浅農也 |
| | スタジオから教室から テレビの特性を見直そうー音楽番組と映像ー | 山本かほる, 飯島鮎良, 大羽襄, 坂本茂信 |
| | 視聴覚教育研修カリキュラム標準案について | 有光成徳 |
| 11月号 | 巻頭言 豊かな人間形成と放送の役割を追求 | 松村謙 |
| | シンポジウム 放送教育における視聴能力 | 蛸谷米司, 大内茂男, 白根孝之, 滝川晃三, 野津良夫 |
| | わたしの提言 視聴能力を育てる活動の組織化を | 高桑康雄 |
| | スタジオから教室から 映像の見方を育てるー『テレビの旅』を利用してー | 多田俊文, 岸たつ枝, 松本盛男, 内川隆, 岩浅農也 |
| | 性教育の現状と放送教育 | NHK教育局性教育番組プロジェクトチーム |
| | 海外における「国語」「文学」番組の傾向「日本賞」教育番組国際コンクール参加番組から | |
| | 実践研究 テレビ映像構造(機能)がもたらす映像的思考の発達 | 野々村忠 |
| | 実践研究 校内における研修カリキュラム | 野田一郎 |
| 12月号 | 巻頭言 学習者の立場に立って | 織田富勝 |
| | 道徳番組の教育特性とその利用 | 大内茂男 |
| | わたしの提言 放送学習の特質と視聴反応の考え方 | 金築修 |
| | スタジオから教室から 生活ドラマと道徳指導『明るいなかま』をめぐる | 岩間芳樹, 坂本誠, 杉本勝久, 坂本茂信 |
| | スタジオから教室から 地域化と一般化『ひらけゆけ町』をめぐる | 大久保明夫, 白寄穹, 児島令枝, 本吉光男, 岩浅農也 |
| 校内における研修カリキュラムー放送利用・VTRを中心にー | 柴田恒郎 | |
| 1月号 | 巻頭言 一九七三年の放送教育 | 西本三十二 |
| | 特集 第23回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】総合全体会 豊かな人間をめざして 視聴能力とは何か | 蛸谷米司, 秋田久実枝, 櫻谷利明, 滝川晃一 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|------------------------------|
| 1月号 | 【特集】総合全体会 豊かな人間をめざして 放送教育に対する教師の意識 | 菊地信彦 |
| | 【特集】総合全体会 豊かな人間をめざして 映像の教育機能を生かす | 東洋, 蛸谷米司, 羽仁進, 山田宗睦 |
| | 【特集】校種別全体会 視聴能力の究明 | 原田滯子, 大岩真五, 小林正太郎, 林三郎, 鈴木一美 |
| | 【特集】広島大会/ スタートからゴールまで | 木原恵 |
| | 【特集】沖縄会場レポート | 原田滯子 |
| | 【特集】放送教育機器展レポート | 青柳佳之 |
| | 沖縄放送教育紀行 | 西本三十二 |
| | わたしの提言 少年教育からのアプローチ | 斎藤伊都夫 |
| | 巡回ライブラリーを創設 日本賞の成果を世界各地に | 吉田正 |
| | 第9回学校放送教育賞 放送の生活化と取り組んで「見るテレビ学習」から「活用するテレビ学習」へ | 高松市立亀阜小学校 |
| 2月号 | 巻頭言 テレビ時代だからこそこぼをたいせつに | 岩淵悦太郎 |
| | 英語科番組の教育特性とその利用 | 穴戸良平 |
| | スタジオから教室から 多教材時代の英語教育 | 青木清, 大河内武久, 三井俊一, 浜田陽太郎 |
| | 第9回学校放送教育賞 幼児と放送教育 | 滋賀県野洲郡中主町立中主幼稚園 |
| | 理科番組における興味反応と理解反応 | 谷口弘一, 佐藤克彦 |
| | 昭和48年度幼稚園・保育所番組について | |
| | 昭和48年度学校放送番組について(小学校) | |
| | | |
| 3月号 | 巻頭言 弾力的な利用形態と多様な組合わせを | 細谷俊夫 |
| | 放送大学番組の教室学習(中間報告つづき) | 西本三十二, 瀬川武美 |
| | わたしの提言 二つの放送教育実践論 | 安藤忠吉 |
| | 学校放送教育賞 放送教育五か年の歩み | 福島県伊達郡梁川小学校 |
| | 昭和48年度NHK学校放送番組について(中学校, 高等学校) | |

主な連載：わたしの放送利用, NHK録音・映画・録画教材, NETテレビ, 校内放送研究, 施設研究コーナー

1973 (昭和48) 年度 (通巻289~300号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 教育方法改善のテコとして | 岩間英太郎 |
| | 効率化と個性化の接点を求めて | 水越敏行 |
| | 昭和48年度の視聴覚行政 | 山中昌裕 |
| | 対談 学校経営と放送教育 | 松村謙, 阿部義理 |
| | スタジオから教室から 道徳指導と人形劇 小学校低学年 | 児島令枝, 岡崎明俊, 大高晋, 岩浅農也 |
| | スタジオから教室から 『探求の科学』とテレビ | 服部陽一, 森川哲次郎, 玉木孚, 浜田陽太郎 |
| | 実践記録 教育の現代化と放送教育の日常化 | 佐賀市立北川副小学校 |
| | 第九回学校放送教育賞 わが校の放送教育 | 柏崎市立中通中学校 |
| 5月号 | 巻頭言 放送利用の成果を高めるために | 豊田昭 |
| | 教育の個性化と放送教育 | 三枝孝弘 |
| | インタビュー 人間主義における教育機器の利用 | 村井実 |
| | スタジオから教室から 名作と映像表現 小学校低学年 | 浜田陽太郎, 黒田淑子, 佐々木巳枝, 森久保仙太郎, 坂元英子 |
| | スタジオから教室から 新しい高校理科教室 | 小倉隼二, 塚原徳道, 西山正, 玉木孚 |
| | 実践研究 学習意欲を育てる学校放送の利用 | 相原要 |
| | 実践研究 歴史教育と放送の役割—学校放送『美術の世界』継続の視聴を中心に— | 鶴崎裕雄 |
| | 第九回学校放送教育賞 高校教育の体質改善を求めて | 札幌竜谷学園札幌女子高等学校 |
| 6月号 | 巻頭言 主体的活動としての情報処理 | 大内茂男 |
| | フィーリング・映像・思考 | 麻生誠 |
| | 幼稚園における放送教育経営 | 鈴木博 |
| | インタビュー 子どもに直接に働きかける | 重松鷹泰 |
| | 放送学習とダイレクト・ティーチング | 西本三十二, 清中喜平ほか |
| | スタジオから教室から 数学的思考とテレビ | 岡本光司, 仲田紀夫, 松井幹夫, 西内久典, 浜田陽太郎 |
| | 学習指導を充実させる放送教材の利用—社会科・理科を中心に— | 埼玉県大里郡岡部町立榛沢小学校 |
| | 7月号 | 巻頭言 夏休みの自主的な学習設計に |
| 放送利用と研修—放送利用の特性を考えた研修をどう組織するか— | 高桑康雄 | |
| インタビュー これからの教育と放送教育 | 平塚益徳 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|-------------------------------|--|
| 7月号 | 対談 教育機器の利用を高める戦略・戦術—高校理科— | 大内茂男, 有光成徳 |
| | 豊かな人間を育てる放送教育 | 西本三十二, 石田誠治ほか |
| | スタジオから教室から 自発的学習とテレビ番組 | 五十嵐辰男, 高橋茂生, 白瀬司郎, 玉木孚, 安達俊雄 |
| | 実践研究 豊かな人間性の育成 | 宮城県泉市立根白石中学校 |
| | 実践研究 テレビ教材をどう学習に利用するか | 乾実 |
| | 8月号 | 巻頭言 家庭・学校・社会の有機的連携 |
| 『マイクの旅』の訓えるもの | | 波多野完治 |
| インタビュー 国際化の時代に対応して—国際理解を深めるための教育と放送— | | 吉田正 |
| 思考力を育てるテレビ学習 | | 西本三十二, 松葉弘ほか |
| 生涯教育における放送利用のあり方 その効果と発展(1) | | 室俊司, 雪江美久, 羽仁進, 神山順一 |
| スタジオから教室から 教室でできない理科 | | 玉田泰太郎, 山下和夫, 堀江固功, 坂本茂信 |
| 実践研究 名作番組を利用したの反応—低学年番組のみ、きくを通して | 佐々木巳枝 | |
| 9月号 | 巻頭言 情報処理能力の育成に力点を | 斎藤実 |
| | 放送教育の効果的指導法 | 辻功 |
| | インタビュー 情報処理能力の育成と放送学習 | 大内茂男 |
| | 生涯教育における放送利用のあり方 その効果と発展(2) | 室俊司, 雪江美久, 羽仁進, 神山順一 |
| | 座談会 放送教育の施設設備はどうあるべきか | 田甫勝次, 長谷川忍, 日比野輝雄, 山本幹夫 |
| | スタジオから教室から 生活ドラマ番組を考える | 福沢平一, 浅野加寿子, 菊池道彦, 佐多光昭, 小滝一志, 岩淵真佐子, 蓮池守一, 多田俊文 |
| 10月号 | 巻頭言 社会教育における放送利用の充実・拡充を | 佐伯信男 |
| | 教育における情報処理 | 蛸谷米司 |
| | 放送学習と放送利用学習 | 安藤忠吉 |
| | 映像と言語 | 岡田晋 |
| スタジオから教室から 見つめる力を育てる | 井越喜春, 牧野博太郎, 宮沢照幸, 中路俊弘, 安達俊雄 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------|--|--|
| 11月号 | 巻頭言 放送教育の進展に一步を進めた札幌大会 | 斑目文雄 |
| | 知的生産第一主義と映像の可能性 | 多田俊文 |
| | 放送と思考力 | 永野重史 |
| | 座談会 札幌大会を語る(上) | 西本三十二, 清中喜平, 安藤忠吉, 内館祐二, 西田光男, 小田自郎, 堀川勉 |
| | スタジオから教室から 産業学習とテレビ | 高橋芳秋, 佐島群巳, 海老原正寿, 多田俊文 |
| | 実践研究 テレビ教材を学習活動にどう位置つけたらよいかー理科指導とVTRー | 乾実 |
| | 教材基準とその経費の扱い方 | 有光成徳 |
| | 12月号 | 巻頭言 実用的な面と純理論的な面と |
| 特集 第24回放送教育研究会全国大会の記録 | | |
| 【特集】総合全体会 放送学習はどのようにとらえていったらよいか | 辻功, 蛸谷米司, 奈良英夫 | |
| 【特集】児童の主體的な学習展開を軸にー「瀬戸内海の漁業」からー | 松本和子 | |
| 【特集】シンポジウム ひとりひとりが豊かに伸びる教育をめざして | 桑原万寿太郎, 手塚治虫, 滝沢武久, 安藤鉄夫 | |
| 【特集】校種別全体会レポート | 早坂一正, 井口尚之, 村上師幸, 林三郎, 佐藤昌一 | |
| 座談会 札幌大会を語る(下) | 西本三十二, 清中喜平, 安藤忠吉, 内館祐二, 西田光男, 小田自郎, 堀川勉 | |
| スタジオから教室から 自然への目をどう開くーテレビと保育ー | 蛸谷米司, 永柴澄恵, 高木欣治 | |
| 1月号 | 巻頭言 教育放送は将来にわたって必要 | ゲルハルト・マレット |
| | 新春対談 昭和50年代の放送と教育 | 小野吉郎, 西本三十二 |
| | 放送利用と効果の測定について | 坂本昂 |
| | 国際的な教育番組の質的向上をめざして | クレオレンス・カーペンター |
| | スタジオから教室から 名作のテレビ番組化 | 多田俊文, 鈴木勢津子, 荒木千春子, 坂本英子 |
| | 第10回学校放送教育賞 よりよい授業を求めてー放送利用10年の歩みー | 東京都府中市立府中第一小学校 |
| | 第10回学校放送教育賞 親と共にー親子同時視聴記録からー | 山形県酒田市天真幼稚園 |
| | 実践研究 放送教材をバネとした社会科学習 | 小久保聖 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--------------------------------|----------------------------|
| 2月号 | 巻頭言 内容の充実と質的向上をめざして | 豊田昭 |
| | 放送学習における教師の役割 | 西本三十二, 久故博陸ほか |
| | スタジオから教室から 理科番組の資料性 | 青木啓嘉, 細越良三, 山極極, 玉木孚, 坂本茂信 |
| | 実践研究 放送の特性を生かした保育のあり方を求めて | 広島県呉市仁方保育所 |
| | 実践研究 ゆたかな情操とするどい探究心を伸ばすために | 福島県いわき市立湯本第二小学校 |
| | 昭和49年度幼稚園・保育所番組について | |
| | 昭和49年度学校放送番組について(小学校) | |
| 3月号 | 巻頭言 放送教育300号に思う | 坂元彦太郎 |
| | 放送教育を設計するー新学期に備えて | 西本三十二, 清中喜平 |
| | スタジオから教室から 教室でできない社会科 | 蜂谷義雄, 本間良子, 勝山良彦, 浜田陽太郎 |
| | 第10回学校放送教育賞 情報処理能力の育成をめざして | 北海道札幌市立北辰中学校 |
| | 昭和49年度NHK学校放送番組について(中学校, 高等学校) | |

主な連載：社会放送教育ノート、わたしの放送利用、NHK 録音・映画・録画教材、NETテレビ、校内放送研究、施設研究コーナー

1974 (昭和49) 年度 (通巻301~312号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|----------------------------------|------------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 新学年と放送教育 | 西本三十二 |
| | 教育の革新と映像の役割 | 佐藤三郎 |
| | 授業システム化と放送学習 | 上野辰美 |
| | 教育における放送利用の促進—昭和49年度視聴覚教育行政— | 佐伯信男 |
| | 座談会 放送教育—その現状と目ざす方向— | 奥田真丈, 中野照海, 児玉邦二, 松村謙 |
| | 座談会 新番組の方向—音楽番組— | 陣内省三, 灘友瑛, 三輪準一郎, 植村脩, 杉村靖弘, 浜田陽太郎 |
| | 放送教育実践論 体験的放送学習論 | 西田光男 |
| | 実践記録 情報化社会に対応する地学教育 | 山田幹夫 |
| | アンケート 昭和49年度わたしの放送利用 | 藤本福雄, 松葉弘, 恒川努ほか |
| 5月号 | 巻頭言 映像教育としての放送 | 森戸辰男 |
| | 誌上シンポジウム 教育実践における番組研究 | 辻功 |
| | 意見1 「教材概念」の本質論的再検討を—「シリーズ構成」研究へ— | 多田俊文 |
| | 意見2 番組研究の進め方—「視聴記録」の累積と分析 | 宮地重雄 |
| | 意見3 子どものために役立つ番組研究を | 蓮池守一 |
| | 放送学習を考える—その基盤をささえるもの— | 西本三十二, 清中喜平ほか |
| | 座談会 学校放送の課題 | 浜田陽太郎, 多田俊文, 石田岩男 |
| | 放送教育実践論 自主的な問題解決の能力の育成 | 鈴木勢津子 |
| | 6月号 | 巻頭言 新しい放送教育の発展を願って |
| 放送学習の本質は問題解決的思考である | | 蛭谷米司 |
| てい談 社会学習の本質と放送学習のかかわり | | 西本三十二, 池田誠一郎, 湯浅益一 |
| 放送教育実践論 学習の本質を追求する放送学習—子どもの反応をよりどころとして— | | 久故博睦 |
| 実践研究 主体的な学習態度の育成をめざす放送教材の活用 | | 春山国行 |
| 7月号 | | 巻頭言 放送教育独自の機能を生かす |
| | 誌上シンポジウム 放送学習と主体的学習 | 滝沢武久 |
| | 意見1 先行するのは主体的学習の成立条件 | 小林学 |
| | 意見2 『放送学習』一般論は無意味である | 宇佐美寛 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|--------------------------|
| 7月号 | 意見3 姿勢の柔軟さが主体的学習を生む | 村上師幸 |
| | 放送教育実践論 新しい人間としての価値をつくる放送教育 | 吉田秀三 |
| | 実践研究 学校放送を利用した映像時代の教育 | 埼玉県幸手町立吉田第一小学校 |
| 8月号 | 巻頭言 子どもの心をゆさぶるものを | 小山昌一 |
| | 放送教育の現代教育における意義—生涯教育の観点から— | 斎藤伊都夫 |
| | 中学校・高等学校における放送利用の特質 | 秋山隆志郎 |
| | 教科学習における放送利用<1>放送利用と国語 | 倉沢栄吉, 田中美枝子, 北村清, 多田俊文 |
| | 放送教育実践論 探究する理科学習—見る・聞く・考える力を育てる— | 大平司 |
| | 実践研究 報道番組を社会科学学習に生かす試み—『近畿の話題』と『わたしたちのくらし』(4年)の継続視聴指導をとおして— | 岡尾重 |
| 9月号 | 巻頭言 教育機器の活用で教育の効果を | 玉置敬三 |
| | 誌上シンポジウム 放送学習における教師の役割 | 水越敏行 |
| | 意見1 自主発展学習への勧誘と助力を | 松葉弘 |
| | 意見2 番組の改善・充実に役立てる | 長谷川忍 |
| | 意見3 水越理論に対する三つの疑問 | 大内茂男 |
| | 教科学習における放送利用<2>放送利用と社会科 | 佐島群巳, 春山国行, 鈴木一男, 津下正孝 |
| 10月号 | 放送教育実践論 放送の単元利用 | 笠原治 |
| | 巻頭言 文字文化偏重からの脱却 | 倉沢栄吉 |
| | 誌上シンポジウム (放送学習の評価) 日常の目こそ名人の目 | 多田俊文 |
| | 意見1 学習過程そのものを血潮脈打つ評価過程として | 奈良英夫 |
| | 意見2 具体的な目安の確立を | 富永重作 |
| | 意見3 評価の科学化の重視 | 中野照海 |
| 11月号 | 教科学習における放送利用<3>放送利用と理科 | 伊神大四郎, 荻須正義, 鈴木勢津子, 和田泰輔 |
| | 放送教育実践論 自主的・創造的な生活態度の育成 | 瑞穂光子 |
| | 巻頭言 学校経営と放送教育 | 田甫勝次 |
| 11月号 | 教科学習における放送利用<4>放送利用と音楽 | 泉靖彦, 水野允陽, 末吉保雄, 檜原正 |
| | 放送教育実践論 多元論的放送教育の設計 | 寒川孝久 |

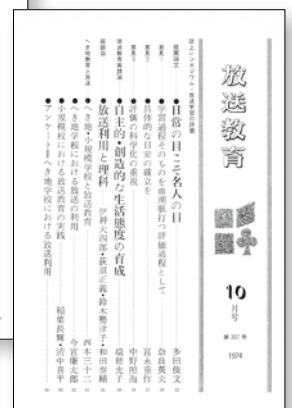
| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------|---|---|
| 12月号 | 巻頭言 現代の幼児教育と放送 | 小田山幾子 |
| | 誌上シンポジウム 多教材時代の放送教育の役割 | 宇川勝美 |
| | 意見1 放送本来の特性を助長する工夫を | 野津良夫 |
| | 意見2 直接教育作用をこそ生かすべき | 家野修造 |
| | 意見3 効率的な教授指導の組織化を | 滝川昇三 |
| | 放送教育実践論 学級経営に放送を生かす教師の役割 | 牧野博太郎 |
| | 実践研究 多教材時代における放送番組の利用 | 山田幹夫 |
| 1月号 | 巻頭言 放送教育の新展開—第25回東京大会をかえりみて— | 西本三十二 |
| | 新春対談 放送教育／回顧と展望 | 森戸辰男、西本三十二 |
| | 特集 第25回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】あすへの出発＜放送と教育を語る＞ | 永井道雄、真鍋博、中野照海、西本三十二、富田義美、西沢実、デビッド・グリフィス、佐藤忠男、樋口恵子、鈴木健二、河辺冽子 |
| | 【特集】校種別全体会レポート | 高杉自子、井口尚之、小林正太郎、水越勇、河合久治 |
| 放送教育実践論 日常化されてこそほんものに | 江口友之 | |
| 2月号 | 巻頭言 教育の動向に積極的に対応—昭和50年度の学校放送番組編成にあたって— | 沢田晋 |
| | 教科学習における放送利用＜4＞放送利用と道徳 | 西村文男、橋本誠司、児島令枝、蓮池守一 |
| | 第11回学校放送教育賞 放送による幼稚園と家庭の連携をめざして 放送教育19年のあゆみ— | 東京都文京区立第一幼稚園 |
| | 第11回学校放送教育賞 放送教育の伝統を生かし未来に生きる人間形成をめざす教育実践 | 徳島県鳴門市立瀬戸小学校 |
| | 放送教育実践論 放送教育における評価 聞くこと・話すことの学習に「ラジオ国語教室」を取り入れた場合 | 井沼敏子 |
| | 昭和50年度幼稚園・保育所番組について 昭和50年度学校放送番組について（小学校） | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|-----------|
| 3月号 | 巻頭言 放送事業開始50周年に想う | 荒川大太郎 |
| | 第11回学校放送教育賞 幼児ひとりひとりの主体的な行動を伸ばすため—全園体制による継続視聴の実践を通して— | 札幌市・幌東幼稚園 |
| | 第11回学校放送教育賞 子どものつくる放送学習—放送学習の分析を通して一般化をはかる— | 札幌市立曙小学校 |
| | 実践記録 視聴能力を高めるための実践 | 長嶋徒利 |
| | 昭和50年度NHK学校放送番組について（中学校、高等学校） | |

主な連載：わたしの放送利用、NHK録音・映画・録画教材、放送教育相談室、放送教育実践講座、へき地教育と放送、生涯教育と放送、校内放送活動、施設研究コーナー



1974年4月号



1974年10月号

1975 (昭和50) 年度 (通巻313~324号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 教育の革新と放送教育 | 永井道雄 |
| | 新文相に望む | 西本三十二 |
| | 新年度にあたっての放送利用の体制づくり | 有光成徳 |
| | 教師の放送教育観を考える | 秋山隆志郎 |
| | 座談会 現代っ子の道徳指導 | 蓮池字一, 久保田昌子, 橋本誠司, 碓井時子 |
| | 放送教育実践論 | |
| | 番組研究 低学年におけるテレビの役割を考えるー『あいうえお』『いちにのさんすう』の誕生にあたって | 堀江固功, 赤堀正宜, 杉依孝, 高須寅清, 西内久典, 山根宏之 |
| | “さんすう”は楽しいー『いちにのさんすう』一つの実例報告ー | 西内久典 |
| | “見る”ことから豊かな言語活動へー『あいうえお』誕生までー | 村山重則 |
| | 人間にとって自然とは何かー『みどりの地球』 | 遠藤二郎 |
| 放送教育実践論 放送による放送のためー一回想的放送教育私論ー | 小田自郎 | |
| 5月号 | 巻頭言 教育テレビの可能性を生かす | W・シュラム |
| | 特集 映像を考える | |
| | 【特集】イメージ・映像=教育ー映像の教育性と映像教育ー | 岡田晋 |
| | 【特集】映像社会と放送教育 | 山村賢明 |
| | 【特集】曖昧さの中で人の心と心とを結ぶ | 堀江固功 |
| | 【特集】組み合わせの中で意味をつくる | 西川進一 |
| | 【特集】座談会 映像を考える | 波多野完治, 大内茂男, 高桑康雄 |
| | 放送教育実践論 放送の特性を生かすことが肝要であるーラジオ名作番組によって読解力・読書力を培うー | 板尾英之 |
| 番組研究 強化される高校向けラジオ番組 | | |
| 6月号 | 巻頭言 へき地教育と放送の活用 | 天城勲 |
| | 特集 放送の統合的機能 | |
| | 【特集】放送教材の統合的機能ー放送教育に新たな活力を与えるためにー | 中野照海 |
| | 【特集】放送の総合的な機能を生かした利用 | 松村謙 |
| | 【特集】番組研究 環境教育としての『みどりの地球』 | 小尾圭之介, 影山一夫, 細井元, 遠藤二郎, 杉本勝久 |
| | 【特集】『みどりの地球』環境教育の立場からの利用 | 旭スズエ |
| 【特集】教科の枠を越えてー理科教室四年生「川の水のはたらき」をみてー | 水野寿夫 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------|---|-------------------------|
| 6月号 | 【特集】自主学習の芽を育てた視聴の生活化 | 溝内玲子 |
| | 講座 映像を考える<1>教師にとって映像研究とは何か | 波多野完治 |
| | 放送教育実践論 スイッチポンによる放送学習の日常化 | 嘉村迪也 |
| | 実践記録 テレビ視聴による理科学習の実際 | 川端下英夫 |
| 7月号 | 巻頭言 こどもとテレビ | 布留武郎 |
| | 特集 放送利用の学習指導案 | |
| | 【特集】放送利用の学習指導案作成上の留意点 | 長谷川忍 |
| | 座談会 「放送利用の多様化」の問題点<上> | 西本三十二, 家野修造, 久故博睦, 清中喜平 |
| 8月号 | 講座 映像を考える<2>映像的コミュニケーションと言語的コミュニケーション | 阿久津喜弘 |
| | 実践記録 放送教材を取り入れた社会科指導ー六年『くらしの歴史』を継続視聴してー | 兼松靖 |
| | 巻頭言 本格的テレビの時代へ | 高柳健次郎 |
| | 座談会 「放送利用の多様化」の問題点<下> | 西本三十二, 家野修造, 久故博睦, 清中喜平 |
| 9月号 | 座談会 環境教育をどのようにすすめるか | 川端下英夫, 柴田恒郎, 鈴木一男, 津下正孝 |
| | 講座 映像を考える<3>映像のもつ意味とはたらきー言葉との対比でー | 外山滋比古 |
| | 放送教育実践論 複伏線型放送学習の構想ー社会科教材を中心にー | 佐々木勲 |
| | 実践研究 五歳児の継続視聴とおして『フルルくん』に期待すること | 早坂直子 |
| 10月号 | 巻頭言 向こうにあるものを主体的にとらえる | 坂元彦太郎 |
| | 特集 放送教育における発展学習 | |
| | 【特集】放送教育と主体的学習 | 重松鷹康 |
| | 【特集】経験の統合・転移をめざしてー理科四年「空気の温度」ー | 大塚俊郎 |
| 11月号 | 【特集】生徒の手でしくレールの上を | 石垣克之 |
| | 学校放送の指導とその効果 | 菊地信彦 |
| | 講座 映像を考える<4>思考における映像 | 宇佐美昇三 |
| | 放送教育実践論 わたしの放送教育観の変遷 | 家野修造 |
| 12月号 | 巻頭言 考える力を育てる教育と放送 | 大内茂男 |
| | 特集 考える学習と放送教育ー社会科ー | |
| 【特集】考える学習と放送教育の力ー社会科を中心にー | 多田俊文 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------------------|---|------------------------------|
| 10月号 | 【特集】問題意識を誘発し考える場をつくる | 松本盛男 |
| | 【特集】座談会 考える学習と放送教育～社会科『テレビの旅』を手がかりに～ | 古川清行, 松本盛男, 原玲子, 武田光弘, 海老原正寿 |
| | 講座 映像を考える<5>映像のはたらき—行動化・転位 | 野津良夫 |
| | 放送教育実践論 創造性を伸ばすテレビ学習 | 門谷巖 |
| 11月号 | 巻頭言 鹿児島大会を迎えて | 安楽久男 |
| | 座談会 発展学習とひとり立ちの学習—鹿児島大会から奈良大会へ— | 西本三十二, 本霊元朝, 久故博睦, 松葉弘, 清中喜平 |
| | 特集—考える学習と放送教育～理科～ | |
| | 【特集】放送学習と発展学習—考える学習と放送教育— | 蛸谷米司 |
| | 【特集】教師も高まりつつ子どもの思考力を高める—小学校『理科教室』の利用— | 和田泰輔 |
| | 【特集】知るために考える 考えるために知りたくなる—中学校『理科教室』の利用— | 宮原喜志雄 |
| | 【特集】番組研究 考えさせる番組としての『理科教室』 | 堀江固功 |
| | 【特集】番組研究 鍛え鍛えられる関係づくり—小学校理科番組の場合— | 浦川朋司 |
| | 【特集】番組研究 典型的な思考の流れの提示—小学校理科番組の場合— | 船山真一 |
| | 講座 映像を考える<6>テレビ映像の構造とはたらき | 小倉喜久 |
| | 放送教育実践論 幼児と放送—放送も経験のひとつ | 原田吹江 |
| | 12月号 | 巻頭言 生涯教育とテレビ |
| ひとりだちの学習と放送学習 | | 太田静樹 |
| 講座 映像を考える<7>テレビ映像の意味—メディア論的視点から— | | 後藤和彦 |
| 放送教育実践論 わが放送教育観の変遷 | | 恒川努 |
| 自作録音録画教材コンクール入選発表 | | |
| 1月号 | 巻頭言 激動の五〇年代と放送教育 | 西本三十二 |
| | 特集 第26回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】総合全体会 テレビ/先生・おかあさん—教育と放送を語るう— | 池田弥三郎, 篠田正浩, サトウサンペイ, 鈴木健二ほか |
| | 【特集】校種別全体会レポート | 林理代, 田口順次, 柏田良次, 林三郎, 安楽一成 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------|--|-------------------------|
| 1月号 | 【特集】あなたにこたえる教育機器実践講座 | 全放送施設研究委員会 |
| | 【特集】大会関連座談会 創造的な人間の育成をめざして | 山下静雄, 蛸谷米司, 水越敏行, 秋山隆志郎 |
| | 講座 映像を考える<8>映像の情動機能と認知機能 | 水越敏行 |
| | 放送教育実践論 全人的な放送教育へ | 中村紀郎 |
| 2月号 | 巻頭言 情報を選択し生かしていく力を | 稲垣守 |
| | 誌上シンポジウム 奈良大会のめざすもの(12月号「ひとりだちの学習と放送学習」を受けて) | |
| | 意見1 放送教育研究の歴史的課題 | 蛸谷米司 |
| | 意見2 いっそうの論理と意欲的实践を | 安藤忠吉 |
| | 意見3 奈良大会への七つの注文 | 水越敏行 |
| | 第12回学校放送教育賞 本校教育の柱としての放送教育のあゆみ | 鹿児島県鹿児島郡桜島町立桜峰小学校 |
| | 第12回学校放送教育賞 豊かな人間育成をめざした放送教育 | 栃木県塩谷郡喜連川町立上江川中学校 |
| | 放送教育実践論 わたしの放送教育観—学校経営の立場から— | 横井肅 |
| 3月号 | 巻頭言 放送で豊かな人間性を育てる | 井口尚之 |
| | 誌上シンポジウム 奈良大会のめざすもの(12月号「ひとりだちの学習と放送学習」を受けて) | |
| | 意見4 未来をめざす幅広い放送教育の研究に期待 | 坂本昂 |
| | 意見5 総合的知識を映像で学び表わす実践を | 多田俊文 |
| | 意見6 奈良大会の基調提案を読んで | 辻功 |
| | 第12回学校放送教育賞 明日を創造する生徒のための放送番組を利用して—実践活動—一九年のあゆみ— | 東京都・工学院大学高等学校 |
| | 実践記録 統合学習としての環境教育 | 川端下英夫 |
| 昭和51年度NHK学校放送番組について(中学校, 高等学校) | | |

主な連載：わたしの放送利用、へき地教育と放送、環境教育と放送、生涯教育と放送＝子どもとテレビ、校内放送活動、施設研究コーナー

1976 (昭和51) 年度 (通巻325~336号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------------------|--|------------------|
| 4月号 | 巻頭言 子ども自身の判断力・批判力を | 内村直也 |
| | 生涯教育のための一つの視点—同時視聴の二つの目標について— | 波多野完治 |
| | 高校放送教育の課題 | 上野辰美 |
| | 教室教師=学校放送=番組制作者 私たちに何が出来るか ~番組制作者からの提言~(その1) | 堀江固功 |
| | 新番組の顔 幼児向け『風の子ケーン』失われたロマンの世界を | 宮沢乃里子 |
| | 新番組の顔 中学生向け『ことばの世界』豊かな言語生活を育てる | 赤堀雅宜 |
| | 新番組の顔 中・高校生向け『Watch and Listen』生きた自然な英語を聴く | 磯貝千足 |
| | 新番組の顔 高校生向け『地球と人間』自然を総合的に把握する | 横堀楠生 |
| | 放送教育実践論 放送学習を通じたより楽しい授業の創造 | 嵯峨悦子, 鈴木清司, 大沢正子 |
| | 実践記録 放送を核とした発展的保育のあり方 | 南弘美 |
| | 実践記録 放送学習による道德教育の実践『大きくなる子』の視聴能力の育成をめざして | 清水徳子 |
| | 実践記録 より広い学習への発展をめざして—英語放送の利用をととして— | 中村幸輔 |
| 5月号 | 巻頭言 障害児教育における放送利用 | 大内茂男 |
| | 放送教育の最近の傾向—「学校放送利用の現状」調査から— | 秋山隆志郎 |
| | 随想 高野山大会の思い出 | 西本三十二 |
| | 教室教師=学校放送=番組制作者 学校放送は一人一人に働きかけうるか | 小倉喜久 |
| | 教室教師=学校放送=番組制作者 私たちに何が出来るか ~番組制作者からの提言~(その2) | 堀江固功 |
| | 講座 映像を考える<9>テレビにおける映像の構造 | 坂元彦太郎 |
| | 放送教育実践論 テレビ理科番組の特性をいかした指導 | 中川美和子 |
| | 実践記録『ふえはうたう』を利用して | 綿貫光繁 |
| | 実践記録 児童の認識に果たすテレビ教材の機能 | 乾実 |
| | 6月号 | 巻頭言 話しことばの文化と放送 |
| 国語の学習とテレビと—丸谷氏の批判をうけて— | | 田近洵一 |
| 随想 米国教育使節団—キャンデルとカウンツ博士— | | 西本三十二 |
| 教室教師=学校放送=番組制作者 学校放送番組制作者に期待すること | | 蛭谷米司 |
| 講座 映像を考える<10>テレビ映像をつくる | | 青木賢児 |
| 放送教育実践論 わたしの放送教育観 | | 内館祐二 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---|---|----------------------------|------|
| 6月号 | 実践研究 学校放送から教師もともに学ぶ実践を求めて | 東京都北区立赤羽台西小学校 | |
| | 実践研究 みずから学ぶ児童をめざして | 神谷進 | |
| 7月号 | 巻頭言 ゆとりのある教育と放送の活用 | 諸沢正道 | |
| | 授業の構造と放送教材 | 岩浅農也 | |
| | 放送をとり入れた授業の留意点—放送教育の普及のために— | 三井知夫 | |
| | 随想 国民学校放送の成立 | 西本三十二 | |
| | 教室教師=学校放送=番組制作者 教室教師と番組制作者の役割~利用現場の立場から~ | 池上真澄 | |
| | 講座 映像を考える<11>映像文化とはなにか | 佐藤忠男 | |
| | 放送教育実践論 豊かな人間形成をめざした放送教育の探究 | 村岡耕治 | |
| | 実践記録 よりよい保育をめざして—零(ゼロ)からの出発— | 鹿児島短期大学付属鹿児島幼稚園 | |
| | 8月号 | 巻頭言 テレビーこども・母親・学校 | 副田義也 |
| | | これからの教育と放送教育—教育課程の改訂に関連して— | 河野重男 |
| アジアにおける教育革新の動向—ユネスコの窓から— | | 西本洋一 | |
| 随想 放送教育会館にかける夢 | | 西本三十二 | |
| 座談会 障害児教育における放送利用 | | 大内茂男, 高野信寛, 三宅嶺 | |
| 教室教師=学校放送=番組制作者 教室教師と番組制作者の役割~利用現場の立場から~ | | 大橋富貴子 | |
| 放送教育実践論 自らが主体的にとりくむ学習をめざして | | 大園貞義 | |
| 実践記録『ラジオ国語教室』サシセソ学習の展開と成果 | | 長谷川義美 | |
| 実践記録 放送の持つ可能性をより発揮させ、多教材時代に対処するための発展的な学習はいかにあるべきか | | 愛知県尾西市立第三中学校 | |
| 9月号 | | 巻頭言 「理科教室」は最高の科学番組 | 金井敬三 |
| | 放送教育の再点検—テクノロジストの観点から— | 中野照海 | |
| | 随想 巢鴨プリズンと極東軍事裁判 | 西本三十二 | |
| | 教室教師=学校放送=番組制作者 よりよいパートナーシップを求めて(番組制作者への注文に応えて) | 堀江固功, 橋爪幸正, 浦川朋司, 菊池道彦 | |
| | 講座 映像を考える<12> 映像—その心理と生理 | 店島大学映像教育研究グループ | |
| | 放送教育実践論 効果的な放送利用を求めて | 瑞寿 | |
| 10月号 | 巻頭言 子どもの興味と主体的な学習への参画 | 井深大 | |
| | 主体的な学習と放送教育 | 金子孫一 | |
| | 放送教育精神を考える | 多田俊文 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------|--|--------------------------------------|
| 10月号 | 座談会「ひとりだちの学習」と放送—奈良大会の見どころ— | 西本三十二, 本 霊元朝, 大西照 雄・岡田与治工 門 |
| | 放送教育の多様化を考える<1>中学校の放送教育の現状 | 家野修造 |
| | 放送教育の多様化を考える<2>初心に帰って放送教育を見直す | 長谷川忍 |
| | 放送教育実践論 情報提供の中核として—機器時代における新しい課題— | 沢口衛 |
| | 実践研究 放送によって何が育てられるか | 久保田昌子 |
| 11月号 | 巻頭言 教える立場から教わる立場へ | 高村象平 |
| | 学校教育における放送の機能と役割 | 宇川勝美 |
| | 学習とテレビ—行動分析学の視点— | 佐藤方哉 |
| | 期待される子どもの変容と教師の役割 | 井口尚之 |
| | 音楽的能力と放送教育 | 石川桂司 |
| | 教室教師=学校放送=番組制作者 さらに一言 | 小倉喜久, 蛸谷米司, 大橋富貴子 |
| | 講座 映像を考える<13>映像と言語—その意味 | 湊吉正 |
| | 放送教育実践論 高等学校における映像のよみとり能力の指導 | 山上清 |
| 12月号 | 巻頭言 総合された人間くささにこそ | 和田勉 |
| | 直観から概念づくりへ | 広岡亮蔵 |
| | 放送教育と教師の役割—システム設計者と学習指導者— | 島田啓二 |
| | 常に根本の原理に立ち帰って | 波多野完治 |
| | 放送教育史ノート<1>放送教育をめぐる諸論争—昭和24年~30年— | 秋山隆志郎 |
| | 講座 映像を考える<14>認識—イメージとコトバ | 寺脇信夫 |
| | 放送教育の多様化を考える<3>基本をふまえたうえで応用をはかれ | 村井道明 |
| | 放送教育の多様化を考える<4>第二の指導案の作成をめざして | 恒川努 |
| | 放送教育の多様化を考える<5>放送教育はゆとりあるものに | 吉田秀三 |
| | 1月号 | 巻頭言 教育の変革と放送教育 |
| 特集 第27回放送教育研究会全国大会の記録 | | |
| 【特集】総合全体会 テレビは何かできるか~放送と教育を語ろう~ | 加藤秀俊, 井上 ひさし, 吉武輝 子, 鈴木健二ほ か | |
| 【特集】校種別全体会レポート | 藤森理代, 鈴木 勢津子, 村上師 幸, 降旗経雄, 安楽一成 | |
| 【特集】あなたにこたえる教育機器実践講座 | 佐田菊彦 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|---|
| 1月号 | 【特集】コミュニケーションの場について—「あなたにこたえる教育機器講座」について聞か— | 白井清幹 |
| | 【特集】奈良大会をふりかえって | 大西重次ほか |
| | 【特集】大会関連座談会 テレビと学力 | 水越敏行, 原本 昭夫, 松本博己, 遠山啓, 西本 三十二 |
| | 講座 映像を考える<15>映像の機能と授業過程 | 高橋勉 |
| 2月号 | 巻頭言 放送を専門教育と一般教養に生かす | 本家正文 |
| | シチュエーションとしての学習—放送教育への一つの視点— | 有光成徳 |
| | 映像によるエコロジーの教育 | 水越敏行 |
| | 放送教育の多様化を考える<6>ハードな指導とソフトな指導とに | 太田静樹 |
| | 放送教育の多様化を考える<7>継続利用による教育効果を求めて | 蓮池守一 |
| | 第13回学校放送教育賞 放送で育つ豊かな生徒の育成をめざして | 名古屋市立港北 中学校 |
| | 放送教育実践論 学習指導の現代化をめざして | 助川益三 |
| | 昭和52年度幼稚園・保育所番組について 昭和52年度学校放送番組について (小学校) | |
| 3月号 | 巻頭言 地域・個人に応ずる教材の整備を | 稲垣守 |
| | 先島における放送教育 | 秋山隆志郎 |
| | 講座 映像を考える<16>教育における映像提示の意味 | 坂元忠芳 |
| | 第13回学校放送教育賞 テレビの全面継続視聴から育つものを求めて | 別府市立朝日幼 稚園 |
| | 第13回学校放送教育賞 効果的な放送利用を求めて—小規模学校における放送教育10年の歩み— | 高知県吾川郡伊 野町立川内小学 校 |
| | 昭和52年度NHK学校放送番組について (中学校, 高等学校) | |

主な連載：わたしの放送利用、へき地教育と放送、環境教育と放送、障害児教育と放送、子どもとテレビ、校内放送活動、施設研究コーナー、教育機器実践講座

1977 (昭和52) 年度 (通巻337~348号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|---|
| 4月号 | 巻頭言 テレビ—このような番組がほしい | 布留武郎 |
| | 特集 新年度を迎えての放送教育 | |
| | 【特集】 学校経営と放送教育 | 高桑康雄 |
| | 【特集】 新しい教科経営と放送教育 | 松村謙 |
| | 52年度番組 制作の新しいポイント | |
| | <幼稚園・保育所> テレビの影響と高い利用率を見すえて | 和久明生 |
| | <小学校>新番組『数とかたち』スタートにあたって | 西内久典 |
| | <中学校>新しくなった『中学生の数学』 | 林保夫 |
| | <中学校>連帯感の復活をめざして—『中学生の広場』 | 雨宮重樹 |
| | <高等学校>多様な要望に応じて『古典研究』を30分化 | 内田安昭 |
| | <教師>『教師の時間』の新年度の方向 | 吉岡賢 |
| | 算数教育の課題—新しい算数番組の背景— | 赤根也 |
| | 生涯教育における親子同時視聴の可能性 | 岡田忠男 |
| | 講座 映像を考える<17>映像情報の特性とその処理能力 | 川上春男 |
| | 第13回学校放送教育賞 本校の放送教育20年の歩み | 聖望学園高等学校 |
| | 第13回学校放送教育賞 病弱児の実態を的確にとらえて学習意欲を高める放送教育 | |
| 5月号 | 巻頭言 放送教育も新しい装いを一新しい教育課程に対応して— | 奥田真丈 |
| | 特集 新しい学習指導と放送—たしかな学力とゆたかな情操を育てる— | |
| | 【特集】 新しい学力の形成と学習指導—イメージと構想力の役割— | 吉田昇 |
| | 【特集】 たしかな認知・ゆたかなイメージ・つよい情意—放送を活用した学習指導— | 水越敏行 |
| | 【特集】 放送をとり入れた学習指導の留意点 | 清中喜平 |
| | 【特集】 アンケート 指導主事はこのように考える 学習指導の改善と放送教育 | 神永卓郎, 伊家正昭, 相田盛二, 吉野莞爾, 柿沼栄一, 佐野寛, 高取堅二 |
| | 【特集】 放送は何を変えたか | 小平洋子 |
| | 【特集】 放送の利用による授業方法の改革 | 長沢武 |
| | 講座 映像を考える<18> 見ることから読むことへ | 滑川道夫 |
| | 実践記録『いちにのさんすう』の発展学習のあり方を求めて | 新宮宜子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------------|--|--|
| 6月号 | 巻頭言 子どもの身になっての問題提示を—新しい理科の教育課程とテレビの役割— | 大塚誠造 |
| | 特集 理科と放送—新しい教育課程の視点から考える— | |
| | 【特集】 学習指導要領の改訂と放送教材 | 武村重和 |
| | 【特集】 新しい理科教育の方向と番組づくり | 堀江固功 |
| | 【特集】 アンケート 指導主事はこのように考える 放送に何を期待するか | 白井昭, 平田卓郎, 島貫武彦, 吉野莞爾, 真部明雄, 犬塚隆昭, 坪内勝義, 猪村昌義, 小林強, 岩田正夫 |
| | 【特集】 テレビ理科番組と一年生 | 加賀山順子 |
| | 【特集】 深まりのある理科学習のために | 其川裕夫 |
| | 【特集】 放送教材を探究学習に役立てる | 伊波肇 |
| | 放送教育史ノート<2> 聴取指導をめぐって—昭和26年の放送教育— | 秋山隆志郎 |
| | 「放送50年外史」を読む | 波多野完治 |
| | 講座 映像を考える<19>映像と行動 | 滝沢武久 |
| | 7月号 | 巻頭言 歴史における人物のイメージとテレビ |
| 特集 社会科と放送—学習指導要領の改善をふまえて— | | |
| 【特集】 これからの社会科と放送—新教育課程からの見直し— | | 佐島群巳 |
| 【特集】 新学習指導要領と放送教材 | | 溝上泰 |
| 【特集】 放送を利用した社会科の学習指導 | | 古川清行 |
| 【特集】 学校放送・歴史番組の考証 | | 樋口清之 |
| 【特集】 社会科番組制作の基本姿勢 | | 小島道晴, 河野謙輔, 丸山公彦 |
| 【特集】 アンケート 指導主事はこのように考える 放送教材に期待されるもの | | 川端四郎, 相沢稷, 竹内俊雄, 阪本宣史, 飯田光 |
| 【特集】 学び方を学び創造性を育てる | | 津下正孝 |
| 【特集】 社会を見る目が深まり広まる | | 津岡敬一 |
| 講座 映像を考える<20>映像を見ること, 創ること | 栗花落栄 | |
| 8月号 | 巻頭言 さらに積極的な活用を期待—新学習指導要領(道徳)と放送教材— | 飯田芳郎 |
| | 特集 道徳と放送—新学習指導要領の視点から— | |
| | 【特集】 道徳教育はどうあるべきか | 井上治郎 |
| | 【特集】 放送を利用した道徳の指導 | 蓮池守一 |
| | 【特集】 道徳番組は何をねらっているか | 中島威夫, 望月達也 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 8月号 | 【特集】アンケート 指導主事はこのように考える 道徳指導に放送を生かす工夫 | 今野 智, 永原三千年, 吉良修一, 多田村清熊, 井坂直之, 金井清水, 赤塚長一郎, 前田尚, 松村徳繁, 水口敬 |
| | 【特集】『明るいなかま』を利用した一主題二時間扱いの実践 | 橋本誠司 |
| | 【特集】道徳番組利用に柔軟な考えを | 三宅正勝 |
| | 【特集】道徳性を培う親子同時視聴 | 本沢達雄 |
| 9月号 | 巻頭言 状況の中でことばをとらえる | 倉沢栄吉 |
| | 特集 ことばの教育と放送～新学習指導要領と放送教材を考える～ | |
| | 【特集】新学習指導要領と放送教材(国語) | 藤原宏 |
| | 【特集】新学習指導要領と放送教材(英語) | 佐々木輝雄 |
| | 【特集】放送を利用した国語学習 | 青木幹勇 |
| | 【特集】国語・名作番組の制作にあたって | 内田安昭 |
| | 【特集】英語番組制作のあり方をめぐって | NHK学校放送番組班 |
| | 【特集】アンケート 指導主事はこのように考える 放送教材の果たす役割 | 岩崎和雄, 新村邦吉, 木村禮三郎, 奈良敏光, 牟田米生, 石井憲輔, 迫田亮, 後藤和弘, 庄子典男, 池洋三, 小川清, 岡村博 |
| | 【特集】放送教材を生かした国語学習入門期の『ラジオ国語教室』の利用一 | 山田英子 |
| | 【特集】生きてはたらくことばの学習 | 鈴木武任 |
| | 講座 映像を考える<21>テレビ時代における映像的学力 | 麻生誠 |
| | 10月号 | 巻頭言 音楽的な表現・表出の意欲を出発点に一音楽教育改善の視点と放送一 |
| 特集 芸術教育と放送～新学習指導要領と放送利用をめぐって～ | | |
| 【特集】座談会 これからの音楽教育と放送教材 | | 川池聡, 佐藤永子, 古江綾子, 大和淳二, 三好賢祐 |
| 【特集】音楽番組の制作にあたって | | 大羽襄 |
| 【特集】『美術の世界』の制作にあたって | | 吉川司 |
| 【特集】アンケート 指導主事はこのように考える 音楽能力の育成と放送 | | 新宮信義, 佐々木正太郎, 岡嶋芳昭, 宇野邦治, 渡辺時治, 太田昭, 一色正昭 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------------------|---|--|
| 10月号 | 【特集】継続活用で音楽性の向上をー『ラジオ音楽教室』三、四年の活用からー | 森章子 |
| | 講座 映像を考える<22>映像と授業における子どものイメージ | 多田俊文 |
| 11月号 | 巻頭言 算数教育の基本は「操作」することー空間認識と放送学習ー | 滝沢武久 |
| | 特集 算数教育と放送～新学習指導要領と関連して～ | |
| | 【特集】新学習指導要領と放送教材 | 坂間利昭 |
| | 【特集】算数教育と放送教材の利用 | 荻野忠則 |
| | 【特集】算数・数学番組はかくつくられる | NHK学校放送番組班 |
| | 【特集】アンケート 指導主事はこのように考える 放送をどうとり入れるか | 加地義夫, 沢中悟, 藤倉利久, 橋本茂昭, 大塚清, 足立博隆 |
| | 【特集】わたしもうちでやってみましたー『いちにのさんすう』を活用した算数の授業ー | 宇佐美昌賢 |
| | 【特集】テレビから学び自ら生み出す学習ー『数とかたち』の認識が行動化へのエネルギーにー | 久保田美智子 |
| | 【特集】興味と関心をよびおこす放送数学ー数学科に学校放送を利用した学習指導一 | 加藤健二郎 |
| | 講座 映像を考える<23>映像からの教育と映像への教育 | 三枝孝弘 |
| | 放送大学物語(1) | 西本三十二 |
| | 12月号 | 巻頭言 これからの教育と放送ー新しいメディアとしての映像ー |
| 特集「ゆとりと充実」の教育と放送教育 | | |
| 【特集】ゆとりの教育と放送 | | 重松鷹康 |
| 【特集】座談会 ゆとりある教育と放送教育(小学校) | | 松村謙, 大谷鉦三, 五十嵐典子 |
| 【特集】座談会 ゆとりある教育と放送教育(中学校) | | 久保田光彦, 恒川努, 高桑康雄 |
| 【特集】アンケート 校長はこのように考える ゆとりある学習 | | 内館祐二, 植野武, 斎藤喜助, 上原信吉, 岩田英夫, 亀田八良, 杉山定雄, 浦野志津雄 |
| 【特集】アンケート 校長はこのように考える 自由裁量と放送 | | 川辺盛幹, 小林修, 渡辺忠男, 小田自郎 |
| 講座 映像を考える<24>児童の社会認識に果たすテレビ映像の機能 | | 大橋忠正 |
| 放送大学物語(2) 放送大学から公開大学へ | | 西本三十二 |

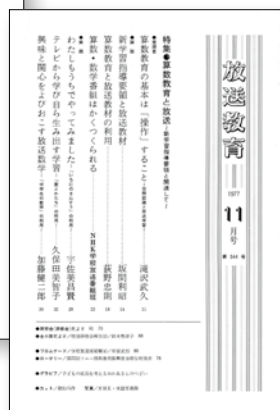
| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|-------------------------------------|
| 1月号 | 巻頭言「放送学習」の目ざすもの | 西本三十二 |
| | 特集 第28回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】総合全体会 ゆとりある教育のために～放送と教育を語ろう～ | 恩地日出夫, 野添憲治, 三好京三, 鈴木健二ほか |
| | 【特集】校種別全体会レポート | 原田滯子, 鈴木勢津子, 菅沢行雄, 降旗経雄, 高山正志, 打田早苗 |
| | 【特集】あなたにこたえる教育機器実践講座 | 松尾孚 |
| | 【特集】大会関連座談会 地域教育とテレビ | 須藤克三, 手代木保, 真鍋博 |
| | 講座 映像を考える<25>授業における映像の読解 | 清中喜平 |
| | 第14回学校放送教育賞 自ら求める子どもを育てた放送学習 | 兵庫県氷上郡氷上町立西小学校 |
| 2月号 | 巻頭言 新しい教育への転換に対応しつつ一昭和五三年度学校放送番組について一 | 若林茂 |
| | 親子共同視聴とコミュニケーションの拡大 | 山村賢明 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習ー西本三十二氏「放送学習の目ざすもの」を受けてー | |
| | ・「ナマ」の次に崩れるのは何か | 山下静雄 |
| | ・教師のありようで決まるもの | 西田光男 |
| | ・放送利用学習から放送学習へ | 恒川努 |
| | 放送大学物語(3)放送大学から公開大学へ(つづき) | 西本三十二 |
| | 第14回学校放送教育賞 豊かな人間性の育成をめざした放送教育 | 東京都千代田区立神田小学校 |
| | 昭和53年度幼稚園・保育所番組 | |
| | 昭和53年度学校放送番組について(小学校) | |
| 3月号 | 巻頭言 くらしと教育と放送 | 高村久夫 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習ー西本三十二氏「放送学習の目ざすもの」を受けてー | |
| | ・さまざまな形態があってよい | 村井道明 |
| | ・教材の特性を生かした実践を | 石川桂司 |
| | ・「放送学習」こそ放送教育の本流 | 家野修造 |
| | 講座 映像を考える<26>学習における映像教材の効果 | 水野寿夫 |
| | 放送大学物語(4)公開大学の創立 | 西本三十二 |
| 第14回学校放送教育賞 豊かな学習・豊かな指導を旨としてー全教師で築きあげた放送教育ー | 北海道倶知安町立倶知安小学校 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|--------------|
| 3月号 | 第14回学校放送教育賞 放送による学習のあり方を求めてー学習意欲とテレビからの学び方ー | 愛知県岡崎市立竜海中学校 |
| | 昭和53年度NHK学校放送番組について(中学校) | |
| | 昭和53年度NHK学校放送番組(高等学校) | |

主な連載：わたしの放送利用、へき地教育と放送、環境教育と放送、障害児教育と放送、親子同時視聴のすすめ、施設研究コーナー、教育機器実践講座



1977年5月号



1977年11月号

1978 (昭和53) 年度 (通巻349~360号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|---|----------------------|
| 4月号 | 巻頭言 今年度の視聴覚教育行政 | 山本清 |
| | 特集 放送教育経営の年間計画 | |
| | 【特集】放送教育経営の基本問題一年間計画の立案と展開一 | 小池栄一 |
| | 【特集】保育計画に放送をどう位置づけるか | 原田吹江 |
| | 【特集】一年の学年経営と放送教育 | 蜂谷義雄 |
| | 【特集】二年の学年経営と放送教育 | 原玲子 |
| | 【特集】三年の学年経営と放送教育 | 鈴木勢津子 |
| | 【特集】四年の学年経営と放送教育 | 村岡耕治 |
| | 【特集】五年の学年経営と放送教育 | 松本盛男 |
| | 【特集】六年の学年経営と放送教育 | 久保田昌子 |
| | 【特集】教科経営に放送をどう位置づけるか | 小田自郎 |
| | 【特集】教科経営に放送をどう位置づけるか | 降旗経雄 |
| | 53年度番組ハイライト 新番組登場『べべとミニ』乞うご期待! | 木内実喜夫 |
| | 53年度番組ハイライト 新しいスタートへ『理科教室小学校1年生・2年生』 | 浦川朋司, 内沢康子, 浅野孝夫 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | |
| | ・「継続・丸ごと・ナマ」は一体 | 清中喜平 |
| | ・よりきめのかまかい論争を | 吉田貞介 |
| ・英語科においては両方必要 | 日隈健二 | |
| 放送大学物語(5) 公開大学の開学 | 西本三十二 | |
| 海外教育放送事情 <アメリカ> 伝統と革新—ウイスコンシン大学 WHA 放送—その局と人— | 青木章心 | |
| 5月号 | 特集 人間理解の社会科と放送 | |
| | 【特集】巻頭言 これからの社会科と放送教育 | 浜田陽太郎 |
| | 【特集】社会科の本質と放送の利用—人間の理解を中心にした社会科学学習にとって放送は何ができるか?— | 佐島群巳 |
| | 【特集】学ぶ過程を重視する社会科学学習指導と映像 | 沢田鉄男 |
| | 【特集】人間理解を中心にした社会科学学習と放送 | 青木勝 |
| | 【特集】具体的な事実を通して人間の理解を深める | 中原将夫 |
| | 【特集】テレビの直接教授性を生かした時代イメージづくり | 押野市男 |
| | 【特集】生き生きとした声や姿にふれる社会科学学習 | 石垣克之 |
| | 【特集】社会科番組10の質問に答える | 小島道晴 |
| | 【特集】アンケート 社会科番組に注文する | 橘光子, 広瀬守, 藤井久男, 干野琇哉 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | |
| | ・「放送学習」に正しい理解を | 安藤忠吉 |
| | ・新時代の放送教育を考えよう | 吉田秀三 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|------------------------|--|
| 5月号 | ・教師の「意図」を優先せよ | 菊地吉彦 |
| | 実践記録 放送による幼児教育の可能性を求めて | 花田登由子 |
| 6月号 | 特集 実験・観察と放送 | |
| | 【特集】巻頭言 人間性育成の理科とテレビ | 井口尚之 |
| | 【特集】理科教育とは何か | 蛭谷米司 |
| | 【特集】テレビ視聴と実験・観察の関連指導 | 喜馬邦雄 |
| | 【特集】イメージがひろがり意欲も旺盛に | 相場よし |
| | 【特集】理科における放送学習・発展学習 | 中本正昭 |
| | 【特集】科学する心を育てた放送理科学習 | 上島成和 |
| | 【特集】知識欲や興味を高めるテレビ教材 | 宮崎周蔵 |
| | 【特集】理科番組10の質問に答える | 浦川朋司, 浅野孝夫, 玉木孚, 大沢昭雄, 村井正司, 横堀楠生, 宮下久男 |
| | 【特集】アンケート 理科番組に注文する | 太田泰男, 高井由紀子, 前田美穂子, 徳永真理子, 千松小理科部, 沢近正昭, 堀部英夫, 畠山敏昭, 香美悟 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | |
| | ・この論点の背景にあるもの | 沢田鉄男 |
| | ・肩を張らずに日常的に利用しよう | 吉松宏 |
| | ・放送教育・うら おもて | 大谷毓三 |
| | 7月号 | 特集 放送教育機器の効果的活用 |
| 【特集】巻頭言 教育技術の革新と教育機器 | | 奥田真丈 |
| 【特集】教育方法の改善・充実と教育機器の活用 | | 長谷川忍 |
| 【特集】よい音で聞くために—音響機器利用上の留意点 | | 小佐々晋 |
| 【特集】よい映像で見るために—映像機器利用上の留意点 | | 渡部知弥 |
| 【特集】保守管理のポイント | | 西山正 |
| 【特集】どのようにして機器を整備充実したか | | 山本幹夫 |
| 【特集】放送教育施設・設備—30年の歩み—各個式受信機よりテレビカラーシステムへ | | 佐田菊彦 |
| 【特集】全放連施設基準について | | 日比野輝雄 |
| 視聴覚教育 混迷から発展への時期の一断面 | | 柴田幸一 |
| 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | | |
| ・自分自身をつくる放送学習 | 九故博睦 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|-----------------|
| 7月号 | ・校内テレビ放送の重視を | 小寺英雄 |
| | 海外教育放送事情<ソビエト>教育テレビも通信衛星の利用へ | 小泉健司 |
| 8月号 | 特集 音楽性の啓培と放送教育 | |
| | 【特集】音楽教育と学校放送 | 渡辺学而 |
| | 【特集】音楽の美しさと感じとる—放送教育の意義と効用— | 大和淳二 |
| | 【特集】音楽番組を利用した音楽指導の留意点 | 伊藤俊彦 |
| | 【特集】音楽のきれいな子をなくしたい | 阪田滋子 |
| | 【特集】生きて働く音楽学習をめざして—『ラジオ音楽教室』による発展学習— | 松岡初枝 |
| | 【特集】音楽学習を質的に高める指導 | 荒木義男 |
| | 【特集】「ラジオ音楽教室」はこんなふうには制作される | 埴田美和子 |
| | 【特集】大きな声でうたってください | 立川清登 |
| | 【特集】アンケート 音楽番組に注文する | 高橋弘子、高橋緑、中島政子ほか |
| | 【特集】子どもの音楽生活とテレビ | 後藤田純生 |
| | 新しい教材基準（共通品目）について | 岩山安成 |
| | 環境教育の推進と『みどりの地球』利用の今日的意義 | 高橋勉 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | |
| | ・3Wへ帰ろう | 小倉喜久 |
| | ・多様な実践のつくり出しを | 多田俊文 |
| 9月号 | 特集 言語能力の育成と放送 | |
| | 【特集】巻頭言 感覚的イメージを育てる | 森久保仙太郎 |
| | 【特集】国語の力を高めるための放送の活用 | 小塚芳夫 |
| | 【特集】『ラジオ国語教室』を活用した私の国語教室 | 山口彰子 |
| | 【特集】名作番組の読書指導に果たす役割—『お話をたまたまばこ』の指導を通して— | 田村晶子 |
| | 【特集】ニュースを利用して作文力を育てる—家族同時視聴の場を生かす— | 平沼たき子 |
| | 【特集】英語番組利用の効果（評価） | 田中淳子 |
| | 【特集】番組解説Q&A 国語番組について | 内田安昭、大井艶子、鳥居雅之、 |
| | 【特集】番組解説Q&A 英語番組について | 石橋健一 |
| | 【特集】『国語教室』誕生のころ—ある出演者の回想— | 青木章心 |
| | 教科セクショナリズムを超えて—放送教育の現代的役割— | 成瀬正行 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | |
| | ・現場の実態に即せば両者併用 | 野津良夫 |
| | ・二者択一的には解決できない | 水越敏行 |
| | ・放送学習こそ労少なく功多し | 溝内玲子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|---------------------------------|
| 10月号 | 特集 道徳実践力の育成と放送 | |
| | 【特集】巻頭言 実践力の育成と放送の機能 | 大内茂男 |
| | 【特集】道徳実践力を高めるには何が必要か—放送をどう活用するか— | 坂本昇一 |
| | 【特集】放送を利用した道徳指導のポイント | 西尾豪之 |
| | 【特集】『大きくなる子』とわたしの学級経営 | 児島令枝 |
| | 【特集】「実践的行動への構え」を育てる学習—『みんななかよし』の主体的発展学習— | 近藤尚義 |
| | 【特集】『明るいなかま』で親子の相互理解を—親子同席視聴に取り組んで— | 猪瀬俊夫 |
| | 【特集】『青空班ノート』を利用した道徳指導 | 今泉ふさ江 |
| | 【特集】アンケート 道徳番組に注文する | 藤田雅子、小沢信、相沢頼子ほか |
| | 【特集】番組解説Q&A 道徳番組について | 望月達也 |
| | 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | |
| | ・教室に“雑音”を導きいれる | 東洋 |
| | ・子どもとともに驚き学ぶ | 服部八郎 |
| | 実践記録 低学年理科におけるテレビ利用とその効果—二年「雲と雨」の実践を例に | 芳賀礼子 |
| | 放送教育の歴史を探る 戦前・戦中・戦後の放送教育 | 高知尾徳 |
| | 11月号 | 巻頭言 放送の可能性を探る—放送文化シンポジウムの成果に寄せて |
| 特集 特別活動の充実と放送 | | |
| 【特集】特別活動における放送の活用 | | 白井慎 |
| 【特集】特別活動における環境教育 | | 恒松清美 |
| 【特集】特活用放送教材の自作とその活用—安全指導・保健指導を例に— | | 小沢信 |
| 【特集】「学級指導」における放送番組の利用 | | 菅沢行雄 |
| 【特集】ロングホームルームと放送材—「三チャンネル同時放送システム」の誕生— | | 五島三津雄 |
| 【特集】番組解説Q&A 特活番組について | | 岸一成 |
| 特集 イメージと学習 | | |
| 【特集】学習におけるイメージと思考 | | 蛸谷米司 |
| 【特集】テレビ視聴をとおしてより豊かで確かな学習イメージづくり | 村中一正、宗末勝信 | |
| 【特集】探究の過程を育てるテレビ学習 | 鈴木孝男 | |
| 誌上シンポジウム放送学習vs放送利用学習 | | |
| ・放送学習こそ放送教育の本来の姿 | 杉浦美朗 | |
| ・ふれあいと放送教育 | 岸田元美 | |
| 海外教育放送事情<西ヨーロッパ>西欧の教育放送の動向—ミュンヘン青少年賞に参加して— | 箕浦弘二 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|---|-----------------------------------|
| 12月号 | 特集 多媒体学習と放送 | |
| | 【特集】巻頭言 伸びのある学力を育てる | 木原健太郎 |
| | 【特集】多媒体学習と放送教育 | 西本洋一 |
| | 【特集】多媒体を活用した学習指導 | 野田一郎 |
| | 【特集】学習指導の体質改善と多媒体の活用 | 門脇一彦 |
| | 【特集】メディアの総合的活用による効果的教材構成 | 滑川賢一 |
| | 【特集】学習の個別化とマルチ・メディアの活用 | 小出清道 |
| | 【特集】チームを組んで多媒体の組み合わせ利用 | 藤本福雄 |
| | 【特集】学習媒体の整備とその活用—新教材基準を生かして— | 久保田光彦 |
| | 【特集】教育機器の整備・充実—東京都武蔵野市の場合 | 村上師幸 |
| | 誌上シンポジウム放送学習 vs 放送利用学習 | |
| | ・教師に期待するもの | 上野辰美 |
| ・放送学習はますます重要視される | 榎谷利明 | |
| 放送教育史ノート<3> 口演童話や範読の頃～昭和10年代初期の学校放送～ | 秋山隆志郎 | |
| 1月号 | 巻頭言 新しい教育の黎明—「放送教育と教師の役割」に寄せて— | 西本三十二 |
| | 特集 第29回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】総合全体会 生きること学ぶこと～放送と教育を語ろう～ | 大島渚, 深谷和子, 鈴木健二ほか |
| | 【特集】校種別全体会レポート | 桜本富雄, 和田泰輔, 岡喜三, 清水洋三, 高橋文礼, 山本忠男 |
| | 【特集】あなたにこたえる教育機器実践講座 | 神谷与志雄 |
| | 【特集】全国大会をかえりみて | 山本恒夫, 沢田鉄男, 村井道明, 蛭谷米司, 村岡耕治 |
| | 第15回学校放送教育賞 放送教育における評価と発表タイム | 愛知県知多郡武豊町立衣浦小学校 |
| | 第15回学校放送教育賞 たくましく豊かな幼児の育成をめざした放送教育 | 山口県・野田学園幼稚園 |
| | 第15回学校放送教育賞 放送教育へのとりくみ—放送学習に本校の求めたもの | 愛知県小牧市立村中小学校 |
| | 第15回学校放送教育賞 全校体制でとりくんだ放送教育—教育実践を見直す糸口として— | 北海道札幌市立手稲東中学校 |
| | 第15回学校放送教育賞 聾学校における映像教材の効果的な活用 | 愛知県立千種聾学校 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|-------|
| 2月号 | 巻頭言 学校放送の新しい展開へ—昭和五十四年度学校放送番組の改定に寄せて— | 西山昭雄 |
| | 特集「放送学習」と「放送利用学習」の理念と方法 | |
| | 【特集】教育革新をめざす放送教育～放送学習の歴史的考察～ | 西本三十二 |
| | 【特集】放送学習の原理と方法 | 蛭谷米司 |
| | 【特集】教師の手だてを明確にすることが必要 | 水越敏行 |
| | 【特集】多様な利用形態の創造を | 秋山隆志郎 |
| | 映像の過去と現在 | 吉田直哉 |
| | 実践 視聴反応を生かす放送保育 | 細川龍繁 |
| | 放送教育の歴史を探る 昭和20年代の学校放送～送り手の立場から～ | 川上行蔵 |
| | 昭和54年度幼稚園・保育所番組 昭和54年度学校放送番組について（小学校） | |
| 3月号 | 特集 年間計画をどう立てるか | |
| | 【特集】巻頭言 学校全体の共通理解のもとに—年間計画を立てるにあたって— | 長谷川忍 |
| | 【特集】学校放送を年間指導計画に位置づけるために—留意すべき基本事項— | 井口尚之 |
| | 【特集】流動教材の特性をふまえ弾力性ある計画を | 桜本富雄 |
| | 【特集】継続融合利用を前提に単元の構造化を図る | 中川美和子 |
| | 【特集】主体的な学習の展開へ向けた豊かな指導を | 村岡耕治 |
| | 【特集】教科書学習と放送学習とを統合する計画を | 松本盛男 |
| | 【特集】継続すること並行型で学習への構えを作る | 津岡敬一 |
| | 【特集】自主的探究学習を呼ぶ発展的な教材を精選 | 菅野礼至 |
| | 昭和54年度NHK学校放送番組について（中学校） 昭和54年度NHK学校放送番組（高等学校） | |

主な連載：わたしの放送利用、へき地教育と放送、障害児教育と放送、親子同時視聴のすすめ、施設研究コーナー、教育機器実践講座

1979 (昭和54) 年度 (通巻361~372号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--------------------------------------|------------------|
| 4月号 | 巻頭言 放送大学と教育革新 | 西本三十二 |
| | 特集 放送を活用した教育設計 | |
| | 【特集】放送を活用した教育設計 | 高桑康雄 |
| | 【特集】園ぐるみ地域ぐるみ研修の日常化 | 早坂一正 |
| | 【特集】授業をとおした地道な活用の研究を | 木村和夫 |
| | 【特集】ゆとりの時間を有効に使って前進を | 渡辺忠男 |
| | 【特集】子どもの心のふくらみを大事にして | 花田登由子 |
| | 【特集】授業過程は放送学習から発展学習へ | 岩佐重明 |
| | 【特集】単元構造を明確にし視聴の窓を作る | 轟喜義 |
| | 放送教育における学習の成立と教師の手だて—岐阜大会のめざすもの | 成瀬正行 |
| | 視聴指導12章 第1章 児童用テキストを作る—放送による自主学習の手引き | 清中喜平 |
| | 番組ハイライト 言語生活は人間社会の根幹—『ことばの教室』が願うもの | NHK学校放送番組班 |
| | 実践記録 理科の授業改善とテレビ利用 | 旭スズエ |
| | 海外教育放送事情 社会開発に教育放送を重視—中南米の場合 | 市川昌 |
| | 『放送教育』創刊30周年記念 創刊の頃 | 高橋増雄 |
| | 『放送教育』創刊30周年記念 本誌から見た放送教育30年の軌跡 | 本誌編集部 |
| | 5月号 | 特集 イメージを育てる社会科指導 |
| 巻頭言 昭和54年度視聴覚教育行政 | | 山本清 |
| 【特集】イメージを育て生かす学習指導 | | 岩浅農也 |
| 【特集】豊かなイメージのふくらみを求めて | | 蜂谷義雄 |
| 【特集】地域社会を見直していく目を育てる | | 前田通 |
| 【特集】テレビからとび出す子どもをめざす | | 高橋忠明 |
| 【特集】問題意識を深化し多面的思考を学ぶ | | 佐野旭 |
| 【特集】イメージを育てる映像教材の活用を | | 山岡康邦 |
| 【特集】番組ハイライト 社会生活への的確な判断力を—社会科番組どう変わるか | | NHK学校放送番組班 |
| 【特集】トマトはなんにも言わなければ—一人間の存在を軸にした社会科の映像づくり | | 堀江固功 |
| 視聴指導12章 第2章「求める電波」に変えよう—「与えられた電波」からの脱皮 | | 清中喜平 |
| 実践記録 継続視聴で豊かに変容した幼児『なかよしリズム』から『ワンツー・ドン』への発展の中で | | 丸山ちあき |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|------------|
| 5月号 | 実践記録 自ら学ぶ子どもの育成をめざして 中学年道徳番組『みんななかよし』を軸として | 五十嵐美恵子 |
| | 特集 自然と人間を見直す環境教育 | |
| 6月号 | 【特集】巻頭言 映像の総合性を環境教育に | 波多野完治 |
| | 【特集】人間と自然とが共存できるモラルを | 高橋勉 |
| | 【特集】自然との融合調和への道をめざして | 杉浦美朗 |
| | 【特集】親子で見た『みどりの地球』 | 千嶋壽 |
| | 【特集】足元の自然破壊を見つめることから | 土屋恒夫 |
| | 【特集】生物と人間との共存互惠関係を知る | 大谷淳 |
| | 【特集】日常生活と環境問題とを結びつける | 本郷弘一 |
| | 視聴指導12章 第3章子どもの目は輝いているか—テレビ授業の集中度を示す指標 | 清中喜平 |
| | 特集 探究の意欲を育てる理科学習 | |
| | 【特集】見方や考え方を広げる放送理科学習 | 鈴木勢津子 |
| | 【特集】探究の意欲を高める放送学習の展開 | 豊橋市立新川小学校 |
| | 【特集】理科好きな生徒を育てるテレビ理科 | 磯野謙次 |
| | 【特集】番組ハイライト 教えるのではなく学ぶ番組づくりを | NHK学校放送番組班 |
| 7月号 | 特集 教育機器の特性と学習活動 | |
| | 【特集】巻頭言 機器の活用で寺子屋の復活 | 唐津一 |
| | 【特集】教育機器導入の条件とその効果—授業過程の意識化への道 | 中野照海 |
| | 【特集】機器の特性と各教科・領域との関連—新教材基準をふまえて | 小佐々晋 |
| | 【特集】映像機器の機能とその利用のあり方—テレビ・テレビ+カメラ | 高田博 |
| | 【特集】映像機器の機能とその利用のあり方—テレビ+VTR・テレビ+VTR+カメラ | 中原一 |
| | 【特集】映像機器の機能とその利用のあり方—ビデオシステム | 渡部知弥 |
| | 【特集】音声機器の機能とその利用のあり方—ラジオ・テープレコーダー・電音 | 神谷与志雄 |
| | 【特集】音声機器の機能とその利用のあり方—オーディオシステム | 村上師幸 |
| | 【特集】教育機器実践講座(Ⅲ-6)ステレオを上手に聞かせるテクニック | 山川正光 |
| 8月号 | 視聴指導12章 第4章番組のねらいに迫る手だて(1)カード法と線分法 | 清中喜平 |
| | 特集 わかる算数(数学)と放送 | |
| | 巻頭言 研究の広がりと深まりを | 樋口秀夫 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|---|------------|
| 8月号 | 【特集】テレビ映像と数学の性格—算数教育に放送を使う意味 | 赤根也 |
| | 【特集】タップに親しみながら生活化を図る—『いちにのさんすう』の親子同時視聴 | 太田久子 |
| | 【特集】(見る)テレビから(考える)テレビへ—授業の効率化を図るテレビ視聴の計画化 | 武内豊子 |
| | 【特集】興味をもたせ基礎学力の充実を図る—『中学生の数学』を利用して | 坂入秀夫 |
| | 【特集】数理的態度の下地を問題に一算数の番組づくり | NHK学校放送番組班 |
| | 特集 表現力を育てる音楽教育 | |
| | 【特集】内なるものの熟成をこそ—表現力の育成と放送番組 | 川池聡 |
| | 【特集】生き生きと表現する喜びの姿求めて—『ふえはうたう』を利用して | 小林竜夫 |
| | 【特集】主体的な音楽学習の設計と授業実践—『ラジオ音楽教室』を生かして | 森章子 |
| | 【特集】番組ハイライト 身体でリズムを感じる子に—テレビ音楽番組のスタジオから | 大森智子 |
| 視聴指導 12章 第5章番組のねらいに迫る手だて(2) 発展・連結・適用 | 清中喜平 | |
| 実践記録 特殊学級の児童の心を育ててきたテレビ視聴 | 小松糸子 | |
| 9月号 | 特集 思いやりを育てる道徳指導 | |
| | 巻頭言 番組を見る力を育てる | 高桑康雄 |
| | 【特集】共感を通して心の絆組みを変える—道徳指導に放送を使う意味 | 宇留田敬一 |
| | 【特集】道徳の実践力をどのように育てるか—私の<放送道徳>実践論 | 戸田栄作 |
| | 【特集】日常生活上に生きて働く価値葛藤を—『明るいなま』を利用して | 渡辺たけ |
| | 【特集】心のふれあいを大切に人間らしさを—『昭夫の日記』を利用して | 関口敏雄 |
| | 【特集】番組ハイライト 価値と反価値の葛藤の中で—道徳番組について | NHK学校放送番組班 |
| | 特集 特別活動の活性化をはかる | |
| | 【特集】発達段階に応じて自主的活動を助長—特別活動に放送をどう使うか | 笠間達男 |
| | 【特集】新しい人間関係の基礎づくり資料に—『中学生の広場』『学級の話』を利用して | 太田昭臣 |
| | 【特集】自主性・自律性・仲間意識を育てる—放送教材を活用したロングホームルーム | 水越勇 |
| | 【特集】同世代の連帯感を育てよう—特活番組について | NHK学校放送番組班 |
| | 視聴指導 12章 第6章心をゆさぶる感動が生まれたか—未知へ挑戦するエネルギー | 清中喜平 |
| | 実践記録 意欲的な学習をすすめるための放送教育 | 神原正敏 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|---|-------|
| 10月号 | 特集 効果を高める教師の手だて | |
| | 【特集】巻頭言 授業の手だてと放送 | 木原健太郎 |
| | 【特集】放送を利用した授業における教師の役割—放送授業のための基本的な視点 | 森幸雄 |
| | 【特集】放送教育における教師の指導技術—手だて論のための指標 | 水越敏行 |
| | 【特集】効果視点表を使って子どもの反応を一六領域の指導と視聴覚教材の活用 | 浜野テル |
| | 【特集】効果的な前提学習のあり方を問題に—問題把握の能力を育てる指導 | 松永光義 |
| | 【特集】子どもたちといっしょに学習計画を一仮説をもった社会科学習と教師の手だて | 正田正宏 |
| | 【特集】総合的関連思考を訓練する構造図化—創造力・転移能力を高めるための手だて | 宮崎房子 |
| | 【特集】グループ討議の中で思考力を高める—考える地理学習を放送に求めて | 岡崎陽 |
| | 【特集】わかる楽しい授業の創造をめざして—『教師の時間』を利用した授業研究 | 松井幹郎 |
| | 実践研究 絵による視聴ノートでまずスタート—低学年における視聴能力向上の手だて | 上村輝子 |
| | 中国紀行 ゴビ砂漠で聞いたラジオ・ニュース | 金子鐵雄 |
| | 視聴指導 12章 第7章心が通う放送ノートを作る—心のふれあいの軌跡 | 清中喜平 |
| 11月号 | 特集 機器をどう整備・充実するか | |
| | 【特集】巻頭言 人材育成と成果の交流を | 白井清幹 |
| | 【特集】機器の整備・充実と教材基準の運用 | 山本清 |
| | 【特集】岐阜市では教育機器をどう整えたか | 後藤左右吉 |
| | 【特集】機器を拡充するにあたっての留意点 | 林三郎 |
| | 【特集】機器の整備についての留意点 | 村上師幸 |
| | 第30回放送教育研究会全国大会岐阜大会 全体会の構成とテーマ | 大会事務局 |
| | 特集 理科学習における映像の働き | |
| | 【特集】構造的な理解から新しいイメージを | 蛸谷米司 |
| | 【特集】日本の放送教育を外国に提案する | 荻巣正義 |
| | 【特集】経験の再構成と考え方の転換を迫る 番組研究①試作番組『空気』のねらいと構成 | 浦川朋司 |
| 【特集】探究と行動化への意欲がたかまる 番組研究②試作番組『空気』への子どもの反応 | 鈴木勢津子 | |
| 【特集】意欲的に自然に働きかける子どもの育成 | 鎗田一宏、宇田川要一 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|----------------------------------|
| 11月号 | 放送学習実践レポート ひとりだちのできる音楽学習ー「ふしづくり」と「放送」を音楽学習に位置づけて | 北村卓子, 西本三十二 |
| | 視聴指導12章 第8章ひとりひとりを生かす評価をしようー教師の登場と発言 | 清中喜平 |
| 12月号 | 特集 ことばの力を育てる放送利用 | |
| | 【特集】巻頭言 まず母親のための番組を | 外山滋比古 |
| | 【特集】ことばの学習とイメージ・映像 | 芳賀純 |
| | 【特集】国語学習と放送教材活用のポイント | 吉田豊 |
| | 【特集】読書ばなれの子たちを童話の世界に | 橋本伸枝 |
| | 【特集】日常に生きてはたらくことばの育成 | 柳沢さち子 |
| | 【特集】放送の特性を生かしたことばの指導 | 桂英輔 |
| | 【特集】放送教材で生きた英語を学ぼう | 深沢秋雄 |
| | 【特集】英語番組をこのように使ってきた | 船本正幸 |
| | 【特集】主体的な学習態度と確かな学力を | 今村敏男 |
| | 第16回学校放送教育賞入選発表 | (編集部) |
| | 第16回学校放送教育賞審査評 放送学習による自発学習への高まり | 西本三十二 |
| | 視聴指導12章 第9章シリーズはシリーズとして使えー併行・継続・丸ごと・ナマの根拠 | 清中喜平 |
| | わたしの放送利用(高等学校)ヒアリング力養成のために | 中谷みどり |
| | 海外教育放送事情 なぜ公共放送は必要か | 二神重成 |
| 1月号 | 特集 第30回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 巻頭言 一九八〇年代と放送教育 | 西本三十二 |
| | 【特集】学ぶ喜びを子どもたちに～放送と教育を語ろう～ | 新藤兼人, 須正義, 渡辺久子ほか |
| | 【特集】第20回放送教育研究会全国大会 校種別全体会レポート | 荒井幸子, 和田泰輔, 竹田一郎, 林三郎, 坂田紀行, 原範明 |
| | 【特集】あなたにこたえる教育機器実践講座 | 佐田菊彦 |
| | 【特集】映像の学習効果と教師の手だて | 小林秀臣 |
| | 【特集】岐阜大会から札幌大会へ | 勝野源太郎, 荻野忠則 |
| | 教育放送に期待するものー日本賞コンクールセミナーから | 西本洋一, 秋山隆志郎 |
| | 視聴指導12章 第10章番組を見抜く力を高めよう(1)ー視聴指導の基盤 | 清中喜平 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------|---|---------------|
| 1月号 | 第16回学校放送教育賞第二部門<文部大臣賞>自ら学ぶ子を育てる放送学習の生活化 | 高松市立鬼無小学校 |
| | 第16回学校放送教育賞第二部門<文部大臣賞>一人一人を伸ばす発展的な学習をめざして | 大分県日田市立大明中学校 |
| 2月号 | 特集・年間計画立案の手順 | |
| | 巻頭言 番組の改定にあたって | 西山昭雄 |
| | 【特集】まず、外堀を埋めることから始めよう | 有光成徳 |
| | 【特集】教科書による学習と放送学習の統合を | 五十嵐正一 |
| | 【特集】テレビの教育特性を生かした位置づけを | 恒川努 |
| | 第16回学校放送教育賞第二部門<NHK会長賞>情操豊かな幼児の育成をめざす | 北九州市立中島幼稚園 |
| | 第16回学校放送教育賞第二部門<NHK会長賞>豊かな人格形成をめざした学習指導法の改善 | 愛知県豊橋市立新川小学校 |
| | 第16回学校放送教育賞第二部門<NHK会長賞>放送学習、特に発展学習のあり方を求めた三年間の研究の歩み | 神奈川県川崎市立小田小学校 |
| | 第16回学校放送教育賞第二部門<NHK会長賞>精神薄弱児の映像認知特性についての究明 | 岐阜県立大垣養護学校 |
| | 視聴指導12章 第11章番組を見抜く力を高めよう(2)ー番組研究の実際 | 清中喜平 |
| 昭和55年度の学校放送番組について(幼稚園・保育所、小学校) | (NHK学校放送番組班) | |
| 3月号 | 特集 放送の教育特性を考える | |
| | 巻頭言 放送の教育的な役割 | 箕浦弘二 |
| | 【特集】操作的認識を育てる教育の基礎 | 滝沢武久 |
| | 【特集】放送番組の教材特性と授業設計 | 寺脇信夫 |
| | 【特集】想像力をかきたてながら創造力を | エルンスト・エムリッヒ |
| | 実践記録 表現意欲を高め心情を豊かにする放送利用ーラジオ『お話でこい』の劇的発展を通して | 原田吹江 |
| | 実践記録 地域に息づく放送教育を求めてー親子同時視聴から | 足立金子 |
| | 視聴指導12章 第12章教室のテレビは役に立っているかー生涯学習の基盤として | 清中喜平 |
| 昭和55年度の学校放送番組について(中学校、高等学校) | (NHK学校放送番組班) | |

主な連載: わたしの放送利用, ロッキングチェア, 教育機器実践講座

1980 (昭和55) 年度 (通巻373~384号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------------|--|-----------------------------|
| 4月号 | 特集 80年代の放送教育を探る | |
| | 【特集】巻頭言 テレビ教育の二つの顔 “による”教育と“について”の教育 | 宇川勝美 |
| | 【特集】「個性化」と「関連思考」の強化をー80年代の放送教育の課題 | 三枝孝弘 |
| | 【特集】「文化の時代」「地方の時代」の中でー80年代の教育と放送教育 | 安藤忠吉 |
| | 【特集】地球共同社会に生きる人間の育成 アメリカの動向から見た80年代の教育 | 青木章心 |
| | 【特集】激動の時代に学校放送はどう対応するか スイス・バーゼルで開催された学校放送セミナーに出席して | 浦川朋司 |
| | 【特集】80年代の番組づくりを探る 討議・浦川報告を受けて(上) | 浦川朋司, 赤堀正宜, 高須賀清, 浅野孝夫, 上村享 |
| | 座談会 中学校の全教室にカラーテレビ | 西本三十二, 清中喜平, 小田自郎, 芦崎佳一 |
| | 番組ハイライト 親しみの持てる算数番組ー『数の世界』がねらうこと | 内山守 |
| | 番組ハイライト 「作文力」をつけるー『書きくけこくご』が始まります! | 小滝一志 |
| | 番組ハイライト 「ことばとかず」がいっぱいー『ばくさんのかばん』の中 | 丸山実 |
| | 視聴指導12章・補講<1>「百聞は一見にしかず」からの脱皮 | 清中喜平 |
| | 実践記録 テレビ(VTR)利用の音楽教育について | 深尾敏郎 |
| | 5月号 | 巻頭言 視聴覚教育行政の基本的な方向 |
| 特集 ゆとりの時間をどう生かすか | | |
| 【特集】ゆとりの時間の意義とその活用 ゆとりの時間と『ひろがる教室』 | | 宮田正人 |
| 【特集】生きがいを感じる子どもに | | 山中秀男 |
| 【特集】創造活動をうながすために | | 岩上廣志 |
| 【特集】主体性を自由に引き出して | | 養口三男 |
| 【特集】主体的で豊かな学習活動の動機づけに | | 望月達也 |
| 80年代の番組づくりを探る 討議・浦川報告を受けて(下) | | 浦川朋司, 赤堀正宜, 高須賀清, 浅野孝夫, 上村享 |
| 放送学習を支える教育論 | | 西本三十二 |
| 番組ハイライト 総合安全教育をめざしてー『びよん太のあんぜんにつき』 | | 佐藤邦宏 |
| 番組ハイライト 新しい分野を資料性豊かにー「中学校特別シリーズ」 | | 近藤泰充, 有泉裕一, 二村孝, 海老原正寿 |
| 視聴指導12章・補講<2>「放送の特性」を生かすことの意味 | | 清中喜平 |
| 実践記録『みどりの地球』を利用した環境教育の実践 | | 松本邦文 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--|---|------------------------------------|------|
| 6月号 | 特集 社会科における放送の活用 | | |
| | 【特集】巻頭言 歴史そのものがドラマである | 須藤出穂 | |
| | 【特集】社会科の学習指導とテレビ教材 子ども自身による主体的な学習を軸に | 古川清行 | |
| | 【特集】社会認識の発達と放送教材 児童の側に立った教育活動の提案として | 大橋忠正 | |
| | 【特集】郷土と放送 親子同時視聴を土台とした発展学習 | 大西ヨシ子 | |
| | 【特集】二つの実践記録を読んで | 山岡康邦 | |
| | 【特集】番組ハイライト 人間の存在を感じさせる教材として | 小島道晴 | |
| | 放送学習のルーツをたどる | 西本三十二 | |
| | 視聴指導12章・補講<3>「話し合い」を焦点化する工夫 | 清中喜平 | |
| | 環境教育と放送 環境への働きかけをめざしたテレビ視聴指導ー『みどりの地球』「おぼけハゼ」を使ってー | 押野市男 | |
| | 環境教育と放送 環境と生物との関係について理解を深めるー『みどりの地球』を利用した親子同時視聴ー | 坂本栄一 | |
| | 7月号 | 巻頭言 放送技術研究のメッカとして | 本間秀夫 |
| | | 特集 放送を活用した道徳指導 | |
| | | 【特集】パチンコ型人間どこへ行く 現代子どもの価値意識調査と道徳番組 | 小泉仰 |
| 【特集】継続利用による子どもの育ち 『大きくなる子』を利用した子どもの変容 | | 橋本誠司 | |
| 【特集】ひとりの子の変容をめざして テレビの主人公光一と共に歩む耕史を見つめて | | 鈴木松三 | |
| 【特集】生徒サイドに立った道徳の指導 人間の生き方への自覚の段階的な高まり | | 山西実 | |
| 【特集】番組ハイライト 児童生徒の価値意識の発達から見た番組づくり | | 望月達也 | |
| 全国学校放送開始と放送学習 | | 西本三十二 | |
| 実践 保育と放送 たくましく豊かな人間性を育てるための放送利用を考えてー『お話でてこい』で育った幼児の情操ー | | 鬼塚静波 | |
| 8月号 | | 特集 子どもとテレビを考える | |
| | 【特集】巻頭言 家庭のトータルシステムの中で | 波多野完治 | |
| | 【特集】子どもにとってテレビとは | 近藤大生 | |
| | 【特集】テレビっ子ー一世・二世の間に 子どもとテレビ・その周辺にある事柄を考える | 光永久夫 | |
| | 【特集】ピンクレディの模倣は何をもたらしたか | 後藤田純生 | |
| | 【特集】子どもたちの願望をのせたメッセージ テレビCMの功罪 | 片岡輝 | |
| | 【特集】子どものテレビへの接触行動 NHK世論調査をもとに | 菊地利孝 | |
| | 国民学校と戦時放送学習 | 西本三十二 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---|--|-----------------------|------|
| 8月号 | 座談会 放送教育・戦後の復興 | 西本三十二、松村謙、川上行蔵、中野照海 | |
| | 80年代一学校放送の選択 | 堀江固功 | |
| 9月号 | 特集 教育機器の総合的な活用 | | |
| | 【特集】巻頭言 教育機器を授業にどう生かすか | 坂元昂 | |
| | 【特集】教育機器の多角的な活用 活用上の留意事項 | 野田一郎 | |
| | 【特集】保育における機器の活用 テレビとの組み合わせ利用のパターン | 桜本富雄 | |
| | 【特集】個に即した授業展開のためにオーディオチュートリアルシステムによる個別学習教材 | 岡田弘康 | |
| | 【特集】放送を中心とした視聴覚機器の効果的利用 放送教材と自作教材の適時利用 | 賀藤宜夫 | |
| | 【特集】教師+機器による効果の増幅 アナライザー・VTR・OHPなどの組み合わせ活用 | 服部裕子 | |
| | 【特集】自作VTR教材による学習指導 地元伝統産業を扱って | 小畑登 | |
| | 【特集】ろう教育にビデオ教材を効果的に活用 マイクロコンピューターを導入したVTRシステムの開発 | 広瀬俊治 | |
| | 【特集】教育機器の整備充実 埼玉県では放送教育機器の充実をどう図ったか | 石川友一 | |
| | 占領下の放送学習 | 西本三十二 | |
| 10月号 | 特集 放送教育の効果のとりえ方 | | |
| | 【特集】巻頭言 教材特性を生かす評価を | 大内茂男 | |
| | 【特集】映像視聴能力をどうとらえるか 視聴能力についての三つの関門 | 水越敏行 | |
| | 【特集】放送学習の累積効果をとらえよう 札幌のとりくみ | 奈良英夫 | |
| | 【特集】放送学習による子どもの変容を求めて 放送学習の効果をとらえる一方法 | 高崎俊紀 | |
| | 放送学習の原理と方法 | 蛭谷米司 | |
| | 占領下の放送学習(つづき) | 西本三十二 | |
| | 環境教育と放送 行動化をめざした環境教育の実践—『みどりの地球』を利用して— | 猪俣敦夫 | |
| | 11月号 | 特集 理科における発展学習 | |
| | | 【特集】巻頭言 理科における発展学習の方向 | 蛭谷米司 |
| 【特集】追究意欲をかきたてる学習活動を 放送と理科の授業 | | 板垣慧 | |
| 【特集】主体的に自然を探る力を引き出すテレビ「理科教室小学校三年生」の実践から | | 松永光義 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|---|--|
| 11月号 | 【特集】感動ある授業はテレビの利用価値を高める 子どもの発見した素朴な課題を契機にして | 佐々木俊光 |
| | 【特集】「考える」ことに夢中になる楽しさを 自ら学びとる力とテレビからの発展学習 | 鈴木孝男 |
| | 【特集】理科番組のあゆみ | 荻須正義、浦川朋司、中野照海 |
| | テレビ学習におけるイメージ化の効果(上) | 教授科学研究会(代表・多田俊文) |
| | 岐阜大会から一年・本県教育への遺産 小学校を中心に | 沢田鉄男 |
| 12月号 | 環境教育と放送 放送学習とイラスト表現—『みどりの地球』視聴の評価のこころみ— | 市之瀬秀夫 |
| | 巻頭言 「テレビに学ぶ」ことも 札幌大会の成果にふれて | 原俊之 |
| | 特集 第31回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】総合全体会 大地に生きる子どもたち～放送と教育を語る～ | 谷昌恒、桐島洋子、伊藤鐘二ほか |
| | 【特集】校種別レポート | 滝沢武久、蛭谷米司、松本禎司、植村脩、前田丞一、内山修治、白幡恒夫、多田俊文、間山達也、山田大陸、 |
| | 【特集】あなたにこたえる教育機器実践講座 | 佐田菊彦 |
| | 【特集】記念対談 放送教育の展望—札幌大会から | 安藤忠吉、蛭谷米司 |
| | 巻頭言 放送大学元年におもう | 西本三十二 |
| | 特集 実践記録から何を学ぶか | |
| | 【特集】実践記録の意義 | 斎藤伊都夫 |
| 1月号 | 【特集】アンケート わたしにとって実践記録とは? | 原田吹江、森岡範子、溝内玲子、西田文字、五十嵐正一、櫻谷利明、玉川幾麻、大谷鉦三、久保田昌子、宮崎房子、日隈健二、工藤哲弥、植村敏秀、倉橋政道、中西愛子 |
| | 【特集】勇気をもって慎重に一論文に応募するということ | 波多野完治 |
| | 第17回学校放送教育賞 全国体制で取り組んだ放送教育 15年のあゆみを支えた願いと成果 | 札幌学園真駒内幼稚園 |
| 第17回学校放送教育賞 放送による主体的な学習のあり方を求めて 親子で学ぶ放送教育9か年の歩み | 愛知県岡崎市立三島小学校 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|-----|---|-------------------------------------|-------|
| 1月号 | 第17回学校放送教育賞 豊かな人間性を育てる放送学習の実践 放送教育の大衆化に対応した全校利用体制を求めて | 札幌市立伏見中学校 | |
| | 座談会 社会科番組のあゆみ | 大野連太郎, 橋爪幸正, 中野照海 | |
| | テレビ学習におけるイメージ化の効果(下) | 教授科学研究会(代表・多田俊文) | |
| 2月号 | 特集 指導計画をどう立てるか | | |
| | 【特集】巻頭言 56年度番組改定のポイント | 西山昭雄 | |
| | 【特集】(幼稚園・保育所) 累積効果を期待して 保育計画立案の手順とポイント | 藤森理代 | |
| | 【特集】(幼稚園・保育所) 放送学習の生活化を 継続視聴の体験が生かされる指導計画 | 早坂直子 | |
| | 【特集】(幼稚園・保育所) 無理のない計画で確かな実践を どのような子どもを育てるのか | 加藤千鶴 | |
| | 【特集】(幼稚園・保育所) 遊びの発展とのかかわりで 前年度の反省にたつて | 荒金カツ子 | |
| | 【特集】(幼稚園・保育所) 子どもの実態とねらいを明確にして 三歳児の継続視聴計画 | 田村ヒサ子 | |
| | 【特集】(小学校) 「放送学習」計画化の構想 教科書学習とのドッキングをいかにするか | 春日順雄 | |
| | 【特集】(小学校) 児童の主體的学習への道づくりに 放送の特性を生かした指導計画を | 久故博睦 | |
| | 【特集】(小学校) 自ら学ぶ児童を育てる位置づけを 番組の特性に応じて利用形態を考える | 神谷進 | |
| | 【特集】(小学校) 放送視聴指導と90分授業の試み ゆとりと充実をめざして | 大宝茂 | |
| | 【特集】(小学校) 子どもが生き生きと活躍できる計画を『ラジオ音楽教室六年生』を活用した場合 | 松岡初枝 | |
| | 第17回学校放送教育賞 よろこびのある保育をめざす放送利用 | 熊本県山鹿市保育所放送教育研究会 | |
| | 第17回学校放送教育賞 たしかな学力と豊かな情操を育てる放送教育の研究 | 京都府福知山市立大正小学校 | |
| | 昭和56年度幼稚園・保育所番組 | | |
| | 昭和56年度学校放送番組について(小学校) | | |
| | 3月号 | 特集 指導計画をどう立てるか | |
| | | 【特集】巻頭言 年間計画立案の前提として | 有光成徳 |
| | | 【特集】(中学校) 「放送で学ぶ」ことを主眼に 放送利用計画立案の手順 | 久保田光彦 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|------------|
| 3月号 | 【特集】(中学校) 社会科的ものの見方を身につける テレビを利用した社会科の授業計画 | 戸田晴久 |
| | 【特集】(中学校) 「学級の時間」における継続視聴 新番組『中学時代』の利用計画 | 松本洋一 |
| | 【特集】(中学校) 創造性豊かな人間形成をめざして「道徳教育」を中心にする放送学習指導計画 | 田中常夫 |
| | 【特集】(高等学校) 放送の教育特性を生かして 放送利用計画立案のポイント | 清水洋三 |
| | 【特集】(高等学校) 適切な学習・評価方法の確立を 高校放送学習の定着のために | 山田大隆 |
| | 第17回学校放送教育賞 視聴能力を育て行動発展学習を促す番組『みどりの地球』一全校一斉継続視聴三年間のあゆみ | 岐阜市立長森中学校 |
| | 第17回学校放送教育賞 放送利用学習から放送教育へ 学校放送教育を生涯学習の土台に | 鳥取県立根雨高等学校 |
| | 昭和56年度学校放送番組について(中学校) | |
| | 昭和56年度学校放送番組について(高等学校) | |

主な連載：放送教育実践講座、学習指導案、教育機器実践講座、機器と教育活動、校内放送12か月、台本、教材開発研究講座、ロッキングチェア

1981 (昭和56) 年度 (通巻385~396号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------------|---|-----------------------------------|
| 4月号 | 巻頭言 視聴覚教育行政の基本的な姿勢 | 岡行輔 |
| | 特集 新学年の視聴環境づくり | |
| | 【特集】幼稚園 ラジオの場合 感じ合えるゆとり | 糸幸子 |
| | 【特集】幼稚園 テレビの場合 主体的活動を促す配慮を | 原田滯子 |
| | 【特集】小学校 低学年の場合 教師自身が最高の視聴環境 | 蜂谷義雄 |
| | 【特集】小学校 中学年の場合 主体的に楽しく学ぶ教室に | 秋山亜輝男 |
| | 【特集】小学校 高学年の場合 興味や意欲をよび起こす | 大谷鉦三 |
| | 特集 新番組ハイライト | |
| | 【特集】幼稚園・保育所 冒険旅行の中から想像力を『川の子クークー』 | 鈴木孝昌 |
| | 【特集】中学校社会科 同じ惑星の旅仲間意識を『新しい世界』 | 高柳正幸 |
| | 【特集】中学校特別活動 何を目標に生きていくのか『中学時代』 | 三井俊二 |
| | 【特集】中学校音楽・美術・国語 新分野の放送教材の提供『中学校特別シリーズ』<月> | 大羽襄, 村山重則 |
| | 【特集】学校技術家庭・理科 テレビの機能を生かして『中学校特別シリーズ』<木> | 西内久典, 杉本勝久, 有泉裕 |
| | 【特集】学校社会・体育・国語 豊かな学習活動の資料に『中学校特別シリーズ』<金> | 村山重則, 有泉裕, 小林啓子, 仲野市之信, 中井一, 石塚征雄 |
| | 【特集】高等学校理科・家庭科 教科の特定領域の内容を精選『高校特別シリーズ』 | 野上俊和, 大竹ミドリ |
| | 学校放送番組への提言 密度の濃い多様な番組を | 石川桂司 |
| | 紀行 ロンドン・パリの旅 全放送連成30周年記念海外研修に参加して | 久保田光彦 |
| | 海外教育放送事情 メキシコの教育放送事情 | 箕浦弘二 |
| | 実践 放送教育への手がかりとして～高校国語科における放送活用についての私見～ | 川内通生 |
| | 5月号 | 巻頭言 シルクロードへの人間の情念を |
| 特集 社会科番組をどう活用するか | | |
| 【特集】社会科番組はこのように作られている | | 太田英博 |
| 【特集】小学校低学年 社会の見方や考え方を深めるために | | 竹村健 |
| 【特集】中学年 社会事象の学び方を学ばせるテレビ | | 松本盛男 |
| 【特集】高学年 課題提起による歴史学習と放送教材 | | 小久保聖 |
| 【特集】中学校 学習意欲を高めたテレビ視聴 | | 戸田晴久 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|-----------------------------------|
| 5月号 | 【特集】放送社会科の特性はどこにあるか | 多田俊文 |
| | 学校放送番組への提言 国際化時代の教育テレビ番組として | 木原健太郎 |
| | 海外教育放送事情 東南アジアの教育放送 | 赤堀正宜 |
| | 実践 より確かに育つ子どもを求めて『理科教室 小学校一年生』「かたつむり」の実践から | 喜多常志 |
| 6月号 | 巻頭言 探究の動機づけに生かす | 太田次郎 |
| | 特集 理科番組をどう活用するか | |
| | 【特集】理科番組はこのように作られている | 浦川朋司, 羽岡伸三郎 |
| | 【特集】小学校低学年 探究への意欲を高める放送理科学習 | 中村富 |
| | 【特集】小学校中学年 自然に立ち向かう子どもをめざして | 金子明 |
| | 【特集】小学校高学年 子どもの既有知識にゆさぶりをかける | 愛知県知多郡武豊町衣浦小学校理科部会 |
| | 【特集】中学校 理科番組から学習を発展させる視聴指導 | 光田彰雄 |
| | 【特集】理科番組の特性とその利用 | 武村重和 |
| | 学校放送番組への提言 “ゆとり”と“充実”への対応 | 岡村二郎 |
| | 実践 道徳授業を楽しく一放送教材利用一年めの発見 | 鶴高静 |
| 7月号 | 特集 子どもとテレビ | |
| | 【特集】巻頭言 こどもを生かす映像教育の必要 | 川上春男 |
| | 【特集】アンケート いま何が問題か? その対策は? | 坂尾英之, 迫野福二, 作中久雄, 陸井豊一, 伊藤行餘, 南正道 |
| | 【特集】テレビ視聴の自主性をどう育てるか | 深谷昌志 |
| | 【特集】テレビを見る目がどう育ったかー小学校の場合 | 玉川幾麻 |
| | 【特集】生徒のテレビ視聴の実能ー中学校の場合 | 横瀬富士子 |
| | 【特集】子どもと流行語ー放送と子どもの言語環境 | 稲垣吉彦 |
| | 【特集】イギリスのメディア教育 | 佐賀啓男 |
| 8月号 | 【特集】『中学生日記』と理想の教師像 | 今泉さち子 |
| | 学校放送番組への提言 定型からの脱皮を | 吉田貞介 |
| | <投稿>放送教材に求める資料性とは何か | 大西昭 |
| | 巻頭言 放送大学の成立と放送教育の前進 | 西本三十二 |
| | 特集 放送と学習ー今あらためて放送教育の原点をさぐるー | |
| | 【特集】「形象との対話」と放送による学習 | 村瀬隼男 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------|---|------------|
| 8月号 | 【特集】「資料」と「経験」の的確な使い分けを | 有光成徳 |
| | 【特集】映像の半具体性・半抽象性を生かす | 松本勝信 |
| | 学校放送のハードとソフト～新しい放送教育理論への試み～ | 浦達也 |
| | 放送教材に求める資料性とは何か 安易な絵解きでは資料性も生かない | 清中喜平 |
| | 放送教材に求める資料性とは何か 無視できないライブラリー化の傾向 | 渡辺昌義 |
| | 隣接科学から 教育へのメッセージ (社会学) 親の中の子ども・社会の中の子ども | 加藤秀俊 |
| | 学校放送番組への提言 外野席の子たちにこそ 小学校向け理科番組について思う | 渡辺光雄 |
| | 実践 テレビ利用による情報処理能力の育成 | 岡部昌樹 |
| 実践 放送をとおして保護者とともに育つ 親子同時聴取の記録 | 光畑晴子 | |
| 9月号 | 特集 音楽番組をどう活用するか | |
| | 【特集】巻頭言 遊んでリズムを | 石川晶 |
| | 【特集】音楽番組はこのように作られている | 後藤田純生 |
| | 【特集】音楽を通して心の交流を一四年「もみじ」の実践 | 山中佳子 |
| | 【特集】一年間いっしょに暮したテレビ | 小平洋子 |
| | 【特集】音楽番組を楽しみながら学習力を高める | 松本宏昭 |
| | 【特集】イメージの世界にひろがり | 永井保雄 |
| | 【特集】身体反応をひき出す音と映像 | 小川明夫 |
| | 【特集】音楽番組の特性とその利用 | 大和淳二 |
| | 学校放送番組への提言 ゆとりのある充実した継続教育のために | 高橋勉 |
| 実践 感動を大切にし豊かな心情を培うために | 加藤千鶴 | |
| 10月号 | 特集 教育機器の利用法総合講座 | |
| | 【特集】巻頭言 ニュメディアの融合時代へ | 高橋良 |
| | 【特集】教育機器の選び方・使い方 | 渡部知弥 |
| | 【特集】自作教材の制作とその活用 | 藤本久雄 |
| | 【特集】録音・録画テープライブラリーの運営 | 皆川春雄, 山田雅彦 |
| | 【特集】放送の利用と著作権 | 黒川徳太郎 |
| | 特集 教育機器研修セミナー | |
| | 【特集】ビデオカメラ その種類と選び方 | 中村昌平 |
| | 【特集】ビデオプロジェクター その用途と機能 | 谷俊夫 |
| | 【特集】光学式ビデオディスク システム その特長と利用 | 竹内武昭 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------|
| 10月号 | 【特集】VHDビデオディスクシステム その原理と活用法 | 高橋国土 |
| | 【特集】パーソナルコンピューター 学校におけるデータ処理・分析 | 岡田隆 |
| | 【特集】光学式小型デジタルオーディオディスク その内容と特長 | 岩下隆二 |
| | 学校放送番組への提言 子どもたちにふんだんな体験の場を与えよ | 下孝一 |
| 11月号 | 特集 道徳番組をどう活用するか | |
| | 【特集】巻頭言 “自分ならば”という親近感で | 八州安吾 |
| | 【特集】うめばし婆ア考～『大きくなる子』をめぐる～ | 八重樫克羅 |
| | 【特集】テレビと共に大きくなる子『大きくなる子』の授業メモから | 鷺辺達子 |
| | 【特集】豊かな感想を育てる指導法『みんななかよし』を利用して | 愛知県知多郡武豊町衣浦小学校道徳部 |
| | 【特集】子どもの心情にゆさぶりをかける『明るいなかま』を継続視聴して | 猪瀬俊夫 |
| | 【特集】自己の生き方をきりひろく道徳指導 中学校ラジオ道徳番組の活用から | 井上光枝 |
| | 【特集】道徳番組の特性とその利用 | 井上治郎 |
| | 【特集】マリコとジュンペイ～心さみしい子どもたち～『中学時代』取材ノート | 助川きよみ |
| | 隣接科学から 教育へのメッセージ (科学史) 科学的なものの考え方と伝達 | 村上陽一郎 |
| 学校放送番組への提言 高次元で「利用」と「制作」の結合を | 福村保 | |
| 12月号 | 特集 国語番組をどう活用するか | |
| | 【特集】巻頭言 国語教育は「聞く」ことから | 倉沢栄吉 |
| | 【特集】国語番組はこのように作られている | 中井一 |
| | 【特集】『おとぎのへや』と子どもたちの理解力 表現力 行動力 | 横山迦葉子 |
| | 【特集】想像力と創造力を育てた『みんなの図書室』 | 森章子 |
| | 【特集】生きて働くことばの育成『ことばの教室』の利用 | 愛知県豊橋市立新川小学校国語部 |
| | 【特集】読書への興味・関心を高める『名作をたずねて』の利用 | 高橋広美 |
| | 【特集】国語番組の特性とその利用 | 森久保保美 |
| | 学校放送番組への提言 現実感のある番組のために | 芳賀純 |
| | 1月号 | 巻頭言 技術革新の結実の時に |
| 新春対談 教育・しつけ・放送 | | 波多野完治, 長浜道夫 |
| 特集 第32回放送教育研究会全国大会の記録 | | |
| 【特集】総合全体会 未来に生きる子供を～放送と教育を語ろう～ | | 奈良本辰也, 熊井啓, 渥美雅子ほか |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------------|---|------------------------|
| 1 月号 | 【特集】(幼稚園・保育所)みずみずしい感動とたくましい行動を | 坂本昂, 松本勝信, 武井照子 |
| | 【特集】(小学校, 特殊教育)イメージを豊かにし発展させる学習を | 大内茂男, 田中正吾, 正田正宏, 浦川朋司 |
| | 【特集】(中学校)自ら学び自ら発展する意欲的な学習を | 水越敏行, 竹村武 |
| | 【特集】(高等学校)視聴能力を高め自ら進んで未来に挑む | 多田俊文, 宇根満雄, 高須賀清 |
| | 【特集】対談 山口大会の主張とこれからの放送教育 | 蛸谷米司, 村瀬隼男 |
| | 【特集】山口大会から埼玉大会へ | 南正, 関田孔一 |
| | 【特集】教育機器研修セミナー マイコンとビデオディスクに関心集中 | 神谷与志雄 |
| | 学校放送番組への提言 放送学習—その“で”と“に”と“を” | 青木章心 |
| 第18回学校放送教育賞 全盲教師によるテレビ利用学習の一試み | 山口県立盲学校 | |
| 2 月号 | 巻頭言 これからの放送教育への期待 | 天城勲 |
| | 特集 放送を利用した指導計画の立案 | |
| | 【特集】(小学校)追究力を育てる指導計画を | 広修治 |
| | 【特集】(小学校)テレビと教科書を融合させて | 石橋光四郎 |
| | 【特集】(小学校)五感を通して力いっぱい学習を | 浜田敏子 |
| | 【特集】(幼稚園)自然を愛する子どもたちに | 水野登美代 |
| | 【特集】(保育所)子どもが生き生きと活動する計画を | 大野悦子 |
| | 第18回学校放送教育賞 視聴覚教育から放送教育へのあゆみ | 埼玉県大宮市立栄小学校 |
| | 第18回学校放送教育賞 小学部・中学部・高等部の一貫したテレビ視聴学習 | 北海道真駒内養護学校 |
| | 実践 テレビがかけた七組の虹 特殊学級のテレビ視聴記録 | 小平洋子 |
| | 実践『みどりの地球』から学んだ家庭科学学習の歩み | 秦ひろみ |
| 昭和57年度NHK学校放送番組<幼・小> | | |
| 3 月号 | 巻頭言 テレビ教育はふだん着で | 坂元彦太郎 |
| | 特集 放送を利用した指導計画の立案 | |
| | 【特集】年間指導計画立案の手順とポイント | 竹田一郎 |
| | 【特集】(中学校)生涯学習の導入として 中学校社会科世界地理の場合 | 村瀬寿人 |
| | 【特集】(中学校)考える力を育てるために テレビ『理科教室』を利用した授業計画 | 大岡久芳 |
| | 【特集】(高等学校)指導計画の基本は「学ぶ気にさせる」こと | 松島信義 |
| 隣接科学から 教育へのメッセージ (臨床心理学) 心のエネルギーと母性原理 | 河合隼雄 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------|---|------|
| 3 月号 | 実践 豊かで広い視野をもった生徒の育成をめざして ゆとりの時間に『中学生の広場』『中学時代』を継続視聴して | 日隈健二 |
| | 実践 病弱養護学校高等部の理科学習に『通信高校講座』を導入して | 鈴木正幸 |
| | 昭和57年度NHK学校放送番組(中・高) | |

主な連載: 子どもの証言, 学習指導案, 教育メディアの上手な使い方, 校内放送12か月, わたしたちの台本, 機器と授業, 教材開発研究講座, ファックス資料



1981年7月号



1981年7月号

1982 (昭和57) 年度 (通巻397~408号)

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|-----------------------------------|--|-------------------------|-------|
| 4月号 | 特集 わかる授業・楽しい授業 | | |
| | 【特集】わかる授業・楽しい授業とは | 高桑康雄 | |
| | 【特集】子どもとの「共感」を大切にしながら | 重野道子 | |
| | 【特集】番組研究・授業研究を共同のちからで | 溝内玲子 | |
| | 【特集】わかるから楽しい 楽しいからわかる | 田中靖雄 | |
| | この人に聞く 学校放送のねらい | 白川泰二 | |
| | 特集 新番組ハイライト 『みつめる目』『なにぬねノート』ほか | 18番組 | |
| | 隣接科学から 教育へのメッセージ (西洋史・文明論) これからの世界と日本の教育 | 木村尚三郎 | |
| | 海外放送教育事情 総合学習番組花ざかり | 野上俊和 | |
| | 放送教育放談「教科の下僕」に甘んずることなかれ | 清中喜平 | |
| | 放送教育相談室 情報化社会における放送教育 | 大内茂男 | |
| | 放送教育相談室 放送教育の再考 | 近藤大生 | |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと1 教育思潮と放送教育 | 波多野完治 | |
| | 5月号 | 特集 自然に親しむ・自然を考える | |
| 【特集】春がくるのを見たことある? | | 愛知県知多郡武豊町立衣浦小学校理科部 | |
| 【特集】見方・考え方・扱い方を高める放送学習 | | 大室健司 | |
| 【特集】テレビ視聴学習による生徒の変容 | | 磯野謙次 | |
| 【特集】好きになる 考える 確かめる 理科 | | NHK学校教育部理科班 | |
| 【特集】なぜなぜなぜがなぜ起こるのか『ウルトラ アイ』制作現場から | | 中雄一 | |
| 【特集】テレビと実物とで探究の相乗効果を | | 奥井智久 | |
| この人に聞く 教育機器の多様化に対応 | | 岡行輔 | |
| 放送教育放談「一見の効果」に満足することなかれ | | 清中喜平 | |
| 放送教育相談室 これからの放送教育 | | 寺脇信夫 | |
| 講座 放送教育に影響を与えた人びと2 シュラムと教育放送 | | 中野照海 | |
| 実践記録 主体的活動を促した放送学習「ゆとりの時間」を中心に | | 北村卓子 | |
| 6月号 | | 特集 放送教育 現状と展望 | |
| | | 【特集】調査からみたテレビ教育30年 | 秋山隆四郎 |
| | 【特集】NHK学校放送の利用状況一昭和56年度調査より | 宇佐美昇三 | |
| | 【特集】座談会 [90%]の意味を考える～「利用状況調査」をふまえて～ | 岸本唯博, 鈴木勢津子, 鈴木鉛二, 本沢達雄 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------|---|------------------------|
| 6月号 | 【特集】海外の教育放送の動向ー日本賞コンクールを通じて | 箕浦弘二 |
| | マスコミ教育の課題① 座談会 マスコミの中の子ども | 中野収, 深谷和子, 大塚武男, 小川吉造 |
| | 放送教育放談「包装のデザイン」に幻惑されることなかれ | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 子どもの自主性を育てる放送教育 | 池田誠一郎 |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと3 テールと経験の円錐 | 多田俊文 |
| | 実践記録 テレビからとび出す子を求めて『みどりの地球』の視聴を核に | 上村輝子 |
| 7月号 | 特集 社会を見る目を育てる | |
| | 【特集】社会を見る目を放送はどう育てるか | 小林信郎 |
| | 【特集】時間空間を超えた人と人とのつながりを | NHK学校教育部社会科班 |
| | 【特集】豊かな時代イメージを育てるテレビ教材ー『くらしの歴史』の活用 | 神原文典 |
| | 【特集】クラさんありがとうー『わたしたちのくらし』四年社会科視聴感想文 | 福井県坂井郡丸岡町立長畝小学校 |
| | 【特集】大河ドラマから郷土の歴史・自然の学習へ | 平原祐次 |
| | 【特集】子どもはどんなとらえ方をしているかーテレビ視聴に対する子どもの観察態様 | 放送社会科研究グループ |
| | マスコミ教育の課題② 学校教育とマスコミ | 高須正郎, 徳武清助, 小川吉造, 大塚武男 |
| | 放送教育相談室 生涯教育と放送 | 坂元昂 |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと4 ホーバンと教育映画研究 | 中野照海 |
| 8月号 | 特集 子どもにとってテレビとは | |
| | 【特集】物語が自我の誇りを形成する | 佐藤忠男 |
| | 【特集】お母さんへの手紙 子どもとテレビのかかわり | 原清太郎 |
| | 【特集】大人になったテレビっ子ーテレビで育った若い教師たち | 石川桂司 |
| | 【特集】子どもとの対話・ふれあいを求めてー親子同時視聴の試み | 沢田妙子 |
| | 【特集】メディアについて教えているいくつかの国々 | 佐賀啓男 |
| | 【特集】クルンバルト宣言 (編集部訳) | |
| | 【特集】「子どもと情報」を考える～『600こちら情報部』制作現場から～ | 鈴木弥太郎 |
| | マスコミ教育の課題③ 情報化社会における教育の展望 | 伊藤慎一, 今野浩, 大塚武男, 小川吉造 |
| | 放送教育放談「直前0分」がなぜ流行するのか | 清中喜平 |
| 放送教育相談室 生涯教育につなぐ放送教育 | 小田自郎 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|---------------------|
| 8月号 | 講座 放送教育に影響を与えた人びと5 ブルーナーと教育の現代化 | 多田俊文 |
| | 手記 あるろう児と母が越えた道1 | 大竹信弥 |
| 9月号 | 特集 いま、子どもたちの道徳は…… | |
| | 【特集】道徳教育と生活指導のあいだ | 山村賢明 |
| | 【特集】現代っ子の価値意識をさぐる | 片岡輝 |
| | 【特集】子どもが道徳番組から受けたもの | 岩木晃範 |
| | 【特集】生活感あふれるドラマづくりをめざして | NHK 学校教育部 道徳班 |
| | 【特集】中学生の“心の中”はどうなっているか | 山田暁生 |
| | 【特集】『中学時代』取材メモから見た子どもたち | 渡部誠治 |
| | 【特集】この人に聞く もののとなえ方が多様で全体的～風間先生の見た現代中学生～ | 湯浅実 |
| | マスコミ教育の課題④ 世界的視野でみたマスコミ教育 | ミアラレ、滝沢武久、小川吉造、大塚武男 |
| | 放送教育放談 なぜ「ナマ」にこだわるのか | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 学ぶ喜びを具体化するために | 多田俊文 |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと6 オルセンと地域社会学校 | 雪江美久 |
| | 実践記録 低学年の視聴ノート活用法 | 坂田彰一、井村新次、佐久間義明 |
| | 手記 あるろう児と母が越えた道2 | 大竹信弥 |
| 10月号 | 特集 ことばの力を高める | |
| | 【特集】『ことばの教室2年生』「話の始め・中・しまい」制作ノート | 村上政光 |
| | 【特集】『ことばの教室2年生』聞く、話す力の向上をめざして | 柏瀬恵美子 |
| | 【特集】『ことばの教室2年生』正しい話しことばを身につける | 三井知夫、久保田昌子 |
| | 【特集】『なににぬねノート』『心の手紙』制作ノート | 山岸嵩 |
| | 【特集】『なににぬねノート』興味をもてる学習を求めて | 程島けい子 |
| | 【特集】『なににぬねノート』柔軟な姿勢で番組に対応する | 三井知夫、久保田昌子 |
| | 【特集】テレビ国語番組の学年別編成を望む | 高田惇 |
| | 【特集】音読指導で高まる学習意欲 | 八戸音読研究会 |
| | 【特集】物語のあらすじをとらえさせる指導—『おとぎのへや』の継続視聴を通して | 押野市男 |
| | マスコミ教育の課題⑤ これからの社会とマスコミ教育 | 永井道雄、宇野一、小川吉造、大塚武男 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------------------|--|--------------------|
| 10月号 | 放送教育放談「5分間」で何がかけるか | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 知識と情操を育てる放送教育 | 中野照海 |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと7 キース・タイラーとベイシック・プレゼンテーション | 寺脇信夫 |
| 11月号 | 特集 教育機器の活用と指導法の改善 | |
| | 【特集】指導の充実と教育機器をどう生かすか | 畠山芳太郎 |
| | 【特集】教育機器の選び方・使い方 | 木下昭一 |
| | 【特集】テープの種類とその活用法 | 中原一 |
| | 【特集】放送ニューメディア | 木村敏 |
| | 【特集】ビデオプロジェクター | 苗村繁夫 |
| | 【特集】ポータブルビデオ | 西沢孝 |
| | 【特集】ワードプロセッサ | 宮西亮 |
| | 【特集】パーソナルコンピューター | 山本直三 |
| | 【特集】この人に聞く はじめに教育ありきの考え方で | 森田充昭 |
| | 特集 学ぶ喜びをめざす埼玉大会 | |
| | 【特集】埼玉大会のめざすもの | 大会事務局 |
| | 【特集】大会の見どころ | 大会事務局 |
| | 北京紀行① 日中放送教育の交流 | 西本三十二 |
| 放送学習への提言 なぜ線分法を提唱するのか | 清中喜平 | |
| 放送教育相談室 映像視聴能力を測る | 水越敏行 | |
| 講座 放送教育に影響を与えた人びと8 スキナーと行動形成理論 | 中野照海 | |
| 12月号 | 特集 子どもの音楽環境と学校音楽 | |
| | 【特集】「新しい子どもの歌」が必要とされる時代 | 繁下和雄 |
| | 【特集】テレビ学校放送の音楽教育における役割 | 後藤田純生 |
| | 【特集】『ワンツ・どん』を継続視聴して得たもの | 鈴木千恵 |
| | 【特集】レーザーディスクを生かした鑑賞指導 | 石沢真紀夫 |
| | 【特集】50回を迎える全国学校音楽コンクール | 大羽襄 |
| | この人に聞く 視聴覚教育行政の30年 | 大谷巖 |
| | 座談会 教育放送に未来をかける国々—発展途上国の教育放送の課題と展望 | 磯貝千足、玉木孚、赤堀正宜、高須賢清 |
| | 北京紀行② 日本の放送教育と中国の電視大学 | 西本三十二 |
| | 放送学習への提言 線分法を解説する(A) | 清中喜平 |
| 講座 放送教育に影響を与えた人びと9 ピアジェと発生的認識論 | 滝沢武久 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1月号 | 特集 第33回放送教育研究会全国大会の記録 | |
| | 【特集】総合全体会 学ぶ喜びと感動を | 浦山桐郎, 木村治美ほか |
| | 【特集】記念鼎談 埼玉大会の主張とこれからの放送教育 | 降旗経雄, 本沢達雄, 多田俊文 |
| | 【特集】校種別研究レポート | 林信二郎, 多田俊文, 中野照海, 坂元昂, 大内茂男 |
| | 【特集】教育機器展示・教育機器研修セミナー報告 | 山本幹夫 |
| | この人に聞く モノの時代から心の時代へ | 川原正人 |
| | 新春対談 放送・ことば・教育 | 金田一春彦, 長浜道夫 |
| | 放送学習への提言 線分法を解説する(B) | 清中喜平 |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと10 ガニエの学習理論と授業設計 | 西之園晴夫 |
| 2月号 | 特集 ゆとりの時間と放送 | |
| | 【特集】ゆとりの時間に放送をどう生かしていくか | 蜂谷義雄 |
| | 【特集】『ひろがる教室』の利用とゆとりの時間 | 吉川明彦 |
| | 【特集】ゆとり時間を活用した映像教育の実践 | 池店岩應 |
| | 【特集】『名作をたずねて』の利用とゆとりの時間 | 高橋広美 |
| | この人に聞く テレビ30年に想う | 川上行蔵 |
| | 総合理科番組を創造する～NHK高等学校講座『理科I』～ | 野崎剛一 |
| | 放送学習への提言 線分法への質疑に答える | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 放送による教育の可能性とその実践 | 松本勝信 |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと11 ロジャースと教育の革新 | 岩崎三郎 |
| 実践記録 よりよい視聴指導を求めてーテレビ『できるかな』の比較実践ー | 野田学園幼稚園 | |
| 昭和58年度NHK学校放送番組(幼・小) | | |
| 3月号 | 特集 指導計画作成のポイント | |
| | 【特集】放送を生かした指導計画をどう立てるか | 長谷川忍 |
| | 【特集】お話に親しみ感動する豊かな心を育てる | 大橋伊都子 |
| | 【特集】「おもしろい」から「わかる能力」も伸びる | 村岡耕治 |
| | 【特集】生徒ひとりひとりの「心」に訴える教材を | 村上師幸 |
| | 【特集】楽しく充実したロングホームルームを求めて | 岩崎淳子 |
| 北京紀行③ 電視大学と教師の役割 | 西本三十二 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|-----------------------------------|-----------|
| 3月号 | 放送学習への提言 線分法の波及効果 | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 未来の教育と放送 | 吉田秀三 |
| | 講座 放送教育に影響を与えた人びと11 ラザースフェルトと集団過程 | 辻功 |
| | 第19回学校放送教育賞 豊かな人間性を求めて | 和歌山県隅田小学校 |
| | 昭和58年度NHK学校放送番組(中・高) | |

主な連載：学習指導案、教育メディアの上手な使い方、アナウンス指導12か月、わたしたちの台本、教材開発研究講座、わが校の教育機器の活用、教材開発研究講座



1982年8月号



1982年11月号

1983 (昭和58) 年度 (通巻409~420号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--------------------------------------|---------------------------------|
| 4月号 | 特集 放送教育の未来像 | |
| | 【特集】放送教育の近未来に向けて—その活性化の方向— | 中野照海 |
| | 【特集】座談会 放送教育の未来像を探る—中野提言をめぐって— | 中野照海, 岩崎三郎, 野上俊和 |
| | 【特集】どんな問題があり今後どうあるべきか | 荻野忠則, 松本勝信, 岡村二郎, 関田孔一, 武村重和 |
| | この人に聞く ほんもののテレビ文化の花を | 川口幹夫 |
| | テレビ30年 人々はテレビに何をみてきたか—視聴者の30年 | 堤敏郎 |
| | 放送教育放談 発展学習を流行現象とするなかれ | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 豊かな学習力の育成と放送教育 | 高橋勉 |
| | 番組との出会い 私とテレビ30年 | 高村久夫 |
| | 実践記録『明るいなかま』を使って道徳的実践力をどう育てるか | 渡辺幸子, 多田俊文 |
| 実践記録 考える力を広め深める『テレビ理科教室』の活用 | 磯野謙次 | |
| 5月号 | 特集 非行を考える | |
| | 【特集】どこに問題があり、どう対処すべきか | 深谷昌志 |
| | 【特集】非行の芽、非行の根とどう取り組むか | 家野修造 |
| | 【特集】テレビカメラから見た中学生たち | 八重樫克羅 |
| | 【特集】『教育・何が荒廃しているのか』制作現場 | 神林喬 |
| | 【特集】10代は何を考えているか—中高校生の生活と意識調査より | 相田俊彦 |
| | 【特集】学級経営をふまえた『中学時代』の利用 | 坂本好司 |
| | この人に聞く 教育の現代化にテレビを最大限に—NHKに学んで— | 沈綺云 |
| | 放送教育放談 放送教育の癌—「ズレ」を治す特効薬はないか | 清中喜平 |
| | 番組との出会い わたしのごひいき番組 | 大村はま |
| 実践記録 地域を見つめ意欲的に学ぶ子を育てる—四年社会科『わたしたちのくらし』の実践を通して— | 田村茂治 | |
| 6月号 | 特集 放送教育の実践—学校放送教育賞にみる— | |
| | 【特集】座談会 なぜ書いたのか、どう書いたのか、どのように書けば | 秋山隆志郎, 倉橋政道, 鈴木勢津子, 日隈健二, 藤原鴻一郎 |
| | 【特集】実践記録にみる放送教育の動向—学校放送教育賞入賞論文から— | 長谷川忍 |
| | 【特集】学校はどのように放送を利用しているか—学校放送利用状況調査より— | 宇佐美昇三 |
| | この人に聞く いつでも、どこでも、だれでも—発足した放送大学— | 香月秀雄 |
| | 北京紀行④ 21世紀を創造する電視大学 | 西本三十二 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--------------------------------------|---|--------------------------------|------|
| 6月号 | 放送教育放談 週2時間の中でテレビが使えるか | 清中喜平 | |
| | 座談会 スタジオからのメッセージ 番組制作は孤独な作業か—子どもたちの手紙から—<1> | 市村佑一, 浦川朋司, 坂田ユリ, 高須賢清 | |
| | 実践記録 道徳的心情を豊かにして実践力を | 小池敏朗, 多田俊文 | |
| 7月号 | 特集 これからの放送教育への提言 放送教育の未来像② | | |
| | 【特集】これからの教育とテレビ | 蛸谷米司 | |
| | 【特集】ある学習風景—未来の放送教育へのイメージ | 渡辺光雄 | |
| | 【特集】これからの放送教育を考える | 久故博睦 | |
| | 【特集】授業革命への期待—黒板と白墨からテレビ・VTR・OHPへ | 清中喜平 | |
| | この人に聞く 画一化されなくて自分の考えを | 縫田暉子 | |
| | 座談会 メディアの活用と開発 | 青木章心, 高桑康雄, 浦川朋司 | |
| | 座談会 スタジオからのメッセージ 番組制作は孤独な作業か—子どもたちの手紙から—<2> | 市村佑一, 浦川朋司, 坂田ユリ, 高須賢清 | |
| | 番組との出会い NHK専科 | 倉沢栄吉 | |
| | 実践研究レポート 保育にどう放送を取り入れるか | 近藤大生 | |
| 8月号 | 特集 校内放送の現状と展望 | | |
| | 【特集】新時代の校内放送に期待する | 野田一郎 | |
| | 【特集】座談会 校内放送はどうあるべきか | 林三郎, 原玲子, 小佐々晋, 八重樫克羅 | |
| | 【特集】わが校の校内放送の特色 | 畑野知徳, 山本登, 竹橋義明 | |
| | この人に聞く 新しい情報秩序の確立—国際コミュニケーション年に寄せて— | 永井道雄 | |
| | 座談会 学校音楽コンクールの50年 | 浜野政雄, 川上紀久子, 大羽襄, 後藤田純生 | |
| | 北京紀行⑤ 日中放送教育交流の成果 | 西本三十二 | |
| | 番組との出会い ある投書 | 小塩節 | |
| | 9月号 | 特集 歴史ドラマと歴史教育 | |
| | | 【特集】ドラマを歴史教材として生かすには—『おしん』の場合— | 小木新造 |
| 【特集】実践 記憶の歴史教育からイメージの歴史学習へ | | 大谷鉦三 | |
| 【特集】実践 歴史学習に歴史ドラマをどう生かすか | | 目賀田八郎 | |
| 【特集】実践 大河ドラマと青少年の歴史学習 | | 一色正士 | |
| この人に聞く ゆとりが創造性を育てる | | 菊池誠 | |
| 隣接科学から教育へのメッセージ(1) 座談会 異文化としての子どもを読む | | 本田和子, 小川吉造, 浦達也 | |
| 放送教育放談 利用率96%の中味を吟味する | | 清中喜平 | |
| 番組との出会い テレビに弱い人 | 太田次郎 | | |
| 実践記録『かきくけこくご』の視聴をとおして | 小野寺侑希子 | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|------------------------------|
| 10月号 | 特集 “求める学習”とは何か～全国大会テーマをめぐって | |
| | 【特集】なぜ“求める学習”なのか | 岡村二郎 |
| | 【特集】“求める学習”とは、その前提条件とは | 水越敏行 |
| | 【特集】“求める学習”～熊本の取り組み～ | 熊本大会総合事務局 |
| | 【特集】実践 求める学習をめざして～夏の「テレビクラブ」の利用を通して～ | 井上光枝 |
| | この人に聞く “求める子”を育てるには | 坂元昂 |
| | 隣接科学から教育へのメッセージ(2) 座談会 ことば・文化の意味を考えるー文化記号論の立場からー | 池上嘉彦, 小川吉造, 浦達也 |
| | 放送教育放談 放送教育の後進性を叱る | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 学ぶ喜びが学習意欲を育てる | 多田俊文 |
| | 番組との出会い 喫茶店で「道德番組」の評価 | 奥田真丈 |
| 11月号 | 特集 発展学習の目指すもの～全国大会テーマに関連して | |
| | 【特集】発展学習は何を目標としているか | 松本勝信 |
| | 【特集】実践 テレビから広がる学習 | 上田金五 |
| | 【特集】実践 理科学習における発展学習 | 真鍋憲昭 |
| | 【特集】実践 『みどりの地球』から地域の環境調査へ | 岡崎市立美川中学校「みどりの地球」研究部 |
| | 【特集】発展へのパネとしての感動とはーある番組制作者のつぶやきー | 浦川朋司 |
| | 熊本大会への招待 “求める学習”をめざす熊本大会 | 熊本大会総合事務局 |
| | 埼玉大会の評価と熊本大会への期待～小学校を中心に～ | 和田泰輔, 秋山亜輝男, 本沢達雄, 原田四郎, 町田豊 |
| | この人に聞く ニューメディア時代と教育 | 唐津一 |
| | 放送教育放談 多様化の中で本性を見失うなかれ | 清中喜平 |
| | 番組との出会い 放送番組によせて | 天城勲 |
| | 12月号 | 特集 道德意識をどう育てるか |
| 【特集】子どもの道德意識はどこで育てられるか | | 坂本昇一 |
| 【特集】実践 道德意識を高めるために～『大きくなる子』から | | 黒川尚子 |
| 【特集】実践 中学生は『中学時代』をどう見たか | | 太田昭臣 |
| 【特集】子どもはテレビにどのような価値を見だしているかー人気番組の要素を分析してみようー | | 小平さち子 |
| この人に聞く 最良のものを子どもたちに | | 箕浦弘二 |
| ニューメディア時代の学校放送教育賞 第20回学校放送教育賞一審査評 | | 西本三十二 |
| 特別シリーズ どんな番組がありどう使われているか | | |
| 特別シリーズ実践事例ー『技術教室』動きと仕組みの理解に | | 深谷良治 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| 12月号 | 放送教育放談 なぜ「なぞり」からぬけられないのか | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 放送の教育特性と現代教育 | 滝沢武久 |
| | 番組との出会い 生活のなかのテレビ | 白井常 |
| 1月号 | 特集 第34回放送教育研究会全国大会 | |
| | 【特集】総合全体会／明日にはばたけ！～放送と子どもたち～ | 若林繁太, 永畑道子ほか |
| | 【特集】校種別研究 | 坂元昂, 多田俊文, 水越敏行, 滝沢武久, 大内茂男 |
| | 【特集】教育機器展示・教育機器研修セミナー報告 | 鈴木恒夫 |
| | この人に聞く 子ども自身の活動の場を | 向坊隆 |
| | 新春対談 日本の教育・海外の教育 | 磯村尚徳, 長浜道夫 |
| | 放送教育放談 新しい年を迎えて～放送教育'83を総括する～ | 清中喜平 |
| | 特集 学校経営と放送利用 | |
| 2月号 | 【特集】第20回学校放送教育賞『みどりの地球』5年間の実践と行動化 | 岡崎市立美川中学校 |
| | 【特集】第20回学校放送教育賞 学習の定着をめざして | 豊橋市立松山小学校 |
| | 【特集】学校経営に放送をどう生かすか | 伊佐治大陸 |
| | 昭和59年度 学校放送番組制作の基本的な考え方 | 渡辺七郎 |
| | 座談会 いま、なぜメディア教育なのか(1) メディア教育とは何か | 大内茂男, 高桑康雄, 高須賢清 |
| | 教育テレビ25歳になりました | 秋山隆志郎, 浦川朋司 |
| | 放送教育放談 これて案に使えるようになる | 清中喜平 |
| | 放送教育相談室 学習に喜びがあったー放送学習実践の調査からー | 小泉三雄 |
| | 昭和59年度NHK学校放送番組(幼・小) | |
| | 3月号 | 特集 放送教育における評価 |
| 【特集】放送教育と評価ー確かな放送教育実践の為に | 中嶽治麿 | |
| 【特集】放送を利用した学習の評価にはどのような手立てがあるか | 吉田貞介 | |
| 【特集】実践 視聴能力を高める指導と評価 | 宗末勝信 | |
| 座談会 いま、なぜメディア教育なのか(2) 視聴覚文化とメディア教育 | 高桑康雄, 水越敏行, 高須賢清 | |
| いま、テレビが問われているものー教育テレビ25周年フェスティバル余話ー | 市川昌 | |
| 放送教育放談 全国大会はこのままでよいのか | 清中喜平 | |
| 第20回学校放送教育賞 意欲的活動を育てるテレビとラジオの関連視聴の試み | 山鹿市保育研究会放送教育研究グループ | |
| 昭和59年度NHK学校放送番組(中・高) | | |

主な連載：教育メディアの生かし方・使い方、校内放送12か月、パソコンは教育にどう利用できるか、わが校の教育機器の活用、ことばの世界を探る、テレビ教育むかしといま、視聴覚ロータリー、教育ジャーナル

1984 (昭和59) 年度 (通巻421~433号)

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|------------------|---|-----------------------------------|-------|
| 4月号 | 教育論壇 教育、今何が問題かー寺田寅彦からの示唆 | 三枝孝弘 | |
| | 特集 新しい放送教育をめざしてー生きた教育課程と放送利用 | | |
| | 【特集】教育課程と放送教材ーその活性化をめざして | 高橋勉 | |
| | 【特集】教育課程の編成と学校放送の利用 | 西村文男 | |
| | 【特集】教育課程の変遷と放送教育 | 服部八郎 | |
| | 【特集】実践/深く見つけ、感動し、表現していく子どもたちの育成ー『みつめる目』の視聴をバネとしてー | 細川ヒサエ | |
| | この人に聞く 多様な学習要求に総合的な対応をー59年度視聴覚教育行政ー | 大谷巖 | |
| | 教師のためのニューメディア講座 ニューメディアと教育 | 後藤和彦 | |
| | 新・放送教育実践講座(1) “学校放送とは何か”を考える(1) | 多田俊文 | |
| | 海外事情 失われたヒューマニティを求めてーEBU教育放送セミナーから | 市村佑一 | |
| | 資料『放送教育誌』に見る放送教育35年(1) | | |
| | 第20回学校放送教育賞 NHK学校放送番組の効果的活用をめざして | 愛媛県立宇和養護学校 | |
| 5月号 | 教育論壇 教育、今何が問題なのかー生活の場としての地域の再建ー | 深谷昌志 | |
| | 特集 理科好きな子を育てるには | | |
| | 【特集】理科が好きになる子を育てるには | 武村重和 | |
| | 【特集】対談 おもしろくてためになる番組とはー理科番組の特性をめぐってー | 金子美智雄、浦川朋司 | |
| | 【特集】実践 理科好きにするための私の工夫 | 上村輝子、鈴木勢津子、坂本栄一 | |
| | 【特集】この人に聞く 原理先行主義を排すー授業・テレビと子どもー | 荻須正義 | |
| | 座談会 いま、なぜメディア教育なのか(3) 海外のメディア教育 | 坂元昂、佐賀啓男、高須賀清 | |
| | 放送教育これでもいいのか 昇格するのに25年ー「さし絵」から「本文」へー | 松本勝信 | |
| | 教師のためのニューメディア講座 放送衛星で何ができるか | 木村敦 | |
| | 新・放送教育実践講座(2) “学校放送とは何か”を考える(2) | 多田俊文 | |
| | 資料『放送教育誌』に見る放送教育35年(2) | | |
| | マイクロコンピュータ教育利用研修カリキュラム標準案ー中間報告ー | 社会教育審議会教育放送分科会 | |
| | 6月号 | 教育論壇 今、教育では何が問題かー“荒唐”の中身の具体的な吟味をー | 濱田陽太郎 |
| | | 特集 ラジオ教育番組を見直そう | |
| 【特集】ことばのイメージとラジオ | | 滑川道夫 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|----------------------------------|
| 6月号 | 【特集】実践 ラジオ番組の活用と読書活動ー『ラジオ図書館』を国語学習に取り入れてー | 井沼敏子 |
| | 【特集】実践 ことばを大切にした学級経営ー『ことばの教室』利用を核にー | 林俊郎 |
| | 映像の教育機能ーその理論と実践ー | 武村重和、金築修、岸光城、松本勝信、浦川朋司、赤堀正宜、蛸谷米司 |
| | 学校放送番組はどのように利用されているかー昭和58年度利用状況調査を中心ー | 宇佐美昇三 |
| | 教師のためのニューメディア講座 文字放送とその可能性 | 秋山隆志郎 |
| | 新・放送教育実践講座(3) “学校放送とは何か”を考える(3) | 多田俊文 |
| | 高校野球より学校放送を見たー母と子の専用波として定着した「春のテレビクラブ」ー | 栗田博行 |
| | 実践報告 指導方法によって学習結果はどう違うかー西本・山下論争を手がかりにー | 近藤大生 |
| | 教育論壇 いまの教育に欠落しているもの | 正村公宏 |
| | 特集 生きた学習指導案をどう立てるか | |
| 7月号 | 【特集】放送利用の学習指導案ー三つのポイント | 清中喜平 |
| | 【特集】実践 “日本のあけぼの”に「飛鳥の里」を利用して | 和田芳信 |
| | 【特集】実践 “魚の育ち方”に「メダカの誕生」を利用して | 浜田健太郎 |
| | 【特集】座談会 学習指導案・テキスト・授業ーそのあり方をめぐってー | 秋山輝男、栗田博行、村井正治 |
| | 特別寄稿 メディアの能率と効果 | 波多野完治 |
| | この人に聞く ニューメディアとニューコミュニケーション | 浦達也 |
| | 放送教育これでもいいのか『みどりの地球』の先見性 | 杉浦美朗 |
| | 教師のためのニューメディア講座 静止画放送の仕組みと教育的可能性 | 宇佐美昇三 |
| | 新・放送教育実践講座(4) “学校放送とは何か”を考える(4) | 多田俊文 |
| | 実践記録 生きた活動と感動する喜びを求めて『みんなの世界』の視聴を通して | 松本美智子 |
| 8月号 | テレビカメラ・VTRの保有が伸張 | 文部省調査より |
| | 教育論壇 今、学校が取り組むべきことは | 重松鷹泰 |
| | 特集 テレビは子どもに何ができるか | |
| | 【特集】子どもにとってのテレビーそのプラスとマイナス | 深谷和子 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---|--|----------------------------------|-----|
| 8月号 | 【特集】テレビは子どもに何をもたらしたか、そして、人間はテレビに何を与えたか | 佐賀啓男 | |
| | 【特集】新しい子ども番組開発の可能性 | 小平さち子 | |
| | 【特集】実践 子どもの心の成長とテレビ—一般番組を授業で活用して— | 藤森良治 | |
| | 【特集】座談会 現代子ども番組考 | 藤田克彦、武井博、宮田修 | |
| | 教師のためのニューメディア講座 ファクシミリ放送 | 秋山隆志郎 | |
| | 新・放送教育実践講座(5)教師の番組研究を見直す(1) | 多田俊文 | |
| 9月号 | 実践記録 放送による自己学習力の育成をめざして—学習の歩みと自己表現活動— | 徳光勝 | |
| | 教育論壇 今、子どもたちは一校内暴力のうしろに潜むもの— | 坂本昇一 | |
| | 特集 視聴ノートの生かし方・使い方 | | |
| | 【特集】視聴ノートは何のために | 石川桂司 | |
| | 【特集】実践「自分らしい見方、考え方」を育てる 交換日記としての視聴ノート | 谷智子 | |
| | 【特集】実践『くらしの歴史』と視聴ノートの活用 意欲的に調べ学ぶ子を育てる | 溝内清巳 | |
| | 【特集】実践 視聴ノートをこう考える | 渡辺一、松原勝征、永田敏彦 | |
| | この人に聞く 映像とことば—映像リテラシーとは— | 外山滋比古 | |
| | わたしの教育談義 豊かな感性を | フランソワーズ・モレシャン | |
| | 放送教育これでいいのか 学校放送教育賞を考える—応募論文の急減傾向をどうみるか— | 清中喜平 | |
| | 教師のためのニューメディア講座 CATVの現状と展望 | 山口秀夫 | |
| | 新・放送教育実践講座(6)教師の番組研究を見直す(2) | 多田俊文 | |
| | 10月号 | 教育論壇 いま、教育にとって大切なもの—日本と西ドイツを比べて— | 小塩節 |
| | | 特集 視聴前・視聴後の指導と発展学習 | |
| 【特集】「発展学習」をめざした指導のあり方 | | 水越敏行 | |
| 【特集】発展学習への意欲を育てる指導のポイント | | 吉田秀三 | |
| 【特集】『くらしの歴史』から年表づくりへ—歴史の好きな子を育てる— | | 八木稔 | |
| 【特集】実践 テレビ新聞づくりへの発展—相互に刺激しあう歴史学習— | | 松本邦文 | |
| 昭和五九年度全小放「放送教育特別研究協議会講演 放送で“やる気”をどう育てるか | | 奥井智久 | |
| この人に聞く 教育改革で何をめざすか | | 斎藤正 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|----------------|
| 10月号 | 教師のためのニューメディア講座 キャブテンシステム(ビデオテックス) | 松本正夫 |
| | 新・放送教育実践講座(7)視聴ノートを考える(1) | 多田俊文 |
| | 実践 放送を利用した「きく」「みる」態度の指導について—生徒指導の基盤づくりに— | 山下義光 |
| 11月号 | 教育論壇 教育、何を改革すべきか | 黒羽亮一 |
| | 特集 地域へ目を向ける放送学習 | |
| | 【特集】地域を見直す目を育てる | 平田嘉三 |
| | 【特集】実践『テレビの旅』から地域を見る力を育てる | 前田透 |
| | 【特集】実践 環境観を育てる放送教育『あおいびわ湖』と『みどりの地球』を利用して | 川崎睦男 |
| | 【特集】地域学習における放送利用と教材の自作 | 安田昇 |
| | 特集 第35回放送教育研究会全国大会のめざすもの | |
| | 【特集】仲間とともに“ひろがり”と“深まり”を求めて | 村田昇 |
| | 【特集】“ひろがり”と“深まり”への取り組み | 大会事務局 |
| | 教師のためのニューメディア講座 ビデオディスクと教育利用 | 芦葉浪久 |
| 12月号 | 新・放送教育実践講座(8)視聴ノートを考える(2) | 多田俊文 |
| | 第20回学校放送教育賞『お話でこい』から想像力を育てる | 田中美智子 |
| | 教育論壇 教育問題の根本にあるもの | 山村賢明 |
| | 特集 視聴能力をどう育てるか | |
| | 【特集】視聴能力を育てるために | 吉田貞介 |
| | 【特集】批判的視聴能力育成の教育実践—アメリカ事情— | 浜野保樹 |
| | 【特集】実践 自ら問題を発見する視聴能力を育てる | 石川雄二 |
| | 【特集】実践 視聴能力を育てるための工夫—『理科教室』の視聴から— | 工藤哲弥 |
| | この人に聞く 教育改革と放送教育 | 長谷川忍 |
| | 放送教育これでいいのか テレビ学校放送への期待 | 小倉喜久 |
| 臨時号 | 教師のためのニューメディア講座 マイクロコンピュータの教育利用 | 佐賀啓男 |
| | 新・放送教育実践講座(9)視聴ノートを考える(3) | 多田俊文 |
| | 第21回学校放送教育賞入選論文集 (13本) | |
| 1月号 | 特集 ひろがり”と“深まり”のある学習—第35回放送教育研究会全国大会レポート— | |
| | 【特集】総合全体会 未来をつくるうば—くらの手で—放送と子どもたち— | 吉良竜夫、加藤幸子、飯窪長彦 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|-----------------------------|
| 1月号 | 【特集】校種別研究 | 坂元昂, 多田俊文, 水越敏行, 近藤大生, 大内茂男 |
| | 【特集】大会から得たもの | 武田昭雄 |
| | この人に聞く 幅広い知的欲求に対応して | 川原正人 |
| | 新春対談 夢を持たせる教育を | 小野清子, 長濱道夫 |
| | 教師のためのニューメディア講座 高品位テレビ—そのしくみと展望— | 志賀史典 |
| | 新・放送教育実践講座(10) 討論づくりと学習集団づくり(1) | 多田俊文 |
| | 海外事情 新しい世代にとっての教育テレビ—ハンガリーにおける教育テレビ国際セミナーより— | 小平さち子 |
| | 実践『核戦争後の地球』をどう見たか | 津岡敬一 |
| | 教育論壇 今、一人の教師ができる改革とは | 宮原修 |
| | 特集 道徳教育はこれでいいのか | |
| 2月号 | 【特集】道徳教育の現状と問題点 | 西尾豪之 |
| | 【特集】実践 暮らしの中に生きるテレビ視聴をめざして | 三宅貴久子 |
| | 【特集】『明るいなかま』で学級の風土づくりを | 永井進 |
| | 【特集】放送を道徳指導に生かすには | 蓮池守一 |
| | 教師のためのニューメディア講座 教育におけるマイクロコンピュータの利用について | 社会教育審議会教育放送分科会 |
| | 新・放送教育実践講座(11) 討論づくりと学習集団づくり(2) | 多田俊文 |
| | 海外事情 国境を越えて教育放送の協力を—韓日教育放送セミナーに出席して— | 浦川朋司 |
| | 実践『核戦争後の地球』をどう見たか | 浅井和行 |
| | 考察「知らなければならぬ世界」を知った | 清中喜平 |
| | 3月号 | 教育論壇 教師教育のこれからの視点 |
| 特集 放送教育の評価の手だてを探る | | |
| 【特集】放送教育における評価—問題点とその手だて— | | 水越敏行 |
| 【特集】実践 言語能力の発展を旨として『おーいはに丸』の視聴記録(3歳児) | | 谷悦子 |
| 【特集】実践 テレビ学習と子どもの変容 放送教育の効果をどのように評価するか | | 永田敏彦 |
| 【特集】シンポジウム 放送による学習の成立と評価 | | 多田俊文, 武村重和, 松本勝信, 榎谷利明 |
| 昭和60年度 学校放送番組制作の基本的な考え方 | | 水上毅 |
| 教師のためのニューメディア講座 高度情報化社会のなかの人間 | 後藤和彦, 浦達也 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---------------------------------|-------|
| 3月号 | 新・放送教育実践講座(12) 討論づくりと学習集団づくり(3) | 多田俊文 |
| | 実践研究 視聴メモ・視聴ノートをめぐる | 高萩竜太郎 |

主な連載: 机上散策, 校内放送 企画から放送まで, ことばの世界を探る, プラウマンの裏側から, 視聴覚ロータリー, 教育ジャーナル



1984年10月号



1984年臨時号

1985 (昭和60) 年度 (通巻434~446号)

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---|---|---|------|
| 4月号 | この人に聞く これからの放送教育を考える 学校放送50年とニューメディア時代 | 植田豊 | |
| | 特集 いま、なぜ放送教育か—学校放送50周年記念— | | |
| | 【特集】いま、改めて放送教育の意義を考える—ニューメディア時代の放送教育— | 坂元昂 | |
| | 【特集】学校放送はどこへいくのか | 波多野完治 | |
| | 【特集】学校放送50年(1) | 西本三十二 | |
| | 【特集】放送教育のあゆみ(1)—考え方の変遷— | 寺脇信夫 | |
| | 【特集】メディア変革期と放送教育 | 秋山隆志郎 | |
| | 【特集】アンケート/これからの放送教育は | 深谷和子, 浜野保樹, 和田泰輔, 橋本幹夫, 石川桂司, 吉田貞介, 山本健吉, 秋山亜輝男, 松本勝信 | |
| | 教師をみる, 子どもの目・親の目—NHK世論調査から— | 謝名元慶福 | |
| | 学校放送新番組紹介 | NHK学校教育部 | |
| | 教師のためのニューメディア講座 パソコンは授業を変えるか—わたしの「取材ノート」から— | 橋場洋一 | |
| | 新・放送教育実践講座(13) 討論づくりと学習集団づくり(4) | 多田俊文 | |
| | 出願者募集人員を大幅に上回る—調査から見た放送大学合格者のプロフィール— | 岡行輔 | |
| | 5月号 | 教育論壇 いま、なぜ教育改革が必要か | 高梨昌 |
| 特集 自然への探究心を育てる | | | |
| 【特集】自然に親しみ自然を知ることと現代教育 | | 太田次郎 | |
| 【特集】実践 放送から地域へそして表現へ—『理科教室』の継続視聴を通して— | | 伊藤誠一 | |
| 【特集】実践 生徒の疑問を生かした放送利用の授業分析—『理科教室』中学2年生』を活用して— | | 坂本栄一 | |
| 【特集】伝統の番組に新しい息吹を一衣がえした『小学校理科教室』— | | 阿部和暢 | |
| 学校放送50年(2) | | 西本三十二 | |
| 放送教育のあゆみ(2)—考え方の変遷— | | 寺脇信夫 | |
| 衛星放送と小笠原の子どもたち | | 秋山隆志郎 | |
| 教師のためのニューメディア講座 パソコンの自作教材の開発と利用 | | 岩瀬忠男 | |
| 新・放送教育実践講座(14) 放送単元の開発と評価法の開発(1) | | 多田俊文 | |
| 6月号 | | 教育論壇 教育改革に思う | 鯉坂二夫 |
| | | 特集 放送学習で個性をどう生かすか | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------------|--|------------------|
| 6月号 | 【特集】放送は画一的な教材か | 松本勝信 |
| | 【特集】実践 へき地の子どもたちに新しい経験を | 横山徹 |
| | 【特集】実践 個が生きる放送学習の創造—「文通による地域学習」・「国際交流学習」 | 徳光勝 |
| | 【特集】実践 個性を生かす指導 | 工藤陸奥男 |
| | 【特集】子ども一人ひとりのために—映像と子どもの反応— | 堀俊一 |
| | いま視聴ノートは一視聴ノート再論 | 高萩竜太郎 |
| | 学校放送はどう受けとられているか ①—学校放送利用状況調査から— | 宇佐美昇三 |
| | 海外事情 アラブ世界のテレビ 新しい波—エジプトの新テレビセンター構想— | 箕浦幸二 |
| | 教師のためのニューメディア講座 パソコン CAIとネットワーク | 酒井行男 |
| | 新・放送教育実践講座(15) 放送単元の開発と評価法の開発(2) | 多田俊文 |
| | 7月号 | 教育論壇 今、学校教育に望むもの |
| 特集 事前・事後指導のあり方 | | |
| 【特集】事前・事後の指導はどうあったらよいか | | 吉田秀三 |
| 【特集】実践 感動のある歴史学習をめざす放送教材の活用 | | 松原勝征 |
| 【特集】実践 幼児が主体となる場づくりを | | 原田吹江 |
| 現代教師の自画像—NHK「教師の生活と意識調査」から | | 謝名元慶福 |
| 学校放送はどう受けとられているか ②—学校放送利用状況調査から— | | 宇佐美昇三 |
| 教師のためのニューメディア講座 学習意欲を高めるためのパソコンの活用 | | 豊原芳史 |
| 新・放送教育実践講座(16) 放送単元の開発と評価法の開発(3) | | 多田俊文 |
| 実践記録 積極的に学習する子どもの育成 | | 南迫一男 |
| 8月号 | | 教育論壇 教育改革と教師の主体性 |
| | 特集 一般番組をどう活用するか | |
| | 【特集】一般番組の活用—その効用と留意点— | 島田啓二 |
| | 【特集】実践『大草原の小さな家』を利用して | 高根沢勇 |
| | 【特集】実践 音楽学習に活気をもたらすために | 山田太 |
| | 【特集】調査 一般番組はどのように利用されているか | 宇佐美昇三 |
| | この人に聞く これからの放送教育—ニューメディア時代への対応— | 天城勲 |
| | 子どもの生態系が変わった—テレビ番組の嗜好を通して— | 吉良元孝 |
| | 教師のためのニューメディア講座 パソコンを授業に生かして(1) | 鈴木勢津子 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|------|--|-------------------------------------|-----|
| 8月号 | 放送教育入門セミナー（1）放送を学習に取り入れるにあたって—放送活用の自己診断 | 松本勝信 | |
| | 実践記録 子どもたちの学ぶ姿をみつめて—放送学習を学級づくりの柱に— | 柴田孝和 | |
| 9月号 | 教育論壇 今、教育で何が問題か | 佐藤三郎 | |
| | 特集 視聴ノートを見直す | | |
| | 【特集】視聴ノートは必要か | 近藤大生 | |
| | 【特集】実践 教師と子どもによる創作 | 大谷鉾三 | |
| | 【特集】整理型から発展型へ | 佐々木俊光 | |
| | 【特集】生徒理解に役立つ視聴ノートのあり方 | 日隈健二 | |
| | 【特集】視聴ノートはこれでいいのか | 秋山亜輝男 | |
| | 座談会 いま、教育にテレビをどう生かすか | 坂元昂、多田俊文、水越敏行、滝沢武久、大内茂男、大塚観三 | |
| | 弱いものいじめの底流—「いじめへの挑戦」取材ノートから— | 市川昌 | |
| | 教師のためのニューメディア講座 パソコンを授業に生かして（2） | 鈴木勢津子 | |
| | 放送教育入門セミナー（2）放送教育以前の授業診断—授業で何を大事にしているか— | 松本勝信 | |
| | 随想 韓国での一夜 | 清中喜平 | |
| 10月号 | 教育論壇 今、学校で考えねばならないこと | 若林繁太 | |
| | 特集 子どもを生かす放送学習 | | |
| | 【特集】子どもを生かすとは—自己実現と放送学習— | 滝沢武久 | |
| | 【特集】実践 生き生きとした学習活動のために—理科番組の継続視聴を核に— | 工藤清弘 | |
| | 【特集】座談会 新しい教育を拓く—総合学習番組『にんげん家族』をめぐる | 矢部達子、山口彰子、皮籠石成久、阿部和暢、道田秀雄、生田明、畠山世津子 | |
| | 特集 青森大会のめざすもの—「躍動する学習」を創る | | |
| | 【特集】たくましく育つおいのある人間形成 | 竹内照宗 | |
| | 【特集】「躍動する学習」への実践 | 吉田秀三 | |
| | 【特集】大会を目前にして | 青森大会総合事務局 | |
| | 放送教育論の変遷—放送教育新時代（1） | 秋山隆志郎 | |
| | 教師のためのニューメディア講座 パソコンの効果的利用法 | 木下昭一 | |
| | 放送教育入門セミナー（3）放送がなくても授業ができるのに—放送番組の教材性とは— | 松本勝信 | |
| | 11月号 | 教育論壇 いま、教育で何が必要か | 上田薫 |
| | | 特集 社会を見る目を深める | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|----------------------|
| 11月号 | 【特集】社会を見る目を深めるために—放送の役割と扱い方— | 佐島群巳 |
| | 【特集】実践 クラさんとともに過ごした社会科学習—『わたしたちのくらし』を視聴して | 藤村善嗣 |
| | 【特集】実践 子どもの目を変えた—「放送による学習」の積み重ねから | 榎谷利明 |
| | 【特集】実践 テレビを通して地域学習の追究へ | 高木和広 |
| | 放送教育論の変遷—放送教育新時代（2） | 秋山隆志郎 |
| | 生きた環境の中から子どもの目を育てる—『みつめる目』の取材ノートから— | 坂田ユリ、宮沢乃里子 |
| | 教師のためのニューメディア講座 学校教育におけるコンピュータの利用について〈中間報告〉（1） | 文部省 |
| | 放送教育入門セミナー（4）放送だからこそとは（1）—放送教材・視聴覚教材・ニューメディア— | 松本勝信 |
| | 実践記録 10年間で放送教育への取り組み方がどのように変わってきたか | 大室健司 |
| | 臨時号 | 第21回学校放送教育賞論文集 |
| 12月号 | 教育論壇 いま、教育で考えたいこと | 沖原豊 |
| | 特集 躍動する学習をめざして 第36回放送教育研究会全国大会青森大会報告 | |
| | 【特集】限りなくやさしく 限りなくたくましく—青森の子どもたちからのメッセージ— | 佐野浅夫、さとう宗幸、兵藤ゆき、山川静夫 |
| | 【特集】校種別研究 | 坂元昂、多田俊文、水越敏行、滝沢武久 |
| | 【特集】教育機器展示・教育機器研修セミナー報告 | 柴田恒郎 |
| | 【特集】ネプタの躍動を—大会を終えて— | 村林平八 |
| | 放送教育論の変遷—放送教育新時代（3） | 秋山隆志郎 |
| | 豊かな環境教育の実践—『みどりの地球』の取材ノートから— | 長島宜雄 |
| | 全国大会のもたらしたもの—滋賀大会前と後の放送教育関係現況調査を通して— | 小田豊 |
| | 教師のためのニューメディア講座 学校教育におけるコンピュータの利用について〈中間報告〉（2） | 文部省 |
| 放送教育入門セミナー（5）放送だからこそとは（2）—「主と主」・「主と従」の視聴能力— | 松本勝信 | |
| 1月号 | 教育論壇 教育改革の課題 | 斎藤正 |
| | 特集 道徳教育の課題を探る | |
| | 【特集】道徳教育の課題と放送利用 | 瀬戸真 |
| | 【特集】実践 ねらいに迫るテレビの活用 | 黒川尚子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|------------------------|
| 1月号 | 【特集】実践 テレビ利用による生徒指導実践記録—非行克服をめざして— | 山下義光 |
| | 【特集】子どもの価値観と道徳教育 | 片岡輝 |
| | 新春特集 世界に見る教育放送と国際協力 | |
| | 【特集】国際協力とNHKの役割 | 水上毅 |
| | 【特集】座談会 世界に開くNHKの国際協力—その現状と課題— | 西内久典, 上田昌彦, 斎藤博己, 市村佑一 |
| | 【特集】最近のアメリカ教育放送事情 セサミだけが教育番組ではない | 佐賀啓男 |
| | 【特集】テレビ番組から見た「日本賞」の20年 | 井上英治 |
| | 【特集】海外の教育放送—第15回「日本賞」コンクール参加作品から— | 秋山隆志郎 |
| | 教師のためのニューメディア講座 海外におけるコンピュータ教育の最新事情 | 浜野保樹 |
| | 放送教育入門セミナー (6) 個を育てる放送による学習—主体的な「主と主」の視聴能力の育成とその手だて (1)— | 松本勝信 |
| 2月号 | 教育論壇 いじめにどう対応するか | 遠藤豊吉 |
| | 特集 放送教育の効果をどうとらえるか | |
| | 【特集】放送教育の効果をどうとらえたらよいか—放送教育診断項目をとおして— | 吉田貞介 |
| | 【特集】放送教育における評価の留意点—視聴能力について— | 小寺英雄 |
| | 【特集】実践 自然の事物・現象に、人の心を入れこむ放送理科学習—5年生「種子の発芽」での実践— | 大室健司 |
| | 【特集】『おもいっきり中学時代』を生徒はどう評価しているか | 仲居宏二 |
| | 創造力の育成と映像教育 | 蛸谷米司 |
| | 教師のためのニューメディア講座 放送とコンピュータ教育 | 秋山隆志郎 |
| | 放送教育入門セミナー (7) 個を育てる放送による学習—主体的な「主と主」の視聴能力の育成とその手だて (2)— | 松本勝信 |
| | 実践記録「自ら考え、行動し、自ら変容する子ども」の育成—放送による教育設計十五年の歩み— | 榎谷利明 |
| 3月号 | 教育論壇 いま、教育が問われていること | 下村哲生 |
| | 特集 年間指導計画と学習指導案 | |
| | 【特集】指導計画立案の考え方—放送を利用するにあたって— | 高桑康雄 |
| | 【特集】学習指導案立案のポイント | 蓮池守一 |
| | 【特集】わたしの指導案例 番組と教科書との相乗効果をねらって | 山口彰子 |
| | 【特集】わたしの指導案例 1時間の流れをパターン化した社会科の授業—五年「伝統工業」の実践を通して— | 和田芳信 |
| | 【特集】わたしの指導案例 新しい時代に生きる豊かな人間形成をめざして | 水口克昭 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|------------|
| 3月号 | 昭和61年度NHK学校放送番組のあり方 | 水上毅 |
| | 対談 これからの放送教育—青森大会の成果から高知大会へ— | 石川桂司, 多田俊文 |
| | 教師のためのニューメディア講座 これからのコンピュータ利用と教育 | 西之園晴夫 |
| | 放送教育入門セミナー (8) 個を育てる放送による学習—主体的な「主と主」の視聴能力の育成と視聴ノート— | 松本勝信 |

主な連載：机上散策、児童生徒のための校内放送講座、特別シリーズガイド、こたばの世界を探る、保育と放送、視聴覚ロータリー、教育ジャーナル



1985年10月号



1985年12月号

1986 (昭和61) 年度 (通巻447~459号)

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---------------|--|--------------------------|------|
| 4月号 | 特集 放送教育 明日への課題 | | |
| | 【特集】放送教育—今日の課題 | 中野照海 | |
| | 【特集】新時代の教育番組と利用のあり方 | 水越敏行 | |
| | 【特集】放送教育の質的向上をめざして | 西村文男 | |
| | 【特集】転換期の放送教育 | 浜野保樹 | |
| | 【特集】メディア教育のすすめ | 坂元昂 | |
| | 世界の教育改革 (1) 多様化のなかの人間教育—スウェーデン— | ウルバン・ダールレーフ、永井道雄、中嶋博、市川昌 | |
| | 昭和61年度NHK学校放送新番組紹介 | NHK学校教育部 | |
| | 昭和61年度・視聴覚教育行政の方向 | 平川忠男 | |
| | 海外教育放送事情 岐路に立つヨーロッパの教育放送—バーゼル学校放送国際セミナーレポート | 阿部和暢 | |
| | 創造性を育てる教材開発 (1) ニューメディア時代の教材開発 | 野田一郎 | |
| | 放送教育入門セミナー (9) 個を育てる放送による学習—「0分スタート」=個を育てる放送による学習の全体像— | 松本勝信 | |
| | 随想 放送教育の思い出を描く上> | 西本三十二 | |
| | 研究会レポート 埼玉の取り組みに学ぶ—埼玉県放送教育授業研究会に参加して— | 谷智子 | |
| 5月号 | 特集 自己教育力の育成と発展学習 | | |
| | 【特集】自己教育力を育てるためには—主体的な情報への対応を— | 佐島群巳 | |
| | 【特集】実践 意欲的に活動する幼児を育てる | 片岡英子 | |
| | 【特集】実践 学ぶ意欲を育て社会を見る目を開く—『テレビの旅』の視聴を通して— | 桑木富士子 | |
| | 【特集】「視て知る」から「さぐり、わかる」環境学習をめざして—『みどりの地球』を環境教育の中心にすえて— | 熱川英明 | |
| | 世界の教育改革 (2) 一人ひとりを生かす教育—西ドイツ— | 天野正治、子安美知子、市川昌 | |
| | 海外教育放送事情 「KEDI」(韓国教育開発院) 駆け足訪問記 | 市村佑一 | |
| | 韓国の教育放送 | 宋寅徳 | |
| | 学校放送指導者研修レポート | 徐奎烈 | |
| | 創造性を育てる教材開発 (2) 教材開発の教育的意義とその実践 | 野田一郎 | |
| | 教師のためのコンピュータ講座 今、コンピュータとどう付き合うか | 坂村健 | |
| | 放送教育入門セミナー (10) 個を育てる放送による学習—放送による学習の展開に対する不安と番組研究— | 松本勝信 | |
| | 随想 放送教育の思い出を描く下> | 西本三十二 | |
| | 放送学習実践物語 労少なくして功多い放送学習 | 溝口玲子 | |
| | 6月号 | 教育論壇 知的好奇心というもの | 潮木守一 |
| | 特集 道徳的心情・情操を育てる | | |
| 【特集】道徳的心情を耕やす | 西尾豪之 | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---|----------------------|
| 6月号 | 【特集】座談会“こころ”を育てる—道徳番組とその利用— | 多田俊文、蓮池守一、長谷川一彦、高月嘉彦 |
| | 【特集】実践 実践意欲を培う道徳の授業をめざして | 永田敏彦 |
| | 世界の教育改革 (3) 危機にたつ教育—アメリカ— | 中島章夫、金子忠史、市川昌 |
| | 学校放送の利用傾向—昭和60年度全国学校放送利用状況調査から— | 秋山隆志郎 |
| | 海外教育放送事情 カナルオンセ・ティフエレンテ (パナマ国営教育テレビ) | 宮崎馨 |
| | 創造性を育てる教材開発 (3) 音声教材開発の企画と制作のプロセス (1) | 伊藤節次 |
| | 教師のためのコンピュータ講座 コンピュータは万能モノマネ機械 | 坂村健 |
| | 放送教育入門セミナー (11)—中学校・高等学校における個の確立と「0分スタート」— | 松本勝信 |
| | 放送学習実践物語 “放送学習”このすばらしきもの—社会科学学習を通して— | 大谷鉞三 |
| | 7月号 | 教育論壇 いま、教育に欠けていること |
| 特集 事前・事後指導を見直す | | |
| 【特集】事前・事後指導の多様化—新しい放送教育を求めて | | 水越敏行 |
| 【特集】自主性を育てる事前・事後指導のあり方 | | 西村文男 |
| 【特集】実践 多面的な立場から意見の持てる児童を育てる—「視聴ノート」と「テレビ意見カード」を活用して— | | 石川知男 |
| 【特集】実践/自主性を育てるための放送学習—『理科教室小学校3年生』視聴後の学習指導を中心に— | | 溝口正己 |
| 海外教育放送事情 中国の新しい教育放送を求めて—「日中教育シンポジウム」から | | 浦川朋司 |
| 海外教育放送事情 映像を通して中国の子どもとのふれあい—『理科教室』への反応調査から— | | 鈴木勢津子 |
| 創造性を育てる教材開発 (4) 音声教材開発の企画と制作のプロセス (2) | | 伊藤節次 |
| 教師のためのコンピュータ講座 コンピュータ道具論 | | 坂村健 |
| 8月号 | 放送教育入門セミナー (12) 放送による学習の成立と授業の評価・改善 (1)—授業の質的改善を問う授業の分析と評価— | 松本勝信 |
| | 放送学習実践物語 子どもと教師の自主性を育てる放送学習 | 西田文子 |
| | 教育論壇 生き生きとした学校生活の創造—日独の実践に基づく提言— | 天野正治 |
| | 特集 子どもとテレビ—その光と影— | |
| | 【特集】新しい“子ども—テレビ関係”—学校への提言— | 山村賢明 |
| | 【特集】テレビと幼児の人間形成 | 岡田晋 |
| | 【特集】提言/いま、子どもとテレビを考える | 本田和子、吉良元孝、宗末勝信、高島田孝一 |
| | 【特集】子どもの環境としてのテレビの現在—「テレビと子どもの人権」分析調査から— | 鈴木みどり |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|--------------------------|
| 8月号 | 【特集】海外教育放送事情／海外における“子どもとテレビ”の関係ー海外に学びたいことー | 小平さち子 |
| | 【特集】特別寄稿 テレビは子どもに何ができるかー学校への意義と貢献ー | ジェラルド・レッサー |
| | この人に聞く 多メディア時代の放送教育 | 波多野完治 |
| | 25周年を迎えた『中学生日記』ープロデューサーの制作ノートからー | 野里元士 |
| | 創造性を育てる教材開発 (5) 音声教材開発の企画と制作のプロセス (3) | 伊藤節次 |
| | 教師のためのコンピュータ講座 ネットワーク社会への対応 | 坂村健 |
| | 放送教育入門セミナー (13) 放送による学習の成立と授業の評価・改善 (2)ーズレの発見とその改善 (1) 視聴中の質的改善ー | 松本勝信 |
| 9月号 | 放送学習実践物語 学校放送の継続・丸ごと学習の実践ー感想文集二三五冊達成ー | 津岡敬一 |
| | 教育論壇 いま、教育で考えてほしいこと 新鮮な驚きを与える教育 | 太田次郎 |
| | 特集 メディア・ミックスとはー新しい放送教育の試みー | |
| | 【特集】メディア・ミックスによる放送教育 | 水越敏行 |
| | 【特集】実践 多様なメディアの中でテレビを生かすー社会科ー | 久故博睦 |
| | 【特集】実践 授業のデザイナーとしての実践ー理科ー | 八重柏新治 |
| | 【特集】論説／メディア・ミックス時代のテレビ映像 (1) | 市川昌 |
| | 海外教育放送事情 カナダの教育放送 | 川島淳一 |
| | 放送と教育、そして放送教育 世界の放送大学から | 富崎哲 |
| | さまざまな生きざまが語るものー『人間いきいき』の制作ノートからー | 菊池道彦 |
| | 教師のためのコンピュータ講座 電子思考 | 坂村健 |
| | 放送教育入門セミナー (14) 放送による学習の成立と授業の評価・改善 (3)ーズレの発見とその改善 (2) 視聴直後の質的改善ー | 松本勝信 |
| | 放送学習実践物語 ラジオによる放送学習に魅せられてーラジオ『ことばの教室』の継続聴取からー | 山本康子 |
| 10月号 | 教育論壇 ニュメディアと教育 教育の生産性 | 唐津一 |
| | 特集 感動はどこへ行っただかー放送の特性を見直すー | |
| | 【特集】放送教育における情動性の復権 | 中野照海 |
| | 【特集】人間の心と教育と放送 | 村井實 |
| | 【特集】実践 『にんげん家族』感動から行動へー一人の子どもの変容を追って | 谷智子 |
| | 【特集】番組制作者座談会 シラケ世代というけれど…… ー子どもの心をつかむ番組づくりー | 長島宣雄, 坂田ユリ, 佐野竜之介, 小泉世津子 |
| | 論説／メディア・ミックス時代のテレビ映像 (2) | 市川昌 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|-----------------------|
| 10月号 | 海外教育放送事情 インドネシアの教育放送 | 坂元多 |
| | 創造性を育てる教材開発 (6) 映像教材開発の企画と制作のプロセス (1) | 園一彦 |
| | 教師のためのコンピュータ講座 コンピュータは発展途上 | 坂村健 |
| | 放送教育入門セミナー (15) 放送による学習の成立と授業の評価・改善 (4)ーズレの発見とその改善 (3) 発展学習の質的改善と「同一番組・複数課題・複数並行活動」ー | 松本勝信 |
| | 放送学習実践物語 二人三脚の教職人生ー放送教育とともに (1) | 西田光男 |
| 11月号 | 教育論壇 今、教育で何が問題か 学校と子どもー精神科医の目からー | 河合洋 |
| | 特集 人間中心の社会科を……社会科の活性化をめざしてー | |
| | 【特集】社会科番組の特色ー人間科としての社会科を考えるー | 平田嘉三 |
| | 【特集】これからの社会科への提言ー情報化時代における社会科へー | 大野連太郎 |
| | 【特集】実践 地域学習と結びつけた番組の利用 (行動化) を考える 『たんけんぼくのまち』を授業に活用して | 神田雅子 |
| | 【特集】実践 体験を通じた学習の喜びー『くらしの歴史』を授業に活用してー | 和田芳信 |
| | 【特集】実践 自ら問題を発見し、事象の本質へせまる | 高木宗一 |
| | 【特集】番組制作者座談会 社会科番組のみどころ | 高橋正道, 中野市之進, 内川隆, 菅乙彦 |
| | 特集 高知大会のめざすものー「発展する学習」の追求ー | |
| | 【特集】放送のもたらす価値を学習・生活の中に | 高島田孝一 |
| | 【特集】高知大会のみどころ | 高知大会事務局 |
| | 海外教育放送事情 アジアプロジェクトー取材かかげる記ー | 羽岡伸三郎 |
| 創造性を育てる教材開発 (7) 映像教材開発の企画と制作のプロセス (2) | 園一彦 | |
| 放送教育入門セミナー (16) 放送による学習の成立と授業の評価・改善 (5)ーズレの発見とその改善 (4) 視聴直後の話し合いー | 松本勝信 | |
| 放送学習実践物語 二人三脚の教職人生ー放送教育とともに (2) | 西田光男 | |
| 臨時号 | 第23回放送教育賞論文集 | (15本) |
| 12月号 | 教育論壇 今、教育で何が問題か 学校教育における個と集団 | 仲田紀夫 |
| | 特集 自然を知る・感じる・働きかける | |
| | 【特集】人間形成と理科番組 | 荻須正義 |
| | 【特集】実践 五感を通しての理解ー『理科教室小学校3年生』を授業に活用してー | 真木章弘 |
| 【特集】実践 理科と問題解決ー『理科教室小学校4年生』の視聴からー | 松田良夫 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|-----------------|---|--|-------|
| 12月号 | 【特集】実践 教室が森林にそして、カイトワシ畑に『理科教室小学校6年生』を視聴してー | 山中文恵 | |
| | 【特集】番組制作者座談会 身近な現象からの発見 | 浦川朋司, 神永雄司郎, 加藤敏夫, 太田英博 | |
| | 海外教育放送事情 ヨーロッパの学校放送, 最近の傾向ーハンガリーで開かれた国際セミナーからー | 秋山隆志郎 | |
| | 創造性を育てる教材開発 (8) 映像教材開発の企画と制作のプロセス (3) | 園一彦 | |
| | 教師のためのコンピュータ講座 高度情報化社会の意味するところ | 坂村健 | |
| | 放送教育入門セミナー (17) 子どもの変容からの放送教育の見直し (1)ー「型」対「子どもの変容」, どちらからみるかー | 松本勝信 | |
| 放送学習実践物語 私と放送教育 | 小田自郎 | | |
| 1月号 | 特集 “発展する学習”を追求してー第37回放送教育研究会全国大会 (高知) リポートー | | |
| | 【特集】総合全体会 とびだせ黒潮の子らー思いっきりシンポジウムー | 立松和平, 青柳裕介, 藤家虹二, 兵藤ゆき, 相川浩 | |
| | 【特集】校種別研究/幼保・小・中・高・特 | 松本勝信, 多田俊文, 水越敏行, 近藤大生, 大内茂男 | |
| | 【特集】教育機器展示・セミナー | 畠山芳太郎 | |
| | 【特集】高知大会を終えて | 高知大会事務局 | |
| | 特集 NHK特集『大黄河』はどう見られているか | | |
| | 【特集】『大黄河』へのメッセージ 入選作品 | 反田みつえ, 井上和子, 柴田健一郎, 及川香代子, 一瀬智子 | |
| | 【特集】黄河と日本人ー『大黄河』へのメッセージからー | 児玉邦二 | |
| | 【特集】『大黄河悠久の旅』の家庭視聴ー視聴後における生徒の活動からー | 水口克昭 | |
| | 海外教育放送事情 ネパールの放送事情 | 小森黎 | |
| | 創造性を育てる教材開発 (9) 教材開発と校内放送施設の活用 | 野田一郎 | |
| | 教師のためのコンピュータ講座 考えるための道具 | 坂村健 | |
| | 放送教育入門セミナー (18) 子どもの変容からの放送教育の見直し (2)ー子どもの変容のとらえ方 (評価計画の重要性)ー | 松本勝信 | |
| | 放送教育実践物語 私の教育観を変えた放送学習ー子どもの目の輝きを大きく育てようー (1) | 高林准示 | |
| | 2月号 | 特集 マメディア時代における放送教育 | |
| | | 【特集】放送教育の新しいシステムを考える | 高桑康雄 |
| | | 【特集】実践 学ぶ意欲を持ち追求する子をめざしてー発展学習における劇化とビデオ制作ー | 桑木富士子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|-------------------------|
| 2月号 | 【特集】実践 身近な問題の追求へと発展する社会科学ー一般番組と社会科通信を併用してー | 久保治 |
| | 【特集】学校現場ではどのようにメディアを利用しているか | 松本盛男 |
| | 【特集】座談会 放送教材の特性をどうとらえるかー他メディアとの競合・共存ー | 中野照海, 武田光弘, 小平さち子, 児玉邦二 |
| | 特集 一般番組利用のポイント | |
| | 【特集】一般番組の活用ー教育の活性化と活用のポイントー | 清中喜平 |
| | 【特集】社会科学習から生きるための学習へーNHK特集『天寿全うせず』を視聴してー | 市橋章男 |
| | 創造性を育てる教材開発 (10) 放送委員の指導を通じて心を伝える校内放送の活性化を | 斉藤宏 |
| | 放送教育入門セミナー (19) 子どもの変容からの放送教育の見直し (3)ー評価のフィードバック機能と改善策の検討ー | 松本勝信 |
| | 放送教育実践物語 私の教育観を変えた放送学習ー子どもの目の輝きを大きく育てようー (2) | 高林准示 |
| | 特集 子どもの変容と評価 | |
| 3月号 | 【特集】新しい評価への提言ー情意領域の評価をどうおこなうかー | 梶田徹一 |
| | 【特集】放送の効果を再確認する | 水越敏行, 浦達也 |
| | 【特集】実践 テレビ情報に自らの考えを付け加えさせる視聴指導 | 石川雄二 |
| | 海外教育放送事情 アジア教育放送シンポジウム (インドネシア) 報告 | 市村佑一 |
| | 海外教育放送事情 放送と教育の共同作業ージョグジャカルタ・シンポジウムに参加してー | 東洋 |
| | 海外教育放送事情 教育放送における国際交流 | 中野正之 |
| | 海外教育放送事情 アジア教育放送シンポジウムと教育放送の役割 | 塚田慶一 |
| | この人に聞く 放送における国際協力ー放送文化基金の海外助成からー | 川平朝清 |
| | 昭和62年度NHK学校放送番組制作のあり方 | 市村純一 |
| | 創造性を育てる教材開発 (11) 新しい教育機器と教材開発 | 野田一郎 |
| | 視聴覚教育機器の開発とシステム構築・評価システム | 藤田徹 |
| | 教師のためのコンピュータ講座 カリキュラム | 坂村健 |
| 放送教育入門セミナー (20) 望ましい教育の探究と「放送による学習」ー「放送肯定」対「アンチ放送」ー | 松本勝信 | |
| 放送教育実践物語 放送教育ひとつの歩みー小から中, そしてテレビー | 日比野輝雄 | |
| 実践記録 両輪充実の学校経営をめざすー放送メディアと文字メディアをともに活かしてー | 荻野忠則 | |

主な連載：机上散策、校内放送、とっておきの話、保育と放送、視聴覚ロータリー、教育ジャーナル

1987 (昭和62) 年度 (通巻通巻460~472号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|--------------------|
| 4月号 | 今月の提言 高まる放送教育の重要性—三年目を迎える放送大学 | 加藤秀俊 |
| | 討論のひろば 放送教育はどう変わったか、どう変わるべきか | 秋山隆志郎 |
| | 特集 NHK 学校放送新番組紹介 | NHK 教育番組センター(学校教育) |
| | 座談会 番組制作者からのメッセージ | 児玉邦二, 武田光弘, 浦達也 |
| | 昭和62年度視聴覚教育行政の方向 | 平川忠男 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ ゼミを開講するにあたって | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ① 子どものパソコン観 | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル① ニューメディア時代における新しい教育機器の導入 | 畠山芳太郎 |
| | 放送教育実践物語 「わからせる学習」から「わかり方の学習」そして「感じ方の学習」へ(1) | 家野修造 |
| | 実践記録「学校放送」を生かした豊かな授業づくりをめざして | 日隈健二 |
| 5月号 | 今月の提言 放送教育の発展を支える基礎研究の充実 | 藤田忠壘 |
| | 討論のひろば 4月号掲載の秋山論文を読んで | |
| | ・「ナマ・継続・丸ごと」利用の功罪 | 寺脇信夫 |
| | ・「多様性」—その中身の追求を | 石川桂司 |
| | 教育探訪 放送教育の将来像—「多メディア時代における放送教育セミナー」の示唆するもの | 児玉邦二 |
| | 最近の学校放送利用の実態—昭和61年度全国学校放送利用状況調査から— | 小平さち子 |
| | 海外教育放送事情 アジア・オセアニアの教育放送の現状 | 中野照海 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ 現代の学校と放送教育 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ② 環境の情報化への教育の対応 | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル② ニューメディア対応テレビ「AVテレビ」の機能とその使い方— | 嶋田喜一郎 |
| 放送教育実践物語「わからせる学習」から「わかり方の学習」そして「感じ方の学習」へ(2) | 家野修造 | |
| 実践記録 子どもが生きる放送番組の新しい活用法—単元に物語を取り入れた授業の記録— | 田中誠 | |
| 6月号 | 今月の提言 視聴覚文化のひとつの進路 | 佐藤忠男 |
| | 討論のひろば「ナマ・丸ごと・継続」の意味を改めて問う[提案] | 松本勝信 |
| | 討論のひろば 寺脇・石川両氏に答える「ナマ・継続・丸ごと」再考 | 秋山隆志郎 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|----------------------------|
| 6月号 | シンポジウム ニューメディアの発達とこれからの放送教育 | 太田次郎, 佐伯胖, 山極隆, 武田光弘, 中野照海 |
| | 海外教育放送事情 パーゼルの教育放送会議から | 上田昌彦 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ 放送教育と学級経営 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ③ コンピュータ導入当初の取り組み | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル③ 衛星放送受信システム | 嶋田喜一郎 |
| | 番組制作インサイドストーリー 道德番組—地域ぐるみの番組づくり—地元で見つけた名優たち | 丸谷賢典, 佐野竜之介, 酒井和行 |
| | 放送教育実践物語 学ぶ楽しさ、知る喜びを味わう放送学習(1) | 三宅修平 |
| | 今月の提言 一・五をどう超えるか | 小此木啓吾 |
| | 討論のひろば 6月号掲載の松本論文を読んで | |
| | ・新しい「二者択一主義」への危惧 | 水越敏行 |
| ・「感動」と「イメージ」を大切にしようとして、それだけでよいのか? | 佐賀啓男 | |
| この人に聞く 今、放送教育研究に求められていること | 天城勲 | |
| 座談会 教育改革への提言—臨教審第3次答申をめぐって— | 内田健三, 須之部量三, 永畑道子, 西村秀俊, 児玉邦二 | |
| 高桑康雄の放送教育ゼミ 子どもの学習生活と放送教育 | 高桑康雄 | |
| 教室にはいるコンピュータ④ 学校へのパソコン導入の必要性 | 芦葉浪久 | |
| 教育機器活用マニュアル④ 8ミリビデオとは何か—その機能を生かした学校での活用例— | 梅原是之, 清水正美 | |
| 放送教育実践物語 学ぶ楽しさ、知る喜びを味わう放送学習(2) | 三宅修平 | |
| 実践記録 視力障害を克服し、生きる喜びを育てた放送学習 | 牧槇子 | |
| 8月号 | 今月の提言 放送は教育に何ができるか | 西村文男 |
| | 「討論のひろば」を読んで | |
| | ・利用は柔軟に、番組は野心に満ちたものを | 岩崎三郎 |
| | ・放送教育の原点を見つめて | 大橋忠正 |
| | ・情意面への働きかけが放送の特性 | 丸山聡 |
| | ・開かれた討論に期待する | 皆川春雄 |
| | 討論のひろば 水越・佐賀両氏に答える「ナマ・丸ごと・継続」の本質の再考—子どもの変容にはたらく機能から— | 松本勝信 |
| | 「話すことば」の教育をどう行うか—アウンウンサーの立場からの日本語表現論— | 遠藤榮 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|------------------------|
| 8月号 | 教育探訪 やっと始まったか、ニューメディア | 児玉邦二 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ 学習活動の活性化と放送教育 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ⑤ CAIとは | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル⑤ S-VHSビデオとは何か | 中部隆平 |
| | 放送教育実践物語 一人ひとりが生きる楽しい放送学習 | 日隈健二 |
| 9月号 | 討論のひろば シンポジウム 21世紀を創造する子どもたちのために放送教育の果たすべき役割は… | 西村文男, 水越敏行, 松本勝信, 武田光弘 |
| | この人に聞く “人間化”をめざして—一人一人に語りかける学校放送— | 武田光弘 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ 学習メディアの中の放送 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ⑥ CAIのねらい | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル⑥ 教育メディアとしてのビデオディスク | 栗原一 |
| | 番組制作インサイドストーリー 『みんな地球人』制作現場から | 野里元士 |
| | 放送教育実践物語 放送の豊かさとお会いの温かさ | 原田吹江 |
| | 実践記録 子どもの心にとどく『にんげん家族』—中学年総合番組の利用— | 谷智子 |
| | 実践記録 山形県の地域を探る映像教材『最上川』 | 笠原仁, 細矢実 |
| | | |
| 10月号 | 今月の提言 情報化社会と人間化 | 坂元昂 |
| | 討論のひろば メディアミックスにおける放送番組の位置づけ【提案】 | 吉田貞介 |
| | 「討論のひろば」を読んで | |
| | ・番組と利用の多様性についての討論を | 村川雅弘 |
| | ・良きものを残し新たな分野を加えて | 溝内玲子 |
| | ・研究者、番組制作者が忘れてならないこと—教師が利用者— | 平沢茂 |
| | 特集 第38回放送教育研究会全国大会(福井大会)のめざすもの | |
| | 【特集】日々の実践を土台に新しい放送教育の追求 | 高橋哲郎 |
| | 【特集】福井大会のみどころ | 福井大会総合事務局 |
| | 教育探訪 「ナマ・丸ごと・継続」論の系譜 | 児玉邦二 |
| | 海外教育放送事情 発展途上国における教育放送—世界銀行の窓口から— | 二神重成 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ 放送教育を支える物的条件 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ⑦ CAIコースウェアの設計 | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル⑦ コンパクトディスクプレーヤーの特色とその利用 | 宅間敏夫 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|------------------------|
| 10月号 | 放送教育実践物語 放送教育に打ち込んで—わかる授業の推進をめざして— | 浮田利朗 |
| 11月号 | 今月の提言 人生八〇年時代の生涯学習と放送 | 一番ヶ瀬康子 |
| | 討論のひろば 10月号掲載の吉田論文を読んで | |
| | ・メディアミックスをどう生かし、子どもに主体性と学習能力をつけ、子どもの変容を図っていくか | 武村重和 |
| | ・映像メッセージと授業システムの統合—「羅生門的接近」を期待— | 高島田孝一 |
| | 海外教育放送事情 世界にひろがる放送教育—日本・ネパール視聴覚教育セミナーに参加して— | 水上毅 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ 放送教育のための経営の組織化 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ⑧ 授業で使いやすいコースウェア | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル⑧ 学校とパーソナルコンピュータ | 松島紘 |
| | 番組制作インサイドストーリー 『おもいっきり中学時代』の制作日記から | 市川克美 |
| | 放送教育実践物語 子どもと創る歴史の授業—学校放送『くらしの歴史』を核として— | 浅井和行 |
| 臨時号 | 第23回放送教育賞論文集 | (16本) |
| 12月号 | 今月の提言 テレビと教育 | ホセ・M・デベラ |
| | 討論のひろば 学校放送番組を考える—資料性を中心にして—【提案】 | 太田次郎 |
| | 討論のひろば 武村・高島田両氏に答える メディアミックスを再考する | 吉田貞介 |
| | 教育探訪 ニューメディアの中の視聴覚センター | 児玉邦二 |
| | 海外教育放送事情 アジア諸国の連携・協力 アジア教育放送セミナー(韓国)参加報告 | 市村佑一 |
| | 座談会 実践を深め、広めあう場として | 放送教育賞事務局 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ 放送番組と地域番組の連携 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ⑨ シミュレーションの作り方 | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル⑨ ビデオ教材制作とパソコンの利用 | 田村順一 |
| | 放送学習実践物語 戦後四〇年放送教育の思い出 | 清中喜平 |
| 1月号 | 特集 第38回放送教育研究会全国大会(福井大会)レポート | |
| | 【特集】大会記念番組『いのちかがやぐ』 | 柏原芳恵, 山川静夫, 沖谷昇, 小崎美由樹 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--------------------------------------|---|-------------------------|-------|
| 1月号 | 【特集】座談会 全国大会からのメッセージ | 田村洋, 村上政光, 野崎剛一, 浦達也 | |
| | 【特集】教育メディアから見た放送教育全国大会 | 渡部知弥 | |
| | 【特集】福井大会を終えて | 福井大会総合事務局 | |
| | 討論のひろば 12月号掲載の太田論文を読んで | | |
| | ・学校放送番組の試練 | 宗末勝信 | |
| | ・総合情報としてのテレビ教材 | 市川昌 | |
| | この人に聞く 今年、生涯学習元年 | 沖吉和祐 | |
| | 教育放送と国際協力・その展望 | 市村佑一 | |
| | 第16回「日本賞」教育番組国際コンクールをふりかえって—今回の特色と受賞番組— | 井上英治 | |
| | JURY・JUROR・審査員 | 近藤康弘 | |
| | 「日本賞」シンポジウムに見る教育放送の動向—「世界教育番組制作者会議」を企画して— | 大西誠 | |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ メディア教育としての放送教育 | 高桑康雄 | |
| | 教室にはいるコンピュータ⑩ 知的活動のツールとしての使い方 | 芦葉浪久 | |
| | 2月号 | 今月の提言 学校でメディア・ワークショップを! | 鈴木みどり |
| | 「討論のひろば」を読んで | | |
| ・実践からの理論構築を | 大室健司 | | |
| ・今後の実りを期待する | 小笹雅幸 | | |
| ・放送だけでは…しかし、放送がなければ | 眞木章弘 | | |
| ・他地域との実践交流を | 和田芳信 | | |
| 討論のひろば 宗末・市川両氏に答えるマルチメディアの中での放送教育の存在 | 太田次郎 | | |
| 特別寄稿「もう一つの教育」を求めて—放送による学習— | 蛸谷米司 | | |
| 海外教育放送事情 メキシコの「テレビ中学校」 | 竹内実 | | |
| 高桑康雄の放送教育ゼミ 映像視聴能力の育成と放送教育 | 高桑康雄 | | |
| 教室にはいるコンピュータ⑪ 教育課程改定に伴う学校の情報化対応 | 芦葉浪久 | | |
| 教育機器活用マニュアル⑩ 教育機器・教材の運営と管理 | 柴田恒郎 | | |
| 機器活用リポート ビデオディスクの教育分野における利用事例 | 船越雄而 | | |
| 実践研究「天下統一」を利用したメディアミックス | | | |
| ・メディアミックスによる社会科—「天下統一」の実践— | 村上繁樹 | | |
| ・調査から見た「天下統一」の授業 | 水越敏行 | | |
| ・「メディアミックス」研究プロジェクトの背景 | 佐賀啓男 | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|----------------------------------|-----------------|
| 3月号 | 今月の提言 衛星放送時代と放送教育 | 後藤和彦 |
| | 「討論のひろば」—この一年から | 本誌編集部 |
| | 座談会 学校放送の課題と方向 | 武田光弘, 児玉邦二, 浦達也 |
| | 故西本三十二先生を偲ぶ | |
| | ・西本先生のこと | 川上行蔵 |
| | ・新幹線を教室として | J・ホワイト |
| | ・もう一度、お会いしたい | 西田光男 |
| | ・西本先生のご逝去を悼む | 清中喜平 |
| | ・ICUのころの西本三十二先生 | 中野照海 |
| | 高桑康雄の放送教育ゼミ メディア教育と放送教育 | 高桑康雄 |
| | 教室にはいるコンピュータ⑫ コンピュータの授業利用の今後の方向性 | 芦葉浪久 |
| | 教育機器活用マニュアル⑪ これからの教育と教育メディア | 橋本幹夫 |
| | 地域に生きる学校放送番組 | |
| | ・地域に根ざす『くらし発見』—生きた教材を求めて— | 金城義雄 |
| | ・地元の人たちからも、愛される番組として—『たんけんぼくのまち』 | 田中英志 |
| | ・地域の“生”の素材を生かしたリアルな内容—『あしたへジャンプ』 | 丸谷賢典 |

主な連載：ビデオ教材自作のポイント、とっておきの話、いきいき校長・いきいき学校、保育と放送、視聴覚ロータリー、教育ジャーナル、放送教育風土記、教師のためのことは教室

1988 (昭和63) 年度 (通巻473~485号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------|--|--------------------------|
| 4月号 | 教育とメディア 人間のいる文化、人間のいる放送—異文化理解の教育のために | 多田俊文 |
| | 新教育課程と放送 教育課程改定の考え方と放送教育 | 水越敏行 |
| | 視聴覚教育行政展望 生涯学習を支える基盤整備 | 沖吉和祐 |
| | 特集 NHK学校放送新番組紹介 | |
| | NHK学校放送番組制作のあり方 | 武田光弘 |
| | 『ブルブルブルン』『ピクンとアップン』『歴史みつけた』『あつまれじゃんけんぼん』『特別シリーズ』『高等学校特別活動』 | NHK学校教育部 |
| | 海外教育放送事情 新たな国際協力関係の誕生—中国放送大学— | 市村佑一 |
| | 海外教育放送事情 中国の放送大学 成人高等教育の基盤、その問題点と傾向1 | 馬維驥 |
| | 新・放送教育の12か月① 情報化に対応する映像教育 | 吉田貞介、宗末勝信 |
| コンピュータ活用法 たかがパソコン、されどパソコン | 田村順一 | |
| 5月号 | 教育とメディア フランスにおけるメディアの教育利用 | 滝沢武久 |
| | 新教育課程と放送 生活科と放送教育 | 水越敏行 |
| | この人に聞く 新しい教育課程・改善の方向 | 熱海則夫 |
| | 座談会 放送教育東西南北 今、何をテーマに実践研究を…… | 田中肇、伊庭見、長屋保夫、浜田健太郎 |
| | NHK学校放送—見どころ・聞きどころ | NHK学校教育部 |
| | 海外教育放送事情 中国の放送大学 成人高等教育の基盤、その問題点と傾向2 | 馬維驥 |
| | 新・放送教育の12か月② 番組を理解する力をつけよう | 吉田貞介、押野市男 |
| | コンピュータ活用法 どんなことができるの？ | 田村順一 |
| | 教育機器・機能と活用 ホコリをかぶっていませんか？ あなたの学校の機器の再点検 | 渡辺知彌 |
| 6月号 | 教育とメディア メディア教育のめざすもの | 坂元昂 |
| | 新教育課程と放送 選択の多様化と放送教育（中学校） | 水越敏行 |
| | シンポジウム メディア教育への提言 | 佐藤忠男、次山信男、宇佐美昇三、野上俊和、無藤隆 |
| | この人に聞く 情報化・国際化への対応 | 辻村哲夫 |
| | 学校放送利用の動向—昭和六二年度全国学校放送利用状況調査から— | 飯森彬彦 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------|---|------------|
| 6月号 | 海外教育放送事情 制作者と教師の深い協力アジア関係を—アジア・太平洋教育放送シンポジウム（タイ）報告— | 市村佑一 |
| | 海外教育放送事情 マルチメディアと放送—EBU教育放送セミナーから— | 佐野博彦 |
| | 新・放送教育の12か月③ 総合学習番組とメディアミックス | 吉田貞介、三田村英明 |
| | コンピュータ活用法 すでにあるものをつかう | 田村順一 |
| | 教育機器・機能と活用 さまざまな教育活動分野における学校施設のリニューアルについて | 川島崇司 |
| 7月号 | 教育とメディア 『第三の放送教育』—放送による大学公開講座から— | 中野照海 |
| | 新教育課程と放送 幼児の発達をどう見るか | 永野重史 |
| | この人にきく 環境による教育—幼稚園教育要領の改善— | 高橋一之 |
| | 創意にあふれた授業を！—旭川大会に期待する— | 武田光弘 |
| | 新・放送教育の12か月④ 番組を活用する力をつけよう | 吉田貞介、藤田和彦 |
| | コンピュータ活用法 主人公は子どもたち | 田村順一 |
| | 実践記録 見て、考えて、自分たちで調べていくことの楽しさ—『リポートにっぼん』継続視聴を通して— | 池西郁広 |
| 実践記録 音楽鑑賞のための放送利用 | 三宅詠子 | |
| 8月号 | 教育とメディア 電波と教育—ことばと人格— | 芳賀綾 |
| | 新教育課程と放送 私の考える個性化 | |
| | ・表通りの裏通り化 | 三枝孝弘 |
| | ・子ども自身の本質に迫る自己努力 | 坂本昇一 |
| | ・人となりというまとまった全体 | 多田俊文 |
| | ・最高の文化を、子どもに一言業よりも映像を— | 永畑道子 |
| | ・変化の中に生きる力を育てるために | 佐島群巳 |
| | この人にきく 現在の教育課題と放送教育 | 天城勲 |
| | 自ら学び、主体的に生きる力を培う— | 蓮池守一 |
| | はずむ大地 旭川へのいざない—旭川大会のみどころ— | 柴田英一 |
| 海外教育放送事情 開局チャンネル11（タイ） | 斉田宏 | |
| 新・放送教育の12か月⑤ 放送番組を分析する | 吉田貞介、上出雅 | |
| コンピュータ活用法 パソコンひとりだけでは役不足 | 田村順一 | |
| 教育機器・機能と活用 教育界の二一ズの窓口として | 辻畑雅利 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|---------------------|
| 8月号 | 実践記録 VTRを用いた集団あそび『ワンツートン』で友達とあそぼう | 屋宮忠晴 |
| | 教育とメディア 人間メディアの再評価 | 加藤秀俊 |
| 9月号 | 新教育課程と放送 私の考える情報化 | |
| | ・わたしたちはメディアに何を与えてきたか | 佐賀啓男 |
| | ・問題解決志向型の情報処理教育 | 無藤隆 |
| | ・自らを意識する未来志向型の能力・態度 | 松本勝信 |
| | ・情報科によるトータルとしての情報教育 | 宇佐美昇三 |
| | 座談会 放送教育東西南北 放送教育の“よさ”とは… | 嵐幸法, 鈴木衆, 大石信洋 |
| | 旭川大会のめざすもの | 大島忠次 |
| | 海外教育放送事情 世界の“子どもとテレビ”—ミュンヘンのセミナーから— | 秋山隆志郎 |
| | 新・放送教育の12か月⑥ 感情豊かに番組を見る力をつけよう | 吉田貞介, 松田恵美子 |
| | コンピュータ活用法 パソコン教育, これからが本番 | 田村順一 |
| | 教育機器・機能と活用 学校における自作ビデオの活用例とビデオディスクとの取り組み | 馬見塚哲男 |
| | 教育とメディア 教育と情報技術 | 唐津一 |
| | 10月号 | 新教育課程と放送 私の考える国際化 |
| ・放送教育による教育の国際化 | | 中野照海 |
| ・まず社会科の国際化(科)を | | 児玉邦二 |
| ・放送は室内トイレ以上のものか | | 浜野保樹 |
| ・教育番組を, 国際化の架け橋に | | 大西誠 |
| この人に聞く 新しい教育の方向に根ざす放送教育 | | 八重樫克羅 |
| 座談会 放送教育の新しい展開① 映像の多面的な活用 NHKスクールビデオをめぐって | | 多田俊文, 半田久美江, 水上毅 |
| 海外教育放送事情 インドネシアの教育放送 | | 鈴木勇 |
| 新・放送教育の12か月⑦ 番組からのイメージを表現しよう | | 吉田貞介, 明星哲久 |
| コンピュータ活用事例 教室に入ったコンピュータ | | 井口磯夫 |
| 教育機器・機能と活用 衛星放送受信機器とその教育活用 | | 宅間敏夫 |
| 実践記録 ひとりひとりを生かしたひろがりのある理科学習—『理科教室』一年間の継続利用・0分スタートを通して— | | 高島一枝 |
| 11月号 | | 教育とメディア 情報環境の変化と子ども |

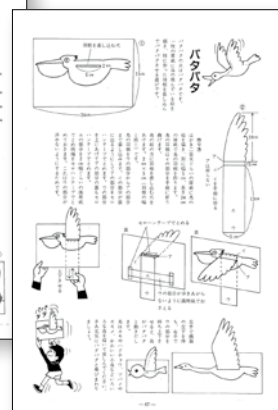
| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------|---|------------------------------|
| 11月号 | 新教育課程と放送 シンポジウム① | 佐島群巳, 松本勝信, 山口令司, 草野保治, 西村文男 |
| | シンポジウム いま, なぜ放送教育が求められるか | 西村文男, 中野照海, 八重樫克羅 |
| | 放送教育の新しい展開② 放送番組を中心にしたパッケージ教材の試み | 岩佐玲子, 田口三奈, 斎藤由也 |
| | 新・放送教育の12か月⑧ 視聴能力の育成と評価のあり方—総合番組『みんな地球人』を使って— | 吉田貞介, 内田正明 |
| | コンピュータ活用事例 児童がパソコンで考える算数の授業 | 荒川信行 |
| | 教育機器・機能と活用 授業にコンピュータを活用した実践例 | 加藤光昭 |
| 増刊号 | 第24回放送教育賞論文集 | (17本) |
| 12月号 | 教育とメディア 考える時間と授業 | 原ひろ子 |
| | 新教育課程と放送 シンポジウム② | 佐島群巳, 松本勝信, 山口令司, 草野保治, 西村文男 |
| | 特集 第39回放送教育研究会全国大会(旭川大会)レポート | |
| | 【特集】旭川大会の特色 研究主題と授業から | 松本勝信, 多田俊文, 水越敏行, 中野照海, 大内茂男 |
| | 【特集】デジタル映像機器の紹介と今後の教育メディアの方向 | 渡部知彌 |
| | 【特集】『北の大地に生きる』の制作にあたって | 羽岡伸三郎 |
| | 【特集】旭川大会で得たもの | 大島忠次 |
| | 新・放送教育の12か月⑨ 番組制作にチャレンジ | 吉田貞介, 西田政人 |
| | コンピュータ活用事例 「情報基礎」におけるコンピュータの利用—中学校技術科— | 金子雄治 |
| | 1月号 | 新春対談 子どもからの出発—'89年放送界への期待— |
| この人に聞く 生涯学習時代への展望 | | 齋藤諱淳 |
| 新春特集 放送教育'89年の夢 | | |
| 【特集】授業そのものに立ち返る | | 浅田匡 |
| 【特集】いきた番組づくりを | | 太田次郎 |
| 【特集】新年の夢にみる「富士山」 | | 佐賀啓男 |
| 【特集】原点からの再出発 | | 柴田恒郎 |
| 【特集】未知なるものへも, 柔軟にアタック | | 和田泰輔 |
| 新・放送教育の12か月⑩ 放送番組とコンピュータの重ね利用 | | 吉田貞介, 池広岩麿 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|----------------|
| 1月号 | コンピュータ活用事例 高校におけるCAIの実践 | 木下昭一 |
| | 実践記録 地図作りの楽しさを味わうための放送学習『たんけんぼくのまち』視聴から一 | 小林秀明 |
| 2月号 | 教育とメディア 乳児とメディア | 水上啓子 |
| | 私と放送教育 放送の教育特性を求めて | 和田泰輔 |
| | 放送教育東西南北 近未来の放送教育 多元中継・奈良大会の試み | 近藤大生 |
| | 海外教育放送事情 アジア各国に見る放送教育 放送教育国際交流セミナーから | 大西誠 |
| | 新・放送教育の12か月⑪ 教科学習番組とメディアミックス | 吉田貞介、岡部昌樹 |
| | コンピュータ活用事例 コンピュータは障害者教育の夢を実現するか | 三崎吉剛 |
| | 実践記録 お話大好き!古江っ子一発展活動のあり方を工夫して一 | 中村梅代 |
| | 実践記録 放送からとびでた子 ふれあい活動・総合入門期の取り組みより | 福井市立清明小学校一年部会 |
| 実践記録『ふえはうたう』と共に歩んだ一年間の記録一のって跳んで音楽の世界へ一 | 小平洋子 | |
| 3月号 | 教育とメディア メディアを消すメディアーハイパーメディア | 浜野保樹 |
| | 座談会 学校放送の未来像をさぐる | 児玉邦二、八重樫克羅、浦達也 |
| | 放送教育の新しい展開③ ハイビジョンの可能性 | 柴田恒郎 |
| | 放送教育の新しい展開③ 生徒が見たハイビジョン | 高島勇二 |
| | 新・放送教育の12か月⑫ 課題選択学習とメディアミックス | 吉田貞介、南和人 |
| | コンピュータ活用事例 研修で作成されたパソコンソフト | 久保孝 |
| | 教育機器・機能と活用 ビデオの利用環境はどこまで進んだか | 杉田繁男 |
| | 実践記録 今、古代史がおもしろい一特別シリーズと一般番組を併用して一 | 市橋章男 |

主な連載：わたしの自作ビデオ教材、学習とビデオディスク、いきいき学校・幼稚園・保育園、保育に放送をどう生かすか、視聴覚ロータリー、教育ジャーナル、放送教育風土記、教師のためのことば教室、放送教育ワンポイントアドバイス、子ども新発見、とっておきの話



1988年5月号



1988年5月号

1989 (平成元) 年度 (通巻486~498号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------------------|--|--------------------|
| 4月号 | 展望 子どもとメディアと表現 | 倉澤栄吉 |
| | 親と先生のための教育考現学 教育研究にリアリズムを | 山村賢明 |
| | 生涯学習推進方策と平成元年度の視聴覚教育行政の方向 | 飛田眞澄 |
| | 特集 NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】新年度番組の基本構想 | 八重樫克羅 |
| | 【特集】番組インフォメーション-見どころ・聞きどころ- | NHK教育番組センター(学校教育) |
| | 海外教育放送事情 北米における双方向性テレビの教育利用 | 川島淳一 |
| | 西村文男の実践講座 今、放送教育に求められているもの | 西村文男 |
| | 新メディア情報 情報革命の旗手「ハイビジョン」その1ハイビジョンとはどんなものか | 朽見行雄 |
| 新メディア情報 メディア環境をどう整えるか その1ハードを中心に | 渡部智彌 | |
| 5月号 | 展望 放送番組の国際交流 | 川竹和夫 |
| | 親と先生のための教育考現学 教育問題」を考える現代的視角 | 山村賢明 |
| | 放送教育の新しいシステムを考える | 高桑康雄 |
| | 海外教育放送事情 アジア・太平洋教育放送シンポジウム 教育放送の新たな挑戦 | 市村佑一、今西陽一郎 |
| | 西村文男の実践講座 美しい顔をつくる放送学習 | 西村文男 |
| | 視聴覚教育メディアとしてのコンピュータ① | 秋山隆志郎 |
| | 新メディア情報 情報革命の旗手「ハイビジョン」その2ハイビジョンの利用 | 朽見行雄 |
| 新メディア情報 メディア環境をどう整えるか その2ソフトを中心に | 渡部智彌 | |
| 6月号 | 展望 表現活動としてのビデオ制作 | 宇佐美昇三 |
| | 生活科と映像メディア | 中野重人 |
| | 親と先生のための教育考現学 学校の変質① 管理化 | 山村賢明 |
| | 宇宙教育 21世紀志向のカリキュラム | 青木章心 |
| | 教科別特集 学校放送と教育<座談会> 一徳徳 日常性からの課題を求めて | 蓮池守一、小山治男、福島祥行、浦達也 |
| | 西村文男の実践講座 ふくらます授業の実践 | 西村文男 |
| | 視聴覚教育メディアとしてのコンピュータ② | 秋山隆志郎 |
| | 新メディア情報 情報革命の旗手「ハイビジョン」その3ハイビジョンの展開 | 朽見行雄 |
| | 新メディア情報 学校放送利用校 昭和63年度学校放送利用状況調査から① | 飯森彬彦 |
| | 7月号 | 特集「放送教育賞」応募のすすめ |
| 【特集】展望 なぜ、実践をまとめるのか | 坂本昇一 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------------|---|-------------------------------|
| 7月号 | 【特集】「この子」の明日に「この放送」を | 事務局座談会 |
| | 【特集】こどもをかえる放送教育 | 田中美智子 |
| | 【特集】意欲化を目指すテレビ探求学習 | 浅井孝典 |
| | 親と先生のための教育考現学 学校の変質② 教育から選別へ | 山村賢明 |
| | 教科別特集 学校放送と教育<座談会> 一社会科 歴史の認識から人間発見へ | 佐島群巳、守屋貞紀、岸一成 |
| | 西村文男の実践講座 子どもの自立を図り、能力を育てる視聴ノート | 西村文男 |
| | 新メディア情報 利用されている学校放送番組 昭和63年度学校放送利用状況調査から② | 飯森彬彦 |
| 8月号 | 展望 幼児と映像メディア | 無藤隆 |
| | 親と先生のための教育考現学 偏差値信仰とお金 | 山村賢明 |
| | 海外教育放送事情 ヨーロッパ各国に見る教育放送事情 | 本橋圭哉 |
| | この人に聞く これからの放送教育研究への期待-実践研究と理論研究の両面から- | 大内茂男 |
| | 西村文男の実践講座子どもの問いかけを大切に学習 | 西村文男 |
| 新メディア情報 メディア利用の動向 昭和63年度学校放送利用状況調査から③ | 飯森彬彦、野崎剛一 | |
| 9月号 | 展望 体験とメディア | 下村哲夫 |
| | シンポジウム 映像リテラシー教育研究セミナー 今、必要な映像リテラシーとは何か1 | 多田俊文、ホセ・M・デ・ペラ、平沢茂、村川雅弘、八重樫克羅 |
| | 親と先生のための教育考現学 体罰の教育風土 | 山村賢明 |
| | 教科別特集 学校放送と教育<座談会> 一理科 日常性・今日性・継続性を生かす | 清水堯、鈴木衆、古村文左、浦達也 |
| | 西村文男の実践講座 個性を生かす教育と放送学習 | 西村文男 |
| | 広島へ来てみんさい! 第40回放送教育研究会全国大会(広島大会)へのおさそい | 大本久夫 |
| 新メディア情報 予備校・塾におけるニューメディア1 | 西山昭雄 | |
| 10月号 | 特集 放送教育研究会全国大会広島大会のめざすもの | |
| | 【特集】展望 教育の今日的課題と放送 | 武村重和 |
| | 【特集】広島大会実践の見どころ | 広島大会総合事務局 |
| | 親と先生のための教育考現学 現代家族と子どものゆくえ | 山村賢明 |
| シンポジウム 知ることから生きることへ1 | 武村重和、永野重史、石澤清史、西村文男 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------|--|-------------------------------|
| 10月号 | 海外教育放送事情 パキスタン、マレーシアの教育放送 | 大西誠 |
| | 教科別特集 学校放送と教育<座談会> 一語 一人ひとりの感性に働きかける番組利用 | 倉沢栄吉、橋本伸枝、堀紀子、浦達也 |
| | この人に聞く 子どもの目線に立った番組づくり | 石澤清史 |
| | 西村文男の実践講座 放送の特性を生かした指導 | 西村文男 |
| | シンポジウム 映像リテラシー教育研究セミナー 今、必要な映像リテラシーとは何か2 | 多田俊文、ホセ・M・デ・ペラ、平沢茂、村川雅弘、八重樫克羅 |
| | 新メディア情報 予備校・塾におけるニューメディア2 | 西山昭雄 |
| 臨時号 | 第26回放送教育賞入選発表 | (11本) |
| 11月号 | 展望 未来よりも過去の豊饒を | 佐賀啓男 |
| | 第26回「放送教育賞」入選発表 | 編集部 |
| | 視聴覚ロータリー 平成2年度学習情報・視聴覚教育関係予算概算要求の概要 | 文部省生涯学習局生涯学習振興課 |
| | 親と先生のための教育考現学 学校序列と制服 | 山村賢明 |
| | 教科別特集 学校放送と教育<座談会> 一中学校理科 教育の原点を求めての放送利用 | 森川哲次郎、小川一夫、藤井洋一郎、浦達也 |
| | 西村文男の実践講座 視聴能力を高める学習指導の推進 | 西村文男 |
| | シンポジウム 知ることから生きることへ2 | 武村重和、永野重史、石澤清史、西村文男 |
| | 新メディア情報 情報のインストラクターCATV1 | 石田岩夫 |
| 12月号 | 展望 メディアと人間形成 | 小田晋 |
| | 親と先生のための教育考現学 適性が努力か | 山村賢明 |
| | 対談 情報化・国際化と学校放送 | 大内茂男、浦達也 |
| | 自らの手で情報を活用させる指導—社会科地理番組の視聴を通して— | 成田健之助 |
| | 実践研究 放送学習作文とは① 視聴からの自主学習を | 溝内玲子 |
| | 西村文男の実践講座 放送教育における実践的評価 | 西村文男 |
| | 新メディア情報 情報のインストラクターCATV2 | 石田岩夫 |
| | 1月号 | 特集 第17回『日本賞』教育番組国際コンクール |
| 【特集】 展望 世界の教育放送 | | 中野照海 |
| 【特集】 第17回コンクールの特色と受賞番組 | | 井上英治 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|------------------------------|
| 1月号 | 【特集】 国際アンケート・教育番組制作者会議から | 小平さち子 |
| | 【特集】 「日本賞」コンクールの審査に参加して | 坂元多 |
| | 親と先生のための教育考現学 高齢化社会へ向けての教育 | 山村賢明 |
| | 視聴覚ロータリー 生涯学習情報の分類と様式の標準化について | 文部省生涯学習局生涯学習振興課 |
| | 特集 第40回放送教育研究会全国大会レポート | |
| | 【特集】 第40回放送教育研究会全国大会-広島大会レポート | 松本勝信、武村重和、近藤彰、瀬川晃三、大内茂男、多田俊文 |
| | 【特集】 全国大会記念番組『はばたけ地球っ子—放送で学ぶ国際理解』の制作にあたって | 中井俊朗 |
| | 【特集】 新メディア情報 広島大会にみる教育メディア | 渡部智彌 |
| | 実践研究 放送学習作文とは② 学校ぐるみに発展した放送学習 | 溝内玲子 |
| | 西村文男の実践講座 総合番組を利用した人間追究の学習 | 西村文男 |
| 2月号 | 展望 生涯学習とメディア | 甲田和衛 |
| | 親と先生のための教育考現学 相談の時代 | 山村賢明 |
| | 視聴覚ロータリー 学校週5日制に関する調査研究 | 文部省生涯学習局青少年教育課 |
| | 教科別特集 学校放送と教育<座談会> 一中学校社会 現代の社会をとらえる学校放送 | 岡本武司、井上逸雄、横田政美、浦達也 |
| | 実践研究 放送学習作文とは③ 県内へ広がる放送学習 | 溝内玲子 |
| | 西村文男の実践講座 広がりと深まりを目指した道徳指導 | 西村文男 |
| | 新メディア情報 学校におけるメディア・情報環境1 | 橋本幹夫 |
| | 展望 フォークロアとメディア | 大橋力 |
| 3月号 | 親と先生のための教育考現学 日本の教育の国際化 | 山村賢明 |
| | 海外教育放送事情 21世紀に向けて世界の学校放送は、いま! | 福島祥行 |
| | 教科別特集 学校放送と教育<座談会> 一小学校音楽科 音楽好きの子どもを育てる | 川池聡、橋本恭子、増子貞美、浦達也 |
| | 中・高特別シリーズからステップ&ジャンプへ | 中・高新番組開発プロジェクト |
| | 実践研究 放送学習作文とは④ 自己学習力を培う放送学習 | 溝内玲子 |
| | 西村文男の実践講座 放送教育についての学校評価 | 西村文男 |
| | 新メディア情報 学校におけるメディア・情報環境2 | 橋本幹夫 |

主な連載：教育ジャーナル、アプリケーションソフト活用術、保育と放送、放送教育ワンポイントアドバイス、複眼のアンテナ、わたしのビデオ台本、ことわざあれこれ

1990 (平成2) 年度 (通巻499~511号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---|-------------------|
| 4月号 | 展望 いまこそ映像教育の研究を進めるとき | 高桑康雄 |
| | 特集 NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】新年度番組の基本構想 | 石澤清史 |
| | 【特集】NHK学校放送新番組紹介 | NHK教育番組センター(学校教育) |
| | 生涯学習の基盤整備のための施策と視聴覚教育行政の方向 | 伊勢呂裕史 |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科の番組づくりのために | 山口令司 |
| | 実践記録 豊かな心情を育て、生き生きと活動する子の育成をめざして | 寛美鈴 |
| 5月号 | 展望 メディアと世界の三人称化 | 佐伯胖 |
| | 教師を取り巻くメディア環境とその活用 | 村川雅弘 |
| | 放送とパソコン統合への試み | 鈴木勢津子 |
| | 海外教育放送事情 新たな教育放送の国際協力に向けて 第5回アジア・太平洋地域教育放送シンポジウム(マニラ)報告 | 大西誠 |
| | 新・めでたい情報 ハイテク化する子どもの世界—第2回「NHK小学生の生活と意識」調査から①— | 謝名元慶福 |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科の授業づくりは新しい発想で | 山口令司 |
| | 映像と子どもたち① テレビっていったい何だろう | 大森哲夫 |
| | 実践研究 わたしの放送利用 映像から豊かに感じ表現する力を育てる低学年の指導 | 石川知男 |
| | 実践研究 わたしの放送利用 自ら学びとる力を育て、個性を生かした発展学習の定着を図る | 井口盾 |
| | 実践研究 わたしの放送利用「理科教室小学校5年生」の発展学習 | 浜崎隆一 |
| | 実践記録 戦争を知らない世代が学んだ戦禍の記録—『核戦争後の地球』の視聴から『高知空襲』の製作へ | 福岡正志 |
| | 6月号 | 展望 教育放送の国際協力 |
| 放送教育の新たな展開 | | 蓮池守一 |
| 90年代の放送教育への期待 時代に対応する教材としての放送 | | 吉田貞介 |
| 90年代の放送教育への期待 人間教育の本質の考察と実践へ | | 松本勝信 |
| 新・めでたい情報 利用されている学校放送番組—平成元年度「学校放送利用状況」調査から①— | | 野崎剛一 |
| 新・めでたい情報 生活リズムの変調—第2回「NHK小学生の生活と意識」調査から②— | | 謝名元慶福 |
| 連載講座 生活科と放送 生活科の授業づくり(1) 作る活動と遊びの活動の事例から | | 山口令司 |
| 映像と子どもたち② 目には目を | | 大森哲夫 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|----------------|
| 6月号 | 浦達也の新・放送教育講座① コミュニケーションチューブとゴミ箱モデル | 浦達也 |
| | 実践研究 わたしの放送利用 自己教育の芽生—『はたらくひとたち』を活用して— | 森田茂 |
| | 実践研究 わたしの放送利用 魅せられた『ことばの教室』—『ことばの教室4年生』を利用して— | 伊藤壽美子 |
| | 実践研究 わたしの放送利用 印刷教材には無い大きな力—『レポートにっぽん』による実践— | 浅井和行 |
| | 実践記録 歴史学習の興味・関心を高めるために 特別番組『藤ノ木、吉野ヶ里遺跡』の放送を通して | 葛本和子 |
| | 実践記録 自ら考え行動しようとする生徒の変容をめざして—発展学習から学ぶ— | 永尾忠子 |
| 7月号 | 展望 この人に聞く 第27回「放送教育賞」に期待する 他に学びつつ自らの「試み」の実践を | 多田俊文 |
| | 特集「放送教育賞」応募のすすめ | |
| | 【特集】心を揺り動かす経験を共有しながら思いやりの心を育てる—『にんぎょうげき—パンをふんだ娘』の視聴を通して探る— | 古川永子 |
| | 【特集】学校放送を利用した教育課程の実践研究—受容能力を高め、自発的実践力を伸ばす放送教育の研究— | 北海道旭川養護学校共同研究 |
| | 「学校と社会教育施設における視聴覚教育設備の状況調査」の結果について | 照井始 |
| | 新・めでたい情報 マメディアの利用—平成元年度「学校放送利用状況」調査から②— | 野崎剛一 |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科の授業づくり(2)「育てる活動」の事例から | 山口令司 |
| | 映像と子どもたち③ たとえピンボケであるうとも | 大森哲夫 |
| | 浦達也の新・放送教育講座② 送り手も受け手も一番面白いところを忘れてはいませんか | 浦達也 |
| | 実践研究 わたしの放送利用 個々のとらえた印象場面をもとにねらいにせまる放送学習 | 吉野雄一、大前正江 |
| | 実践研究 わたしの放送利用 学ぶ心がはずむ『ゆかいなコンサート』放送学習 | 松本宏昭 |
| | 実践研究 わたしの放送利用『歴史みつけた』の内容理解と内容発展の授業実践 | 田尻由朗 |
| 8月号 | 展望 映像おしゃべり時代の反省 | 佐怒賀三夫 |
| | 特集 道徳指導と放送教育 | |
| | 【特集】座談会「教える」ことから「引き出す」ことへ | 橋本誠司、宮島盛隆、華山益夫 |
| | 【特集】実践研究 わたしの放送利用「道徳授業の充実」への第一歩—『あつまれじゃんけんぽん』を活用して— | 浦勇 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---|--|------------------------------|------|
| 8月号 | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 理解と共感の中から『さわやか3組』の利用一 | 内藤勝義 | |
| | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 主体的に活動する学級『はばたけ6年』による実践一 | 高野和博 | |
| | 夏の全国特研講師からひと一言一放送教育の実践をすすめるために一 | 岸本唯博, 草野保治, 水越敏行, 笠間達男, 黒川哲宇 | |
| | 番組にもっと肥やしを | 堀江固功 | |
| | 新・めでたいあ情報 学校放送への現場の意向一平成元年度「学校放送利用状況」調査から③一 | 野崎剛一 | |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科の授業づくり(3) “生き物”とのかかわりの心を育てる事例から | 山口令司 | |
| | 映像と子どもたち④ 子どもが映像を創るとき | 大森哲夫 | |
| | 浦達也の新・放送教育講座③ 教育の言葉はどこまで届くか | 浦達也 | |
| | 9月号 | 展望 日本とドイツの子ども | 小塩節 |
| | | この人に聞く 時代の変化に対応する番組作り | 福島祥行 |
| 海外教育放送事情 タイ国のテレビ放送教育事情 | | 内田安昭 | |
| 連載講座 生活科と放送 生活科の授業づくり(4) “ザリガニ”がさわれる一ひとつの工夫の紹介一 | | 山口令司 | |
| 映像と子どもたち⑤ 現代版「桜田門外の変」をつくった子どもたち | | 大森哲夫 | |
| 浦達也の新・放送教育講座④ 放送教育を再活性化するコミュニケーションの場 | | 浦達也 | |
| 実践研究 わたしの放送利用 “算数大好き”という子どもをめざして | | 田辺典子 | |
| 実践研究 わたしの放送利用 感じたことをもとにして、発展学習を大切にを進める番組利用 | | 山本弘明 | |
| 実践研究 わたしの放送利用 学級作りに生かす『あしたヘジャンプ』の活用 | | 神田雅子 | |
| 実践記録「先生こんなことやってみたい」一番組キャラクターに注目させて活動する意欲を高めさせる視聴指導一 | | 水野かおり | |
| 10月号 | 展望 映像を創ることと見ること一映像リテラシーへの一つの提言一 | 伊佐治大陸 | |
| | 特集 道徳指導と放送教育 | | |
| | 【特集】座談会 子どもに語りかける一映像からの活動 | 金子美智雄, 松川厚雄, 今西哲郎 | |
| | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 子どもの活動を引き出す理科番組の利用について | 寛美鈴 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---|------------------------|
| 10月号 | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 豊かなイメージ形成と子ども自らの学習作りを目指して『はてなをさがそう』の継続視聴から一 | 藤井智子 |
| | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 放送番組を生かした理科学習 | 吉田久夫 |
| | ハイビジョンの可能性を探る!! | 多田俊文, 高島勇二, 横田政美, 柴田恒郎 |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科の評価について(1) | 山口令司 |
| | 映像と子どもたち⑥「子どもの自殺」を映画化? | 大森哲夫 |
| 11月号 | 浦達也の新・放送教育講座⑤ 時代と世代とメディア 三者の特権的出会いの中で(1) | 浦達也 |
| | 展望 21世紀に向けて放送教育は | 大内茂男 |
| | 特集 第41回放送教育研究会全国大会東京大会のめざすもの | |
| | 【特集】東京大会のめざすもの | 小川嘉一郎 |
| | 【特集】会場校ここが見どころ | 岡田精助 |
| | 【特集】教育ツール、ハイビジョンのマルチ展開一全体研究会の見どころ一 | 日比美彦 |
| | 海外教育放送事情 人口・保健教育にAV教材を | 市村佑一 |
| | 保育と放送 特集 子どもとメディア | |
| | ・現代の子どもにみるメディアリテラシーの拡大 | 稲増龍夫 |
| | ・幼い子どもの暮らしとメディア環境 | 中山まき子 |
| | ・海外の子どもとメディア一幼児向けテレビ番組の動向一 | 小平さち子 |
| 連載講座 生活科と放送 生活科の評価について(2) | 山口令司 | |
| 映像と子どもたち⑦ たった三人で作った戦争映画 | 大森哲夫 | |
| 浦達也の新・放送教育講座⑥ 時代と世代とメディア 三者の特権的出会いの中で(2) | 浦達也 | |
| 実践研究 わたしの放送利用 複数番組の継続視聴によって自ら学ぶ力を育てる | 片田武博 | |
| 実践研究 わたしの放送利用 子どもの発想を引き出す『はてなをさがそう』の利用 | 石橋光四郎 | |
| 実践研究 わたしの放送利用 子どもの心の世界を豊かにする『はばたけ6年』の活用 | 竹本昌弘 | |
| 臨時号 | 第27回放送教育賞論文集 | (14本) |
| 12月号 | 展望 地域教育力の復権 | 佐島群巳 |
| | 特集 社会科と放送教育 | |
| | 【特集】座談会「今」と「人間」を語る | 蜂谷義雄, 山本弘明, 鳥居雅之 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------------|---|-----------------------------------|
| 12月号 | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 わたしのテレビ社会科番組の活用 | 上村輝子 |
| | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 放送から発展し、生き生きと主体性を持った社会科学習『くらし発見』の継続視聴から | 小林秀明 |
| | 【特集】実践研究 わたしの放送利用 放送番組の特性を生かした社会科指導—子ども自らのメディア操作を試みて— | 浅井孝典 |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科の意義をとらえ直す(1) | 山口令司 |
| | 映像と子どもたち⑧ ぼくたちにも特撮映画は作れるか | 大森哲夫 |
| 浦達也の新・放送教育講座⑦ メディアを作る教育へのいくつかの視点と提言 | 浦達也 | |
| 1月号 | 特集 第41回放送教育研究会全国大会東京大会レポート | 多田俊文, 西村文男, 中野照海, 笠間達男, 金子健 |
| | 【特集】東京大会の特色 各校種指導講師から | 柴田恒郎 |
| | 【特集】東京大会で得たもの | 日比美彦, 元橋圭哉, 菊江賢治 |
| | 【特集】教室に入ったハイビジョン・ハイパーメディア | 鈴木勢津子 |
| | 教育メディアセミナー シンポジウム「ハイビジョンと教育」 | 岡田晋, 松本勝信, 末本俊雄, 中村修三, 竹中司郎, 児玉邦二 |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科の意義をとらえ直す(2) | 山口令司 |
| | 映像と子どもたち⑨ NHKのディレクターまで巻き込んだ子どもの映像づくり | 大森哲夫 |
| | 浦達也の新・放送教育講座⑧ 映像は撮影者の心を映す多様な視点と組み合わせの面白さ | 浦達也 |
| | 展望 総合学習番組と利用のあり方 | 水越敏行 |
| | 特集 総合学習番組の使い方! | |
| 2月号 | 【特集】『みんなでアタック』共感と見通しをもとに、生き生きと活動に取り組む児童を育てる指導 | 水谷義徳 |
| | 【特集】『にげん家族』人間性豊かな子どもの育成をめざした指導 | 入江晴憲 |
| | 【特集】『みんな地球人』豊かな人間性を培う指導 | 安井良行 |
| | 【特集】学校ぐるみで取り組む総合学習番組の活用 | 押野市男 |
| | 海外教育放送事情 韓日放送教育研修セミナー | 大内茂男 |
| | 海外教育放送事情 ヨーロッパ子ども番組・教育番組見てある記—EBU青少年番組作業部会に出席して— | 市川克美 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|-------|
| 2月号 | 連載講座 生活科と放送「自信」と「やる気」をはぐくむ授業へ | 山口令司 |
| | 映像と子どもたち⑩ カメラ町をゆく | 大森哲夫 |
| 3月号 | 浦達也の新・放送教育講座⑨ 我々の内なる差別意識 教育への最後のメッセージ | 浦達也 |
| | 展望 総合的思考を支援する放送教育 | 市川昌 |
| | 海外教育放送事情 EBUパーゼルブライズ誕生—第28回パーゼルセミナー(成人教育)の報告 | 阿部和暢 |
| | 連載講座 生活科と放送 生活科番組への期待 | 山口令司 |
| | 映像と子どもたち⑪ 良い映像が育てる映像感覚 | 大森哲夫 |
| | 浦達也の新・放送教育講座⑩ 多重な時間・空間から学ぶ視点 兆候と索引のレトロ・フューチャー | 浦達也 |
| | 実践研究 課題に向かって生き生きと学習する子どもの育成をめざして—科学的説明文の学習に『地球ファミリー』を利用して— | 石垣富一郎 |
| 実践研究 私にとって放送教育とは? 『国語表現』ことばの学習と映像教材との接点 | 畠中千畝 | |
| 実践研究 身近な自然や社会とのかかわりを求めて放送と共に歩む生活科の試行 | 上村輝子 | |

主な連載: 教育ジャーナル、新任先生へのメッセージ、保育講座、保育Q&A、保育日記、視聴覚ロータリー、校内放送活動のために、教育探訪、『青春トーク&トーク』インサイドストーリー

1991 (平成3) 年度 (通巻512~524号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--------------------------------------|---|
| 4月号 | 特集 '91年度これからの放送教育への期待 | |
| | 【特集】対談 新しい放送教育を求めて—いま、ふりかえる放送教育の原点— | 児玉邦二、豊田昭 |
| | 【特集】アンケート これからの放送教育の期待 | 八重柏新治、平賀允耀、小笠原喜康、今井洋一、杉山孝、大岡潤、佐賀啓男、多田令子、大藤美保子、古賀武夫、松田稔樹 |
| | 特集 NHK 学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】時代の変化に対応し、大胆に… | 福島祥行 |
| | 【特集】幼稚園・保育所番組 学校放送番組 ここが見どころ | ファミリー番組プロダクション、学校放送番組プロダクション |
| | 平成3年度における生涯学習基盤の整備と視聴覚教育に関する施策 | 伊勢呂裕史 |
| | 海外教育放送事情 中国放送大学日本語番組一日共同制作に参加して— | 浦川朋司 |
| 5月号 | 展望 国境を越えるもの シンポジウム「世界は“おしん”をどうみたか」から | 八重樫克羅 |
| 特集 30年目を迎えた『中学生日記』 | | |
| 【特集】時代時代の子どもたちを見つめて | 編集部 | |
| 【特集】現代の中学生像を問いつづける『中学生日記』 | 太田昭臣 | |
| 【特集】鏡の中の私たち—『中学生日記』の取材ノートから— | 逢菜泰三 | |
| これからの放送教育を考える① 教育メディア特性論・再考 | 秋山隆志郎 | |
| スタート目前! 新学習指導要領 放送をどう生かすか 生活科 | 中野重人 | |
| 「ナマ利用」から「ナマ・録画併用」へ—平成2年度学校放送利用状況調査から①— | 飯森彬彦 | |
| 海外教育放送事情—マレーシア アジア・太平洋地域教育放送開発セミナー取材記 | 日比美彦 | |
| 海外教育放送事情—マレーシア 参加印象記 シミュレーション授業を参観して | 高田惇 | |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 情報空間と学校教育 | 井口磯夫 | |
| 実践研究 思いやりを深め心豊かな言動をとる子の育成—道徳『あつまれじゃんけんぼん』とその関連番組の視聴を通して— | 池田雅子 | |
| 6月号 | 展望 テレビ報道を読む力 | 平沢茂 |
| これからの放送教育を考える② 国際化の中で日本の学校放送の特殊性を考える | 秋山隆志郎 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---------------------------------------|------------------------------|
| 6月号 | スタート目前! 新学習指導要領 放送をどう生かすか 小学校道徳 | 押谷由夫 |
| | メディア利用の動向—平成2年度学校放送利用状況調査から②— | 飯森彬彦 |
| | 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか アイデア・プロセッサ | 井口磯夫 |
| | ビデオ綴り方のすすめ① 批判と応用 | 宇佐美昇三 |
| 実践研究 子どもの変容に応じた人的環境としての保育者のかかわり方のあゆみ—三年間の継続視聴から— | 木村真奈美 | |
| 実践研究 ぼくの宝物 | 操木豊 | |
| 実践研究 「ワイワイげきじょう」—子どもたちが作るテレビの時間— | 荒森紀行 | |
| 7月号 | 展望 メディアと体験 | 藤竹暁 |
| | これからの放送教育を考える③ 放送教育にとって何が岐路なのか | 小川博久 |
| | スタート目前! 新学習指導要領 放送をどう生かすか 小学校国語 | 小森茂 |
| | 学校放送への意向—平成2年度学校放送利用状況調査から②— | 河野謙輔 |
| | 座談会 頑張ってます! 若手ディレクターからのメッセージ | 大谷聡、梶原祐理子、富永慎一、渡辺誓司 |
| | 海外教育放送事情 テレビの可能性を追求 日中テレビ教育番組シンポジウム報告 | 日中教育メディア交流研究会 |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 通信ネットワークと教室LAN | 井口磯夫 | |
| ビデオ綴り方のすすめ② 企画—目のつけかた— | 宇佐美昇三 | |
| 8月号 | 展望 映像の特性とは何か | 浅野孝夫 |
| | 特集 放送教育の実践をすすめるために | |
| | 【特集】夏の全国特研 講師からひと言 | 小川博久、多田俊文、西村文男、佐島群日、中野照海、金子健 |
| | 【特集】この人に聞く 社会の変化に対応する教育を | 蓮池守一 |
| | これからの放送教育を考える④ 放送教育は何をなすべきか | 小川博久 |
| | スタート目前! 新学習指導要領 放送をどう生かすか 小学校理科 | 角屋重樹 |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 学習活動におけるパソコンの多様な活用 | 井口磯夫 | |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか コンピュータ教育と「CEC仕様'90」 | 高井敏夫 | |
| ビデオ綴り方のすすめ③ 発想と資料あつめ | 宇佐美昇三 | |
| 9月号 | 展望 カナダの公教育に位置づくメディア教育 | 鈴木みどり |
| | 特集 映像表現のすすめ | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------|--|------------------------------|
| 9月号 | 【特集】教師の映像リテラシーを考える | 伊佐治大陸 |
| | 【特集】わたしの映像制作指導事例（小学校）児童が意欲的に活動する校内放送 | 米澤利正 |
| | 【特集】わたしの映像制作指導事例（中学校）生徒の主体性を伸ばすための映像制作 | 佐々木勝規 |
| | 【特集】わたしの映像制作指導事例（高等学校）新しい文化創造の自覚で一高校生の映像制作― | 桐畑治 |
| | 【特集】彼らの映像感覚と遊び心―高校放送コンテストから― | 嘉悦登 |
| | これからの放送教育を考える⑤ 見ることの教育の再考 | 赤堀正宜 |
| | スタート目前！新学習指導要領 放送をどう生かすか 小学校社会科 | 高野尚好 |
| | 電脳教室 パソコンを教育にどう生かすか コースウェアのまるごと利用と分断利用 | 井口磯夫 |
| | ビデオ綴り方のすすめ④ [実例] 企画書をつくる | 土屋二彦 |
| 別冊 | 電脳教室 | |
| 10月号 | 展望 娯楽と教育のあいだ | 加藤秀俊 |
| | シンポジウム（平成3年度全国放送教育特別研究協議会より）21世紀に生きる力を培う放送教育の創造（1） | 西村文男、桑幸子、村岡耕治、柴田恒郎、清水洋三、信方寿幸 |
| | これからの放送教育を考える⑥ 生涯教育を展望して | 赤堀正宜 |
| | スタート目前！新学習指導要領 放送をどう生かすか 小学校音楽科 | 金本正武 |
| | 電脳教室 パソコンを教育にどう生かすか 座談会『コンピューター・ナウ』はどんな番組か | 井口磯夫、横井弘、宇佐美亘 |
| ビデオ綴り方のすすめ⑤ [実例] 構成案をつくる | 土屋二彦 | |
| 11月号 | 展望 新しい教育課題と放送教育 | 天城勲 |
| | 特集 第42回放送教育研究会全国大会 | |
| | 【特集】北九州大会のめざすもの―教育の多様化のなかでの放送教育の課題― | 松本勝信 |
| | 【特集】会場校・見どころ聞きどころ | 安永道善 |
| | シンポジウム（平成3年度全国放送教育特別研究協議会より）21世紀に生きる力を培う放送教育の創造（2） | 西村文男、桑幸子、村岡耕治、柴田恒郎、清水洋三、信方寿幸 |
| | シンポジウム（教育メディアセミナーより）放送・ハイビジョン・パソコンの統合的な活用 | 多田俊文、井口磯夫、中島康雄、横田政美、樋場豊 |
| | これからの放送教育を考える⑦ これまでの放送教育 わが国の放送教育の特色（1） | 中野照海 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------------------|--|--|
| 11月号 | スタート目前！新学習指導要領 放送をどう生かすか 小学校算数科 | 吉川成夫 |
| | 電脳教室 パソコンを教育にどう生かすか 映像をデータベース化した進路選択ソフトの開発 | 板橋昇、鶴飼道男 |
| | ビデオ綴り方のすすめ⑥ 制作準備 | 宇佐美昇三 |
| 12月号 | 展望 日本人と創造力 | 西澤純一 |
| | これからの放送教育を考える⑧ これまでの放送教育 わが国の放送教育の特色（2） | 中野照海 |
| | 調査 ハイビジョンは教育にどう役立つか | 無藤隆 |
| | 特集 実践研究 | |
| | 【特集】豊かに感じる心と思いやりの気持ちを持ち、生き生きと活動するため―三年間の『にんぎょうげき』を通して― | 廣敏美 |
| | 【特集】放送とともに学ぶ歴史と現代―刀狩りと湾岸戦争― | 浅井和行 |
| | 【特集】テレビからの情報を体感と結びつけて主体的に問題を解決させる指導―視聴前の活動を重視して― | 斉藤俊徳 |
| | 電脳教室 パソコンを教育にどう生かすか 映像とパソコンを利用した気象学習 | 鶴飼良昭 |
| | ビデオ綴り方のすすめ⑦ 本番制作 | 宇佐美昇三 |
| 1月号 | 展望 教育における道具と文化―コンピュータが学校に「入ってくる」ということ― | 佐伯胖 |
| | 特集 第42回放送教育研究会全国大会北九州大会レポート | |
| | 【特集】全国大会の成果とこれからの課題―北九州大会の意義と今後への期待― | 松本勝信 |
| | 【特集】北九州大会を終わって | 實政文和、満塩克仁、入江正男、真田宏昭、大西義彦、松本保洋、野依啓多、安永道善、藤川八郎 |
| | 【特集】大会記念番組はこうしてできた | 内山守、池崎敏弘 |
| | 【特集】全国大会に参加して | 山口道彦、市川克美、華山益夫、日比美彦 |
| | これからの放送教育を考える⑨ 近未来の放送教育の活性化に向けて―新たなモデルの模索― | 中野照海 |
| | 第18回「日本賞」教育番組国際コンクール | |
| | ・環境問題へ世界各国の関心―参加状況と受賞作品紹介 | 堀紀子 |
| ・人間・地球を見つめた番組・参加番組を視聴して | 浦川朋司 | |
| 調査 生活科番組『とびだせたんけんたい』の利用 | 飯森彬彦 | |
| 電脳教室 パソコンを教育にどう生かすか パソコン導入時における指導 | 石出勉 | |

1992 (平成4) 年度 (通巻525~537号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------------|--|-------------------------------|
| 4 月号 | 展望 日本の放送・視聴覚教育を問い直そう—スリランカの国際教育ソフト開発セミナーに参加して— | 水越敏行 |
| | 特集 NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】時代を見据えてアグレッシブに | 福島祥行 |
| | 【特集】幼稚園・保育所番組 学校放送番組 ここが見どころ | ファミリー番組プロダクション、学校放送番組プロダクション |
| | 視聴覚教育行政の新しい展開 | 銭谷眞美 |
| | わたしの見た「世界の先生」—取材ノートから— | |
| | ・アメリカ=再び「ガーフィールバの奇跡」を | 福田哲夫 |
| | ・イタリア=自然観察から学ぶ | 熊埜御堂朋子 |
| | ・中国=填鴨式から全員参加の「おもしろ算数」へ | 市川克美 |
| | ・ドイツ=一緒に学ぶパートナー | 高砂和郎 |
| | 海外教育放送事情 北米における教育テレビ利用の動向 | 川島淳一 |
| | 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 教育とコンピューター~思考を伸ばす~ | 佐伯胖, 刈宿俊文, 日比美彦 |
| | 5 月号 | 特集 生活科に放送をどう生かすか |
| 【特集】展望 生活科が学校を変える | | 谷川彰英 |
| 【特集】新しい生活科番組を楽しく生かそう | | 益地勝志 |
| 【特集】座談会 生活科を考える—生活科と放送教材— | | 山口令司, 平久玲子, 今西哲郎 |
| 【特集】『もうすぐ2年生』『こんなことができるようになったよ』発表会 | | 浅井和行 |
| これからの放送教育を考える⑫ 新しい文明と人間像を求めて(1) | | 多田俊文 |
| 海外教育放送事情 アジア・太平洋地域国際教育ソフト開発セミナー | | 須山正広 |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 授業が生きるコンピュータの利用 | | 本田毅 |
| 映像教材制作教室① カメラワークの基本(1) | | 浅野孝夫 |
| 6 月号 | 展望 学校週5日制と放送メディア | 深谷昌志 |
| | 特集 道徳指導に放送をどう生かすか | |
| | 【特集】道徳番組の特性を生かす指導の工夫 | 岩木晃範 |
| | 【特集】座談会 子どもをワクワクさせる番組づくり | 角野栄子, 古城俊伸, 江田篤史, 大蔵敏子, 佐野竜之介 |
| | 【特集】「人間愛」に支えられた道徳の放送授業 | 大室健司 |
| | 放送番組の作り方・利用の仕方を問い直そう | 水越敏行 |
| | 視聴覚教育メディア研修の改善充実について | 照井始 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|---|--|--|------|
| 6 月号 | 豊田昭氏を偲ぶ | | |
| | ・豊田昭氏を悼む | 波多野完治 | |
| | ・豊田さんをしのぶ | 川上行蔵 | |
| | ・テレビ学校放送の開拓者 | 日比野輝雄 | |
| | ・テレビ学校放送草創期の熱気の中で | 植田豊 | |
| | これからの放送教育を考える⑬ 新しい文明と人間像を求めて(2) | 多田俊文 | |
| | 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか スーパーマリオ的授業のすすめ | 本田毅 | |
| | 映像教材制作教室② カメラワークの基本(2) ショットとその意味 | 浅野孝夫 | |
| | 7 月号 | 特集 情報活用能力をどう育てるか | |
| | | 【特集】展望 情報活用能力を高めるために | 吉田貞介 |
| 【特集】映像教材の制作と情報活用能力 | | 村川雅弘 | |
| 【特集】新しい映像能力の育成をめざして—カリキュラム開発をめざす授業実践— | | 岡部昌樹 | |
| 【特集】地域紹介ビデオの制作と情報活用能力の育成 | | 縄田浩二 | |
| メディア情報 MITメディア・ラボとアメリカ教育メディアの新しい潮流 | | 日比美彦 | |
| 海外取材レポート「歴史番組」の韓国取材から | | 佐野元彦 | |
| これからの放送教育を考える⑭ 新しい教育メディアの活用と放送教育 | | 高村久夫 | |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 生徒が作成した「芭蕉データベース」を活用するパソコン学習(1) | | 須曾野仁志 | |
| 映像教材制作教室③ 映像の文法(1) 一致の原則 | | 浅野孝夫 | |
| 8 月号 | 展望 教育とメディアにおける不易と流行—「テレイクジステンス」と「現象学」のすすめ— | 吉田章宏 | |
| | 特集 夏の全国特研 講師からのメッセージ | | |
| | 【特集】(幼稚園・保育所)イメージと放送利用 | 岸本唯博 | |
| | 【特集】(小学校)子ども一人ひとりを大切に | 多田俊文 | |
| | 【特集】(中学校)本音で話し合おう | 柴田恒郎 | |
| | 【特集】(高等学校)生徒の「やる気」をさそう社会科学習 | 佐島群巳 | |
| | 【特集】(特殊教育諸学校)多メディアの活用と障害児教育—放送教育の実践を進めるためのメディアリテラシー— | 棟方哲弥 | |
| | 【特集】研究発表者からの提言 | 蔵原真理子, 松本純子, 村田美加, 佐藤拓, 石井秋子, 村上繁樹, 上岡祥邦, 植田伸二, 小宮山理華子 | |

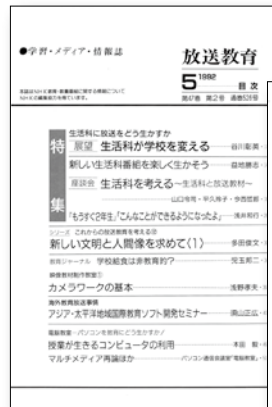
| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|---|---|
| 8月号 | これからの放送教育を考える⑮ メディアの多様化と教育への期待 | 篠原文陽児 |
| | 海外教育放送事情 世界の子ども番組は今一「国際子ども番組担当者会議」から一 | 藤田克彦 |
| | 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 生徒が作成した「芭蕉データベース」を活用するパソコン学習(2) | 須曾野仁志 |
| | 映像教材制作教室④ 映像の文法 モンタージュについて | 浅野孝夫 |
| 9月号 | 展望 マルチ・メディア環境と現代の子ども | 山村賢明 |
| | 特集 社会科に放送をどう生かすか | |
| | 【特集】社会科教育の課題と放送利用 | 佐島群巳 |
| | 【特集】教室からスタジオから一番組をめぐっての往復書簡一 | |
| | ・『このまちだいすき』 | 杉浦達男, 橋場洋一 |
| | ・『くらし発見』 | 石垣富一郎, 橋場洋一 |
| | ・『歴史みつけた』 | 吉田道明, 橋場洋一 |
| | ・『ステップ&ジャンプ日本史』 | 上岡祥邦, 酒井国土 |
| | ・『ワールド・ウォッチング』 | 鬼頭邦誠, 戸崎賢二 |
| | 【特集】学校放送番組と発展学習『リポートにっぽん』を活用して | 水野裕司 |
| | 【特集】『ステップ&ジャンプ・地理』をどう利用したか | 杉岡道夫 |
| | メディア情報 ハイビジョン一これからの動向 | 宇佐美亘 |
| | これからの放送教育を考える⑯ ハイパーメディア教材の開発と課題 | 篠原文陽児 |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか 生徒が作成した「芭蕉データベース」を活用するパソコン学習(3) | 須曾野仁志 | |
| 映像教材制作教室⑤ アップの効用 | 浅野孝夫 | |
| 10月号 | 展望 映画・映像の教育をつらぬいたもの | 中野光 |
| | 特集 全国放送教育特別研究協議会レポート | |
| | 【特集】シンポジウム ハイビジョンと放送教育 | 多田俊文, 菊宿俊文, 沼野芳脩, 横田政美, 松本盛男 |
| | 【特集】特研参加印象記 | 萩野郁子, 前田道子, 今川仁史, 菅原章子, 本正明, 會澤義雄, 蔵本弘子 |
| | これからの放送教育を考える⑰ 学習に有意義な文脈を与える番組制作への期待 | 佐賀啓男 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|---|------------------------|
| 10月号 | 海外教育放送事情 教育放送で近代化を促進一中国の教育番組研究会から一 | 秋山隆志郎 |
| | 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか ハイパーメディアを利用した児童の表現活動(1) | 田代光一 |
| | 映像教材制作教室⑥ パラージュの「見エル人間」 | 浅野孝夫 |
| 別冊 | 電腦教室Ⅱ | |
| 11月号 | 特集 第43回放送教育研究会全国大会(和歌山大会)のめざすもの | |
| | 【特集】展望 主体的な学習と放送メディア | 天城勲 |
| | 【特集】和歌山大会のめざすもの 生涯学習社会に向けて, 自ら問いかけ行動する力を支える放送メディアを求めて | 久實 |
| | 【特集】和歌山大会への期待一21世紀へ向けてのステップとして一 | 福島祥行 |
| | 特集 環境教育に放送をどう生かすか | |
| | 【特集】環境認識の広がりと深まりのために | 山極隆 |
| | 【特集】映像を生かす環境教育カリキュラム | 西田政人 |
| | 【特集】『いのち輝け地球』の継続視聴で環境に対する意識化をはかる | 石井秋子 |
| | 【特集】『いのち輝け地球』を活用して | 館野良夫 |
| | これからの放送教育を考える⑱ すぐれた放送番組を用いる教室文化の創造 | 佐賀啓男 |
| | 平成4年度全放連形教育用登録機器について | 全国放送教育研究会連盟事務局 研究部 |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか ハイパーメディアを利用した児童の表現活動(2) | 田代光一 | |
| 映像教材制作教室⑦ ビデオソフト制作の手順 | 野口篤太郎 | |
| 12月号 | 特集 生活科に放送をどう生かすか | |
| | 展望 生活科の活動の特質とメディアの活用 | 松本勝信 |
| | 【特集】教室からスタジオから一生活科番組をめぐっての往復書簡一 | |
| | ・教室から | 津川裕, 武田真理, 森田利恵, 高橋広美 |
| | ・スタジオから | 高砂和郎, 堀内信久, 小島通晴, 三宅有子 |
| | これからの放送教育を考える⑲ 情報社会型の放送教育(1) | 鈴木克明 |
| 電腦教室 パソコンを教育にどう生かすか ハイパーメディアを利用した児童の表現活動(3) | 田代光一 | |
| 映像教材制作教室⑧ 実践的カメラワーク | 野口篤太郎 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--|--------------------------------------|----------------------------------|------|
| 1月号 | 新春対談 21世紀に向けての新しい展開 | 川口幹夫、河村雄次 | |
| | 特集 第43回放送教育研究会全国大会〈和歌山大会〉レポート | 〈和歌山大会〉レポート | |
| | 【特集】輝かしい発展と飛躍 | 久實 | |
| | 【特集】ハイビジョン番組をめぐって—スタジオから教室から— | | |
| | ・幼稚園・保育所『まみちゃんのふしぎな旅』 | 北村毅、藤澤陽子、早坂直子 | |
| | ・小学校『サンゴ礁を守る』 | 田村嘉宏、糸川良夫、青木茂 | |
| | ・小学校『天下の町人』 | 佐野元彦、黒田昌孝、坂口悟朗、小栗一雄 | |
| | 【特集】座談会 和歌山大会の成果—映像から能動的な学習へ— | 藤川八郎、角田知子、中井澄明、岡崎弘、木津乾、柳瀬森哉、飯田忠義 | |
| | 第19回「日本賞」教育番組国際コンクール | | |
| | ・NHKの『ステップ&ジャンパー—運動と速さ・慣性』がグランプリ | 堀紀子 | |
| | ・ニュートンを案内役に身近な現象から「慣性」を探る | 今西哲郎 | |
| | ・世界の教育放送の潮流を読む—「日本賞」オブザーバー・ミーティングから— | 秋山隆志郎 | |
| | これからの放送教育を考える⑩ 情報社会型の放送教育(2) | 鈴木克明 | |
| | 映像教材制作教室⑨ 音の上手な録音と生かし方 | 野口篤太郎 | |
| | 2月号 | 展望 自らの文化を育てる映像能力 | 大森哲夫 |
| | | 特集 平成4年度放送教育研究会地方大会レポート1 | |
| 【特集】北海道(帯広・十勝)大会レポート | | 三好政雄 | |
| 【特集】縦割り保育における放送教育の新しい試み | | 白木幸久 | |
| 【特集】東北(岩手)大会レポート | | 千葉高男 | |
| 【特集】教科の特性を生かした放送利用の追求 | | 千葉高男 | |
| 【特集】東海北陸(大垣)大会レポート | | 井上好章 | |
| 【特集】わかる、できる喜びを味わえる授業の創造 | | 松原直己 | |
| 【特集】九州(熊本)大会レポート | | 横井時也 | |
| 【特集】言語活動の広がりから遊びを作り出す | | 大橋伊都子 | |
| これからの放送教育を考える⑩ 言葉の教育と放送教育 | | 平沢茂 | |
| 電脳教室 パソコンを教育にどう生かすか コンピュータを小学校教育でどう位置づけたか(1) | 田中治 | | |
| 映像教材制作教室⑩ 光のテクニック | 野口篤太郎 | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|-------|
| 3月号 | 展望 新しい学力観に立った教育の推進 | 錢谷真美 |
| | 特集 平成4年度放送教育研究会地方大会レポート2 | |
| | 【特集】関東甲信越(神奈川)大会レポート | 鈴木肇 |
| | 【特集】テレビ視聴による動機づけ | 竹山輝雄 |
| | 【特集】四国(高知)大会レポート | 道願真紀雄 |
| | 【特集】四国における社会科教育の実践 | 佐古真一 |
| | これからの放送教育を考える⑩ 放送番組と言語・論理 | 平沢茂 |
| | 海外教育放送事情 海外の子ども向けテレビの動向 | 小平さち子 |
| | 電脳教室 パソコンを教育にどう生かすか コンピュータを小学校教育でどう位置づけたか(2) | 田中治 |
| | 映像教材制作教室⑩ ビデオ編集の実際 | 野口篤太郎 |

主な連載：教育ジャーナル、保育講座、わたしのメルヘン街道、保育日記、子どもとメディア、校内放送活動のために、インサイドストーリー、視聴覚ロケター、出合いのキーワード 教師の目・子どもの目



1992年5月号

1992年5月号

1993 (平成5) 年度 (通巻538~550号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|--------------------|
| 4月号 | 対談 テレビと学習の原点 | 太田次郎, 河村雄次 |
| | 特集 NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】視野を世界にひろげ、心はずむ学習を—平成5年度NHK学校放送番組について— | 福島祥行 |
| | 【特集】ここがポイント! 学校放送新番組 | 学校放送番組プロダクション |
| | 【特集】ここがポイント! 幼稚園・保育所向け番組 | ファミリー番組プロダクション |
| | 平成5年度視聴覚教育行政について | 遠藤啓 |
| | ハイビジョンを考える 教育にハイビジョンをどう生かすか | 大林宣彦 |
| | 海外教育放送事情 メキシコ・テレビ中学校を訪ねて | 船山真一 |
| 5月号 | 展望 テレビ番組の国際交流と異文化理解 | 杉山明子 |
| | ハイビジョンを考える | |
| | ・多様な見方の可能性の開発 | 遠藤啓 |
| | ・心豊かで、主体的に生きる力の育成—京都ハイビジョン教育研修会の発表から— | 大山奈津美 |
| | ・情報を生活に生かす力を育てる指導—名古屋市映像教育研究部の活動事例— | 小栗一雄 |
| | 学校・社会教育施設における視聴覚設備等の調査について | 多田元樹 |
| | 教育に放送をどう生かすか② 個人差への対応を整理する枠組み | 鈴木克明 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人① 子どもに豊かな映像体験を! | 村川雅弘 |
| | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用① 子どもの創造性を育てるコンピュータの活用 | 田中博之 |
| | 6月号 | 展望 教室文化を変える道具とメディア |
| 特集 性教育・エイズ教育を考える | | |
| 【特集】性教育・エイズ教育とメディアの活用 | | 石川哲也 |
| 【特集】座談会 エイズ教育はいま・小学校 | | 武田敏, 武川行男, 三木とみ子 |
| 【特集】エイズ対策と放送の性表現—「エイズについての世論調査」から— | | 門田允宏 |
| テレビ学校放送利用の最新動向—平成4年度学校放送利用状況調査から①— | | 小平さち子 |
| 『世界の先生』から 授業は、先生と生徒が織りなすドラマ | | 福田哲夫 |
| 教育に放送をどう生かすか③ 学習のプロセスを支援する授業の構成 | | 鈴木克明 |
| 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人② 教師自身も豊かな映像体験を! | | 村川雅弘 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------|--|-------------------|
| 6月号 | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用② 世界のお話紙芝居を作ろう | 浅井和行 |
| 7月号 | 展望 算数教育における電卓使用の功罪 | 杉山吉茂 |
| | 特集 道徳指導と放送利用 | |
| | 【特集】座談会 いま道徳教育は—道徳番組の活用と授業の展開— | 押谷由夫, 岩木晃範, 山田悠紀雄 |
| | 【特集】教室から 実践を促す『あつまれじゃんけんぼん』—学習の適時性を考えて— | 村田壽美子 |
| | 【特集】教室から 自立し自律できる子に | 村田幸子 |
| | 【特集】スタジオから 子どもたちの心を揺り動かす番組づくり | 大蔵敏子 |
| | 【特集】教室から ハラハラドキドキする映像体験を | 峯村鉄志 |
| | 【特集】スタジオから 子どもの視点からの番組制作を | 黒岩浩平 |
| | 【特集】教室から 『はばたけ6年』の視聴を通して | 佐藤雅昭 |
| | 【特集】スタジオから 勇気づけられる子どもたちからの便り | 華山益夫 |
| | 【特集】教室から 自分を振りかえるきっかけに—『マイライフ』の視聴から— | 島内啓介 |
| | 【特集】スタジオから 人間の生き方や考えを探る—中学生へのメッセージ— | 小宮忠幸 |
| 8月号 | メディア利用の動向—平成4年度学校放送利用状況調査から②— | 飯森彬彦 |
| | 海外教育放送事情 アメリカのメディア教育 | 江原学 |
| | 教育に放送をどう生かすか④ 授業のねらいを分類する枠組み | 鈴木克明 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人③ 生き方が変わる番組との出会い | 村川雅弘 |
| | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用③ ふるさとの祭り「小倉祇園」紹介ソフト | 都留守 |
| | 展望 自己教育力のホップ・ステップ・ジャンプ | 森隆夫 |
| | 特集 平成5年度全国放送教育特別研究協議会 講師・提案者からの提言 | |
| | 【特集】総合全体会 教育におけるハイビジョンの可能性—新しい学力観からの授業の創造— | 松本勝信 |
| | 【特集】幼稚園・保育所 情報環境としての研究と実践の必要 | 小川博久 |
| | 【特集】幼稚園・保育所 提案者から | 阿部康子, 木谷江利子, 迫美代子 |
| 【特集】小学校 自分を変える—教育者から共育者へ— | 多田俊文 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---------------------------------------|--|
| 8月号 | 【特集】小学校 提案者から | 神谷洋子, 片田武博, 西川隆教, 坂口悟朗, 小野順, 小堂十, 掛井孝明 |
| | 【特集】幼小合同 幼・小交流合同研究の意義 | 和田芳信 |
| | 【特集】幼小合同 提案者から | 今村喜子, 信澤芳江 |
| | 【特集】中高合同 学習のねらいに適合する指導方法の開拓 | 中野照海 |
| | 【特集】中高合同 提案者から | 疋田哲也, 田原正之, 澤田昭博, 高島勇二, 後藤文男, 高智誠司, 福田恵 |
| | 【特集】特殊教育諸学校 メディアとメディアをつなぐメディアをつくる | 棟方哲弥 |
| | 【特集】特殊教育諸学校 提案者から | 緒方直彦, 奥山敬 |
| | ハイビジョン学校放送の効果—在来型テレビとの比較調査— | 飯森彬彦 |
| | 座談会 メディア教育の可能性—映像メディアを利用する— | 高桑康雄, 林樹哉・竹下昌之 |
| | 教育に放送をどう生かすか⑤「関心・意欲・態度」の評価をめぐる | 鈴木克明 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人④ 映像で先人の生き方を学ぶ | 村川雅弘, 角田秀晴 |
| | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用④「ハイパー・戦国散歩」の作成 | 長谷川健治 |
| | 9月号 | 展望 情報化社会とメディアの活用能力 |
| 特集 理科教育と放送番組の活用 | | |
| 【特集】アンケート 放送番組を理科教育にどう生かすか | | 池田博, 大室健司, 神村大輔, 後藤良秀, 佐々木龍一, 鈴木衆, 鈴木勢津子, 松川厚雄 |
| 【特集】座談会 理科教育, そして理科番組は | | 清水亮, 池田博, 鈴木衆, 羽岡伸三郎 |
| 【特集】理科教育に放送番組をどう生かすか | | 角屋重樹 |
| 【特集】創造的な理科教育をめざして—これからの理科番組について— | | 今西哲郎 |
| 教育に放送をどう生かすか⑥「授業の魅力」を高める作戦 | | 鈴木克明 |
| 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人⑤ 生命誕生の神秘と出会い—性教育における一般番組の活用— | | 村川雅弘 |
| 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用⑤ 子どもの総合表現を生みだすマルチメディア | | 田中博之 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|-------------------------------------|
| 10月号 | 展望 個に応じた教育の展開—チーム・ティーチングとメディアの活用— | 平沢茂 |
| | 特集 平成5年度全国放送教育特別研究協議会レポート | |
| | 【特集】メディア革新の中での放送教育をさぐる | 堀江固功 |
| | 【特集】豊橋大会での新しい方向を求めて—全国特研に参加して— | 白井芳朗 |
| | 【特集】シンポジウム 教育におけるハイビジョンの可能性をさぐる | 下谷和子, 浅井和行, 刈宿俊文, 西山由美子, 日比美彦, 松本勝信 |
| | 海外教育放送事情 マレーシアで指導した理科番組 | 相沢雅春 |
| | 教育に放送をどう生かすか⑦ 放送で学習意欲を育てる | 鈴木克明 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人⑥ 地震その時学校は—映像を通して地震の教訓を学ぶ | 村川雅弘 |
| | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用⑥ 電脳紙芝居をつくりましょう | 河口眞佐男 |
| | 展望 もう一つの学校 | 小澤紀美子 |
| | 特集 社会科教育と放送番組の活用 | |
| | 【特集】社会の変化に対応した社会科と放送教育 | 佐島群巳 |
| | 【特集】座談会『歴史みつけた』を活用して | 松本盛男, 川西千加子, 佐野元彦, 安村信弘, 和田芳信 |
| 【特集】社会科番組の利用 | 竹内冬郎 | |
| 【特集】『ステップ』を活用した地理的分野の授業 | 佐藤洋 | |
| この人に聞く 子どもと先生と、感動の共有を! | 佐藤邦宏 | |
| 宮城大会・ハイビジョン番組ガイド | | |
| ・出会いがしらの、まるごと感動を | 北村毅 | |
| ・ハイビジョンでひらく「いのち」と「歴史」 | 日比美彦 | |
| ・マルチメディアの新展開—「七北田川データベース」をつくる— | 宇佐美亘 | |
| 海外教育放送事情 アジアにおける情報教育の現状 | 木原俊行 | |
| 教育に放送をどう生かすか⑧ メディアとしての放送と教師 | 鈴木克明 | |
| 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人⑦ 新教育課程における映像の役割—放送教育 方法論から内容論への転換— | 村川雅弘 | |
| 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用⑦ 選択社会における教育機器の活用 | 江竜眞司 | |
| 別冊 | 別冊 電腦教室Ⅲ | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|----------------------------|
| 12月号 | 特集 国際理解教育と放送の活用 | |
| | 【特集】展望 国際理解とメディアの活用—国際化と教育放送の原点— | 市村佑一 |
| | 【特集】「開かれた国際理解教育」を求めて | 木原俊行, 田中博之, 京都放送教育研究協議会 |
| | 【特集】国際理解教育の日常化へー『世界がともだち』の継続利用— | 遠藤伴雄 |
| | 【特集】『世界がともだち』を通じた国際理解教育 | 宇土泰寛 |
| | 【特集】ポランティア活動と『ワールド・ウォッチング』 | 永瀬一哉 |
| | 海外教育放送事情 チリ, 教育テレビの現在 | 戸崎賢二 |
| | 教育に放送をどう生かすか⑨ 授業デザイナーとしての教師の力量 | 鈴木克明 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人⑧ 映像を通して世界と出会う—「国際理解教育」の実践を中心に— | 村川雅弘, 堀内壽夫 |
| | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用⑧ 生徒が自ら学ぶ環境学習 | 丸野憲昭 |
| 1月号 | 展望 教育の質の向上 | 天城勲 |
| | 特集 第44回放送教育研究会全国大会(宮城大会)レポート | |
| | 【特集】宮城大会の成果とこれからの課題 | 鈴木克明 |
| | 【特集】校種別研究の概要 | 横澤行夫, 大友邦彦, 加藤健, 細倉博, 小松光政 |
| | 【特集】ハイビジョンとマルチメディアを利用した環境学習 | 青木茂 |
| | 【特集】シンポジウム ハイビジョンがひらく明日の教育 | 鈴木克明, 水越敏行, 手塚眞, 黒田昌孝, 青木茂 |
| | 【特集】ハイビジョン番組を利用して | 早坂直子, 山本通広, 上林由美 |
| | 第20回「日本賞」教育番組国際コンクール 教育番組に高まる世界各国の関心 | 堀紀子 |
| | 多メディア時代の教育① 子どもとメディア環境 | 加藤秀俊, 高島秀之 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人⑨ 放送番組に感動し, 思考を深め行動する | 村川雅弘, 浅井和行 |
| | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用⑨「特設コンピュータ学習」と「情報基礎」 | 奥西邦彦 |
| | 展望 他者との関係の中に潜む自己映像—映像による自己表現— | 大林宣彦 |
| | 特集 放送教育研究会地方大会レポート1 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|--|------------------------------------|
| 2月号 | 【特集】座談会 地方大会に参加して(1) 研究・実践の特色 | 岩木晃範, 石井秋子, 井部良一, 斉藤康男, 杉岡道夫, 和田芳信 |
| | 【特集】北海道(空知)大会の報告 | 上元巧 |
| | 【特集】近畿(京都)大会の報告 | 高林准示 |
| | 【特集】東海北陸(金沢)大会 レポート 小学校・総合学習におけるメディアの利用 | 黒上晴夫 |
| | 【特集】実践記録 一人ひとりの活動と映像情報 | 三田村英明 |
| | 第20回「日本賞」教育番組国際コンクール受賞作品紹介 子どもたちの「体感」でできる歴史教育番組を | 佐野元彦 |
| | 多メディア時代の教育② マルチメディアとCAI | 坂元昂, 赤堀侃司, 高島秀之 |
| | 教育に放送をどう生かすか⑩ テクノロジーとして学校教育を見直す | 鈴木克明 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人⑩ 映像を通して歴史と出会う—『シルクロード』の視聴をきっかけに— | 村川雅弘 |
| | 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用⑩ コンピュータとマルチメディア活用の特色(中学校) | 田中博之 |
| 3月号 | 展望 ゲーム機にみるマルチメディア時代と映像教育のあり方 | 水越敏行 |
| | 特集 放送教育研究会地方大会レポート2 | |
| | 【特集】座談会 地方大会に参加して(2) 運営とこれからの課題 | 岩木晃範, 石井秋子, 井部良一, 斉藤康男, 杉岡道夫, 和田芳信 |
| | 【特集】九州(長崎)大会の報告 | 藤井重夫 |
| | 【特集】中国(倉吉)大会の報告 | 倉吉大会実行委員会事務局 |
| | 【特集】関東甲信越(千葉)大会の報告 | 斎藤善繼 |
| | 【特集】レポート ハイビジョンは教育を変えるか | 児玉邦二 |
| | 多メディア時代の教育③ テレビゲームの世界 | 坂元章, 襟川陽一, 高島秀之 |
| | 教育に放送をどう生かすか⑪ 成功的教育観を堅持するために | 鈴木克明 |
| | 学習と映像メディア 教師は「出会い」の仕掛け人⑪ 出会いを仕掛け出会いを生かす | 村川雅弘 |
| 電腦教室 新しい情報教育とコンピュータの活用⑪ 新しい情報教育の実践理論をつくる | 田中博之 | |

主な連載: 教育ジャーナル, 保育講座, 『お話でてこい』のおばさんのおはなし, 保育日記, 子どもとメディア, 校内放送活動のために, 番組インサイドストーリー, 放送教育人図記, 視聴覚ロケター, 出会いのキーワード, 教師の目・子どもの目

1994 (平成6) 年度 (通巻551~563号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------|---|------------|
| 4月号 | 展望 映像と教育 記号論的視聴覚理論への道 | 波多野完治 |
| | 特集 平成6年度NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】楽しく学び、心に残る番組を | 佐藤邦宏 |
| | 【特集】小学校『みんな生きている』『ぐるぐるバックン』 | 小泉世津子、平岡順子 |
| | 【特集】中学校・高等学校『ティーンズねっとわーく』『10min.コンピュータ』 | 佐野博彦、中一憲 |
| | 特集 放送教育への提言 | |
| | 【特集】見るから作るへ | 小笠原喜康 |
| | 【特集】マルチメディアのもたらすもの | 黒上晴夫 |
| | 【特集】転換期を迎え、作ることの意味 | 黒田卓 |
| | 【特集】子どもの表現力を高める放送教育 | 田中博之 |
| | 【特集】番組の制作と利用を授業観に遡って吟味する | 鈴木克明 |
| | 平成6年度視聴覚教育行政について | 遠藤啓 |
| | 多メディア時代の教育④ アメリカのコンピュータ教育 | 浜野保樹、高島秀之 |
| | 教育放送史への証言1 昭和20年代の学校放送 | 川上行蔵 |
| 5月号 | 展望 映像制作と教育 | 佐藤忠男 |
| | 特集 映像をつくる子どもたち | |
| | 【特集】子どもによる映像制作 | 村川雅弘 |
| | 【特集】写真による映像表現 | 佐々木啓 |
| | 【特集】放送部のビデオ番組制作 | 花本江利子 |
| | 【特集】友と心をつなぐ校内放送作リ一部活動を中心とした番組作り | 青山静夫 |
| | 特集 放送教育への提言 | |
| | 【特集】子ども・教師と番組制作者の共同学習システムの構築を求めて | 木原俊行 |
| | 【特集】放送教育に対する三つの意見 | 坂元章 |
| | 【特集】周延する知性と芸術をめざす放送教育へ | 佐賀啓男 |
| | “愛の学校”新しい教育と放送の課題1 | 多田俊文 |
| | 多メディア時代の教育⑤ マルチメディアとネットワーク | 岡本敏雄、高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 アジア教育番組ワークショップ 教育番組の向上と協力を目指して | ワークショップ事務局 |
| | 教育放送史への証言2 教育テレビ局の誕生 | 川上行蔵 |
| メディアリテラシー講座1 メディアリテラシーを目指す教育 | 堀江固功 | |
| 6月号 | 展望 教育における視聴覚メディア研究の新展開 | 高桑康雄 |
| | 特集 学校放送番組を考える | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| 6月号 | 【特集】感動の共有を一番組の制作は学校との交流によって— | 小泉世津子、佐々木和哉、羽岡伸三郎、松原知子、松本盛男 |
| | 特集 放送教育への提言 | |
| | 【特集】教育におけるメディア論的想像力の可能性 | 水越伸 |
| | 【特集】コンピュータとの棲み分けと放送についての教育 | 柴崎順司 |
| | “愛の学校”新しい教育と放送の課題2 | 多田俊文 |
| | 多メディア時代の教育⑥ 授業設計とマルチメディア | 佐伯胖、高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 韓国の放送教育事情1—日韓放送教育交流セミナー— | 秋山隆志郎、和田芳信 |
| | 教育放送史への証言3『テレビ理科教室』の誕生 | 植田豊 |
| | メディアリテラシー講座2 記号論の立場からの考察 | 堀江固功 |
| | 7月号 | 特集 メディアの活用と子どもたち |
| 【特集】展望 表現とメディアリテラシー | | 赤堀侃司 |
| 【特集】パソコンを生かす 子どもたちに感動と夢を与えるコンピュータ活動 | | 村上優 |
| 【特集】パソコンを生かす パソコンに使われない子どもたち | | 苅宿俊文 |
| 【特集】パソコンを生かす パソコンを使う子どもたち | | 佐藤道幸 |
| 【特集】ビデオで表現する 学校内の情報発信—児童によるビデオ制作 | | 北原利郎 |
| 【特集】ビデオで表現する 主体的な学習を支援するビデオ制作活動 | | 堀内敏一 |
| 【特集】ビデオで表現する へき地分校における学校放送の利用とビデオ学習 | | 井芹郁人 |
| 多メディア時代の教育⑦ バーチャルリアリティとコンピュータ・グラフィック | | 廣瀬通孝、原田大三郎、高島秀之 |
| 教育放送史への証言4 考えさせる『理科教室』 | | 植田豊 |
| メディアリテラシー講座3 電子メディアのリテラシー | 堀江固功 | |
| 8月号 | 特集 平成6年度全国放送教育特別研究協議会 講師・提案者からの提言 | |
| | 【特集】展望 放送に主体的にかかわる | 天城勲 |
| | 【特集】幼・小交流合同研究 発達特性を踏まえた新しい教育の創造 | 松本勝信 |
| | 【特集】幼・小交流合同研究 提案者 | 中山真由美、隅谷英行 |
| | 【特集】小・中交流合同研究 放送教材を利用した環境教育の可能性 | 佐島群巳 |
| | 【特集】小・中交流合同研究 提案者 | 青木茂、中川一史、丸山雄一郎 |
| | 【特集】中・高交流合同研究 環境教育と情報教育の接点 | 山極隆 |
| | 【特集】中・高交流合同研究 提案者 | 久樹富貴子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|---|
| 8月号 | 【特集】分科会研究(幼稚園・保育所)提案者 | 磯口直美, 布施郁子 |
| | 【特集】分科会研究(小学校)提案者 | 安塚豊子, 平久玲子, 永石一哉, 松本雅江, 安村信弘, 佐藤拓, 三田村英明, 湯本千恵子 |
| | 【特集】分科会研究(中学校)提案者 | 善財利治 |
| | 【特集】分科会研究(高等学校)提案者 | 遠山裕之, 茂田嘉朗, 小竹千香 |
| | 【特集】分科会研究(特殊教育諸学校)提案者 | 前田広味, 奥山敬 |
| | 多メディア時代の教育⑧ マルチメディアの制作 | 萩野正昭, 木原俊行, 山内祐平, 高島秀之 |
| | 海外教育放送事情, ミュンヘン国際テレビ青少年番組賞に参加して | 竹内冬郎 |
| | メディアリテラシー講座4 マス・コミにおけるメディアリテラシー | 堀江固功 |
| 9月号 | 展望 放送教育の原点を考える | 大内茂男 |
| | 特集 社会科と放送利用 | |
| | 【特集】社会科教育の課題と放送利用 | 北俊夫 |
| | 【特集】座談会 小学校5年社会科『ジャパン&ワールド』を利用して | 白寄穹, 野見山捷昭, 湯本千恵子, 吉田準 |
| | 【特集】『週刊子どもニュース』を学校でも | 池上彰, 中村哲志, 西吾嬢小学校, 富士小学校 |
| | 【特集】出会で見てくる社会 | 宮本茂樹 |
| | 多メディア時代の教育⑨ マルチメディアと著作権 | 半田正夫, 高島秀之 |
| | 教育放送史への証言5 戦後の視聴覚教育行政 | 有光成徳 |
| 10月号 | 展望 地球環境を考える | 坂田俊文 |
| | 特集 平成6年度全国放送教育特別研究協議会レポート | |
| | 【特集】シンポジウム ハイビジョンを授業にどう生かすことができるか | 鈴木克明, 横田政美, 佐野裕次, 菅原弘一, 大川英明 |
| | 【特集】放送教育, 最前線—利用者, 研究者, 制作者がともに放送教育を考える— | 浦川朋司 |
| | 【特集】特研参加印象記 | 大坂妙子, 菊地道子, 高智誠司, 加藤裕之 |
| | ハイビジョン国際映像祭ちば=モニター1994 ハイテクを生かした映像表現 | ズビグニュー・リプチンスキー, 高野悦子 |
| | 多メディア時代の教育⑩ マルチメディアと放送 | 水越敏行, 鈴木克明, 高島秀之 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|------------------------------|
| 10月号 | 教育放送史への証言6「西本・山下」論争, 『山の分校の記録』 | 有光成徳 |
| | メディアリテラシー講座6 新たなメディアの勃興とマスメディア | 水越伸 |
| 別冊 | 脳教室Ⅳ | |
| 11月号 | 特集 理科教育と放送利用 | |
| | 【特集】展望 理科離れはしていない | 有馬朗人 |
| | 【特集】新しい学力観にもとづくこれからの番組利用 | 角屋重樹 |
| | 【特集】座談会 意欲を引き出す理科教育 | 後藤良秀, 羽岡伸三郎 |
| | 【特集】心をゆさぶる理科 | 森崎義人 |
| | 【特集】楽しい理科学習を—『ステップ&ジャンプ・理科』— | 高津直己 |
| | 海外教育放送事情 アメリカの教育番組に見る教育事情—「ファースト・ビュー'94」に参加して— | 江田篤史 |
| | 教育放送史への証言7 放送教育を開く(1) 昭和20年~30年代の実践 | 内館祐二, 小山田幾子, 日比野輝雄 |
| 12月号 | メディアリテラシー講座7 映像リテラシーとジャーナリズムの復権 | 水越伸 |
| | 展望 国際理解の教育とメディア | 永井道雄 |
| | 特集 総合学習番組の活用 | |
| | 【特集】総合学習番組への期待 | 村川雅弘 |
| | 【特集】生命のためのささやかな実践—『みんな生きている』を視聴して— | 松本雅江 |
| | 【特集】生きていることの実感を求めて | 小宮忠幸 |
| | 【特集】総合学習番組を利用した授業改革—『いのち輝け地球』を事例として— | 佐藤拓 |
| | 【特集】考え, 思い, 悩む番組作りを | 桑山裕明 |
| 1月号 | 海外教育放送事情 韓国の放送教育事情2—韓国放送学術発表大会に参加して— | 松本盛男 |
| | 教育放送史への証言8 放送教育を開く(2) 昭和20年~30年代の実践 | 原田吹江, 池上眞澄 |
| | メディアリテラシー講座8「テレビ・ゲーム」遊びの精神と産業の論理 | 水越伸 |
| | 展望 メディアリテラシーをどう育てるか | 高桑康雄 |
| | 特集 第45回放送教育研究会全国大会(愛媛大会)報告 | |
| | 【特集】シンポジウム 世界につながる教室へ | 小山内美江子, 石川好, ケント・ギルバート, 松本勝信 |
| | 【特集】ハイビジョンセミナー 教育におけるハイビジョン番組活用の可能性を探ろう | 水越敏行 |
| | 【特集】環境教育セミナー 子どもがいきいきと学ぶ環境問題学習における放送教育の可能性を探ろう | 山極隆 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------|--|--|
| 1 月号 | 【特集】番組研究セミナー ゆたかな感性を育てる放送番組の在り方や活用の方法を探ろう | 藤澤千代子 |
| | 【特集】主体的な学習活動を展開する環境教育-T・Tによる実践・第六学年一 | 森昭子 |
| | 【特集】座談会 大会を振り返って | 松本勝信, 姫田祐輔, 八木巖, 渡部和弘, 片岡章 |
| | 【特集】愛媛の「愛」から愛知の「愛」へ | 柴田孝和 |
| | 第21回日本賞教育番組国際コンクール | |
| | ・世界各国が教育番組に託す地球の未来 | 堀紀子 |
| | ・日本賞を受賞して『こどもの療育相談 療育の記録 姉と兄に見守られて』 | 熊埜御堂朋子 |
| | 教育放送史への証言9 放送教育を開く(3) 昭和20年~30年代の実践 | 寒川孝久, 瀧川晃三 |
| | メディアリテラシー講座9 モノのデザインからコトのデザインへ | 水越伸 |
| 2 月号 | 展望 世界の教育番組の動向~「日本賞」国際コンクールから~ | 水越敏行 |
| | 特集 放送教育地方大会レポート1 | |
| | 【特集】第46回北海道放送教育研究大会レポート 釧路・根室大会の報告 | 杉田哲也 |
| | 【特集】自らのよさを生かし、自主的・意図的に学ぶことができる生徒の育成 | 弟子屈町立川湯中学校 |
| | 【特集】平成6年度関東甲信越地方放送・視聴覚教育研究大会レポート 群馬大会の報告 | 田村武夫 |
| | 【特集】テレビ視聴による擬似体験が生み出す活動意欲の醸成 | 北爪悦男 |
| | 【特集】愛知県幼児視聴覚教育研究会実践報告 一人ひとりの幼児の生活を豊かに | 細川悠子 |
| | ハイビジョン番組を視聴して | 金子郁子, 西山尚代, 白井芳朗, 泉田雅彦, 若園孝一, 岩井重彦, 神村信男, 山川良一 |
| | 教育におけるマルチメディアの可能性ー「HIVISION BIG BANG '94 新映像教育」の動向から | 今井清文 |
| | 多メディア時代の教育11 教育の国際化 | 野嶋栄一郎, 石倉洋子, 高島秀之 |
| 教育放送史への証言10 放送教育を開く(4) 高野山大会 | 清中喜平 | |
| メディアリテラシー講座10 『ウコウコルーガ』を再検討する | 水越伸 | |
| 3 月号 | 展望 マルチメディア教育の推進 | 坂元昂 |
| | 特集 放送教育地方大会レポート2 | |
| | 【特集】第43回近畿放送教育研究大会レポート 兵庫・神戸大会の報告 | 馬場忍 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------|------------------------------------|-------------------------------|
| 3 月号 | 【特集】放送の活用を通して情報活用能力の育成を図る | 神戸市立東須磨小学校 |
| | 【特集】第43回九州地方放送教育研究大会レポート 鹿児島大会の報告 | 坂木義久 |
| | 【特集】地域の人々との合同視聴交流活動を通して | 田畑まどか, 郡待子 |
| | 【特集】座談会 地方大会に参加して | 高橋瑞子, 小川一夫, 富田百合子, 杉浦理花, 和田芳信 |
| | 多メディア時代の教育12 マルチメディアの教育利用 | 中野照海, 坂谷内勝, 高島秀之 |
| | 教育放送史への証言11 放送教育を開く(5) 送り手と受け手との対話 | 清中喜平 |
| | メディアリテラシー講座11 新しいメディア表現者の出現へむけて | 水越伸 |

主な連載：教育ジャーナル、保育と放送、保育実践、保育日記、校内放送活動のために、番組インサイドストーリー、放送教育人日記、放送教育グループ交歓、マルチメディア時代を解くキーワード、視聴覚ロータリー、ことばのプリズム、ことわざあれこれ



1994年4月号



1994年4月号

1995 (平成7) 年度 (通巻564~575号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------------|---|----------------------------------|
| 4月号 | 展望 マルチメディア時代の教育 | 加藤秀俊 |
| | 特集 平成7年度NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】教育放送は未来を見据えて | 川邊重彦, 佐藤邦宏 |
| | 【特集】小学校『さんすうみつけた』『歴史たんけん』『わくわくサイエンス』『しらべてサイエンス』『ユメディア号こども塾』 | 依田格, 郡俊路, 内山守, 佐伯友弘, 小林善行 |
| | 【特集】中学校・高等学校『古典ボックス』『アクセス』『みんなのコーラス』『教育ジャーナル』 | 村上政光, 酒井国士, 山田常喜, 小林善行 |
| | 平成7年度視聴覚教育行政について | 遠藤啓 |
| | 平成6年度全国小学生ビデオコンテスト 入賞の喜び | 佐藤航, 東海市立加木屋南小学校 ビデオ映画クラブほか |
| | 坂元彦太郎先生を偲ぶ | |
| | ・坂元彦太郎先生を悼む一氏の逝去を機に坂元理論の再検討をー | 波多野完治 |
| | ・坂元彦太郎さんをしのぶ | 大内茂男 |
| | ・坂元彦太郎先生をしのぶ | 寺脇信夫 |
| | 多メディア時代の教育13 ハイビジョンの教育効果 | 宇佐美昇三, 西村逸郎, 高島秀之 |
| | メディアリテラシー講座 対談 新しいメディアの波と教育の変革 | 堀江固功, 水越伸 |
| | 5月号 | 展望 教育課題から始めるマルチメディアの活用 |
| 特集 放送教育への提言1 教育現場実践者から | | |
| 【特集】幼稚園 | | 阿部康子, 橋本陽子 |
| 【特集】小学校 | | 菅原弘一, 佐藤拓, 山下薫, 上田哲嗣, 古村勝浩 |
| 【特集】中学校 | | 助川公継, 江里口博 |
| 【特集】高等学校 | | 児玉秀樹 |
| 【特集】養護学校 | | 奥山敬 |
| 教育メディア作品の古典研究 | | |
| ・『山の分校の記録』から何を学ぶか | | 赤堀正宜 |
| ・『ミミ号の航海』に学ぶ | | 佐賀啓男 |
| 多メディア時代の教育14 マルチメディア行政 | | 小松親次郎, 桑田始, 高島秀之 |
| 海外教育放送事情 教育番組の本質を追求ーアジア教育番組ワークショップー | | ワークショップ事務局 |
| 海外教育放送事情 アジア・教育番組ワークショップに参加して | | 熊笹御堂朋子 |
| 教育放送史への証言12「西本・山下論争」を考える | | 波多野完治 |
| 映像リテラシー講座1「視知力」を考えてみませんか 視覚的思考力の復権 | | 小笠原喜康 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------|--|-----------------------------|
| 6月号 | 展望 放送教育の原点と今後の展開 | 吉田貞介 |
| | 特集 放送教育への提言2 これからの放送教育 | |
| | 【特集】映像論から放送教育を考える | 浅野孝夫 |
| | 【特集】「教える・学ぶ」を問う放送教育に | 生田孝至 |
| | 【特集】「放送教育」の創造性 | 今井清文 |
| | 【特集】これからの放送教育 | 中山迅 |
| | 【特集】構成主義学習観に立つて | 南部昌敏 |
| | テレビ学校放送とメディア利用の動向ー平成6年度学校放送利用状況調査から①ー | 井谷豊 |
| | ユメディア号評判記 | 小林善行 |
| | 多メディア時代の教育15 情報革命と教育 | 公文俊平, 高島秀之 |
| | 海外教育放送事情「テレビと子ども世界サミット」に参加して | 小平さち子 |
| | 教育放送史への証言13 教科と放送教育 | 波多野完治 |
| | 映像リテラシー講座2「視知力」を考えてみませんか「映像と言語」違いはあるのか | 小笠原喜康 |
| | 7月号 | 特集 道德教育と放送利用 いじめ問題を考える |
| 【特集】展望「いじめ」の根底にあるもの | | 坂本昇一 |
| 【特集】道德番組のよりよい活用をめざして | | 平林和枝 |
| 【特集】子どもたちの心が動く番組づくりを | | 華山益夫 |
| 【特集】『中学生日記』ークラス討論・いじめーの活用 | | 今泉良男 |
| 【特集】子どもたちの本当の声に耳を傾けよう | | 佐田光春 |
| 特集 番組制作者座談会 | | |
| 【特集】「放送教育への提言」で考える | | 酒井和行, 道田秀雄, 内山守, 高砂和郎 |
| 学校放送の課題と展望ー平成6年度学校放送利用状況調査から②ー | | 齋藤健作 |
| 多メディア時代の教育16 コンピュータと情報処理 | | 野口悠紀雄, 高島秀之 |
| 8月号 | 海外教育放送事情 教育改革とメディアの融合ーアメリカの教育情報環境ー | 宇佐美亘 |
| | 教育放送史への証言14 幼児番組の変遷1ー誕生前後から昭和10年前半までー | 武井照子 |
| | 映像リテラシー講座3「視知力」を考えてみませんか アイコンはあるのか | 小笠原喜康 |
| | 展望 アジア人の目線と日本人 | 佐藤忠男 |
| | 特集 平成7年度全国放送教育特別研究協議会 | |
| | 【特集】全国特研の意義と特色 | 全国放送教育研究会連盟 特研プロジェクト委員会 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------------------------|--|------------------------------------|
| 8月号 | 【特集】幼稚園・保育所部会 提案者からの提言 | 池田佳織, 村上裕子, 岩橋よし子 |
| | 【特集】小学校部会 提案者からの提言 | 高林恵一郎, 今西和子, 山下薫, 高林准示, 赤坂伸芳, 菊谷伸治 |
| | 【特集】小・中交流合同部会 提案者からの提言 | 阿部祥子, 若林民夫 |
| | 【特集】中学校部会 提案者からの提言 | 鈴木利典, 村山靖 |
| | 【特集】高等学校部会 提案者からの提言 | 石塚弘, 井口藏, 粕谷栄一郎 |
| | 【特集】特殊教育諸学校部会 提案者からの提言 | 野田潔 |
| | 幼稚園・保育所におけるメディア利用の動向と展望—平成6年度学校放送利用状況調査から③— | 小平さち子 |
| | マルチメディアと教育1 一人一台のパーソナルコンピュータ | 石井威望, 坂元昂, 高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 メキシコにおける教育放送 | 飯森彬彦 |
| | 教育放送史への証言15 幼児番組の変遷2—昭和10年半ばから終戦まで— | 武井照子 |
| 映像リテラシー講座4「視知力」を考えてみませんか 直観主義を乗り越える | 小笠原喜康 | |
| 9月号 | 展望 人間形成とメディア | 河合隼雄 |
| | 特集 社会科学習と放送利用 | |
| | 【特集】社会科学における放送利用 | 寺田登 |
| | 【特集】『歴史たんけん』の効果的な活用をめざして | 柳沢福寿 |
| | 【特集】『歴史たんけん』がねらうもの—その制作体験から— | 郡俊路 |
| | 【特集】情報発信者としての学習における『アクセスJ』の利用 | 高島勇二 |
| | 【特集】みつめ・さくり・うなずく社会科学習の創造—『アクセスJ』を通して「社会をみる目」を養う— | 平松義樹 |
| | 【特集】『アクセスJ』～現代社会をみる～ | 牧野内康人 |
| | マルチメディアと教育2 アメリカのコンピュータ教育 | 赤堀侃司, 高島秀之 |
| | 教育放送史への証言16 幼児番組の変遷3—終戦後の番組再開から『うたのおばさん』まで— | 武井照子 |
| 映像リテラシー講座5「視知力」を考えてみませんか イメージのイメージ | 小笠原喜康 | |
| 10月号 | 展望 メディアと教育 | 天城勲 |
| | 特集 平成7年度全国放送教育特別研究協議会レポート | |
| | 【特集】メディア革新の中の放送教育 | 堀江固功 |
| | 【特集】トークセッション「子どもを取りまく様々な映像を考える」 | 内田伸子, 村川雅弘, 小平さち子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|---|------------------------|
| 10月号 | 【特集】放送教育の不易と流行 | 柴田恒郎 |
| | 【特集】ふたたび感じた現場の熱気 | 瀬川忠之 |
| | 【特集】七年ぶりの新鮮な驚き | 木村武雄 |
| | 【特集】「豊かな心情を育てるハイビジョンの利用」に参加して | 道田秀雄 |
| | 【特集】テレビ制作者のこだわり, 教師のねがい | 沼田一 |
| | マルチメディアと教育3 先進実践校に見る | 山極隆, 高島秀之 |
| | 教育放送史への証言17 幼児番組の変遷4—昭和28年以降のラジオ番組とその役割— | 武井照子 |
| 映像リテラシー講座6「視知力」を考えてみませんか「視知力」とは何か(1) | 小笠原喜康 | |
| 11月号 | 展望 今, 科学教育に問われていること | 太田次郎 |
| | 特集 理科学習と放送利用 | |
| | 【特集】新しい学力観にもとづく理科教育と放送利用—これからの番組利用— | 角屋重樹 |
| | 【特集】実践 生命誕生の瞬間を観察させよう—『わくわくサイエンス』を視聴して— | 松川厚雄 |
| | 【特集】制作「なぜだろう?」の好奇心を—『わくわくサイエンス』のねらい— | 前野公彦 |
| | 【特集】実践 感動, おどろき, 疑問を!—「植物のからだ」と日光の実践から— | 永田浩二 |
| | 【特集】制作『しらべてサイエンス』がめざすもの—1995年前半を終わって— | 佐伯友弘 |
| | 【特集】実践『やってみようなんでも実験』をどう生かすか | 中井孝之, 千吉良伸一, 長壁一夫, 進悦子 |
| | 【特集】制作『やってみよう!なんでも実験』—科学の魅力を実感する— | 中一憲 |
| | シリーズ・戦後教育50年 揺れる教師像 | 上田薫, 稲垣忠彦, 佐藤学 |
| 海外教育放送事情 原爆投下をめぐる歴史教育—アメリカ・サマミッシュ高校の場合— | パトリック・ウォーカー | |
| 映像リテラシー講座7「視知力」を考えてみませんか「視知力」とは何か(2) | 小笠原喜康 | |
| 12月号 | 展望 ことばは人・人はことば | 外山滋比古 |
| | 特集 国語学習と放送利用 | |
| | 【特集】有能な学び手と国語科授業・放送利用—新しい学力観に立つ教育機器・放送番組等の利用について— | 小森茂 |
| | 【特集】実践『あいうえお』の効果的活用について | 安塚豊子 |
| | 【特集】制作「ことば」って面白い | 後藤友一郎 |
| | 【特集】実践『おはなしのくに』全校視聴の実践から | 秋山由美子 |
| | 【特集】制作「語り」の力を実感して | 梶原祐理子 |
| | 【特集】制作「音声言語重視」の今こそ『ことばの教室』を! | 坂元英子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|------------------------|
| 12月号 | 【特集】プラスチック的なことばの時代に | 杉沢礼 |
| | 【特集】言語感覚を豊かにする放送利用 | 森久保安美 |
| | マルチメディアと教育4 科学に生かす | 田中博之、丸山雄一郎、渡辺忠俊、高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 マルチメディア展開進むイギリスの教育放送 | 小平さち子 |
| | 教育放送史への証言18『ラジオ国語教室』の回顧(1)ー『ラジオ国語教室』には青空があるー | 寺脇信夫 |
| | 映像リテラシー講座8「視知力」を考えてみませんか 地図「視知力」 | 小笠原喜康 |
| 1月号 | 展望 新春に想う 若い外交官 | 川口幹夫 |
| | 特集 第46回放送教育研究会全国大会(愛知大会) 報告 | |
| | 【特集】シンポジウム 水の流れにふるさどが見える | 高桑康雄、有田和正、俵万智、佐野裕次、榊寿之 |
| | 【特集】課題別セミナー かがやく感性をひきだす放送教育 | 松本勝信 |
| | 【特集】課題別セミナー 生命環境教育と放送 | 村岡耕治 |
| | 【特集】課題別セミナー 番組研究セミナー『アクセスJ』に参加して | 山本武志 |
| | 【特集】座談会 愛知大会の成果と課題 | 中神孝夫、柴田孝和、山本武志 |
| | 第22回「日本賞」教育番組国際コンクール | |
| | ・多様化する教育番組への各国のニーズ | 堀紀子 |
| | ・日本賞を受賞して『わくわくサイエンス・動物のたんじょう』受賞に際して | 前野公彦 |
| | ・日本賞を受賞して 僕たちが得た宝物『中学生日記・にわかボランティア』より | 佐野竜之介 |
| | 教育放送史への証言19『ラジオ国語教室』の回顧(2)ーローマは一日にして成らずー | 寺脇信夫 |
| | 映像リテラシー講座9「視知力」を考えてみませんか 理科「視知力」 | 小笠原喜康、新井孝昭 |
| | 2月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 |
| 特集 放送教育地方大会レポート1 | | |
| 【特集】第47回北海道放送教育研究大会石狩大会の報告 | | 高山隆二 |
| 【特集】実践報告 多角的に情報をとらえる授業の実践ー『ステップ&ジャンプ・インド大反乱』よりー | | 工藤広明 |
| 【特集】第37回放送教育研究会東北大会山形大会の報告 | | 秋葉俊彦 |
| 【特集】実践報告 放送番組・視聴覚教材の効果的な活用をめざして | | 矢口広道 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---------------------------------------|--|--------------------|
| 2月号 | 【特集】関東甲信越地方放送・視聴覚教育研究合同大会埼玉大会の報告 | 菅谷愛子 |
| | 【特集】実践報告 親子同時視聴にみる学校放送の効果的利用ー『いのち輝け地球』の親子同時視聴の実践からー | 館野良夫 |
| | 【特集】第44回近畿放送教育研究大会奈良大会の報告 | 濱崎由昭 |
| | 【特集】実践報告 友達と共に、自分たちの遊びや生活を豊かにしていく放送教育をすすめよう | 纏向幼稚園、三輪幼稚園、桜井西幼稚園 |
| | 人間学習と映像メディア(1) | 多田俊文 |
| | 放送教育論と教育学における放送(映像)媒体を活用した授業論の比較研究(1) | 千炳其 |
| | 海外教育放送事情 アメリカの良心 公共放送イリノイ大学WILL局 | 赤堀正宜 |
| | 教育放送史への証言20『ラジオ国語教室』の回顧(3)ーエピソードあれこれー | 寺脇信夫 |
| | 映像リテラシー講座10「視知力」を考えてみませんか 幼児とろう者の「視知力」 | 小笠原喜康、新井孝昭、佐久間亜紀 |
| | 展望 放送教育の課題と展望 | 水越敏行 |
| 3月号 | 特集 放送教育地方大会レポート2 | |
| | 【特集】中国地方放送教育研究大会山口大会の報告 | 南昌宏 |
| | 【特集】実践報告 豊かな感性をはぐくみ「放送による学習」を求めて | 安平初枝 |
| | 【特集】第37回放送教育研究会四国大会香川大会の報告 | 武智直 |
| | 【特集】実践報告 自ら学ぶ意欲を高め思考力を培う放送・視聴覚教育をすすめよう | 三木眞弓 |
| | 【特集】第44回九州地方放送教育研究大会宮崎大会の報告 | 島田希孝 |
| | 【特集】実践報告 放送活用を中心とした情報活用・発信能力の育成を図る授業の組み立てと指導経過ー『歴史たんけん』よりー | 尾崎香代 |
| | 【特集】地方大会に参加してーその成果と課題ー | 和田芳信 |
| | 人間学習と映像メディア(2) | 多田俊文 |
| | 放送教育論と教育学における放送(映像)媒体を活用した授業論の比較研究(2) | 千炳其 |
| シリーズ・戦後教育50年 大学入試の変遷 | 天野郁夫、黒羽亮一、佐藤学 | |
| 映像リテラシー講座11「視知力」を考えてみませんか 音楽と国語の「視知力」 | 小笠原喜康、桂直美、朝倉徹 | |

主な連載：教育ノート95、保育と放送、保育講座・放送を利用するために、保育実践、『お話でてこい』のお話、校内放送活動のために、番組インサイドストーリー、放送教育人国記、視聴覚ロータリー、ことばのプリズム、ことわざあれこれ

1996 (平成8) 年度 (通巻576~587号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|---|--|
| 4月号 | 展望 21世紀にむけての教育課題—マルチメディア教育総合カリキュラムの開発— | 坂元昂 |
| | 特集 平成8年度NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】てい談 これからの教育と放送 | 高桑康雄, 中村季恵, 横田政美 |
| | 【特集】小学校『ざわざわ森のがんばちゃん』『キッズチャレンジ』『まちかどド・レ・ミ』『ふしぎのたまご』『ふしぎコロンブス』『きっとあしたは』『たったひとつの地球』 | 梶原祐理子, 国井豊, 笹原達也, 山口和男, 土田貢司, 華山益夫, 松並裕子 |
| | 【特集】中学校・高等学校『シリーズ10min.楽々パソコン』『シリーズ10min.地球ウォッチ』『ハイスクール電脳倶楽部』 | 中一憲, 西内久典, 朝比奈誠 |
| | 【特集】教育一般『教育トゥデイ』 | 船津貴弘 |
| | 平成8年度視聴覚教育行政について | 廣瀬寛 |
| | 平成7年度全国小学生ビデオコンテスト 入賞の喜び | 豊田市立東広瀬小学校視聴覚部ほか |
| | マルチメディアと教育5 多メディア時代の放送 | 多田俊文, 高島秀之 |
| | 教育放送史への証言21『テレビろう学校』の残したものの | 浅野孝夫 |
| | 映像リテラシー講座12『視知力』を考えてみませんか『視知力』と映像の役割 | 小笠原喜康 |
| | 5月号 | 展望 地域社会の教育力 文化施設の可能性—21世紀に向けての教育課題— |
| 特集 情報活用能力を育てるため | | |
| 【特集】情報を選択し活用する能力を育てる | | 村川雅弘 |
| 【特集】見て・聞いて 私の発見!—なるほどザ・ビデオルームの活用— | | 彦坂安弘 |
| 【特集】「人体・生命のつながり」を活用して—五年生の理科学習— | | 滝川佳浩 |
| 【特集】放送を生かす環境教育 | | 岩倉三好 |
| 【特集】映像情報発信能力をどう育てるか | | 野田一郎 |
| マルチメディアと教育6 コンピュータグラフィックスとバーチャルリアリティ | | 月尾嘉男, 河口洋一郎, 高島秀之 |
| 教育放送史への証言22『マイクの旅』(1) | | 西澤實 |
| 映像表現講座1 映像の現実感と非現実感—現実とは増殖する— | | 楠かつのり |
| 6月号 | 展望 「国際化」という21世紀の教育課題 | 田村哲夫 |
| | 特集 放送とティーム・ティーチングを組む | |
| | 【特集】ティーム・メイトとして放送番組をどう生かすか | 鈴木克明 |
| | 【特集】『はりきって体育』を活用した体育の授業実践 | 菊地道子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------------------------|--|------------------|
| 6月号 | 【特集】新しい学力観にもとづく音楽教育と放送利用 | 金本正武 |
| | 【特集】『ふえはうたう』を児童とともに視聴して | 河野和男 |
| | マルチメディアと教育7 障害児教育に生かす | 詫間晋平, 菅井勝雄, 高島秀之 |
| | 教育界におけるインターネット利用 | 佐野博彦 |
| | 海外教育放送事情 中国のテレビ教育放送事情 | 秋山隆志郎 |
| | 教育放送史への証言23『マイクの旅』(2) | 西澤實 |
| 7月号 | 映像表現講座2 言葉の読み書きと映像の読み書き—言葉は映像である— | 楠かつのり |
| | 展望 小学校での英語教育の問題点 | 小林善彦 |
| | 特集 生涯学習時代の家庭視聴を考える | |
| | 【特集】新しい家庭視聴 家庭視聴, 放送学習, 個人的な取り組みを連携させよう! | 木原俊行 |
| | 【特集】朝と夕方には『母と子のテレビタイム』 | 瀬川忠之 |
| | 【特集】『週刊こどもニュース』子どもが楽しめるニュースとは? | 熊田健 |
| | 【特集】『ユメメディア号こども塾』家庭地域での活用を! | 朝比奈誠 |
| | 【特集】チャレンジ精神で『やってみようなんでも実験』 | 中一憲 |
| | 【特集】親子で夏のテレビ・ラジオクラブを! | 酒井和行 |
| | 【特集】親子でみる現代社会『アクセスJ』 | 牧野内康人 |
| | 【特集】本音トークから広がるコミュニケーション『ハイスクール電脳倶楽部』と高校生— | 大西誠 |
| | 教育ジャーナル インターネットで教室が変わる(1) | 岡本敏雄, 石原一彦, 高島秀之 |
| | 座談会 コロンボ・ワークショップに参加して アジア教育番組ワークショップの成果と課題 | 水越敏行, 大西誠, 植田豊 |
| | 教育放送史への証言24 テレビ『英語教室』(1) | 二神重成 |
| 映像表現講座3 映像における動きの問題—時間の流れを切り取る難しさ— | 楠かつのり | |
| 8月号 | 展望 学校・家庭・地域の連携とは | 薄田泰元 |
| | 特集 放送と他メディアとの関連利用 | |
| | 【特集】メディアの特性を生かす | 赤堀侃司 |
| | 【特集】ゾーン・プランニングとマルチメディア環境への試み—金沢大学附属小学校のメディア環境— | 黒上晴夫 |
| | 【特集】放送・マルチメディアそしてインターネットへ | 浅井和行 |
| | 特集 平成8年度全国放送教育特別研究協議会 分科会講師からの提言 | |
| 【特集】子どもに生きる力と豊かさを | 藤澤千代子 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|--|-----------------------------------|
| 8月号 | 【特集】テレビと人間学習カリキュラム | 多田俊文 |
| | 【特集】生きるということ | 佐島群巳 |
| | 【特集】国際感覚を育てるための異文化理解—そのフィロソフィと手だてを求めて— | 斎藤毅 |
| | 【特集】インターネット時代の新しい放送教育実践—グルバクinインターネット— | 棟方哲弥 |
| | 教育ジャーナル インターネットで教室が変わる(2) | 岡本敏雄, 浅野裕, 江竜真司, 福田周史, 伊賀正樹, 高島秀之 |
| | 教育放送史への証言25 テレビ『英語教室』(2) | 二神重成 |
| | 映像表現講座4 映像における「音」の問題—音という哲学— | 楠かつり |
| 9月号 | 展望 21世紀の情報発信教育の課題 | 西垣通 |
| | 特集「心と命」を育てる放送学習 | |
| | 【特集】共生の時代を生きるために「生命と死の循環論」 | 谷川彰英 |
| | 【特集】『キッズチャレンジ』を視聴して心と命をはぐむ | 野見山捷昭 |
| | 【特集】大震災から「生」を考える—『みんな生きている』を視聴して— | 上田旬司 |
| | 【特集】『たったひとつの地球』を活用した授業実践 | 杉本恵子 |
| | 【特集】「心」と「命」だれにもある素敵な問い | 杉沢礼 |
| | 教育ジャーナル 中央教育審議会の審議から(1) | 河野重男, 木村孟, 高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 ミュンヘン国際テレビ青少年番組賞に参加して | 池上彰 |
| | 教育放送史への証言26 テレビ道徳番組(1)—道徳番組の誕生— | 内田安昭 |
| 10月号 | 展望 人間教育としての情報教育 | 佐伯胖 |
| | 特集 全国放送教育特別研究協議会レポート | |
| | 【特集】多メディア時代の放送教育 | 浅野孝夫 |
| | 【特集】「生きる力」を「メディア」から全国特研シンポジウムに参加して | 町永俊雄 |
| | 【特集】先生との交流が次のステップへ番組制作者が感じた全国特研 | 大路幹生, 高砂和郎, 華山益夫, 朝比奈誠, 周宝寛和 |
| | 【特集】校種の枠を超えて学習者のために | 守屋貞紀 |
| | 教育ジャーナル 中央教育審議会の審議から(2) | 河野重男, 木村孟, 高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 数学教育についての世界の関心は何か—第8回数学教育国際会議に参加して— | 内山守 |
| | 教育放送史への証言27 テレビ道徳番組(2)—道徳番組の転換期— | 内田安昭 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|----------------------------|--|------------------------|
| 10月号 | 映像表現講座5 表現におけることばの役割—表現の輪郭を支える言葉— | 楠かつり |
| | 展望 学校知の転換 | 児島邦宏 |
| 11月号 | 特集 多角的にみる番組利用—「動物のたんじょう」をめぐって— | |
| | 【特集】学校放送番組の多様な活用『わくわくサイエンス・動物のたんじょう』をどう生かすか? | 木原俊行 |
| | 【特集】『わくわくサイエンス・動物のたんじょう』を制作して | 前野公彦 |
| | 【特集】命を知り、命を学び、命を学びあう | 田中千草 |
| | 【特集】一人ひとりが主人公になる時間 | 杉浦敬美 |
| | 【特集】生命の神秘とすばらしさを大切に授業プラン | 山下薫 |
| | 【特集】ヒトと動物のたんじょう—放送番組を軸とした学習指導展開例— | 井部良一 |
| | 子どもとメディア 小学生は今 テレビゲームとどうつきあっているか | 高橋幸夫 |
| | 教育ジャーナル 小学校の英語教育 | 宮原修, 高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 衛星放送時代とメディア教育—国際マスコミ学会に出席して—(1) | 宇佐美昇三 |
| 12月号 | 展望 多様性を通しての統合性を求める | 吉田章宏 |
| | 特集 社会科授業研究—『くらし発見・工業団地』の利用— | |
| | 【特集】時代の状況を描く社会科番組『くらし発見・工業団地』制作ノートから | 小島通晴 |
| | 【特集】自分たちの地域と比較して考える「工業団地」から地域学習の課題づくりへ | 鶴田裕子 |
| | 【特集】座談会「工業団地」を活用した授業をめぐって | 松本盛男, 鶴田裕子, 小島通晴 |
| | 座談会 教育放送における国際協力(1)—その成果と課題— | 秋山隆志郎, 市川昌, 内田安昭, 高島秀之 |
| | 教育ジャーナル インターネットで100校を結ぶ | 坂元昂, 池田茂, 高島秀之 |
| | 海外教育放送事情 メディア教育の国際的動向—国際マスコミ学会に出席して—(2) | 宇佐美昇三 |
| | 教育放送史への証言28 学校放送音楽番組の源流(1)—豊かな音楽性をめざして— | 竹内功 |
| | 1月号 | 展望 まず人間が変わろう |
| 新春対談 これからの教育・放送教育 | | 天城勲, 植田豊 |
| 特集 第47回放送教育研究会全国大会(札幌大会)報告 | | |
| 【特集】シンポジウム 川調べて学びが広がる | | 泉明彦, 安藤和津, 村川雅弘, 山田誠浩 |
| 【特集】校種別研究フォーラム | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---|------------------------|
| 1月号 | 【特集】(幼稚園・保育所)子どもたちのためにいま、行動すべきこと | 小平さち子 |
| | 【特集】(小学校)いい生き方への放送学習—情報処理活用能力と完成— | 荻野忠則 |
| | 【特集】(中学校)10年の積み上げが示すこれからの放送教育 | 水越敏行 |
| | 【特集】(高等学校)国際理解と環境教育 | 伊藤正浩 |
| | 【特集】(特殊教育諸学校)生涯の実態に合わせた放送教材の活用とインターネット時代の放送教育 | 棟方哲弥 |
| | 【特集】札幌大会を終えて | 佐藤文英, 春日順雄, 松山理 |
| | 第23回「日本賞」教育番組国際コンクール | |
| | ・「教育番組」に託す各国の願い—コンクールを終えて— | 堀紀子 |
| | ・日本賞に見る教育番組に期待されるものと審査の感想 | 松本勝信 |
| | ・受賞番組からめぐみちゃんが教えてくれたこと『北海道スペシャル〜ふたりだけの教室・平馬先生とめぐみちゃん』 | 遠藤あゆみ |
| | ・受賞番組から動物たちのパラダイス「なんきよっきょ」へようこそ『なんでもQ〜あにまるQ〜』 | 木村武雄 |
| | ・受賞番組から環境問題を子どもたちと見すえて「たったひとつの地球〜ごみを食べた動物〜」 | 松並裕子 |
| | 教育放送史への証言29 学校放送音楽番組の源流(2)—ラジオからテレビ時代へ— | 竹内功 |
| | 映像表現講座6 映像を編集することと表現すること—新しい可能性を探す— | 楠かつり |
| 2月号 | 展望 理科離れ時代における科学教育とメディア | 奈須紀幸 |
| | 特集 放送教育地方大会レポート1 | |
| | 【特集】第38回放送教育研究会東北大会秋田大会報告 | 小松田直之 |
| | 【特集】感性豊かにイメージをひろげ遊びをつくり出す | 井上房子 |
| | 【特集】第45回近畿放送教育研究大会大阪大会報告 | 伊庭晃 |
| | 【特集】子どもたちにアプローチする多メディアの利用 | 廣瀬正彦 |
| | 【特集】座談会 全放連研究部この一年(1)各地で受けた刺激を全国へ 地方大会・全国大会をめぐって | 和田芳信, 井部良一, 小川一夫, 斎藤康男 |
| | 座談会 教育放送における国際協力(2)—その成果と課題— | 秋山隆志郎, 市川昌, 内田安昭, 高島秀之 |
| | これからの教育とメディア | 深瀬慎雄 |
| | インターネットで視聴者交流—全国で感想を交換した初の試み— | 内山守 |
| 映像表現講座7 マルチメディア時代の家庭用ビデオカメラ—テレビ電話と映像コミュニケーション— | 楠かつり | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|------------------------|
| 3月号 | 展望 生涯教育とメディア | 小尾信彌 |
| | 特集 放送教育地方大会レポート2 | |
| | 【特集】第45回九州地方放送教育研究大会大分大会報告 | 矢野武文 |
| | 【特集】意欲的に学ぶ子どもを育てる学校放送番組の活用—総合学習を通して— | 栗田典年 |
| | 【特集】関東甲信越地方放送・視聴覚教育研究大会栃木大会報告 | 片桐武之 |
| | 【特集】『ステップ&ジャンプ・地理を学ぶ』『冷害とたたかう』を利用し、東北地方の米作にせまる | 涌井俊一 |
| | 【特集】第38回放送教育研究会四国大会高知大会報告 | 川添啓史 |
| | 【特集】道德番組を活用した道德教育を目指して | 川村八郎 |
| | 【特集】座談会 全放連研究部この一年(2)全国の先生方と共に… | 和田芳信, 井部良一, 小川一夫, 斎藤康男 |
| | 教育ジャーナル 教育界この一年 | 山岸駿介, 勝方信一, 高島秀之 |
| | 放送教育ベテラン教師の教育観と番組への期待に関する調査研究 | 「教育観と番組への期待に関する調査研究」班 |
| | 教育放送史への証言30 揺籃期の「幼稚園保育所の時間」(1)—昭和31年(1956年)— | 小山賢市 |
| | 映像表現講座8 映像表現における今日的な課題—物語る能力の必要性— | 楠かつり |

主な連載：教育ノート、メディアジャーナル、保育と放送、講座・保育に放送を取り入れるにあたって、わたしの園の放送利用、『お話でてこい』のお話、校内放送活動のために、番組インサイドストーリー、放送教育人国記、視聴覚ロータリー、ことばのプリズム、ことわざあれこれ

1997 (平成9) 年度 (通巻588~599号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-------------------|--|--------------------|
| 4月号 | 展望 変わるメディアと教育 | 高桑康雄 |
| | 特集 平成9年度NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】大きな改革のうねりの中で | 中村希恵 |
| | 【特集】小学校『トウトゥアンサンブル』『なぜなぜ日本』『虹色定期便』 | 小泉世津子, 近江寧基, 鈴木正史 |
| | 【特集】中学校・高等学校『スクール五輪の書』『10min.ボックス』 | 竹内冬郎, 内山守 |
| | 【特集】教育一般『メディアと教育』 | 酒井和行 |
| | 【特集】新番組『スクール五輪の書』に寄せて | 鈴木克明 |
| | 平成9年度視聴覚教育行政について | 文部省生涯学習局学習情報課 |
| | インターネットで視聴者交流(2)ーその教育的意味ー | 黒上晴夫 |
| | 情報リテラシー講座1 主体的な学習を支える情報リテラシー | 村川雅弘 |
| | 海外教育放送事情 EBU「パーゼル・セミナー」に参加して | 酒井和行 |
| | 教育放送史への証言31 揺籃期の「幼稚園保育所の時間」(2)ー「NHK教育テレビ」開局までー | 小山賢市 |
| | 映像表現講座9 映像表現は技術的なものではないー映像表現する個性とは何かー | 楠かつのり |
| 5月号 | 展望 学校とカリキュラムの改造を | 奥田真丈 |
| | 特集 変わるメディアと教育 | |
| | 【特集】座談会 変わるメディアと教育のありかた | 水越敏行, 佐伯胖, 高島秀之 |
| | 【特集】人と人をつなぐインターネット | 重松昭生 |
| | 【特集】子ども自ら意欲を持って主体的にかかわる | 井芹郁人 |
| | 【特集】多様なメディアを授業に取り入れて | 丸山雄一郎 |
| | 【特集】手がかりに満ちたテレビとコンピュータ | 奥山敬 |
| | 【特集】教育におけるメディアをめぐる風景と言語 | 佐賀啓男 |
| | 情報リテラシー講座2 教科の中で活用し育てる学習スキル | 村川雅弘, 矢田光宏 |
| | 海外教育放送事情 アジア放送教育ネットワークに向けて | セミナー事務局 |
| | 海外教育放送事情 アジア教育番組ワークショップに参加して | 遠藤あゆみ, 松並裕子, 久保なおみ |
| | 実践研究 ドナドンっ子奮闘中 ハイビジョン番組『ふしぎのたまご』を継続視聴して | 中島朗 |
| | 6月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 |
| 特集 映像教材を創る | | |
| 【特集】映像制作の意義と指導の視点 | | 大森哲夫 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---|-----------------------------|
| 6月号 | 【特集】実践事例 ビデオカメラは環境を見つめる賢い目になる | 堀内敏一 |
| | 【特集】実践事例 環境を見る目を育てる番組視聴と自作ビデオ制作 | 小堂十 |
| | 【特集】実践事例 環境教育における自作ビデオの役割と放送の効果 | 鈴木利典 |
| | 【特集】すてきな地球づくり すてきな明日づくり | 大林宣彦 |
| | 教育現場における放送利用の現況ー平成8年度学校放送利用状況調査から(1)ー | 井谷豊 |
| | 教育ジャーナル 情報教育のカリキュラム化 | 清水康敬, 堀口秀嗣, 高島秀之 |
| | 情報リテラシー講座3 生活科で情報リテラシーの基礎を培う | 村川雅弘, 藤田美智子 |
| | 新・放送教育ゼミ1「放送教育」とは何か | 木原俊行 |
| | 海外教育放送事情 教育番組と市場性(1)ーMIP-TV「教育番組デー」に参加してー | 大西誠 |
| | 7月号 | 展望 情報通信社会を目指す教育の矛盾 |
| 特集 道徳番組をどう生かすかー新番組『虹色定期便』をめぐるー | | |
| 【特集】座談会 道徳番組をどう生かすか | | 岩木晃範, 平林和枝, 佐藤拓, 森崎義人, 華山益夫 |
| 【特集】私の指導案 2段階視聴を軸とした学習指導展開例 | | 岡孝之 |
| 【特集】私の指導案 わがままやあまの心にキルケウイリスがつくんだ! | | 徳島洋子 |
| 【特集】私の指導案 道徳教育の可能性を広げる『虹色定期便』 | | 大室健司 |
| 教育現場における放送利用の現況ー平成8年度学校放送利用状況調査から(2)ー | | 齋藤健作 |
| メディアと教育 情報革命が教室を変える 世界のコンピュータ教育 | | 野口悠紀雄, 田中博之, 山本和之, 小川範子 |
| 情報リテラシー講座4 社会科におけるインタビュースキルの活用 | | 村川雅弘, 矢田光宏 |
| 新・放送教育ゼミ2 放送番組で子どもたちに感動を一映像メディアとしての持ち味を生かすー | | 木原俊行 |
| 8月号 | 海外教育放送事情 教育番組と市場性(2)ーMIP-TV「教育番組デー」に参加してー | 大西誠 |
| | 展望 21世紀における教育の課題 | 生田孝至 |
| | 特集 中・高校生向け番組の活用 | |
| 【特集】中・高校教育に新しい旋風を! 『スクール五輪の書』『10min.ボックス』をめぐるー | 鈴木克明, 竹内冬郎 | |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|------|
| 8月号 | 【特集】私の番組利用法! | 石部志保, 亀里雅弘, 片山聡彦, 末本俊雄, 足立由美子, 中野常之, 橋本隆志, 大川徹, 八木節夫, 長島康雄, 遠山裕之 | |
| | 幼稚園・保育所におけるメディア利用の現状と課題 | 小平さち子 | |
| | メディアと教育 ホームページが登竜門!? | 鈴木敏恵, 橋本典明, 山本和之, 小川範子 | |
| | 情報リテラシー講座5 総合的な学習を支える情報リテラシー育成の方法 | 村川雅弘, 溝辺和成 | |
| | 新・放送教育ゼミ3 継続視聴の可能性 | 木原俊行 | |
| | 海外教育放送事情 アメリカの教育における放送・通信の利用状況 | 佐野博彦 | |
| | 実践研究 心と命をはぐくむ学習を『みんな生きている』を活用した授業実践一 | 「生命環境教育と放送」研究会 | |
| 9月号 | 展望「開かれた学校と情報化」の意味するもの | 岡本敏雄 | |
| | 特集 理科番組をどう生かすか | | |
| | 【特集】問題解決能力を育てる理科学習—放送をどう生かすか— | 武村重和 | |
| | 【特集】わたしの指導案 3年『ふしぎのたまご』 | 野見山捷昭, 露木和男 | |
| | 【特集】わたしの指導案 4年『ふしぎコロンブス』 | 池田博, 一色誠 | |
| | 【特集】わたしの指導案 5年『わくわくサイエンス』 | 藤野栄, 松山和彦 | |
| | 【特集】わたしの指導案 6年『しらべてサイエンス』 | 橋谷田有俊, 後藤良秀 | |
| | 【特集】実践記録 番組視聴から体験・学習活動へ 6年『しらべてサイエンス』 | 佐藤勝子, 横田正之 | |
| | メディアと教育 21世紀の教育引き受けます—企業のマルチメディア戦略— | 島森路子, 山内祐平, 山本和之, 小川範子 | |
| | 情報リテラシー講座6 主体的な情報収集からの出発 | 村川雅弘, 縄田浩二 | |
| | 新・放送教育ゼミ4 放送番組からの発展学習づくり | 木原俊行 | |
| | 10月号 | 展望「知識人」から「学習人」への視点の変換—放送教育に期待される役割— | 中野照海 |
| | | 特集 '97夏の全国特研リポート | |
| 【特集】学ぶ力, 生きる力を培う放送教育 | | 赤堀正宣 | |
| 【特集】シンポジウム 新しい総合学習とメディア活用・放送教育の新展開 | | 水越敏行, 村川雅弘, 小林道正, ビーター・フランク, 杉沢礼 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------------------------------|---|------------------------------|
| 10月号 | 【特集】校種別報告 | 高橋瑞子, 井部良一, 高島勇二, 遠山裕之, 信方壽幸 |
| | 【特集】国際交流への第一歩 アジア放送教育セミナー | 和田芳信 |
| | メディアと教育 インターネットが学校になる | 田中義郎, 谷村志穂, 山本和之, 小川範子 |
| | 情報リテラシー講座7 総合的な学習を支える情報リテラシー育成の取り組み | 青木将 |
| | 新・放送教育ゼミ5 総合学習と放送番組 | 木原俊行 |
| 11月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 | 山極隆 |
| | 特集 総合学習番組をどう生かすか | |
| | 【特集】対談 総合学習におけるメディア(放送)の役割 | 村川雅弘, 杉沢礼 |
| | 【特集】実践研究 学級づくりと放送 中学年・生命教育番組『みんな生きている』を活用して | 大石信洋 |
| | 【特集】『みんな生きている』私の番組利用 | 坪田明美, 小峰直子, 山崎聖子 |
| | 【特集】地球環境問題と地域の環境調への橋渡し—総合学習『環境にやさしくらし』の実践と課題について— | 高林准示 |
| | 【特集】『たったひとつの地球』私の番組利用 | 片寄玲子, 赤坂伸芳 |
| | 【特集】ひとつの番組から無限の可能性を求めて『たったひとつの地球』ホームページ紹介 | 松並裕子 |
| | 特集 放送教育研究会全国大会・岡山大会のめざすもの | |
| | 【特集】“生きる力”を育てる放送教育 | 笠原始 |
| | 【特集】第48回放送教育研究会全国大会岡山大会インフォメーション | 守屋貞男 |
| | メディアと教育 情報の海の羅針盤 | 越桐國雄, 大桃美代子, 山本和之, 小川範子 |
| | 情報リテラシー講座8「読本」で情報リテラシーの体系化を図る | 村川雅弘, 西畑寧三 |
| 新・放送教育ゼミ6 放送教育の推進と教師たちの共同研究 | 木原俊行 | |
| 海外教育放送事情 ファーストビュー '97とアメリカ教育放送の新しい流れ | 日比美彦 | |
| 12月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 | 無藤隆 |
| | 特集 社会科番組をどう生かすか | |
| | 【特集】社会科におけるメディア(放送)の役割 | 中野重人 |
| | 【特集】わたしの指導案 3年『このまち だいすき』 | 後藤康志, 山内篤司 |
| | 【特集】わたしの指導案 4年『くらし発見』 | 川上慶子 |
| 【特集】わたしの指導案 5年『なぜなぜ日本』 | 斎藤秀実, 赤村晋 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|-----------------------------------|
| 12月号 | 【特集】わたしの指導案 6年『歴史たんけん』 | 菅原弘一、佐々木利男 |
| | 【特集】実践研究 調べるきっかけがあって、楽しいよ! 『なぜなぜ日本』を利用して | 水落潤子 |
| | メディアと教育 インターネットで出会いの場を一障害児教育とマルチメディア | 竹中ナミ、成田滋、山本和之、小川範子 |
| | 情報リテラシー講座9 総合学習番組で情報リテラシー育成を | 村川雅弘 |
| | 新・放送教育ゼミ7 制作者と利用者の共同体制 | 木原俊行 |
| | 海外教育放送事情 放送番組の効果的な使い方 アメリカNTTIのマニュアルから | 大西誠 |
| 1月号 | 展望「心の教育」の難しさ | 山折哲雄 |
| | 新春対談 これからの放送と教育 | 海老沢勝二、植田豊 |
| | 特集 第48回放送教育研究会全国大会岡山大会リポート | |
| | 【特集】みつめる かかわる 伝える インターネット時代の総合学習と放送 | 鈴木敏恵、木原俊行、三宅貴久子、清水國明 |
| | 【特集】生きる力をはぐくむ放送教育をすすめよう | 黒田卓 |
| | 【特集】岡山大会を終えて | 守屋貞男 |
| | 第24回「日本賞」教育番組国際コンクール | |
| | ・社会状況を映し出す各国の教育番組 | 堀紀子 |
| | ・日本賞審査を終えて一審査委員室からの報告一 | 鈴木克明 |
| | メディアと教育 デジタル革命が大学を変える | 立花隆、山本和之、小川範子 |
| | 情報リテラシー講座10「未来総合科」で情報リテラシーの育成を図る | 長谷勝義 |
| | 新・放送教育ゼミ8 放送教育の再生に向けて | 木原俊行 |
| | 2月号 | 展望 これからの教育に寄せる期待一教課審「中間まとめ」に關与して一 |
| 特集 '97放送教育地方大会報告 | | |
| 【特集】第49回北海道放送教育研究大会 日高・胆振大会報告 | | 萩原則幸 |
| 【特集】実践報告 継続視聴をとおして自然とのかかわりを深める『しぜんとあそぼ』 | | 林睦子 |
| 【特集】第39回放送教育研究会東北大会青森大会報告 | | 村林平八 |
| 【特集】実践報告 各教科におけるパソコン活用のあり方 | | 石井一二三 |
| 【特集】関東甲信越地方放送・視聴覚教育研究大会茨城大会報告 | | 根崎祐肆 |
| 【特集】実践報告 自ら考え、意欲的に取り組む児童を育てる指導法の工夫 | | 笹木敏則 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|---------------------|
| 2月号 | 【特集】第46回近畿放送教育研究大会滋賀大会 | 三上靖弘 |
| | 【特集】実践報告 放送をたのしんで“放送教育っていったい何だろう”からの出発 | 春山尚子 |
| | 【特集】第46回九州地方放送教育研究大会佐賀大会 | 一ノ瀬昌彦 |
| | 【特集】実践報告 放送番組は、追求活動のエネルギー源となる | 中西穂澄 |
| | メディアと教育 だれでも作曲家になれる!?—コンピュータがひらく音楽教育— | 田頭勉、美馬のゆり、山本和之、小川範子 |
| | 情報リテラシー講座11 情報リテラシー再考 | 村川雅弘、榎田守 |
| 3月号 | 海外教育放送事情 教育放送の双方向性について | 大西誠 |
| | 展望 21世紀に向けての教育課題 | 木村孟 |
| | 特集 実践研究 総合的学習を考える | |
| | 【特集】総合的な学習のカリキュラム開発 年間指導計画作成のポイント | 木原俊行 |
| 【特集】感動・共感から行動へ『たったひとつの地球』を利用した環境教育への取り組みを通して一 | 山下薫 | |
| 【特集】映像と新聞を利用した放射線に関する教育 | 岩倉三好 | |
| 対談 '97全放連この一年 そして、東京大会へ | 橋本誠司、和田芳信 | |
| 情報倫理教育の必要性 | 木内英仁 | |
| 情報リテラシー講座12 学習活動を見直し、体系化を図る | 村川雅弘 | |

主な連載：メディアジャーナル、NEDリポート、保育と放送、講座・保育に放送を取り入れるにあたって、わたしの園の放送利用、インサイドストーリー、視聴覚ロータリー、ことばのプリズム、ことわざあれこれ

1998 (平成10) 年度 (通巻600~611号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------|--|-------------------------|
| 4月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 | 太田次郎 |
| | 特集 新年度の番組制作に向けて | |
| | 【特集】“Generativity Crisis”の時代に平成10年度学校放送番組制作の基本方針 | 仲居宏二 |
| | 平成10年度視聴覚教育行政について | 文部省生涯学習局学習情報課 |
| | インタラクティブな学習展開 共同学習と放送・メディア | 黒上晴夫 |
| | メディアと教育インターネットはこう使う—新しい学校間交流の試み— | 佐伯胖, 秋田喜代美, 山本和之, 小川範子 |
| | 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード① 認知的得失 | 佐賀啓男 |
| | 講座 総合的な学習の授業づくり① 総合的学習の基本的な考え方 | 佐島群巳 |
| | 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育 なぜ、今また放送教育なのか | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 双方メディアと学習環境の近未来—ミリア'98 (milia '98) に参加して— | 日比美彦 |
| 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! | 高島勇二 | |
| 5月号 | 展望 21世紀に向けての環境教育を考える | 石弘之 |
| | 特集 インタラクティブへの挑戦 | |
| | 【特集】インタラクティブな学習—メディア活用による相互啓発からヒューマンネットワークの構築— | 田中博之 |
| | 【特集】私の番組アクセス法 | 表柳四郎, 重松昭生, 星野好久, 渡辺たか子 |
| | 【特集】HP・メール・TV会議で意見交流 | 八崎和美 |
| | メディアと教育 決定版! マルチメディア活用術 | 永野和男, 松本侑子, 山本和之, 小川範子 |
| | 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード② 文化的真贋 | 佐賀啓男 |
| | 講座 総合的な学習の授業づくり② 総合的学習の原理と方法 | 佐島群巳 |
| | 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育 私を引きつけた放送番組との出会い | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 シリコンバレーは今(1)—企業・大学・地域の連携— | 高島秀之 |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! | 高島勇二 |
| | 実践研究 放送を取り入れた生物の授業『生きもの地球紀行』を視聴させて | 岩倉三好 |
| 6月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 | 坂本昇一 |
| | 特集 表現力とメディア | |
| | 【特集】メディアで表現力をどう育てるか | 鈴木克明 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|---------------------------------|
| 6月号 | 【特集】総合的な学習から発展するホームページの発信 | 田中克昌 |
| | 【特集】全校一斉「メディアタイム」による映像リテラシーの育成 | 高橋賢哉 |
| | 【特集】マルチメディアと著作権 | 井口磯夫 |
| | 「子どものテレビ世界サミット」に参加して | 小平さち子 |
| | 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード③ 批判的寛容 | 佐賀啓男 |
| | 講座 総合的な学習の授業づくり③ 総合的学習の基礎・基本 | 佐島群巳 |
| | 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育「歴史番組」を中核にすえた放送学習 | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情「学び」が変わる、「教え」が変わる—アメリカ学校改革のいま— | 船津貴弘 |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『スクール五輪の書・思春期放送局一勉強一』 | 高島勇二 |
| | 7月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題—メディアリテラシーを育てる— |
| 特集 夏休みから始める家庭での放送学習 | | |
| 【特集】「疑問」から「説明」につなげよう | | 谷川彰英 |
| 【特集】『週刊こどもニュース』を見つけて社会科に強くなるよう | | 紺野とみえ |
| 【特集】『やってみようなんでも実験』を見て実験にトライ! | | 寺村勉 |
| 【特集】『NHKジュニアスペシャル』で学校と家庭の連携を | | 江里口博 |
| 【特集】「学ぶ意欲」を活発にする家庭での放送学習 | | 村岡耕治 |
| 教育トウエイ'98 学校の悲鳴が聞こえる 学校崩壊の危機の中で | | 黒沼克史, 築山崇, 桑原和子, 杉浦圭子 |
| 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード 電子コミュニティ | | 山内祐平 |
| 講座 総合的な学習の授業づくり④ 総合的学習の実践スタイル | | 佐島群巳 |
| 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育 音楽番組と自己表現力の育成 | | 浅井和行 |
| 海外教育放送事情 シリコンバレーは今(2)—企業・大学・地域の連携— | | 高島秀之 |
| 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『スクール五輪の書・21世紀の君たちへ—失敗は夢に向かう実験だ—』 | 高島勇二 | |
| 8月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題—大学院と教養教育— | 吉川弘之 |
| | 特集 放送を生かした国語・音楽教育 | |
| | 【特集】言葉と音楽 子どもの心をゆさぶる大きな力 | 小泉世津子 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|----------------------------|
| 8月号 | 【特集】私の番組利用法『ことばの教室2年生』 | 酒井妙子 |
| | 【特集】私の番組利用法『おはなしのくに』 | 山口裕子 |
| | 【特集】私の番組利用法『トウトウアンサンプル』 | 清澤好美、横川雅之 |
| | 【特集】創造行為の母体をはぐくむ音楽科教育 | 吉澤実 |
| | 教育トゥデイ'98 学校に行きたくない不登校になった教師たち | 秦政春、川畑友二、杉浦圭子 |
| | 21世紀のメディアと教育ーわたしのキーワード 教育メディアのデジタル化 | 辻大介 |
| | 講座 総合的な学習の授業づくり⑤ 総合的学習で構成する基本 | 佐島群巳 |
| | 教育現場からのメッセージーマルチメディア時代の放送教育 放送を基幹としたメディアミックス | 浅井和行 |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『スクール五輪の書・世の中探検隊ーボランティアー』 | 高島勇二 |
| | 実践研究 生きる力をはぐくむ放送学習 異学年・クロスカリキュラムでの番組利用ー『みんな生きている』をめぐるー | 横浜市小学校教育研究会視聴覚・情報教育部 放送教育部 |
| 9月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 一知・徳・体のアンバランス是正 | 森隆夫 |
| | 特集 社会科番組の生かし方・使い方 | |
| | 【特集】社会科学習における放送の役割 | 西村文男 |
| | 【特集】わたしの学習指導案3年『このまちだいすき』 | 花木智子、志子田則明 |
| | 【特集】わたしの学習指導案4年『くらし発見』 | 小島由紀子、北口由美子 |
| | 【特集】わたしの学習指導案5年『なぜなぜ日本』 | 井上妙子、石田成夫 |
| | 【特集】わたしの学習指導案6年『歴史たんけん』 | 松原勝征、山下忠夫 |
| | 教育トゥデイ'98 インターネットで広がる不登校児教育 | 横湯園子、小林正幸、杉浦圭子 |
| | 21世紀のメディアと教育ーわたしのキーワード デジタルメディア時代の「学校」 | 辻大介 |
| | 講座 総合的な学習の授業づくり⑥ 放送を生かした総合的学習 | 佐島群巳 |
| 教育現場からのメッセージーマルチメディア時代の放送教育 放送とコンピュータを活用した環境教育 | 浅井和行 | |
| 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『スクール五輪の書・思春期放送局ー勉強ー』実践結果報告 | 高島勇二 | |
| 10月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題「心」の教育とメディアの活用 | 梶田叡一 |
| | 特集 理科番組の生かし方・使い方 | |
| | 【特集】これからの理科教育と理科番組の生かし方 | 角屋重樹 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------------------|---|----------------------|
| 10月号 | 【特集】わたしの学習指導案3年『ふしぎのたまご』 | 石井雅幸、蓮見信夫、小久保幹則 |
| | 【特集】わたしの学習指導案5年『わくわくサイエンス』 | 森田和良 |
| | 【特集】わたしの学習指導案6年『しらべてサイエンス』 | 長井満敏、大塚弘之 |
| | 教育トゥデイ'98 子どもの個性をどう育てるかー検証ー愛知県緒川小学校の20年ー | 小笠原和彦、神津善行、加藤幸次、杉浦圭子 |
| | 21世紀のメディアと教育ーわたしのキーワード ユニバーサル・メディア・デザイン | 棟方哲弥 |
| | 教育現場からのメッセージーマルチメディア時代の放送教育 生活科とメディア 多メディアからマルチメディアへ | 浅井和行 |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『スクール五輪の書・21世紀の君たちへー失敗は夢に向かう実験だー』実践結果報告 | 山田茂 |
| | 展望 21世紀に向けての教育課題 情報教育と生きる力 | 清水康敬 |
| | 特集 総合学習番組の生かし方・使い方 | |
| | 【特集】総合学習番組の活用と展開 | 佐島群巳 |
| 11月号 | 【特集】実践『みんな生きている』自ら考え、行動する子どもを育てる総合学習 | 塚崎典子 |
| | 【特集】実践『インターネットスクール たったひとつの地球』メディアの活用でバランスのとれた総合学習 | 山崎勝之 |
| | 【特集】放送を核にして意見交換 インターネットと放送の連動を目指して | 宇治橋祐之 |
| | 【特集】放送を核にして意見交換 学校間交流学習を支えるメディアの役割と連携 | 堀田龍也 |
| | 教育トゥデイ'98 私の教育論 | 養老孟司、羽生善治、杉浦圭子 |
| | 21世紀のメディアと教育ーわたしのキーワード 高次臨場感 | 棟方哲弥 |
| | 教育現場からのメッセージーマルチメディア時代の放送教育 ハイビジョンによる放送教育 | 浅井和行 |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『スクール五輪の書・世の中探検隊ーボランティアー』実践結果報告 | 磯聡子 |
| | 展望 21世紀に向けての教育課題 教師の資質よりも学校を変える | 下村哲夫 |
| | 特集 中・高校番組の生かし方使い方 | |
| 【特集】批評的視聴態度と放送教育 | 市川昌 | |
| 12月号 | 【特集】座談会 放送を取り入れて新しい授業を展開 | 高島勇二、山田茂、磯聡子、吉田治夫 |
| | 【特集】中・高校番組に寄せて『スクール五輪の書』『10min.ボックス』 | 長島康雄、江里口博、田中和正、本庄伸子 |

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--|---|--------------------------------------|-------|
| 12月号 | 【特集】実践研究 地域実態に応じた学校放送番組の位置づけ | 今田富士男 | |
| | 教育トゥデイ'98 教育は変わるか?—検証・教課審答申— | 辻村哲夫, 藤田英典, 福田恵一, 高橋章子, 早川信夫, 杉浦圭子 | |
| | 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード 学習の経験 | 山本慶裕 | |
| | 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育 放送教育とインターネット | 浅井和行 | |
| | 実践研究 やわらかい心, かたい心—心をはぐくむテレビ番組利用— | 本間文恵 | |
| 1月号 | 99新春鼎談 教育テレビ40年の年輪 | 河野尚行, 伊東律子, 植田豊 | |
| | 特集 第48回放送教育研究会全国大会東京大会レポート | | |
| | 【特集】全国大会を終えて | 橋本誠司 | |
| | 【特集】シンポジウム メディアが教育を変え—世界の潮流・日本の選択— | 坂元昂, ポール・アシュトン, ミルトン・チェン, 松本侑子, 杉浦圭子 | |
| | 【特集】先進的な教育実践と熱心な討議にふれて | 久保田賢一 | |
| | 【特集】アジア放送教育セミナー 実践を通してお互いに学び合う | 井部良一 | |
| | 第25回「日本賞」教育番組国際コンクール 重視された明確なメッセージと番組の迫力 | 堀紀子 | |
| | テレビ描写の影響をめぐる—海外の事例を中心に— | 小平さち子 | |
| | 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード 人間の関係 | 山本慶裕 | |
| | 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育「総合的な学習」を志向して, 生活科におけるテレビ番組を活用した「心の教育」 | 浅井和行 | |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『10min.ボックス』番組分析 | 高島勇二 | |
| | 2月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 コンピュータ・ネットワークと教育の革新 | 須藤修 |
| | | 特集 実践研究 | |
| | | 【特集】学校をつくる実践研究 | 平沢茂 |
| | | 【特集】テレビは“ひらめき”の発信地!—体験学習と放送利用の関係— | 北口由美子 |
| 【特集】昆虫調べに意欲と関心を!—テレビ・観察・インターネットの活用— | | 蓮見信夫 | |
| アジア教育番組国際ワークショップに参加して 放送番組制作・利用の交流に向けて | | 鈴木克明 | |
| 教育トゥデイ'98「総合的な学習の時間」をどう実現するか | | 村川雅弘, 杉浦圭子 | |
| 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード マルチメディアによる心の教育 | | 坂元章 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|--|---|
| 2月号 | 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育 環境教育の学習の素地を培う放送番組 | 浅井和行 |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『10min.ボックス—三内丸山遺跡—』番組分析報告 | 日沼良樹 |
| 3月号 | | 深谷和子, 浜野保樹, 和田泰輔, 橋本幹夫, 石川桂司, 吉田貞介, 山本健吉, 秋山亜輝男, 松本勝信 |
| | 展望 21世紀に向けての教育課題 イキのいい若者を育てたい | |
| | 特集 第49回放送教育研究会全国大会東京大会—成果と記録— | |
| | 【特集】東京大会がもたらしたもの | 井部良一 |
| | 【特集】幼稚園・保育所 子どもの生活と情報(放送を中心に) | 高杉自子 |
| | 【特集】幼稚園・保育所 現代における放送教育の課題 | 小川博久 |
| | 【特集】幼稚園・保育所 心育ての場 | 藤澤千代子 |
| | 【特集】小学校 放送教育で成長した子どもたち | 安田恭子 |
| | 【特集】小学校 学習のエネルギーを供給する放送番組 | 鈴木衆 |
| | 【特集】小学校 放送教育実践交流会に学ぶ | 西村文男 |
| | 【特集】小学校 自然への感性を高める放送学習 | 村岡耕治 |
| | 【特集】小学校「環境教育と放送教育」分科会から学ぶ | 佐島群巳 |
| | 【特集】小学校 真実とメディア | 楚阪博 |
| | 【特集】小学校 参加者が感動し合えたひととき | 多田俊文 |
| | 【特集】小学校 実践研究の評価「総合的な学習と放送学習」 | 木原俊行 |
| | 【特集】中学校 | 小川一夫 |
| | 【特集】高等学校 | 杉岡道夫 |
| | 【特集】盲・ろう・養護学校 | 安藤直克 |
| | 21世紀のメディアと教育—わたしのキーワード サプリミナル効果 | 坂元章 |
| | 教育現場からのメッセージ—マルチメディア時代の放送教育 広がる放送教育の世界 | 浅井和行 |
| | 中高生向け 授業研究講座 やればできそう! 『10min.ボックス—地球からのおくりもの—』番組分析報告 | 高橋美由紀 |

主な連載: メディアジャーナル, NEDレポート, インサイドストーリー, 和田芳信の人物ファイル, 保育と放送, 放送を取り入れた保育実践と研究, わたしの園の放送利用, 校内放送指導者講座, 視聴覚ロータリー, こぼれのプリズム, ことわざあれこれ

1999 (平成11) 年度 (通巻612～623号)

| 月号 | タイトル | 著者 | |
|--|--|----------------------------------|-----|
| 4月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 教育の急流とメディア教育の新しい船出 | 水越敏行 | |
| | 特集 NHK学校放送新番組紹介 | | |
| | 【特集】平成11年度学校放送番組制作の基本方針 世界的な教育改革のうねりの中で | 吉田圭一郎 | |
| | 【特集】新番組ラインナップ～学校放送時刻表 | NHK学校放送番組部 | |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～人間の成長とゲーム | 宇野正人 | |
| | 総合的な学習の指導計画と実際① 岡山「総合的な学習」研究会編 | 三宅貴久子, 木原俊行 | |
| | 平成11年度視聴覚教育行政について 衛星通信を活用した「子ども放送局」の推進 | 文部省生涯学習局学習情報課 | |
| | 新・教育現場からのメッセージ 放送番組, そして人との出会い | 浅井和行 | |
| | 学校で著作権を使いこなすために 教師のための実用講座 第1章落とし穴を探せ 著作権が怖い | 竹内冬郎 | |
| | 中学・高校番組実践講座 第1回 彼らは何が面白い? | 藤井剛 | |
| | 実践研究～一般番組の活用～『オトナの試験』で広がる職業の世界 | 鈴木久美子, 小宮忠幸 | |
| | インサイドストーリー『たったひとつの地球』 | 宇治橋祐之 | |
| | 5月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 学校を変える一学校の体質改善～ | 秦政春 |
| | | 特集 問い直される基礎基本 | |
| 【特集】これからの国語科 | | 首藤久義 | |
| 【特集】「内容」を再構成する力こそ一社会科一 | | 谷川彰英 | |
| 【特集】理科における基礎・基本と放送教育 | | 松本勝信 | |
| 【特集】算数科における基礎・基本と算数番組の活用 | | 中村享史 | |
| 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～情報の価値 | | 宇野正人 | |
| 教育トッデイ'99 情報教育をどう進めるか～「総合的な学習の時間に向けて」～ | | 永野和男, 佐藤幸江, 杉浦圭子 | |
| 新・教育現場からのメッセージ 徹底的な教材研究がもたらす放送教育のもう一つの世界 | | 浅井和行 | |
| 多メディアの中の放送利用～平成10年度NHK学校放送利用状況調査から～ | | 齋藤健作 | |
| 学校で著作権を使いこなすために 教師のための実用講座 第2章迷路を読み解け 著作権の見取り図 | | 竹内冬郎 | |
| 中学・高校番組実践講座 第2回 放送教育の突破口 | | 藤井剛 | |
| 実践研究 生きる力をはぐくむ放送教育～生命教育番組『みんな生きている』の活用～ | | 横浜市小学校教育研究会 視聴覚・情報教育研究部会放送教育部会 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--------------|---|-------------------------------|
| 6月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 創造力の育成 | 西澤純一 |
| | 特集 情報教育への取り組みを考える | |
| | 【特集】情報教育を考える～学校の情報化はどこへ向かっているのか～ | 鈴木克明 |
| | 【特集】私の考える情報教育 研究実践から考える情報教育 | 松野成孝 |
| | 【特集】私の考える情報教育 情報活用能力の育成 | 宮武英恵 |
| | 【特集】私の考える情報教育 養護学校における情報教育の可能性 | 平澤鋼 |
| | 【特集】私の考える情報教育 教育における情報化への対応について | 池田貴城 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～適切なコミュニケーション手法 | 佐々木輝美 |
| | 総合的な学習の指導計画と実際② 岡山「総合的な学習」研究会編 | 三宅貴久子 |
| | 新・教育現場からのメッセージ「総合的な学習」の単元の導入に力を発揮する放送番組 | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 カンボジアの国づくりと教育放送 | 小川紘二 |
| | 幼稚園・保育所におけるメディアの利用～平成10年度NHK幼児向け放送利用状況調査から～ | 山下洋子 |
| | 学校で著作権を使いこなすために 教師のための実用講座 第3章著作物を使いこなせ 授業編 | 竹内冬郎 |
| | 中学・高校番組実践講座 第3回「感動」する放送教育 | 藤井剛 |
| 7月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 21世紀の教育への提言 | 多胡輝 |
| | 特集 21世紀をつくる放送教育～第50回全国大会へのお誘い～ | |
| | 【特集】新しい全国大会のねらい | 全国放送教育研究会連盟 |
| | 【特集】大会講師からの一言 | 藤澤千代子, 松本勝信ほか |
| | 【特集】未来型授業へ向けてのNHKからの提案 | 日比美彦 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～向社会的行動スクリプト | 佐々木輝美 |
| | 新・教育現場からのメッセージ 放送とともに学ぶ歴史学習「刀狩り」 | 浅井和行 |
| | 学校で著作権を使いこなすために 教師のための実用講座 第4章著作物を使いこなせ 校内のいろいろな活動編 | 竹内冬郎 |
| | 中学・高校番組実践講座 千葉テレビ『中学生時代』を活用して | 佐竹啓輔 |
| | 8月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 ネットワーク社会に生きる |
| 特集 教室からの情報発信 | | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|-------|
| 8月号 | 【特集】情報発信と情報モラル | 井口磯夫 |
| | 【特集】開かれた学校のホームページ | 重松昭生 |
| | 【特集】子どもたちと進めるぬくもりのある映像づくり | 中原瑞樹 |
| | 【特集】伝われ教室へ、あなたへ | 香取武雄 |
| | 【特集】生徒にゆだねる学校の情報発信をめざして | 桐畑治 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～ マルチメディアを活用した国際交流学习 | 田中博之 |
| | 総合的な学習の指導計画と実際③ 岡山「総合的な学習」研究会編 | 青山順子 |
| | 新・教育現場からのメッセージ ニュースや市販のVTR番組の教育利用 | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 ある国際民間財団の取り組み | 大西好宣 |
| | 学校で著作権を使いこなすために 教師のための実用講座 第5章著作物を使いこなせ デジタルメディア編 | 竹内冬郎 |
| 中学・高校番組実践講座 千葉テレビ『中学生時代』を活用して～校内授業研究～ | 佐竹啓輔 | |
| 9月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 生きものの価値を取り戻す | 中村桂子 |
| | 特集 問題解決学習と理科番組 | |
| | 【特集】理科教育における問題解決と感性 | 角屋重樹 |
| | 【特集】「チョウをそだてよう」の実践 | 星野好久 |
| | 【特集】番組視聴から自然発見へ | 伊庭晃 |
| | 【特集】学校放送番組を活用した「生物と環境」の実践 | 牧佳彦 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～ マルチメディアプロジェクトによる総合的な学習の実践 | 田中博之 |
| | 総合的な学習の指導計画と実際④ 岡山「総合的な学習」研究会編 | 三宅貴久子 |
| | 新・教育現場からのメッセージ 放送番組を中核にすえた「総合的な学習」のプロジェクトと京放教の研究の歴史 | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 バーチャル・スクール放送と通信制をめぐる・世界遠隔教育会議 | 市川昌 |
| | 学校で著作権を使いこなすために 教師のための実用講座 第6章安心して著作物を使いたい 権利処理の方法を考える | 竹内冬郎 |
| 中学・高校番組実践講座 千葉テレビ『中学生時代』を活用して～研究の成果と課題～ | 佐竹啓輔 | |
| 10月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 総合的な学習をつくる | 奥井智久 |
| | 特集 第50回放送教育研究会全国大会 (part1) 報告 | |
| | 【特集】全国大会の新たなスタート | 井部良一 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|--|---|------------------|
| 10月号 | 【特集】放送教育の研究をすすめるために | 中野照海 |
| | 【特集】放送教育研究会全国大会 (part.1) リポート | 高島秀之 |
| | 【特集】NHKプレゼンテーションの総括 | 日比美彦 |
| | 教育トゥデイ インターネットでつなぐ放送と教育 | 水越敏行, 杉浦圭子, 小川範子 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～ 学校の情報化とイントラネット | 黒田卓 |
| | 新・教育現場からのメッセージ 地域の先達から学ぶ「冬の遊び」 | 浅井和行 |
| | 特集2 盲・ろう・養護学校における放送利用 | |
| | 【特集2】盲・ろう・養護学校における放送教育の役割・展望 | 坂田紀行 |
| | 【特集2】知的障害養護学校における放送教育 | 国津賢三 |
| | 【特集2】肢体不自由養護学校での放送利用 | 栗原清 |
| 11月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 新しい1.5の時代 | 小此木啓吾 |
| | 特集 道徳の実践力をどう育てるか 子どもが感動できる授業を | |
| | 【特集】子どもが感動できる授業を一道徳教育における放送の利用一 | 押谷由夫 |
| | 【特集】1年＝道徳の実践力について考えること | 安塚豊子 |
| | 【特集】2年＝クラスの基盤となる 道徳の授業 | 小松悦子 |
| | 【特集】3年＝繰り返し視聴で道徳的価値をつかむ | 栞井佳照 |
| | 【特集】5年＝五年三組自分みつけの旅 | 神谷洋子 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～ テレビ会議システムと地域間交流学习 | 黒田卓 |
| | 新・教育現場からのメッセージ「道はつながる」を使つての「総合的な学習」への志向 | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 ED-Media国際学会(米)とカナダ・ドイツの教育事情 | 黒上晴夫 |
| 実践研究 生活科『それゆけこどもたい』それゆけ北一社こどもたい | 河津和正 | |
| 中学・高校番組実践講座 観点別評価に基づく放送番組の生かし方 社会科学習の取り組み～興味・関心～ | 福丸恭伸 | |
| 12月号 | 展望 21世紀に向けての教育課題 | 西之園晴夫 |
| | 特集 社会科学習における地域の発見～社会科番組を生かして～ | |
| | 【特集】社会科における放送の活用 | 寺田登 |
| 【特集】3年＝「見る・感じる・考える・ひろがり」を大切に | 小山竜平 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|--|-------|
| 12月号 | 【特集】4年=「千葉のよいとこ発見」の実践 | 小林進 |
| | 【特集】5年=子どもと放送番組 | 梅崎高介 |
| | 【特集】6年=放送番組と地域の教材化 | 勝村芳行 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～インターネット・リテラシーと情報の評価 | 芝崎順司 |
| | 総合的な学習の指導計画と実際⑤ 岡山「総合的な学習」研究会編 | 藤井紀美江 |
| | 新・教育現場からのメッセージ「総合的な学習」と放送教育 | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 ベルーの放送教育 | 赤堀正宜 |
| | 中学・高校番組実践講座 観点別評価に基づく放送番組の生かし方 社会科学習の取り組み～思考・判断～ | 福丸恭伸 |
| | 展望 21世紀に向けての教育課題 自己発見と自己啓発 | 江崎玲於奈 |
| 新春対談 デジタル時代の教育放送 | 菅野洋史、植田豊 | |
| 特集 第50回放送教育研究会全国大会 (part2) 報告 | | |
| 【特集】第50回放送教育研究会全国大会を終えて | 山口彰子 | |
| 【特集】放送教育研究会全国大会 (part.2) レポート | 高島秀之 | |
| 【特集】実践研究 動画データベースを活用して マイタウン鳥屋! | 荒巻幸子 | |
| 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～ 生涯学習者としての準備におけるICTの役割と情報リテラシー | 芝崎順司 | |
| 総合的な学習の指導計画と実際⑥ 岡山「総合的な学習」研究会編 | 青山順子 | |
| 新・教育現場からのメッセージ「総合的な学習」と放送教育(2) | 浅井和行 | |
| 特集 第26回「日本賞」教育番組国際コンクール | | |
| 【特集】今、世界で求められている“教育番組”とは | 小泉世津子 | |
| 【特集】受賞の喜び | 上田和子、田中瑞人 | |
| 中学・高校番組実践講座 観点別評価に基づく放送番組の生かし方 社会科学習の取り組み～資料活用・表現～ | 福丸恭伸 | |
| 2月号 | 展望 メディア・リテラシー教育の課題 | 鈴木みどり |
| | 特集 実践研究この一年 99年度新番組を活用して | |
| | 【特集】低学年算数『マテマティカ』ピーター・フランクルさんからの挑戦を受けて | 松山和彦 |
| | 【特集】低学年生活科『それゆけこどもたい』『おうちのひと』の実践 | 平久玲子 |
| | 【特集】3年社会科『まちへとびだそう』番組と置き換え、番組とつなぐ | 佐藤祐一 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----------------------------------|--------------------------------------|------------|
| 2月号 | 【特集】高学年総合『地球たべもの大百科』いのち・くらし・みどりを見つめて | 鐘ヶ江義道 |
| | 【特集】番組の制作現場から | NHK学校放送番組部 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～ 放送と通信の融合 | 岡部正樹 |
| | 新・教育現場からのメッセージ「総合的な学習」と放送教育(3) | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 カナダのメディア・リテラシー教育が教えてくれたこと | 若井俊一郎 |
| | 中学・高校番組実践講座 放送教育の新たな展開と可能性に向けて(1) | 篠原文陽児 |
| 3月号 | 展望 教育サービスの需要と供給 | 嘉治元郎 |
| | 特集 年間指導計画をどうたてるか | |
| | 【特集】子どもの思考を生かした年間指導計画 | 松本邦文 |
| | 【特集】小学校低学年 子どもの思考を生かした年間指導計画 | 須藤こずえ |
| | 【特集】小学校中学年 いっしょにやろまい!・エコライフ | 山下薫 |
| | 【特集】小学校高学年 心豊かに生きる力を育てる道徳 | 石川秀治 |
| | 【特集】中学校 情報教育における放送利用 | 中井敏勝 |
| | 21世紀のメディアと教育～わたしのキーワード～ 放送と通信の融合2 | 岡部正樹 |
| | 新・教育現場からのメッセージ 新しい時代とともに生きる放送教育 | 浅井和行 |
| | 海外教育放送事情 微笑と合掌の国のテレビタイの教育放送事情一 | 市川昌 |
| 中学・高校番組実践講座 放送教育の新たな展開と可能性に向けて(2) | 篠原文陽児 | |

主な連載：視聴覚ロータリー、メディアジャーナル、保育と放送、わたしの園の放送利用、NEDレポート、ことばのプリズム、ことわざあれこれ、和田芳信の人物ファイル、岡山がばってマス、新・にんげん家族研究会、道北だより、豊橋・生命環境教育と放送研究会だより

2000 (平成12) 年度 (通巻624~630号)

| 月号 | タイトル | 著者 |
|-----|---|-------------|
| 4月号 | 展望 これからの教育を考える | 有馬朗人 |
| | 特集 NHK学校放送新番組紹介 | |
| | 【特集】デジタル時代の学校放送サービスに向けて | 吉田圭一郎 |
| | 【特集】インフォメーションへ学校放送時刻表 | NHK学校放送番組部 |
| | 平成12年度視聴覚教育行政について動きだす「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』」 | 岡本薫 |
| | 総合的な学習の指導計画と実際⑦ 岡山「総合的な学習」研究会編 | 藤井紀美江, 木原俊行 |
| | 中学校での「総合的な学習の時間」を考える① 情報教育と総合的な学習の時間 | 鈴木克明 |
| 5月号 | 展望 教育におけるマルチメディア時代の映像情報 | 渡邊光雄 |
| | 特集 総合的な学習の時間・移行期間で考えること | |
| | 【特集】総合的な学習の時間 移行期間において考えること、行うこと | 村川雅弘 |
| | 【特集】本校の特色のある教育活動を核にした移行期へのアプローチ | 西山猛 |
| | 【特集】イートモ (EAT・友) 探検隊へ放送番組『地球たべもの大百科』(国際理解)を活用した実践例～ | 河合早智子 |
| | 今、放送は教育に何ができるか? 第1回 TV goes back to TV | 高島秀之 |
| | 総合的な学習の指導計画と実際⑧ 岡山「総合的な学習」研究会編 | 三宅貴久子, 青山順子 |
| | 年間利用実践研究『まちへとびだそう』(3年社会科) 見つめる・調べる・伝える・つながる | 一色誠 |
| | 中学校での「総合的な学習の時間」を考える② 選択教科から総合的な学習へ | 鈴木克明 |
| | 番組制作の現場から『ティーンズTV世の中なんでも経済学』 | 先原章仁 |
| 6月号 | 展望 情報と青少年問題 | 内川芳美 |
| | 特集 ことばの学習とメディア(国語)～感性と表現力を育てる～ | |
| | 【特集】言語感覚とことばで「伝え合う力」を育てる | 小森茂 |
| | 【特集】教室に広がることばの世界 ラジオ『ことばの教室』をヒントにして | 如月啓子 |
| | 【特集】ことばを耕し感性を磨く 小学校1年生国語番組『あいうえお』を使った年間実践記録 | 加藤智子 |
| | 教育とメディア 次代へのキーワード 情報教育 | 松田稔樹 |
| | 今、放送は教育に何ができるか? 第2回 Content is King | 高島秀之 |
| | 海外放送教育事情 アメリカ・カナダのメディア教育事情 | 宇治橋祐之 |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|---|---|------------|
| 6月号 | 中学校での「総合的な学習の時間」を考える③ 総合的な学習の時間をどう評価するか | 鈴木克明 |
| | 番組制作の現場から『歌えリコーダー』 | 桜田歩 |
| 7月号 | 展望 教育における情報化、国際化にかかわる問題点 | 太田次郎 |
| | 特集 家庭での視聴を考える 家庭での放送学習 | |
| | 【特集】家庭での放送学習一課題をみつめ、自ら学習する子を求めて～ | 久故博睦 |
| | 【特集】家庭視聴のすすめ 『中学生日記』利用法 | 成田健之介 |
| | 【特集】家庭視聴おススメ番組紹介 | 編集部 |
| | 【特集】海外にみる子ども向けテレビの動向 かかわりが生きるテレビ | 小平さち子 |
| | 【特集】NHK夏のテレビ・ラジオクラブ番組案内 | NHK学校放送番組部 |
| | 放送教育におけるコラボレーション～ネットワークによる拡充～ | 木原俊行 |
| | 教育とメディア 次代へのキーワード 教育コンテンツ | 林武文 |
| | 今、放送は教育に何ができるか? 第3回 感情のテクノロジー(上) | 山本慶裕 |
| | 中学校での「総合的な学習の時間」を考える ふれあい学習・実践から生まれた総合的な学習(1) | 三橋秋彦 |
| | 番組制作の現場から『データボックスしらべてサイエンス』 | 小国伝蔵 |
| 8月号 | 海外放送教育事情 デジタルメディア時代の教育コンテンツ | 宮田興 |
| | 展望 21世紀に向けての教育課題「総合的心理教育」で拓く新世紀の学校 | 亀口憲治 |
| | 特集 心の教育と放送 | |
| | 【特集】今、求められる心の教育 | 嶋野道弘 |
| | 【特集】『あつまれじゃんけんぽん』共感と反発から生き方を探る | 吉田政子 |
| | 【特集】『みんな生きている』ともに生きるなかまとの心のつながり | 江崎桂子 |
| | 【特集】『虹色定期便』で広がる豊かな心 | 田端芳恵 |
| | 総合的な学習の指導計画と実際⑨ 岡山「総合的な学習」研究会編 | 三宅貴久子 |
| | 教育とメディア 次代へのキーワード ホームページによる学校の情報発信 | 市川尚 |
| | 今、放送は教育に何ができるか? 第4回 感情のテクノロジー(下) | 山本慶裕 |
| 番組制作の現場から『しらべてまとめて伝えよう～メディア入門～』 | 市谷壮 | |
| 中学校での「総合的な学習の時間」を考える ふれあい学習・実践から生まれた総合的な学習(2) | 三橋秋彦 | |
| 海外放送教育事情 シンガポールの情報教育事情 | 黒田卓 | |

| 月号 | タイトル | 著者 |
|------|---|-----------------|
| 9月号 | 展望 私と教育テレビ昨日今日明日 | 服部公一 |
| | 特集 情報発信能力を育てる | |
| | 【特集】情報活用の実践力が身につくための3つのポイント | 中川一史 |
| | 【特集】小学校4年生 活動の意欲化を図る情報機器の活用 | 安部由香里 |
| | 【特集】小学校5年生 情報をどのように収集し、整理していくか | 亀崎英治 |
| | 【特集】中学校 校内ネットワークと情報発信能力の育成 | 村松浩幸 |
| | 【特集】NHK学校放送番組・ウェブサイト案内 | 田村嘉宏、遠藤玲奈、山岸誠之進 |
| | 教育とメディア 次代へのキーワード 情報ボランティア | 刈宿俊文 |
| | 今、放送は教育に何ができるか？ 第5回 歴史の中に検証する教育と放送 | 堀江固功 |
| | 中学校での「総合的な学習の時間」を考える ふれあい学習・実践から生まれた総合的な学習(3) | 三橋秋彦 |
| | 「通信制高校にとっての放送教育」から学んだこと | 鈴木克明 |
| | 番組制作の現場から『えいごリアン』 | 磯野洋好 |
| 10月号 | 特集 第51回放送教育研究会全国大会報告 | |
| | 【特集】全国大会を終えて | 山口彰子 |
| | 【特集】大会の「評価とまとめ」 | 水越敏行 |
| | 【特集】新世紀への階段をどう上るか | 古田晋行 |
| | 【特集】埼放協の取り組み | 秋山亜輝男 |
| | 謹告 月刊「放送教育」休刊にあたって | 市村佑一 |
| | 特別寄稿「放送教育」の足跡 | 高桑康雄 |
| | 特別寄稿 10年後の教室は？ | 吉田圭一郎 |
| | 今、放送は教育に何ができるか？ 第6回 連続・歴史の中に検証する教育と放送 | 堀江固功 |
| | 教育とメディア 次代へのキーワード 情報通信ネットワーク | 篠原文陽児 |
| | 中学校での「総合的な学習の時間」を考える 多様な学習活動の展開に風穴を | 高畠勇二 |
| | 海外教育放送事情 視聴覚教育促進のための国際支援とメディア環境調査 | 大西好宜 |

主な連載：視聴覚ロータリー、メディアジャーナル、高校放送コンテスト関連、NEDレポート、ことばのプリズム、ことわざ考現学、放送大学インフォメーション、岡山がんばってマス、新・にんげん家族研究会、道北だより、メディア教育研究グループ・せんだい、



2000年10月号



2000年10月号

付表1 日本放送教育協会発行の放送教育関連書籍

| 『放送教育叢書』 | 著者・編者 | 発行 |
|--|-----------------------|---------|
| 1.放送教育の新展開～学校教育における放送利用の総合的研究～ | 教育と放送を考える会編 | 1978.8 |
| 2.視聴指導 24章～放送学習の進め方～ | 清中喜平著 | 1980.7 |
| 3.映像と教育～映像の教育的効果とその利用～ | 「映像と教育」研究集団編 | 1980.10 |
| 4.道徳指導と放送～道徳的実践力を育てるために～ | 日本放送教育協会編 | 1980.10 |
| 5.社会科と放送～社会認識の広がりと深まりをめざして～ | 日本放送教育協会編 | 1981.4 |
| 6.理科と放送～自ら学ぶ力・豊かな創造性を育てる～ | 日本放送教育協会編 | 1981.10 |
| 7.視聴能力の形成と評価～新しい学力づくりへの提言～ | 水越敏行編著 | 1981.11 |
| 8.子どもと共に学ぶ放送教育～教育課程に即した放送学習と指導の実際～ | 服部八郎著 | 1983.7 |
| 9.続・視聴指導 24章～子どもが自力で進める放送学習～ | 清中喜平著 | 1984.7 |
| 10.放送と授業研究～新しい放送教育の探究～ | 多田俊文編著 | 1984.11 |
| 11.映像時代の教育～そのカリキュラムと実践～ | 吉田貞介編著 | 1985.8 |
| 12.映像からの発展学習～自ら学ぶ子どもをめざした授業設計～ | 愛知県知多郡武豊町立衣浦小学校著 | 1986.3 |
| 13.放送教育の理論と実践 | 多田俊文著 | 1986.6 |
| 14.NEW 放送教育～メディア・ミックスと新しい評価～ | 水越敏行編著 | 1986.8 |
| 15.放送教育入門セミナー～放送による学習の成立と評価・改善～ | 松本勝信著 | 1987.8 |
| 16.放送教育をかえる | 水越敏行, 京都放送教育研究協議会編 | 1987.8 |
| 17.放送教育とパソコン～一人ひとりを育てる教育～ | 全国小学校放送教育研究会編 | 1988.9 |
| 18.生活科と放送 | 全国小学校放送教育研究会編 | 1990.11 |
| 19.学ぶ喜びのもてる放送教育～意味場・空発問の追求～ | 監修: 多田俊文, 埼玉県放送教育研究会編 | 1990.11 |
| 20.「かがやき」のある発展学習～体験からいきいき学ぶ子どもをめざした放送教育～ | 監修: 多田俊文, 高知市立昭和小学校編 | 1991.12 |
| 21.映像を生かした環境教育 | 吉田貞介編著 | 1992.7 |
| 22.放送学習の喜びをどの子にも～第三世代放送学習への出発～ | 荻野忠則著 | 1993.10 |
| 23.放送利用からの授業デザイナー入門～若い先生へのメッセージ～ | 鈴木克明著 | 1995.11 |

| 教育・メディア関係書籍 | 著者・編者 | 発行 |
|------------------|-----------------------------|---------|
| 視聴覚教育講座 18章 | NHK 編, 坂元彦太郎 | 1954.7 |
| 視聴覚的方法の心理学 | 波多野完治 | 1956.7 |
| デールの視聴覚教育 | 西本三十二訳 | 1957.7 |
| ラジオ・テレビ教育精説 | 西本三十二, 波多野完治, 海後宗臣, 坂元彦太郎指導 | 1959.11 |
| テレビ教育論 | 西本三十二 | 1960.7 |
| 学校放送 25年の歩み | NHK 編 | 1960.11 |
| ラジオ・テレビ教育心理学入門 | NHK 編, 波多野完治編著 | 1961.10 |
| 視聴覚材の教育構造 | 坂元彦太郎 | 1961.10 |
| テレビ教育展望～放送教育三十年～ | 西本三十二 | 1963.7 |
| テレビ教育の心理学 | 波多野完治 | 1963.9 |
| 放送教育新論～原理と実践～ | 西本三十二 | 1971.7 |
| 放送教育大事典 | 日本放送教育学会・全国放送教育研究会連盟編 | 1971.11 |

| | | |
|--------------------------|---------------|---------|
| 放送50年外史(上・下) | 西本三十二 | 1976.10 |
| テレビで学ぶ | 放送利用社会教育研究会 | 1979.9 |
| なぜ放送が学習に定着しにくかったのか | 岐阜放送教育研究調査会 | 1979.11 |
| テレビは幼児に何ができるか | 白井常, 坂本昂編 | 1982.11 |
| 放送教育50年—その歩みと展望— | 全放連・日本放送教育協会編 | 1986.11 |
| 子ども百態～先生ちゃんとやっているかな～ | 光永久夫 | 1990.7 |
| 子どもとお母さんのためのマルチメディア大作戦 | 石川友一 | 1995.10 |
| 心を育てる放送 | 藤澤千代子 | 1996.12 |
| 放送を生かした総合的学習「環境」と「生命」を学ぶ | 佐島群巳, 和田芳信 | 1999.7 |
| 教育放送75年の軌跡 | 教育放送研究会 | 2012.2 |

| 大学講義用テキスト等 | 著者・編者 | 発行 |
|------------------------|-------------------|---------|
| 視聴覚教育50講 | 西本三十二編 | 1965.12 |
| 視聴覚教育の理論と研究 | 大内茂男, 高桑康雄, 中野照海編 | 1979.5 |
| マス・コミュニケーション・情報と文化の社会学 | 市川昌, 堀江固功編 | 1991.4 |
| 新視聴覚教育 | 浅野孝夫, 堀江固功編 | 1992.9 |
| マルチメディアリテラシー | 田中博之編 | 1995.8 |
| 情報新時代のマスメディア論 | 堀江固功, 牧野信彦編 | 1998.3 |
| 教育メディアの原理と方法 | 浅野孝夫, 堀江固功編 | 1998.4 |

| 校内放送関係書籍 | 著者・編者 | 発行 |
|-----------------------|---------|---------|
| わたくしたちの校内放送 | | |
| (1) アナウンス | 話しことばの会 | 1968.8 |
| (2) きょうの台本 1学期 | 話しことばの会 | 1969.3 |
| (3) きょうの台本 2学期 | 話しことばの会 | 1969.3 |
| (4) きょうの台本 3学期 | 話しことばの会 | 1969.3 |
| (5) 番組づくり | 光永久夫ほか | 1976.10 |
| たのしい校内放送 | | |
| (1) きょうの話題 | 野田一郎編 | 1981.11 |
| (2) オーディオ放送台本 | 野田一郎編 | 1982.11 |
| (3) ビデオ放送台本 | 野田一郎編 | 1983.7 |
| (4) アナウンスの実際 | 野田一郎編 | 1983.11 |
| (5) 番組制作の技術 | 野田一郎編 | 1984.7 |
| 高校生のための校内放送ハンドブック | | |
| (1) アナウンス・朗読, 機器操作 | 全放連編 | 1983.4 |
| (2) 企画・演出・カメラワーク | 全放連編 | 1983.4 |
| 教師のためのビデオ制作入門 | 野田一郎著 | 1984.6 |
| 話題歳時記～教師のための情報ファイル～ | 織田和男著 | 1989.4 |
| 創る 教師のためのビデオ制作技法 | 八重樫克羅編著 | 1989.6 |
| 新・校内放送ハンドブック～中高生のために～ | 全放連編 | 1993.4 |

付表2 放送教育研究会全国大会一覧(2000年度まで)

学校放送研究会全国大会

| 年度 | 開催日 | | 開催地 | 参加者数 | 研究主題 |
|------|----------|--|---------|------|----------------|
| 1949 | 8月12・13日 | | 和歌山県高野町 | 850 | 学校放送とカリキュラムの問題 |

放送教育研究会全国大会

| 回 | 年度 | 開催日 | 開催ブロック | 開催地 | 参加者数 | 研究主題 |
|----|------|------------------|---------------|---------------------|--------|--|
| 1 | 1950 | 11月24・25日 | 関東甲信越 | 東京都 | 1,300 | 特に設定せず |
| 2 | 1951 | 11月21・22日 | 九州 | 大分県別府市 | 1,800 | 特に設定せず |
| 3 | 1952 | 11月24・25日 | 関西 | 大阪府大阪市 | 1,357 | 放送教育の進展と徹底を期するため、これが対策を考究するとともに強力な実践を展開する。併せて新しいテレビジョン教育への研究展開を行う。 |
| 4 | 1953 | 10月15・16日 | 東北 | 福島県福島市 | 1,959 | 放送教育の現状を検討し、一層の普及徹底につとめ、これの具体的な方策を考究して、その強力な実践を展開する。 |
| 5 | 1954 | 11月18・19日 | 四国 | 高知県高知市 | 1,800 | どうすれば、どの学校でも自然な形で、しかも効果的に放送を教育に利用できるか。 |
| 6 | 1955 | 11月17・18日 | 東海北陸 | 愛知県名古屋市 | 2,600 | 学習内容を豊かにし、教師の指導能率を上げるために、ラジオやテレビジョンをどのように活用したらよいか。 |
| 7 | 1956 | 9月27・28日 | 北海道 | 北海道札幌市 | 1,600 | 教育放送の内容とその指導方法の研究 |
| 8 | 1957 | 11月20・21日 | 中国 | 広島県広島市 | 2,555 | 教育効果を高めるために、ラジオやテレビをどのように活用したらよいか |
| 9 | 1958 | 11月19～21日 | 関東甲信越 | 東京都 | 8,400 | これからの放送教育をどう進めるか |
| 10 | 1959 | 10月29・30日 | 九州 | 福岡県福岡市 | 3,500 | 教育効果を高めるために、放送教育をどう進め深めたらよいか |
| 11 | 1960 | 11月14～16日 | 関西 | 京都府京都市 | 4,200 | 学習の近代化をはかるためには、ラジオ・テレビをどう利用すればよいか |
| 12 | 1961 | 10月18・19日 | 東北 | 宮城県仙台市・塩釜市・七ヶ浜町・川崎町 | 6,000 | 放送教育を生かして、ゆたかな人間をつくらう |
| 13 | 1962 | 11月8・9日 | 四国 | 愛媛県松山市 | 8,000 | 学習の近代化をはかる放送教育はどうすればよいか |
| 14 | 1963 | 11月14・15日 | 東海北陸 | 静岡県静岡市・清水市 | 17,000 | すすみゆく社会のなかで、放送教育の機能を見なおそう |
| 15 | 1964 | 9月25・26日 | 北海道 | 北海道札幌市 | 10,200 | 未来に生きる子供のために、放送教材の特性を生かして、教育の近代化をすすめよう |
| 16 | 1965 | 11月12・13日 | 中国 | 岡山県岡山市 | 11,000 | みんなで放送教育を正しく理解しよう |
| 17 | 1966 | 11月17～19日 | 関東甲信越 | 東京都 | 12,000 | 教科や領域などの目標を達成するために放送教材を活用しよう |
| 18 | 1967 | 11月10・11日 | 九州 | 長崎県長崎市 | 10,000 | 放送教材の特性を生かし豊かな教育を実現しよう |
| 19 | 1968 | 11月21・22日 | 近畿 | 兵庫県神戸市・芦屋市・明石市 | 15,000 | あすに生きる子どものしあわせのために、放送教育の躍進と充実をはかるう |
| 20 | 1969 | 10月31日、 11月1日 | 東北 | 宮城県仙台市 | 13,000 | 豊かな人間を育てるために、放送教材の特性を活かして学習の内容、放送の構造化をすすめよう |
| 21 | 1970 | 11月20・21日 | 四国 | 香川県高松市 | 15,800 | 豊かな人間を育てるために、放送教育の現代的役割をたしかめ、調和と統一のある教育をすすめよう |
| 22 | 1971 | 10月22・23日 | 東海北陸 | 石川県金沢市 | 14,300 | 放送のシステム化をめざすなかで、放送の役割をたしかめよう |
| 23 | 1972 | 10月27・28日 | 中国(別に沖縄に特別会場) | 広島県広島市 | 14,000 | 豊かな人間を育てるために、創造的な思考力と情操の深化をめざして、放送教育のあり方を究明しよう |
| 24 | 1973 | 9月21・22日 | 北海道 | 北海道札幌市 | 9,108 | ひとりひとりが豊かに伸びる教育をめざして放送教育の現代的役割と成果を確かめよう |
| 25 | 1974 | 11月14～16日 | 関東甲信越 | 東京都 | 18,424 | 現代社会に生きる調和のとれた人間を形成するために、放送の役割と効果を校種の特性に応じて明らかにしよう |
| 26 | 1975 | 11月13・14日 | 九州 | 鹿児島県鹿児島市・串木野市・桜島町 | 11,550 | 激動する社会に生きる創造的な人間を形成するために、放送の役割と効果を校種の特性に応じて明らかにしよう |

| | | | | | | |
|----|------|-------------------|-------|--|--------|--|
| 27 | 1976 | 10月21・22日 | 近畿 | 奈良県奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・生駒市・新庄市・下市町 | 13,119 | 生涯にわたって発展するひとりだちの学習をめざして、放送の教育的役割と効果を究めよう |
| 28 | 1977 | 10月20・21日 | 東北 | 山形県山形市・上山市 | 8,719 | 広い視野に立つ意欲的な人間を育てるために、放送の特性を生かした豊かで確かな学習を進めよう |
| 29 | 1978 | 10月9・10日 | 四国 | 徳島県徳島市・鳴門市 | 12,155 | 生涯にわたって学習できる人づくりをめざして、確かな学力と豊かな情操を養うため、放送教育の役割を究明しよう |
| 30 | 1979 | 11月8・9日 | 東海北陸 | 岐阜県岐阜市・大垣市・羽島市・各務原市・岐南町 | 13,132 | かがり火のような豊かな人間性をはぐくみ、放送の特性を生かした学習の成立をめざして、教師の実践的な手だてを確立しよう |
| 31 | 1980 | 10月8・9日 | 北海道 | 北海道札幌市 | 9,586 | 新しい時代に生きる豊かな人間を育てるために、放送教育の実践を高めよう |
| 32 | 1981 | 11月12・13日 | 中国 | 山口県山口市・防府市・宇部市・小郡町 | 14,166 | たくましく豊かな人間性をめざした教育を推進するため、意欲的な「放送による学習」をすすめよう |
| 33 | 1982 | 11月12・13日 | 関東甲信越 | 埼玉県浦和市・川口市・大宮市・川越市・蓮田市 | 21,948 | 生涯にわたって豊かに生きる人間の形成をめざして、子どもたちが学ぶ喜びのもてる放送教育をすすめよう |
| 34 | 1983 | 11月10・11日 | 九州 | 熊本県熊本市・下益城郡富合町 | 12,012 | たくましく豊かに生きる人間の形成をめざし、「求める学習」を確立する放送教育の実践をすすめよう |
| 35 | 1984 | 11月15・16日 | 近畿 | 滋賀県大津市・草津市・守山市・栗東町 | 11,408 | 碧いびわ湖のように、未来に生きる人間の育成をめざし、仲間とともに「ひるがりと深まり」を求める放送教育をすすめよう |
| 36 | 1985 | 10月3・4日 | 東北 | 青森県青森市 | 9,378 | たくましく、うるおいのある人間の形成をめざし、「躍動する学習」を創る放送教育をすすめよう |
| 37 | 1986 | 11月11～18日 | 四国 | 高知県高知市・南国市・伊野町 | 20,959 | 未来をきりひらき、たくましく生きる人間の形成をめざし、「発展する学習」を追求する放送教育をすすめよう |
| 38 | 1987 | 10月29・30日 | 東海北陸 | 福井県福井市・金津町・春江町 | 12,268 | たくましく未来に生きる人間の形成をめざし、個を豊かに発展させる新しい放送教育のあり方を追求しよう |
| 39 | 1988 | 10月6・7日 | 北海道 | 北海道旭川市 | 8,179 | 新しい時代に生きる心豊かな人間の形成をめざし、「学ぶ心がはずむ」放送教育 |
| 40 | 1989 | 10月26・27日 | 中国 | 広島県広島市 | 11,716 | 未来を創造する豊かな人間の育成をめざし、自ら意識する「放送による学習」を究明しよう |
| 41 | 1990 | 11月8・9日 | 関東甲信越 | 東京都港区・渋谷区・荒川区・中央区・文京区・新宿区・千代田区・大田区・豊島区・練馬区 | 10,322 | 自ら学び、豊かな心と主体的に生きる力を培う放送教育をすすめよう |
| 42 | 1991 | 11月7・8日 | 九州 | 福岡県北九州市 | 10,129 | 新しい時代を指向する心豊かな人間の形成をめざし自ら学ぶ知恵と生き方を育てる放送教育を進めよう |
| 43 | 1992 | 11月12・13日 | 近畿 | 和歌山県和歌山市 | 12,076 | 豊かな人間の形成をめざし「自ら問いかけ 行動する」放送教育をすすめよう |
| 44 | 1993 | 10月29日 | 東北 | 宮城県仙台市 | 6,328 | 自ら学ぶ意欲と主体的に生きる力を培う放送教育をすすめよう |
| 45 | 1994 | 10月27・28日 | 四国 | 愛媛県松山市・重信町 | 8,295 | いきいきと学び、豊かに創造する力を育てる放送教育をすすめよう |
| 46 | 1995 | 11月9・10日 | 東海北陸 | 愛知県豊橋市 | 10,079 | 楽しくまなび個がかがやく放送教育をすすめよう |
| 47 | 1996 | 10月24・25日 | 北海道 | 北海道札幌市・石狩市 | 9,434 | 北の大地に「学ぶ心がひびきあう」放送教育をすすめよう |
| 48 | 1997 | 11月6・7日 | 中国 | 岡山県岡山市・倉敷市・備前市 | 9,481 | “生きる力”を育む放送教育をすすめよう |
| 49 | 1998 | 11月19・20日 | 関東甲信越 | 東京都新宿区・文京区・大田区・目黒区・中央区・千代田区・渋谷区 | 2,557 | 21世紀をつくる放送教育～ともに生きるよるこび～ |
| 50 | 1999 | 8月3・4日、 11月12日 | (東京) | 東京都渋谷区・武蔵野市・文京区 | 1,918 | 21世紀をつくる放送教育 深まり広がりそしてつながりを求めて |
| 51 | 2000 | 7月31日、 8月1日 | (埼玉) | 埼玉県浦和市・伊奈町 | 1,289 | 輝く瞳・感じる心・学ぶ喜び放送教育 深まりと広がりそしてつながりを求めて～放送と教育2000 in 彩の国今が時代に今が未来に～ |

『放送教育50年』（日本放送教育協会 1986）をもとに作成